扇台・大額キョウデン遺跡

—伏見・高橋川治水工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—

1998・3

石川県立埋蔵文化財センター

扇台・大額キョウデン遺跡

1998・3

石川県立埋蔵文化財センター

伏見・高橋川と遺跡遠景

扇台遺跡遠景（南から）

扇台・大額キョウデン遺跡遠景（西から）

扇台遺跡俯瞰（南西から）

扇台遺跡俯瞰（西から）

大額キョウデン遺跡

例　言

1　本書は石川県金沢市馬替一丁目地内に所在する扇台遺跡と石川県金沢市大額町地内に所在する大額キョウデン遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は伏見中小河川改良工事（高橋川）に伴う事前調査で、石川県土木部河川課、石川県伏見・高橋川治水工事事務所の依頼を受けて石川県立埋蔵文化財センター調査第一課が実施した。現地調査については、以下のように行った。

第１次扇台遺跡発掘調査は、調査第一課主事木立雅朗と、嘱託小阪　大を調査担当として、平成３年５月22日から平成３年８月20日まで行った。第２次扇台遺跡発掘調査は、調査第一課主事木立雅朗と、主事土屋宣雄を調査担当として、平成４年８月12日から平成４年11月９日まで行った。第４次扇台遺跡発掘調査は、平成５年６月14日から同６月25日まで主事木立雅朗と主事澤田まさ子、嘱託白田義彦を調査担当として、市町村長期研修生の中島町教育委員会山本純也氏と行った。

大額キョウデン遺跡は、主事木立雅朗と主事澤田まさ子、嘱託白田義彦を調査担当として、市町村長期研修生の中島町教育委員会山本純也氏が、平成５年６月21日から平成５年９月７日まで行った。

3　現地調査に際し、石川県土木部河川課、伏見・高橋川治水工事事務所（平成７年から安原・高橋川事務所）扇台小学校、額中学校、護方山専光寺、扇台町会、扇台公民館、馬替町会の各位にご協力いただいた。感謝いたします。

調査作業員

扇台遺跡　　松井政利・木下　光・才村賢一・西尾　稔・表田　拓・中黒正雄・西川千明・塩尻千恵子・森　範子・吉田　久・中川吉三・西尾百合子・桝野敏子・関冨士子・中川美幸・中田ツヤ子・西尾春子・嶋山喜代子・田中幸二郎

大額キョウデン遺跡

松井政利・木下　光・西尾　稔・西川千明・塩尻千恵子・森　範子・吉田　久・中川吉三・西尾百合子・桝野敏子・関　冨士子・中川美幸・中田ツヤ子・西尾春子・嶋山喜代子・田中幸二郎

4　遺物整理は、社団法人石川県埋蔵文化財保存協会に委託して行った。

扇台遺跡は平成７年５月１日から８月10日にかけ松田智恵子・進藤紀美子・川崎由紀子の各氏が、大額キョウデン遺跡は、平成７年２月14日から３月30日にかけ河村祐子、黒田和子、川崎由紀子、尾崎昌美の各氏が担当した。また直営の整理作業は、越田純子、池村ひとみ、山本澄美子、島崎博美、大薮智子の各氏の補助を得て木立と澤田が行った。

5　本書における挿図などの扱いは以下のとおりである。

(1)　挿図中に指示した方位は座標北である。また、土層断面図の水平基準の数値は、海抜高（単位m）で示す。

(2)　挿図の縮尺は図中ならびに目次に示した。挿図番号、観察表図No、写真図版番号は一致している。

6　本書の執筆者は、第３章１・２・３・５節を社団法人石川県埋蔵文化財保存協会土屋宣雄が、第３章４節を鶴来町教育委員会社会教育課主事小阪　大が担当し、他章と編集は、澤田が行った。

7　本書を執筆するにあたり当センターの職員諸氏および社団法人石川県埋蔵文化財保存協会の職員諸氏に種々の教授を得た。感謝いたします。

8　調査にかかる記録図面、記録写真・スライド類・出土遺物などの資料は石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目　次

第１章　調査に至る経緯 …… 1
第１節　調査の経緯 …… 1

第２章　位置と環境 …… 5
第１節　地理的環境 …… 5
第２節　歴史的環境 …… 5

第３章　扇台遺跡 …… 10
第１節　調査の経過 …… 10
第２節　調査の概要 …… 13
1　遺跡の立地 …… 13
2　調査区の設定 …… 13
3　地層 …… 13
第３節　遺構 …… 18
1　第１・２次調査区 …… 18
(1)　弥生時代の遺構 …… 18
(2)　古代の遺構 …… 18
(3)　中世の遺構 …… 22
2　第４次調査区 …… 22
第４節　遺物 …… 32
1　縄文時代土器 …… 32
2　石器 …… 32
3　弥生時代土器 …… 32
4　古代土器 …… 33
第５節　小結 …… 61

第４章　大額キョウデン遺跡 …… 62
第１節　調査の経過 …… 62
第２節　調査区の位置と地区割り …… 64
第３節　基本土層 …… 64
第４節　遺構 …… 65
1　弥生・古墳時代の遺構 …… 65
2　古代末・中世の遺構 …… 74
3　中・近世の遺構 …… 79
第５節　遺物 …… 82
1　弥生・古墳時代の遺物 …… 82
2　古代の遺物 …… 82
3　中・近世の遺物 …… 85
第６節　小結 …… 101

挿図目次

第１図　扇台遺跡・大額キョウデン遺跡の位置… 1
第２図　扇台遺跡・大額キョウデン遺跡の位置（Ｓ＝1/7,500）…… 2
第３図　試掘土層と試掘位置図（Ｓ＝1/10,000） 3
第４図　試掘土層と試掘位置図（Ｓ＝1/5,000） 4
第５図　周辺の地形（Ｓ＝1/100,000）…… 6
第６図　周辺の遺跡（Ｓ＝1/25,000）…… 7
第７図　扇台遺跡調査区位置図（Ｓ＝1/1,000） 10
第８図　扇台小学校児童の体験発掘の感想（４年１組学級物語より）……12
第９図　扇台遺跡調査区・グリッド図（Ｓ＝1/500）……14
第10図　扇台遺跡Ｈ―19～33区東壁土層断面図（Ｓ＝1/60）……15
第11図　扇台遺跡Ｇ～Ｋ－８区北壁土層断面図（Ｓ＝1/60）……16
第12図　扇台遺跡Ｋ－８～15区東壁土層断面図（Ｓ＝1/60）……16
第13図　扇台遺跡Ｊ―15～19区東壁土層断面図（Ｓ＝1/60）……16
第14図　扇台遺跡Ｇ～Ｋ―15区北壁土層断面図（Ｓ＝1/60）……17
第15図　扇台遺跡第４次調査区土層断面図（Ｓ＝1/60）……17
第16図　扇台遺跡Ｇ・Ｈ―27・28区・SX01、Ｇ・Ｈ―28･29区弥生土器出土状況図（Ｓ＝1/40）……19
第17図　Ｇ―32・33区弥生土器出土状況図（Ｓ＝1/40）……19
第18図　扇台遺跡Ｂ～Ｅ―10～18区畝溝状遺構平面図（Ｓ＝1/200）・断面図（Ｓ＝1/40）…20
第19図　扇台遺跡SB１平面・断面図（Ｓ＝1/60）……23
第20図　扇台遺跡SB２、SB３平面・断面図（Ｓ＝1/60）……24
第21図　扇台遺跡SB４・５・６、SB９平面・断面図（Ｓ＝1/60）……25
第22図　扇台遺跡SB７、SB８平面・断面図（Ｓ＝1/60）……26
第23図　扇台遺跡Ｈ～Ｊ―11～14区古代第3期遺構、SD2002・2003平面図（Ｓ＝1/60）……27
第24図　扇台遺跡第１・２・３次調査区遺構平面図その１（Ｓ＝1/200）……28
第25図　扇台遺跡第１・２・３次調査区遺構平面図その２（Ｓ＝1/200）……29
第26図　扇台遺跡第１・２・３次調査区遺構平面図その３（Ｓ＝1/200）……30
第27図　扇台遺跡第１・２・３次調査区遺構平面図その４（Ｓ＝1/200）……31
第28図　扇台遺跡出土縄文土器図（Ｓ＝1/3） …35
第29図　扇台遺跡出土石器図(1)（Ｓ＝1/3） ……36
第30図　扇台遺跡出土石器図(2)（Ｓ＝1/3） ……37
第31図　扇台遺跡出土石器図(3)（Ｓ＝1/4） ……38
第32図　扇台遺跡SX01出土土器図(1)（Ｓ＝1/3） 39
第33図　扇台遺跡SX01出土土器図(2)（Ｓ＝1/3） 40
第34図　扇台遺跡SX01出土土器図(3)（Ｓ＝1/3） 41
第35図　扇台遺跡SX01出土土器図(4)（Ｓ＝1/3） 42
第36図　扇台遺跡Ｇ―27・28出土土器図（Ｓ＝1/3）……43
第37図　扇台遺跡Ｇ―26～28・Ｇ32・33出土土器図（Ｓ＝1/3）……44
第38図　扇台遺跡Ｇ―32出土土器図（Ｓ＝1/3） 45
第39図　扇台遺跡Ｇ―32・その他の地区出土弥生土器図（Ｓ＝1/3）……46
第40図　扇台遺跡その他の地区出土弥生土器図（Ｓ＝1/3）……47
第41図　扇台遺跡SB―01柱穴出土遺物（Ｓ＝1/3）……48
第42図　扇台遺跡SB―02柱穴出土遺物（Ｓ＝1/3）……48
第43図　扇台遺跡SB03・04・07・08・SD2002出土遺物図（Ｓ＝1/3）……48
第44図　扇台遺跡Ｂ～Ｄ８区―Ｂ～Ｇ19区ピット・包含層出土遺物図（SB01・02附近出土）（Ｓ＝1/3）……49
第45図　扇台遺跡Ｆ16・17区～Ｊ16・17区ピット・包含層出土遺物図（SB04・05・06・07附近出土）（Ｓ＝1／3）……49
第46図　Ｈ―10区・扇台小学校旧グラウンド試掘出

土遺物・G－28・29区出土遺物（S＝1/3）……50
第47図　扇台遺跡SB07・08附近ピット・包含層出土遺物図(1)（S＝1／3）……50
第48図　扇台遺跡SB07・08附近ピット・包含層出土遺物図(2)（S＝1／3）……51
第49図　扇台遺跡SB07・08附近ピット・包含層出土遺物図(3)（S＝1／3）……52
第50図　大額キョウデン遺跡調査区位置図（S＝1/750）……63
第51図　大額キョウデン遺跡調査区グリッド図（S＝1／600）……64
第52図　大額キョウデン遺跡基本土層略図……65
第53図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅰ（S＝1/80）……66
第54図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅱ（S＝1/80）……67
第55図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅲ（S＝1/80）……68
第56図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅳ（S＝1/80）……69
第57図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅴ（S＝1/80）……70
第58図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅵ（S＝1/80）……71
第59図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅶ（S＝1/80）……72
第60図　大額キョウデン遺跡北壁・南壁土層断面図（S＝1/40）……73
第61図　大額キョウデン遺跡北トレンチ北壁土層図（S＝1/40）……74
第62図　大額キョウデン遺跡南トレンチ東南壁土層図（S＝1／40）……75
第63図　大額キョウデン遺跡SI01平面・断面図（S＝1／60）……76
第64図　大額キョウデン遺跡SD01平面・断面図（S＝1／120）……77
第65図　大額キョウデン遺跡SD02平面・断面図（S＝1／80）……78
第66図　大額キョウデン遺跡SK01・SK02平面・断面図（S＝1／80）……79
第67図　大額キョウデン遺跡SX01・SX02平面・断面図（S＝1／80）……80
第68図　大額キョウデン遺跡SI01上面遺物出土状況図（S＝1／60）……81
第69図　大額キョウデン遺跡SX03遺物出土状況図（S＝1／30）……83
第70図　大額キョウデン遺跡SK01附近遺物出土状況図（S＝1／60）……84
第71図　大額キョウデン遺跡SK02遺物出土状況図（S＝1／60）……84
第72図　大額キョウデン遺跡出土土器第１図（S＝1/3）……86
第73図　大額キョウデン遺跡出土土器第２図（S＝1/3）……87
第74図　大額キョウデン遺跡出土土器第３図（S＝1/3）……88
第75図　大額キョウデン遺跡出土土器第４図（S＝1/3）……89
第76図　大額キョウデン遺跡出土土器第５図（S＝1/3）……90
第77図　大額キョウデン遺跡出土土器第６図（S＝1/3）……91
第78図　大額キョウデン遺跡出土土器第７図（S＝1/3）……92
第79図　大額キョウデン遺跡出土土器第８図（S＝1/3）……93
第80図　大額キョウデン遺跡出土石器図（S＝1/3）……94
第81図　大額キョウデン遺跡出土遺物図（S＝1/3）……95

写真図版

巻頭図版１　伏見・高橋川と遺跡遠景
巻頭図版２　遺跡遠景
巻頭図版３　扇台遺跡府瞰
巻頭図版４　大額キョウデン遺跡
扇台遺跡図版
図版１　扇台遺跡垂直写真（1/10,000）
図版２－１　扇台遺跡第１次調査調査前風景

図版２－２　扇台遺跡第１次調査第１トレンチ調査風景
図版２－３　扇台遺跡第１次調査第１トレンチ遺構完掘状況（南から）
図版２－４　扇台遺跡第１次調査第１トレンチSB１・２遺構完掘状況（北から）
図版２－５　扇台遺跡第１次調査第２トレンチ調査風景（南から）
図版２－６　扇台遺跡第１次調査第２トレンチ遺構検出状況（南から）
図版２－７　扇台遺跡第１次調査第２トレンチ遺構完掘状況（南から）
図版２－８　扇台遺跡第１次調査第１・２トレンチ遺構完掘状況（南から）
図版３－１　扇台遺跡第１次調査第３トレンチ遺構検出状況（南から）
図版３－２　扇台遺跡第１次調査第３トレンチ弥生土器出土状況（西から）
図版３－３　扇台遺跡第１次調査第３トレンチ弥生土器取り上げ作業（西から）
図版３－４　扇台遺跡第１次調査第３トレンチ弥生土器取り上げ後（北から）
図版３－５　扇台遺跡第１次調査第３トレンチ遺構完掘状況（北から）
図版３－６　扇台遺跡第１次調査現地説明会の様子
図版３－７　扇台遺跡第１次調査調査後保護措置
図版３－８　扇台遺跡第１次調査調査参加者
図版４－１　扇台遺跡第１次調査重機による表土除去作業
図版４－２　扇台遺跡第２次調査第１次調査区保護シート撤去作業
図版４－３　扇台遺跡第２次調査24～32区遺構検出状況（北西から）
図版４－４　扇台遺跡第２次調査24～32区遺構完掘状況（北西から）
図版４－５　扇台遺跡第２次調査Ｇ－28区弥生土器出土状況（西から）
図版４－６　扇台遺跡第２次調査Ｇ－28区弥生土器出土状況（西から）
図版４－７　扇台遺跡第２次調査Ｇ－28区弥生土器取り上げ作業（北から）
図版４－８　扇台遺跡第２次調査Ｇ－28区完掘状況（西から）
図版５－１　扇台遺跡第２次調査Ｇ－32・33区弥生土器出土状況（南東から）
図版５－２　扇台遺跡第２次調査Ｇ－32・33区弥生土器出土状況（南から）
図版５－３　扇台遺跡第２次調査Ｇ－32・33区完掘状況（北から）
図版５－４　扇台遺跡第２次調査Ｇ－32・33区完掘状況（北から）
図版５－５　扇台遺跡第２次調査SB１・２・３完掘状況（南から）
図版６－１　扇台遺跡第２次調査SB１・２完掘状況（南から）
図版６－２　扇台遺跡第２次調査SB１柱穴土層断面（西から、第１次調査）
図版６－３　扇台遺跡第２次調査SB３・４・５・６完掘状況（南西から）
図版６－４　扇台遺跡第２次調SB３完掘状況（南から）
図版６－５　扇台遺跡第２次調査SB４・５・６完掘状況（南から）
図版７－１　扇台遺跡第２次調査Ｇ～Ｋ－８～14区古代第３期遺構検出状況（南から）
図版７－２　扇台遺跡第２次調査Ｇ～Ｋ－８～14区古代第３期遺構完掘状況（南から）
図版８－１　扇台遺跡第２次調査Ｇ～Ｋ－８～14区古代第２期遺構検出状況（南から）
図版８－２　扇台遺跡第２次調査Ｇ～Ｋ－８～14区古代第２期遺構完掘状況（南から）
図版９－１　扇台遺跡第２次調査基本土層（Ｈ－28区東壁断面）（西から）
図版９－２　扇台遺跡第２次調査基本土層（Ｈ－31区東壁断面）（西から）
図版９－３　扇台遺跡第２次調査扇台小学校児童体験発掘の様子①
図版９－４　扇台遺跡第２次調査扇台小学校児童体験発掘の様子②
図版９－５　扇台遺跡第２次調査扇台小学校児童体

験発掘の様子③
図版９－６　扇台遺跡第２次調査扇台小学校児童体験発掘の様子④
図版９－７　扇台遺跡第２次調査現地説明会の様子
図版９－８　扇台遺跡第２次調査参加者
図版10－１　扇台遺跡第３次調査重機による表土除去作業（東から）
図版10－２　扇台遺跡第３次調査西区完掘状況（南から）
図版10－３　扇台遺跡第３次調査西区完掘状況（東から）
図版10－４　扇台遺跡第３次調査西区東壁土層断面（北から）
図版10－５　扇台遺跡第３次調査東区完掘状況（南から）
図版10－６　扇台遺跡第３次調査東区北壁土層断面（南から）
図版11　扇台遺跡出土遺物(1)
図版12　扇台遺跡出土遺物(2)
図版13　扇台遺跡出土遺物(3)
図版14　扇台遺跡出土遺物(4)
図版15　扇台遺跡出土遺物(5)
図版16　扇台遺跡出土遺物(6)
図版17　扇台遺跡出土遺物(7)
図版18　扇台遺跡出土遺物(8)
図版19　扇台遺跡出土遺物(9)
図版20　扇台遺跡出土遺物(10)
図版21　扇台遺跡出土遺物(11)
図版22　扇台遺跡出土遺物(12)
図版23　扇台遺跡出土遺物(13)
図版24　扇台遺跡出土遺物(14)
図版25　扇台遺跡出土遺物(15)
図版26　扇台遺跡出土遺物(16)
図版27　扇台遺跡出土遺物(17)
図版28　扇台遺跡出土遺物(18)

大額キョウデン遺跡図版　PLATE

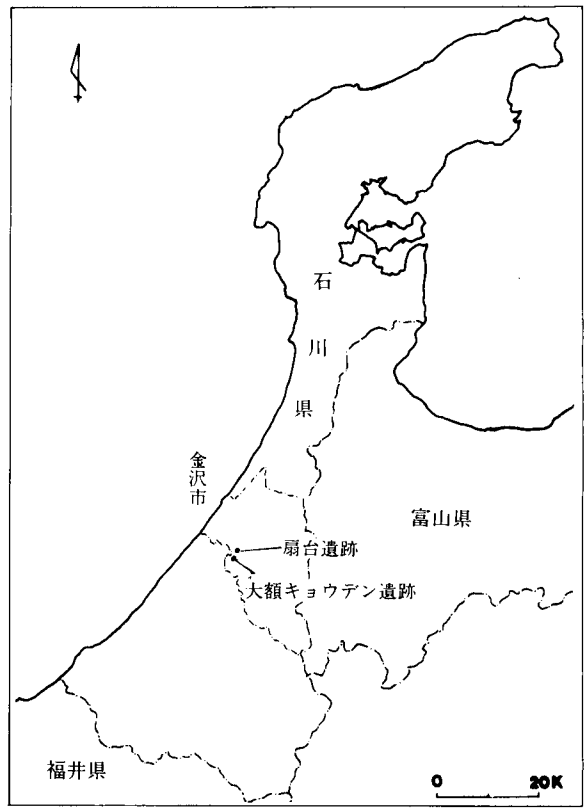
図版１　大額キョウデン遺跡体験発掘・現地説明会
図版２　大額キョウデン遺跡遺跡全景（トレンチをのぞく）
図版３　大額キョウデン遺跡発掘調査状況
図版４　大額キョウデン遺跡調査区完掘状況
図版５　大額キョウデン遺跡SI01①
図版６　大額キョウデン遺跡SI01②
図版７　大額キョウデン遺跡SD01他
図版８　大額キョウデン遺跡SD01とその周辺
図版９　大額キョウデン遺跡SD02
図版10　大額キョウデン遺跡SK01・SX03
図版11　大額キョウデン遺跡南・北トレンチ
図版12　大額キョウデン遺跡SX01・SX02・SX03
図版13　大額キョウデン遺跡出土遺物(1)
図版14　大額キョウデン遺跡出土遺物(2)
図版15　大額キョウデン遺跡出土遺物(3)
図版16　大額キョウデン遺跡出土遺物(4)
図版17　大額キョウデン遺跡出土遺物(5)
図版18　大額キョウデン遺跡出土遺物(6)
図版19　大額キョウデン遺跡出土遺物(7)
図版20　大額キョウデン遺跡出土遺物(8)

表目次

第１表　周辺の遺跡……　8
第２表　扇台縄文土器観察表……　53
第３表　扇台石器観察表……　53
第４表　扇台出土土器観察表……　54
第５表　大額キョウデン土器観察表……　96
第６表　大額キョウデン石器計測表……　100

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査の経緯



第１図　扇台遺跡・大額キョウデン遺跡の位置

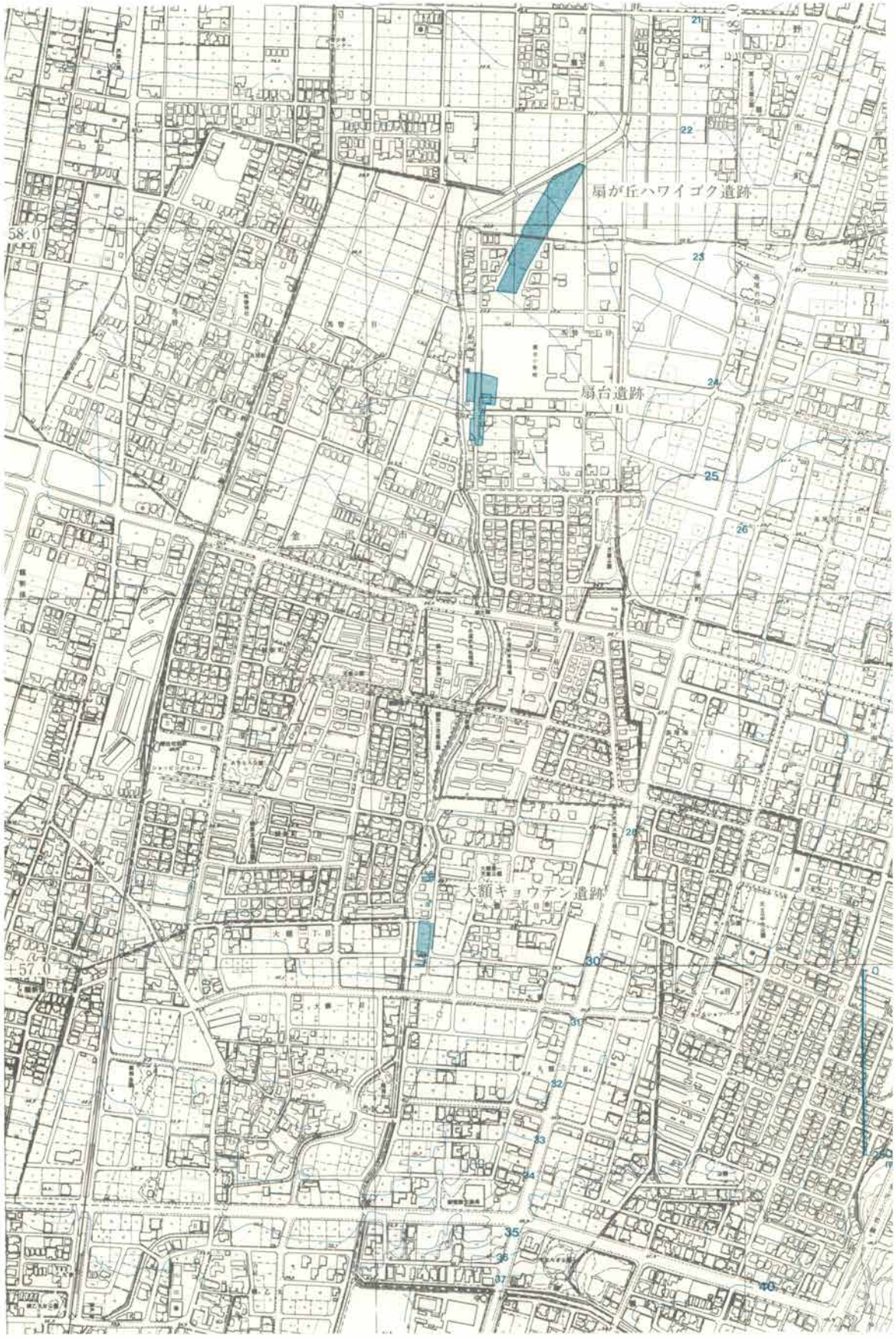
２級河川高橋川は、手取扇状地の扇央に存在する石川県鶴来町より流れを発し、七ケ用水が野々市町・金沢市と流れ、倉が岳より流れ出た伏見川と金沢市米泉町で、木呂川とも合流し十人川とともに犀川に合流し日本海に注ぐ。高橋川の流路沿い一帯は水田地帯であり、昭和30年代ごろまで一面の水田の果たした保水機能は多大なものがあった。多分にもれず当地でも列島改造に伴う宅地造成で、住宅地域として様変わりが起こり、もとの用水としての機能を越える水量の増大がみられ、度々流域に被害を及ぼすこととなった。そのため石川県では、昭和53（1978）年から、高橋川の改良工事に取り組んでいる。

扇台・大額キョウデン遺跡は手取扇状地の扇端部、高橋川の流路脇河川敷脇に位置する。扇台遺跡の１次・２次・４次及び大額キョウデン遺跡の調査は、伏見中小河川改良工事の工事に伴う緊急発掘調査である。扇台遺跡は県遺跡番号01121、大額キョウデン遺跡は県遺跡番号01120の遺跡である。

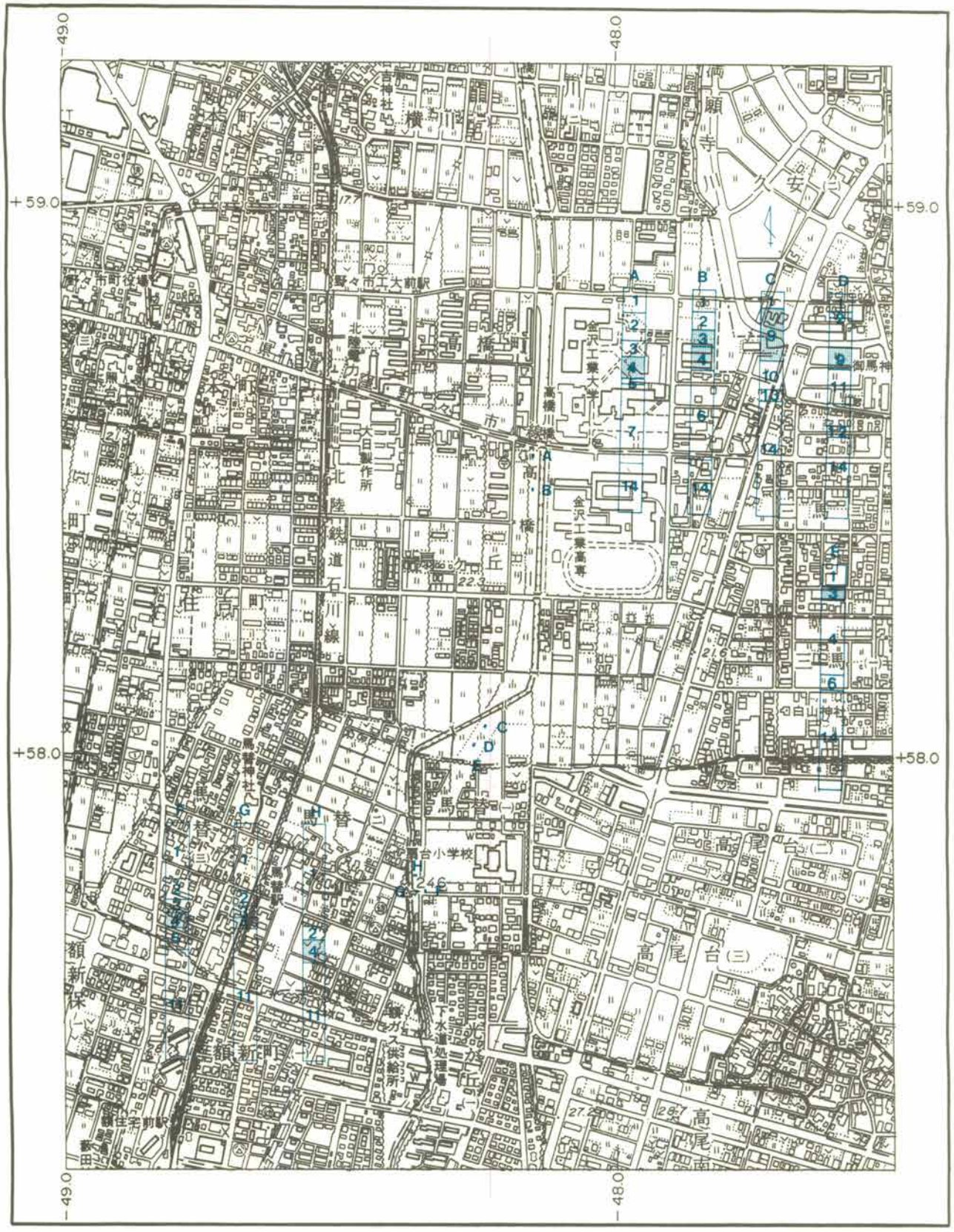
昭和63（1988）年４月21日付け伏治水39号で伏見・高橋川治水工事事務所ならびに河川課より依頼のあった伏見川周辺箇所について、埋蔵文化財分布調査を、昭和63年５月19日、同年12月９日に当センター調査課２班平田天秋・西野秀和・岡本恭一の３氏が約45,000㎡にわたり実施した。野々市町扇が丘付近と金沢市馬替・扇台の３地点で中世土師器等埋蔵文化財が確認された。埋文収104号昭和63年５月20日・同12月16日で回答した。協議の結果、工事にあわせ平成元（1989）年より順次緊急発掘調査を実施することとなった。該当遺跡は、下流から扇が丘ゴショ遺跡、扇が丘ハワイゴク遺跡、扇台遺跡、である。また平成３年４月１日伏治水発第20号で依頼のあった箇所を平成３年７月１日に分布調査し、弥生土器等を確認したため発掘調査が行われることとなった。この遺跡が大額キョウデン遺跡である。以下に順次経過を記載する。

扇台遺跡

伏見・高橋川治水工事事務所は、平成３年４月６日付け伏治水発第27号で文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の通知をし、依頼の文書は平成３年４月１日付け伏治水発第20号で埋蔵文化財センターあてに行った。埋蔵文化財センターはこれを受けて、埋蔵文化財発掘調査の通知を平成３年４月15日付け埋文発第40―３号で文化庁長官に行い、平成３年５月22日より同８月20日まで第１次現地調査を行った。調査の継続が協議され、平成４年４月14日付け伏治水発第５号で文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の通知をし、依頼の文書は平成４年４月８日付け伏治水発第３号で埋蔵文化財センターあてに行った。平成４年７月29日付け埋文第50号で埋文センターが発掘通知を行い、扇台第２次現地調査は、平成４年８月18日より同４年11月９日まで行われた。協議の後一部の調査区の要望箇所があり、伏見・高橋川治水工事事務所は、平成５年４月19日付け伏治水発第８号で文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の通知をし、依頼の文書は平成５年４月６日付け伏治水発第４号で埋蔵文化財センターあてに行った。埋蔵文化財センターはこれを受けて、埋蔵文化財発掘調査の通知を平成５年４月28日付け埋文発第133号で文化庁



第２図　扇台遺跡・大額キョウデン遺跡の位置（Ｓ＝1/7.500）



第3図　試掘土層と試掘位置図（S＝1/10,000）

長官に行い、第４次現地調査が、平成５年６月14日～同６月25日に行われた。扇台遺跡第３次調査は、金沢市教育委員会が平成５年２月26日～同４月16日まで現地調査を行っている。

大額キョウデン遺跡

伏見・高橋川治水工事事務所は、平成５年４月19日付け伏治水発第７号で文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の通知をし、依頼の文書は平成５年４月６日付け伏治水発第４号で埋蔵文化財センターあてに行った。埋蔵文化財センターはこれを受けて、埋蔵文化財発掘調査の通知を平成５年４月28日付け埋文発第134号で文化庁長官に行い、平成５年６月21日より同９月27日まで現地調査を行った。これをもって、伏見川・中小河川改良工事に伴う一連の現地調査は、終了した。

第４図　試掘土層と試掘位置図（S＝1/5,000）

上記当石川県立埋蔵文化財センターの実施した、２遺跡の発掘調査についてまとめると以下のようになる。

調査年次

扇台遺跡　　平成３（1991）年・平成４（1992）年・平成５年（1993）年

大額キョウデン遺跡　　平成５（1993）年

調査面積

扇台遺跡　　2,710㎡

大額キョウデン遺跡　　1,200㎡

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

扇台遺跡は石川県金沢市馬替１丁目に、大額キョウデン遺跡は石川県金沢市大額町１丁目に所在する縄文～中世に及ぶ複合遺跡である。

日本列島のほぼ中央にあたり、日本海に突き出る能登半島とその基部が石川県である。富山県氷見市とは霊場石動山（565m）を介して、小矢部市とは古戦場倶利伽藍峠で別山（2,399m）・御前峰（2,702m）を配する霊峰白山を岐阜県境に配し福井県とは金津町の北潟湖・大日峠（1,220m）等で接する。石川県は、河北潟の所在する河北郡により、能登と加賀に二分される。

金沢市は加賀北部、北緯36度33分東経136度40分に位置し県庁所在地である。近隣には野々市町・松任市・内灘町・津幡町があり、これらの市町村と接する。金沢市は医王山地、富樫山地、手取川・犀川・浅野川の形成した河岸段丘、扇状地と沖積平野金沢平野からなる東高西低の地勢をもつ。

扇台遺跡と大額キョウデン遺跡はともに、手取川扇状地の扇端部上標高約30mに立地している。

県南部に北東から南西に連なる両白山地の主峰である白山は日本三名山に数えられ、全国各地に存在する白山神社山岳信仰の霊場として、現在も崇敬されている。この両白山地に源を発する河川に大聖寺川・梯川・手取川・犀川などがあり、なかでも手取川は、鶴来町を扇頂として金沢平野の扇状地を形成している。２級河川犀川も一翼を担って複合扇状地を形成している。

地質的には第四期完新世に形成された沖積堆積物上に立地しており、北側東側南側の三方いずれも沖積堆積物の地質である。約500m西側に所在する丘陵地は第三期中新世前期より形成された、安山岩質火砕岩・熔岩に始まり更新世に堆積した段丘堆積物までが漸次堆積して形成されたものである。

第２節　歴史的環境

扇台・大額キョウデン遺跡は、手取川扇状地の扇端部に所在する弥生～中世の集落跡である。周辺では、縄文時代から近世に至るまで連綿と生活が営まれていたことがわかる。

周辺地域は、ほぼ金沢平野・手取扇状地にあたり、一部富樫丘陵がふくまれる。金沢市南部一帯で確認されている最古の遺跡は、旧石器および縄文草創期の石器の散布地である四十万Ｃ・四十万Ｄ遺跡（10・11）である。額谷カネカヤブ遺跡（14）からは、縄文中期前葉新保Ⅰ～Ⅲ期の土器が出土し、竪穴住居も確認されている。上記３遺跡が丘陵部に立地する。

次に遺跡の展開がみられるのは、縄文時代後・晩期である。平野部に立地する縄文時代の後期・晩期の集落、米泉遺跡・御経塚遺跡・新保チカモリ遺跡の、特筆すべき一群が約２kmほどの間隔をおいて所在する。第６図の北端約１kmには、栽培植物、アンギン編布、籃胎漆器等多彩な出土遺物、住居域での栗林、河道でトチ塚が検出

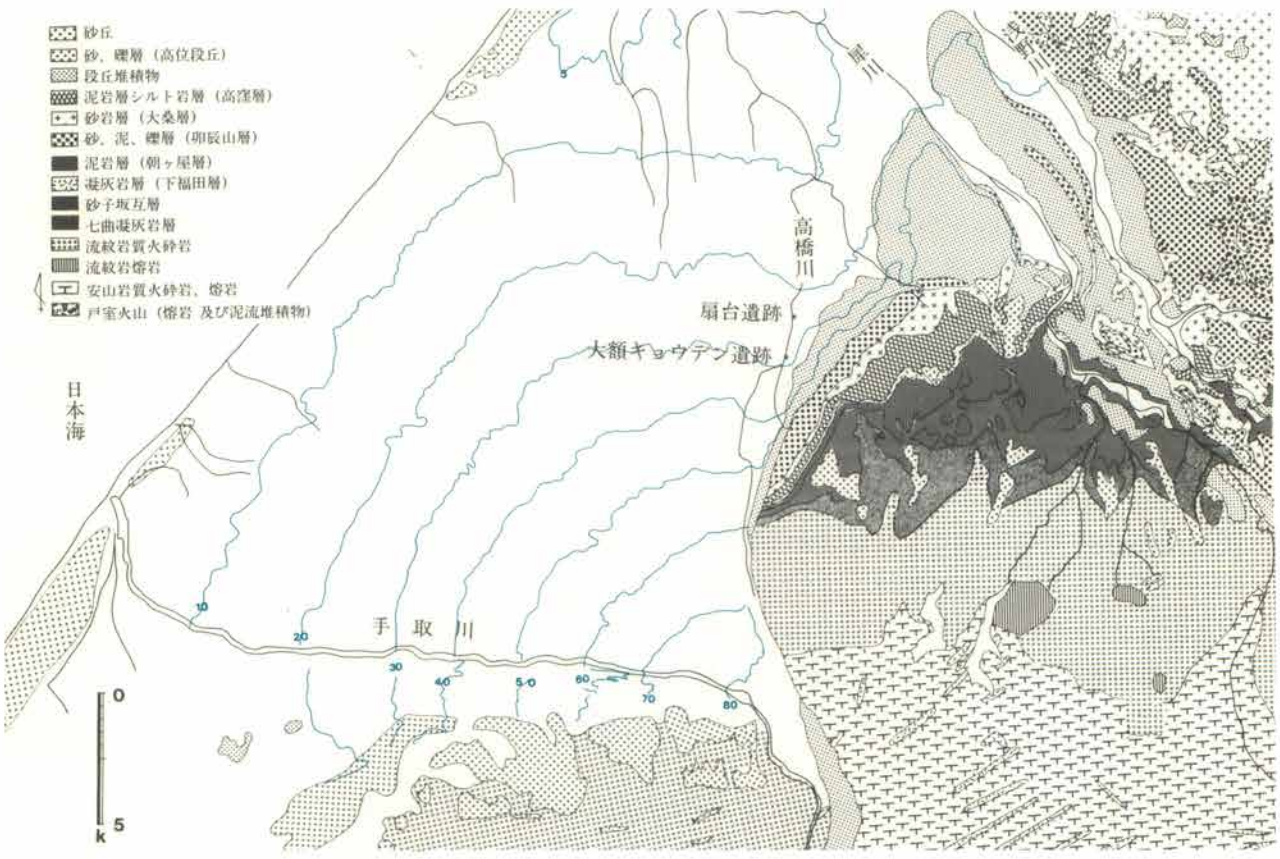
された縄文後期・晩期の米泉遺跡が所在する。高橋川の上流へ2kmさか上る馬替遺跡（36）からは縄文後期中葉の土器群と集石跡・石囲炉が確認されている。

弥生時代には、遺跡増加のみられる後期に本遺跡周辺でも密に遺跡が点在することとなる。伏見・高橋川の流路の北から眺めると、丘陵部に弥生後期大型住居・掘立柱建物を含め18棟の住居の確認された額谷遺跡（3）、いびつな隅丸方形の竪穴住居1棟をもつ第5次扇台遺跡（1）、弥生後期後半の8穴の柱穴を持つ竪穴住居の検出された扇が丘ハワイゴク遺跡（4）、同じ弥生後期後半竪穴住居の確認された扇が丘ゴショ遺跡（5）、焼失住居を含み、玉造等様々な機能を持つ16棟の住居が発掘調査された弥生後期後半の高橋セボネ遺跡(69)、同期の押野ウマワタリ遺跡（66）などが挙げられ本調査の遺跡、大額キョウデン遺跡を加えると、1km以内の間隔で当該期扇状地扇端部に散在して遺跡の所在がみられ、湧水地点との関連も考えられる。

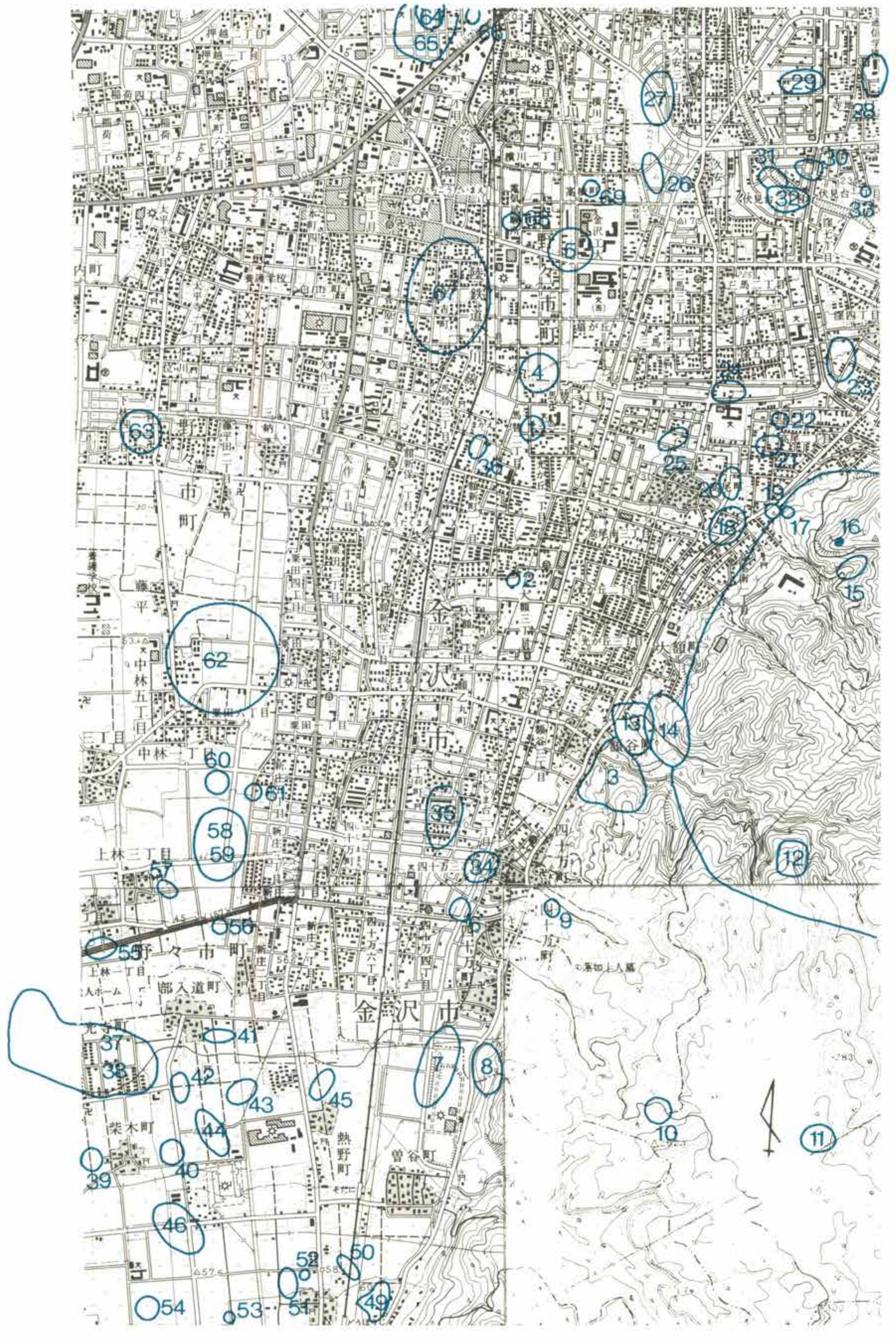
次の当該地域、遺跡の盛期は、奈良時代後半～平安時代に見られる。粟田遺跡（62）は、8世紀前半のN－21°－Wの方位を持つ道が検出されており、額谷カネカヤブ遺跡（14）からは巡方が出土している。額谷ドウシンダ遺跡（13）からは鉄鉢、道法寺遺跡（51）、安養寺遺跡（38）、からは墨書土器や七～八位の官僚が装着したといわれる巡方も出土している。扇が丘ゴショ遺跡（5）からは大型建物が、扇が丘ハワイゴク遺跡（4）からは、4面庇をもつ建物が検出されている。これらの遺跡は今後、古代村落を考慮するうえで仏教関連の施設との関連も含め重要な足がかりとなろう。

尚、室町時代から戦国時代へと重要な役割を担った富樫館跡（67）は、堀跡や建物跡が確認されている。

（　）内の番号は第6図・第1表周辺の遺跡の番号と一致している。



第5図　周辺の地形（S＝1/100,000）



第６図　周辺の遺跡（Ｓ＝1/25,000）

第1表　周辺の遺跡

番号	名　称	所　在　地	種　別	時　代	出　土　品	遺跡番号
1	扇台遺跡	金沢市馬替1丁目	集落跡	弥生・平安	弥生土器、須恵器	1121
2	大額キョウデン遺跡	金沢市大額3丁目	散布地	弥生・古墳・平安・中世	弥生土器、土師器	1120
3	額谷遺跡	金沢市額谷	散布地	弥生・近世		1104
4	扇が丘ハワイゴク遺跡	金沢市馬替1丁目・野々市町扇ガ丘	集落跡	縄文・弥生・平安・中世	縄文土器、石器、弥生土器、土師器	1122
5	扇が丘ゴショ遺跡	野々市町扇が丘	集落跡	弥生・古代・中世	土師器、弥生土器、中世陶器	16042
6	四十万B遺跡	金沢市四十万町	散布地	平安・中世	土師器、須恵器、珠洲焼	1002
7	四十万南遺跡	金沢市四十万町・鶴来町曽谷町	散布地	奈良～中世	須恵器、珠洲焼、加賀焼	1003
8	四十万ヒツカジ遺跡	金沢市四十万町・鶴来町曽谷町	散布地	奈良・平安	須恵器	1004
9	四十万中世墓群	金沢市四十万町	墓地	中世	五輪塔	1005
10	四十万C遺跡	金沢市四十万町	散布地	縄文草創期	片刃石斧	1006
11	四十万D遺跡	金沢市四十万町	散布地	旧石器	石器	1007
12	御廊谷墳墓群	金沢市額谷	墳墓	中世		1103
13	額谷ドウシンダ遺跡	金沢市額谷	散布地	縄文～平安	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器	1105
14	額谷カネカヤブ遺跡	金沢市額谷	集落跡	縄文～中世	土師器・須恵器・石帯	1106
15	狐青横穴群	金沢市高尾	横穴墓	古墳		1108
16	高尾古墳	金沢市高尾	古墳	古墳		1109
17	高尾B遺跡	金沢市高尾	散布地	奈良	須恵器	1110
18	高尾A遺跡	金沢市高尾	散布地	奈良・平安	土師器、須恵器、	1112
19	高尾C遺跡	金沢市高尾	散布地	弥生・古墳	土器	1113
20	高尾天神堂遺跡	金沢市高尾	散布地	平安	土師器、須恵器	1114
21	高尾新町遺跡	金沢市高尾	散布地	奈良・平安	土師器、須恵器	1115
22	高尾新マトバ遺跡	金沢市高尾	散布地	奈良・平安	土師器、須恵器	1116
23	窪遺跡	金沢市窪	散布地	古墳・中世	土師器、中世陶器	1117
24	高尾イシナ塚古墳	金沢市高尾	古墳	古墳		1118
25	高尾公園遺跡	金沢市高尾	散布地	平安	土師器、須恵器	1119
26	久安トノヤシキ遺跡	金沢市久安1丁目	散布地	古墳		1123
27	久安さんまい川遺跡	金沢市久安町	散布地	平安	須恵器	1124
28	有松C遺跡	金沢市有松	散布地	縄文～古墳	縄文土器、弥生土器、土師器	1128
29	有松A遺跡	金沢市有松	集落跡	縄文	土器	1129
30	寺地シンドロ遺跡	金沢市寺地	散布地	古墳～平安	土師器、須恵器	1130
31	寺地向田遺跡	金沢市寺地	散布地	奈良	土師器、須恵器	1131
32	円光寺向田遺跡	金沢市円光寺	散布地	奈良・平安	須恵器	1132
33	円光寺B遺跡	金沢市円光寺	散布地	縄文	石鏃	1133
34	四十万遺跡	金沢市四十万	散布地	縄文	打製石斧	1398
35	三十苅遺跡	金沢市四十万	散布地	奈良～平安	土師器、須恵器	1399
36	馬替遺跡	金沢市馬替2丁目	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	縄文土器・土師器・須恵器	1400
37	柴木遺跡	鶴来町柴木	集落跡	平安	須恵器、土師器	15002
38	安養寺遺跡	鶴来町柴木	集落跡	平安	須恵器、土師器、緑釉、灰釉陶器、銅銭、漆椀、石帯	15003
39	柴木D遺跡	鶴来町柴木	散布地	平安		15006
40	柴木東遺跡	鶴来町柴木	散布地	奈良・平安	杯	15007
41	部入道A遺跡	鶴来町部入道	散布地	奈良・平安		15008
42	部入道B遺跡	鶴来町部入道	散布地	奈良・平安		15009
43	部入道C遺跡	鶴来町部入道・熱野	散布地	奈良・平安		15010

番号	名　称	所　在　地	種　別	時　代	出　土　品	遺跡番号
44	新荒屋遺跡	鶴来町新荒屋	散布地	奈良・平安		15011
45	熱野遺跡	鶴来町熱野	集落跡	平安・中世		15012
46	柴木南遺跡	鶴来町知気寺・柴木・部入道	散布地	平安前期	須恵器杯・蓋、土師器甕・杯	15013
49	坂尻遺跡	鶴来町坂尻	散布地	奈良・平安		15016
50	道法寺B遺跡	鶴来町道法寺	集落跡	奈良		15017
51	道法寺遺跡	鶴来町道法寺	集落跡	平安		15018
52	道法寺C遺跡	鶴来町道法寺	集落跡	平安		15019
53	荒屋B遺跡	鶴来町荒屋	集落跡	弥生		15022
54	知気寺B遺跡	鶴来町知気寺	散布地	平安	須恵器、土師器	15025
55	上林遺跡	野々市町上林	散布地	弥生・平安	弥生土器、石斧、土師器、石帯	16001
56	上新庄ニシウラ遺跡	野々市町新庄	集落跡	古墳・奈良	須恵器、土師器	16002
57	上林テラダ遺跡	野々市町上林	集落跡	奈良	須恵器、土師器	16003
58	上林新庄遺跡	野々市町上林・新庄	集落跡	縄文・古墳～平安	縄文土器、石器、須恵器、土師器、鉄製品	16004
59	上林古墳	野々市町上林	古墳	古墳後期	須恵器	16005
60	下新庄アラチ遺跡	野々市町上林・新庄	集落跡	奈良	須恵器、土師器、砥石	16006
61	下新庄タナカダ遺跡	野々市町新庄	集落跡	奈良・平安	須恵器、土師器	16007
62	粟田遺跡	野々市町粟田・中林	集落跡	縄文・奈良・平安	須恵器、土師器、縄文土器、打製石斧、刀子、砥石	16008
63	三林館跡	野々市町下林	館跡	安土桃山		16023
64	押野館跡	野々市町押野	館跡	室町		16035
65	押野タチナカ遺跡	野々市町押野	集落跡	弥生・古墳・中世	弥生土器、土師器	16036
66	押野ウマワタリ遺跡	野々市町押野	集落跡	弥生	弥生土器、勾玉、管玉、打製石斧	16037
67	富樫館跡	野々市町住吉	館跡	中世		16039
68	高橋ウバガタ遺跡	野々市町高橋	集落跡	弥生	土器	16040
69	高橋セボネ遺跡	野々市町高橋	集落跡	弥生・奈良	弥生土器、勾玉1、打製石斧	16041

〈参考文献〉

谷口宗治　金沢市教育委員会　『額谷カネカヤブ遺跡』1996
田村昌宏他　野々市町教育委員会　『高橋セボネ遺跡』1996
西野秀和　石川県立埋文センター『米泉遺跡』1996
端　　猛　石川県立埋文センター『扇が丘ハワイゴク遺跡』1996
安　英樹　石川県立埋文センター『額谷遺跡』1997
平凡社『石川の地名』1991
石川県教育委員会『石川県遺跡地図』1992
森田平次『加賀志徴』復刻版石川県図書館協議会　1969

試掘土層と試掘位置図土色（第3図）

1 耕作土
2 床土
3 茶褐色粘砂
4 暗茶褐色粘砂
5 暗黄褐色粘砂
6 灰褐色粘砂
7 黄褐色粘砂
8 灰褐色砂
9 灰褐色粘
10 灰褐色粘
11 灰褐色砂
12 青灰色粘砂
13 青灰色粘
14 礫層

試掘土層と試掘位置図土色（第4図）

1 旧表土
2 茶褐色粘質土
3 黒褐色砂質土
4 暗褐色粘砂
5 淡黒褐色粘質土
6 褐色粘質土
7 濁黄灰色粘質土
8 礫層

第３章　扇台遺跡の調査

第１節　調査の経過

扇台遺跡の発掘調査は、伏見川中小河川改良工事事業の高橋川工事施工に先立ち、県立埋蔵文化財センターが実施した平成３～５年度の３ケ年調査（第１・２・４次調査）と、扇台小学校グランド整備事業に先立ち金沢市教育委員会が実施した平成４・５年度調査（第３次調査）があり、計４次にわたる。

第１次調査は道路部分を除いた宅地を対象とする約1,200㎡を、平成３年５月末から同年８月末までの約３ケ月間行い、弥生時代終末期の土器が集中して出土した他、10世紀前半を中心とする掘立柱建物２棟、総柱掘立建物３棟が検出された。

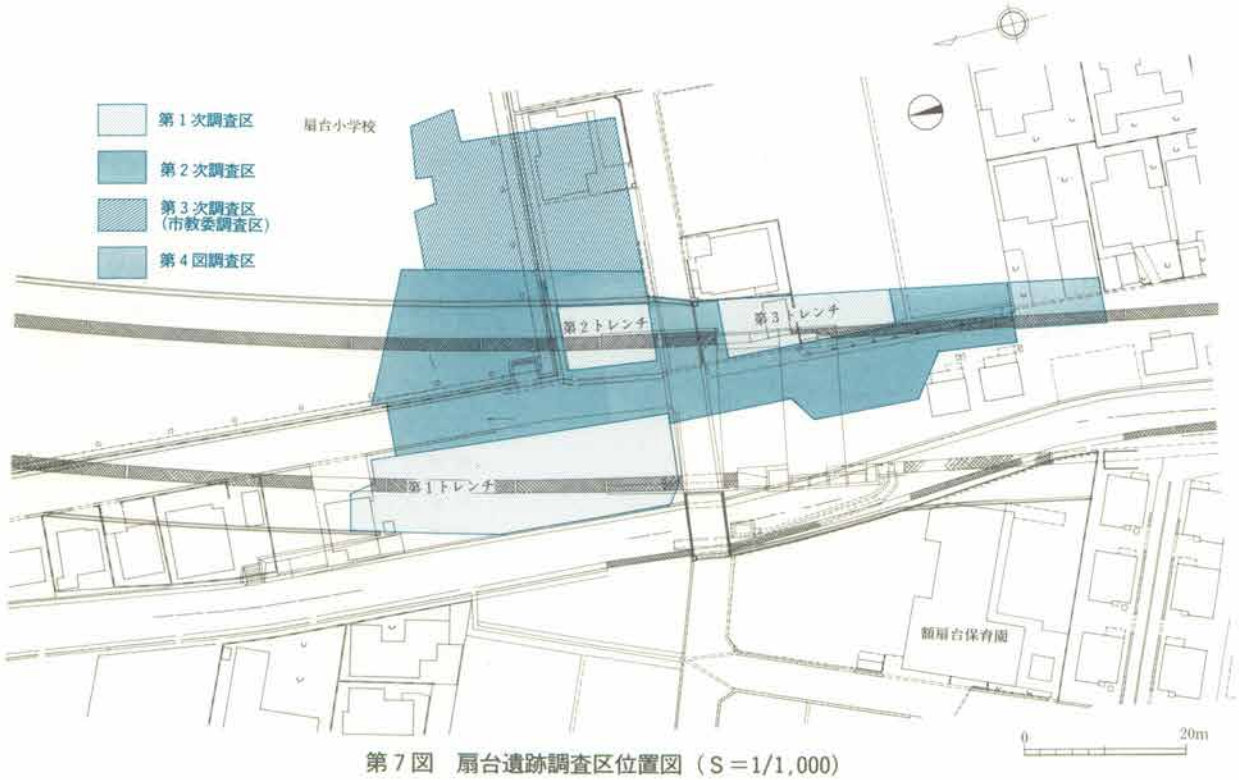
第２次調査は道路及び扇台小学校グランド部分を対象とする約1,450㎡を、平成４年８月中旬から同年11月中旬までの約３ケ月間行い、第１次調査時に検出された遺構の延びと、新たに掘立柱建物２棟他が確認された。

第３次調査は金沢市教育委員会が扇台小学校グランド部分を対象とした約700㎡を、平成５年２月下旬から同年４月中旬までに実施したものである。弥生時代終末期の竪穴住居跡１棟、中世の掘立柱建物１棟等を確認している。（増山　仁『金沢市扇台遺跡』金沢市教育委員会　1994）

第４次調査は第２次調査区以南の宅地を対象とする約60㎡を、平成５年６月中旬から同月末までの約半月間行い、遺跡の南縁辺を確認した。

今回は県立埋蔵文化財センターが発掘調査した第１・２・４次調査の報告を行う。

尚、遺構番号は各年度ごとに符号を行った。第１次調査では１番から、第２次調査では第１次調査との混同を避けるため2001番から、第４次調査では調査区が離れているために新たに１番から始めた。但し、調査時に符号するに際し、都合により欠番号を生じている。



第７図　扇台遺跡調査区位置図（S＝1/1,000）

扇台遺跡調査日誌（抄）

第１次調査　平成３年

5月　22日　調査区内草木伐採作業
5月25～30日　重機による表土除去作業
6月　3日　調査区土層断面精査、環境整備
6月4～5日　基準杭設定、グリッド杭設定作業
6月　6日　調査区内排水側溝掘削作業
6月7～14日　第１トレンチ遺構検出作業、土層断面精査作業
7月　1日　調査区周辺環境整備
7月2～19日　第１トレンチ遺構掘り下げ作業、第２トレンチ遺構検出・掘り下げ作業
7月22～23日　第３トレンチ遺構検出作業、第１トレンチ平面図作成
7月　24日　第１トレンチ遺構精査、第３トレンチ遺構掘り下げ作業
7月　25日　第１トレンチ清掃作業、第３トレンチ遺構掘り下げ作業
7月26・29日　第１トレンチ清掃作業・遺構完掘状況写真撮影
7月　30日　第１トレンチクレーン車による空中写真測量実施
7月　31日　第３トレンチ遺構、土層精査作業
8月　5日　第１・２・３トレンチ土層精査、第３トレンチ弥生土器出土状況図作成
8月　6日　第１トレンチ土層断面図作成、第３トレンチ弥生土器出土状況図作成
8月7～8日　第２・３トレンチ清掃作業、第１・２・３トレンチ土層断面図作成・写真撮影
8月　9日　第２・３トレンチラジコンヘリコプターによる空中写真測量実施
8月　10日　現地説明会を実施、参加者37名
8月12・13日　第３トレンチ弥生土器取り上げ作業。遺構を土嚢で充填し、ビニールシートで調査区を保護する。発掘器材整理作業
8月19・20日　川の護岸補強作業。発掘器材搬出・現地作業完了

第２次調査　平成４年

8月　12日　扇台小学校内の試掘調査を実施し、遺跡の分布範囲を確定する。
8月18～20日　道路部分重機による表土除去作業
8月　25日　第１次調査区保護シート除去作業、調査区周辺防御フェンス設置
8月　26日　基準杭設定作業、G・H－31・32区包含層掘り下げ開始
8月　27日　道路部分重機による表土除去作業。29～32区包含層掘り下げ
8月　28日　28～32区包含層掘り下げ
9月　1日　基準杭設定作業、包含層掘り下げ作業、28・29区遺構検出作業
9月　2日　29・30区遺構検出作業、G－28区弥生土器出土状況図作成・写真撮影
9月　4日　25～30区遺構検出作業、G－30～32区弥生土器出土状況写真撮影
9月　7日　23・24区遺構検出作業、扇台小学校グラウンド境防御フェンス設置
9月10～14日　道路部分重機による表土除去作業。H～K－10～16区遺構検出作業
9月17～18日　D～G－10～15区上層面遺構検出作業。G－28区弥生土器取り上げ（18日）
9月　21日　F・G－15～18区上層面遺構検出作業
9月　22日　J・K－15～19区・H～J－12～15区上層面遺構検出作業
9月24・28日　H～J－11～13区上層包含層掘削・上層面遺構検出作業
9月　29日　H～J－12～15区上層面遺構検出作業
9月　30日　排水作業。E～G－10～18区上層面遺構掘り下げ作業、H～J－11～15区遺構検出作業
10月1・2日　H～K－10～15区上層面遺構掘り下げ作業。D～G－11～18区上層面遺構平面図作成
10月　5日　E～G－9～18区下層面まで重機による掘削作業。H～K－9～14区上層面遺構完掘・写真撮影
10月　6日　J・K－9～14区下層面まで重機による掘削作業。E・G－10～18区下層面まで掘削
10月　8日　扇台小学校５年生約100名による体験発掘実施。D～G－10～15区下層面まで掘削。H・I－12～15区上層面遺構平面図作成
10月　13日　扇台小学校６年生約120名による体験発掘実施。
10月　14日　扇台小学校４年生約100名による体験発掘実施。
10月　16日　G～I－13～15区下層面まで掘削
10月　20日　G～J－14区下層面遺構検出作業
10月　22日　G～J－9～14区下層面遺構完掘、G－32区弥生土器取り上げ
10月　23日　D～F－9～18区下層面遺構完掘、J－11～15区下層面遺構掘り下げ作業
10月27・28日　清掃作業、空中写真測量準備
10月　29日　ヘリコプターによる空中写真測量実施、報道機関に対する資料提供現地説明会実施
10月　31日　現地説明会実施、参加者約120名
11月2～5日　調査区東・北壁土層分層作業、同土層断面図作成
11月　6日　発掘器材搬出
11月　9日　現地事務所（プレハブ）解体立会い・防御フェンス設置状況確認、現地作業完了

第４次調査　平成５年

6月　14日　西側調査区表土除去作業
6月　15日　グリッド杭設定作業
6月　16日　調査区内排水側溝掘削作業、土層断面精査、包含層掘削作業
6月　17日　東側調査区表土除去作業、包含層掘削作業
6月21・22日　遺構掘り下げ作業
6月23～25日　土層断面図、遺構平面図作成、現地作業完了

ゆめをはこぶ パートⅣ
扇台小 4-1 1992年度
30号 1992.10.15
扇台遺跡発掘教室
見つけもんだ!!
楽しかった!
1992年10月14日 氏名 山田弘史
(感想)
いせきほりをしました。ぼくはいせきほりを見たことはあるけどほったことはありませんでしたがだけどぼくのお母さんがやっていました。せつめいの時はかんたんでおもしろいと思っていました。そしてくはみたいなものでちょうめんをけずってみました。するとち面にうすいくろやあかいしろの土がでてきれたのようにかべを見るといろがはっきり見えていました。できを見にいくとたくさんありました。とくにおどろいたのはつぼみたいなものがわれたのになってきれいにはいをもしあたいてです。ひょう面をほっているとなにか石がでてきてこれはなんですかときくとたのセやと言ったのでざんねんでした。けっきょく器はみつからなかったけどたのしかったです。ぼくは昔のくらしがいいと思いました。つぼや家やそうこなどを昔のくらしをなにもないのたよく家やそうこをつくったなあと思います。だけどこんなものを見つける人もすごいと思いました。
(ぎもん)
1.昔の子どもはまい日どんなことをしていたのな
よそうは大人のかりのやりかたを見てれんしゅうをしていたと思いはる
2.昔はどんなものを食べていたのな。
よそうは木のみやかりでてったどうぶつとかをたべていたと思います。
続く

1992年10月14日 氏名 佐子田裕子
(感想) わたしはいせきをほったことが一度もなかったのでおもしろそうだなぁと思ってやってみました。そしたら色がいろいろあってちがう場所がたくさんありました。ちょっとぬれているような運動場の土みたいな所が昔・(弥生時代)の地面だったと思います。ほる時には畑とちがってなめらかにけずっていかないとためだからかんたんそうに見えてもりっこうむずかしいんだなと思いました。わたしはいせき発くつの仕事をするのはおもしろかったのでずっとやりたいなと思うことがあるけれど5年ぐらい以上もこ業を続けてしている人はこの仕事がいやになってめんどくさくなって田んぼの仕事をしている人のようにどんどんやめていく人が99くなってこういう発くつの仕事をしている人が少ないんだと思います。土きのかけらを見つけたのでもっともっと石、お皿などが見つかったら楽しくなるしきょう味がわいてくるのでまたやりたいです。

扇台小 4年1組 学級物語
ゆめをはこぶ パート4
33号 '92・11・17
学校やめてはっくつ調さしたい!ほど楽しかったまたやりたい〜い
1992年10月14日 氏名 竹田伸織
1時間目クッキー作りのことから考えました。それから、野尻湖のリゾのことも考えました。私は考えただけで「ふやとるかなー」と思って楽しみにしていました。私のお母さんは埋蔵文化センターで働かれているのではっくつ調さのことはわかりました。でもじっさいにほりをしてもらったことはないのでうれしくて楽しみにしてました。そして、もし、本物の「土器」がでてきたら…?と思いました。そして、その日くもっていたので、今日ないんじゃないかなと思いました。そして学校に行ったらありました。はっくつ調さの所に行きました。いたらまず気がついたことは、やはり、土の色がちがうなぁと思いました。やよい、平安、かまくら、むろまち、戦国、あづちもも山、江戸、明治、大正、昭和とずーっとちがいました。どうして同じ時代だと同じ色で決まっているのか聞きました。そして、所、所にあながほってありました。それが、高かそうこの柱でした。ということがわかりました。せつめいをしてもらっているよいよ、ほってみました。始め、横川さんとやろうといっていたけど、先生が4人に1つといったので、山本さんと、宮本さんとやりました。私がやると、ずっとくボコボコになるので、へたと思っていたらはっくつちがうのよねんさんが、ねかせてやったらとれるよといったのでねかせてやるといいのになりました。そしてほっていると、横川さんが「これいぶつじゃない」といったのでどりかしてみてみると、黒い石のようでした。「ヤッタ〜〜」ついに発見した。私、考古学者になれるかもしれないなと思った。わくわくしながらほっていると、先生がきたからふでやといたら、くわみたいな物をもって、いきなりそのかけらをとり出した。私たちは、どんな物がでてくるか楽しみながらほっていた。先生が「歯や」といったので、なーんだと思ったけど10:00午前の歯なんてすごいと思います。私はこんどから学校やめて、はっくつ調さしたい!と思ったほど楽しかった。またやりたい〜いです。

101〜124ページは「ゆめ」と「ヨシ」のとび移せません
こんなくらしをしていた大地にたったんだぞ!

第２節　調査の概要

１　遺跡の立地（第７図）

扇台遺跡は金沢市馬替１丁目地内、手取扇状地扇央東部の富樫用水系の分流「高橋川」の右岸に位置し、標高25m辺りを中心とした微高地上に立地する。現況は水田・宅地・道路・扇台小学校地である。

この高橋川流域は富樫山地の山麓地形で、東は山地へ傾斜を急にし、西へ微高地形であるため、極めて浅い谷状の平野となっている。

また調査により検出された旧地形は標高23.5mを中心とする微高地形をなし、南端部分（25～30区）にて東西に走る小鞍部を検出している。

２　調査区の設定（第７・９図）

第１次調査は十字に交差する道路を境として、西側を第１トレンチ、東側北区を第２トレンチ、その南区を第３トレンチとした。

区画割はＣ－20区杭を基点とし、南北を基本軸として、４m四方のグリッドを設定した。北→南をアラビア数字、西→東をアルファベットで表記し、北西隅の杭をグリッド名とした。

第２次調査は分断する道路及び校地等の調査のため、第１次調査時に続けて調査区割を設定した。

第４次調査は第２次調査を踏襲し、Ｆ－45区杭を基準として調査区割を設定した。

３　地層（第10・11・12・13図）

本遺跡の地層の基本的把握は調査区の東壁にて行い、第１次調査時の土層確認を基に、第２・４次調査時においてもこれを基本として総合的に判断した。

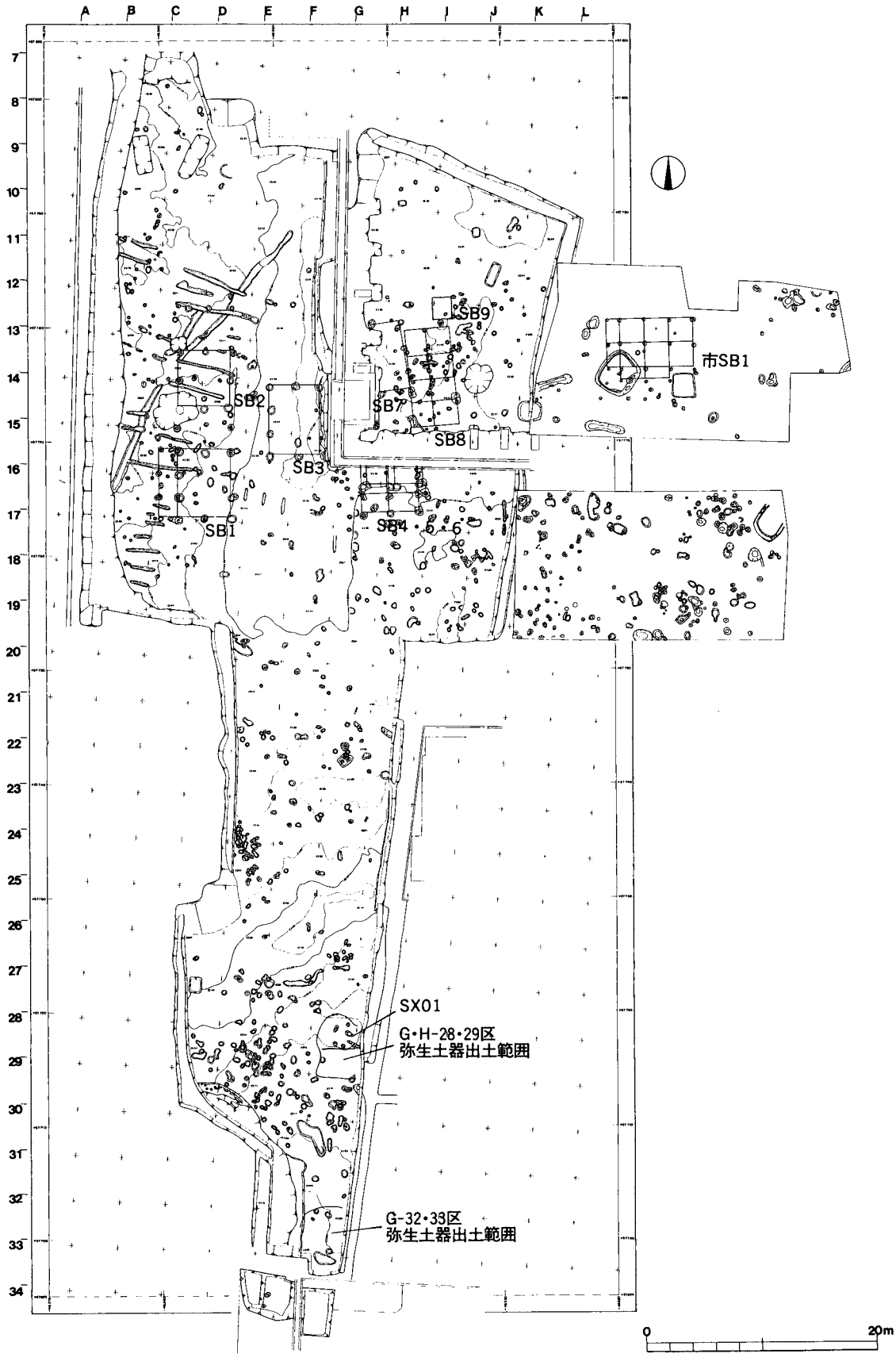
基本土層としては、以下の第１～12層を確認した。第１層盛土、第２・３層耕土、第４層床土で、第５層は灰色系シルト質土層で、中世の遺構覆土に相当すると思われる。

第６層は５層より暗めの質感を呈する黒褐～黄褐色シルト質土、第７層は褐灰色ないし黒褐色を呈するシルト質土で、第８層は黒褐色シルト質土である。

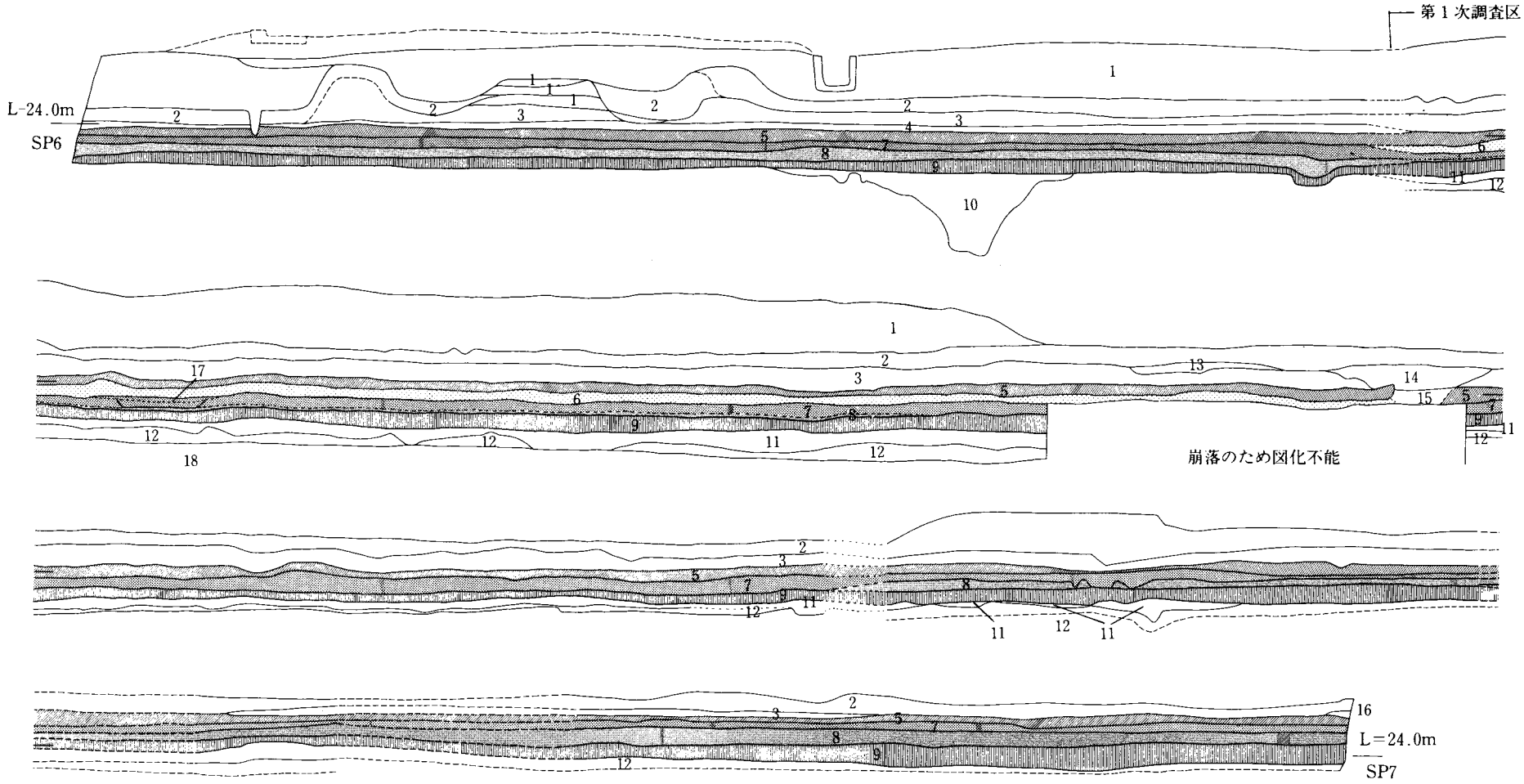
この第６・７・８層は平安時代の遺物を含む包含層で、第６層が古代第１層、第７層が古代第２層、第８層が古代第３層に分層されるが、地点によっては古代１層の６層と古代第３層の８層の堆積が摑めないところもある。但し、調査段階では、古代第１層と第２層を上層とし、古代第３層及び次の第９層弥生層を下層とする２分層位として扱った。

第９層は黒色シルト質土で、弥生時代終末期の遺物包含層である。層位的には調査区のほぼ全域で捉らえられるが、その遺物包含頻度は地形的制約を受けるものとみられ、比較的微高地においてその割合が高い。第10層は淡黒色シルト質土で遺構の覆土に相当すると思われるが、当断面のものは風倒木痕の可能性が高い。第11層は淡黒褐色シルト質土で第12層の地山土への漸移層にあたる。第12層は地山にあたる黄灰色シルト質土である。

尚、調査区北西端の一部では第12層の下層にあたる礫層が露呈している。



第9図　扇台遺跡調査区・グリッド図（S＝1/500）



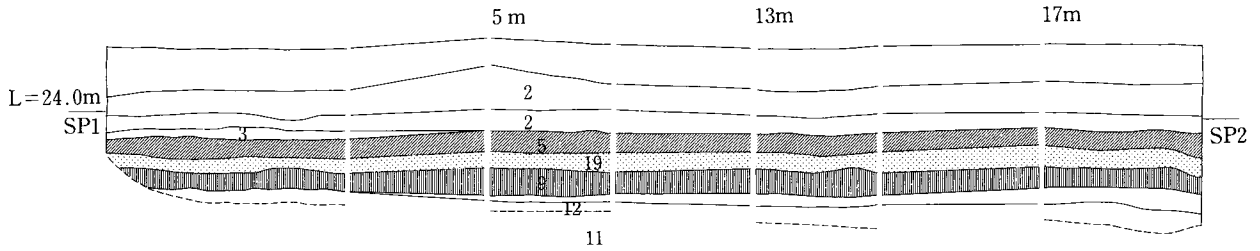
中　世　層
古代第１層
古代第２層
古代第３層
弥　生　層

1．盛土
2．耕土
3．床土オリーブ黄細砂(鉄分が多いため灰色が黄色に見える)
4．明灰褐砂
5．灰色シルト質土(鉄分含む)
6．黒褐～黄褐色シルト質土
7．暗灰色シルト質土
8．暗褐色シルト質土
9．黒色シルト質土(若干の鉄分含む)
10．淡黒色シルト質土

中　世　層
古代第１層
古代第２層
古代第３層
弥　生　層

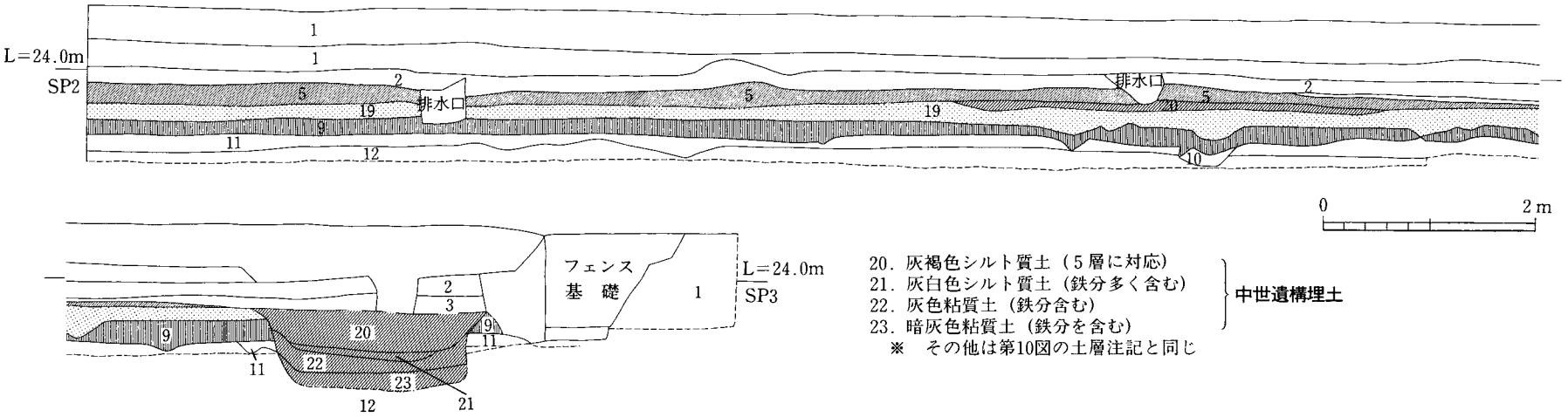
11．淡黒褐色シルト質土（漸移層）
12．黄灰色シルト質土（地山）
13．黄褐色砂（鉄分と0.5～１cm程度の礫混じる）
14．灰色粗砂（鉄分と１～５cm程度の礫混じる）＝用水路
15．５＋14層
16．２＋３層
17．６＋７層
18．黒褐色極細砂（鉄分、地山、９層が撹乱している）

第10図　扇台遺跡Ｈ－19～33区東壁土層断面図（Ｓ＝1/60）



19. 黒褐色シルト質土（6＋7層）
※　その他は第10図の土層注記と同じ

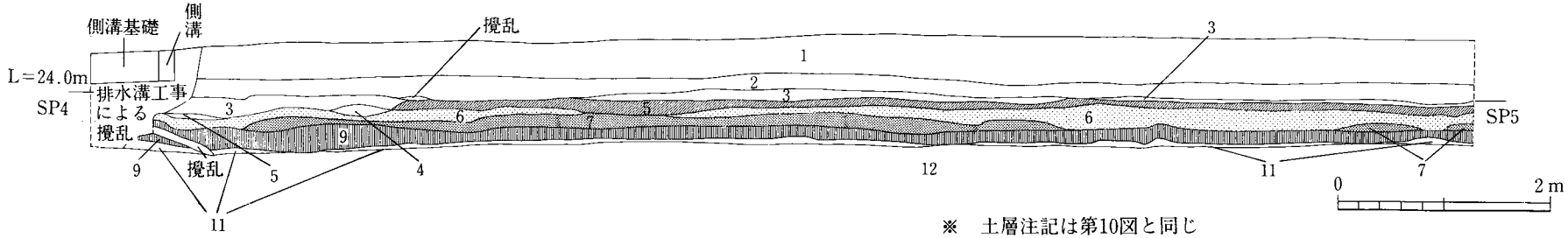
第11図　扇台遺跡Ｇ～Ｋ－８区北壁土層断面図（Ｓ＝1/60）



20. 灰褐色シルト質土（５層に対応）
21. 灰白色シルト質土（鉄分多く含む）
22. 灰色粘質土（鉄分含む）
23. 暗灰色粘質土（鉄分を含む）
※　その他は第10図の土層注記と同じ

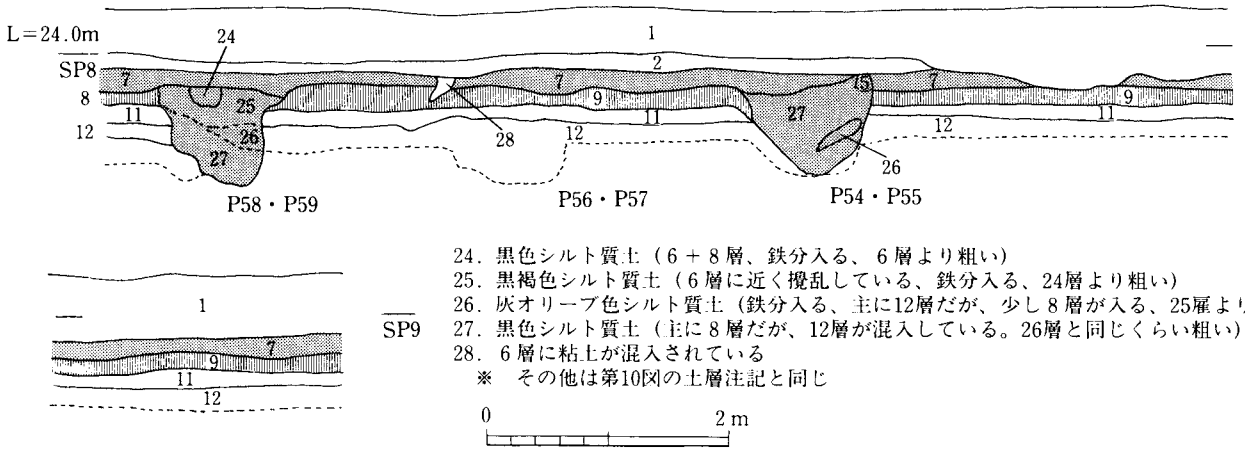
中世遺構埋土

第12図　扇台遺跡Ｋ－８～15区東壁土層断面図（Ｓ＝1/60）

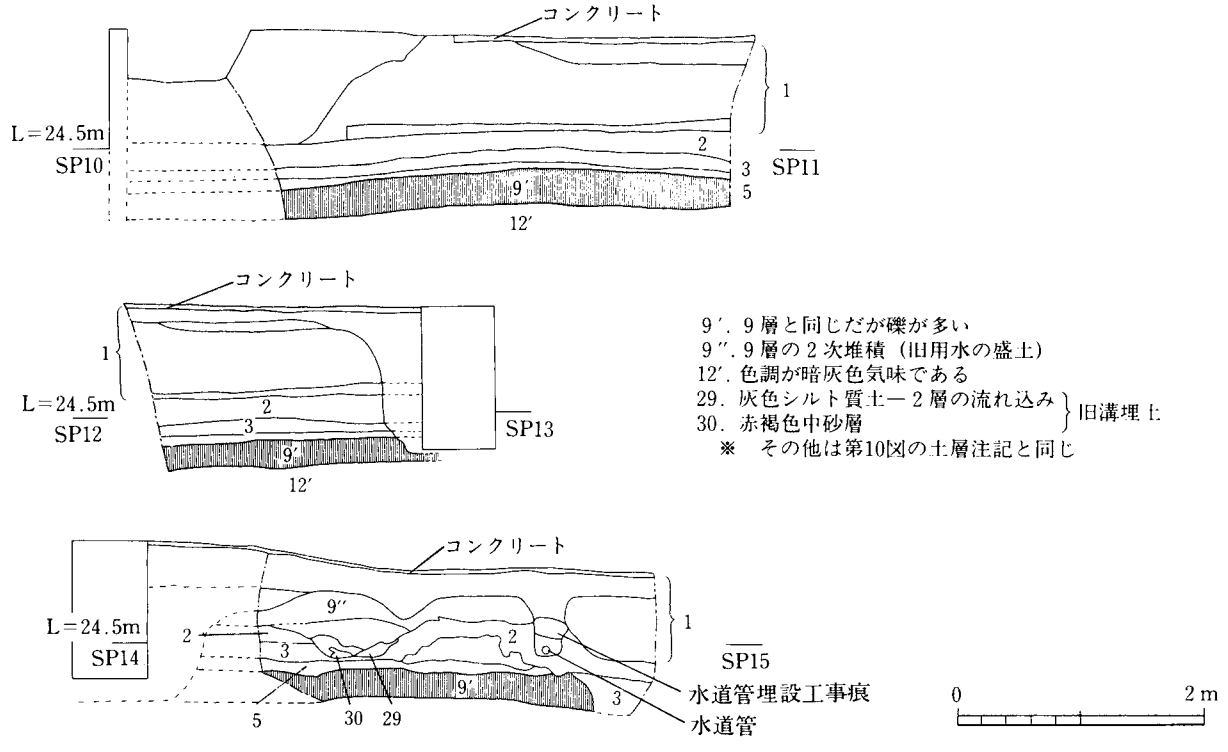


※　土層注記は第10図と同じ

第13図　扇台遺跡Ｊ－15～19区東壁土層断面図（Ｓ＝1/60）



第14図　扇台遺跡Ｇ～Ｋ－15区北壁土層断面図（Ｓ＝1/60）



第15図　扇台遺跡第４次調査区土層断面（Ｓ＝1/60）

第3節　遺　構

本調査で確認された時期は縄文時代から中世に至るが、縄文時代は明確な遺構を伴うものではなく、地山面において散発的に遺物の出土をみたにとどまる。次の弥生時代から中世に至る遺構は、上層と下層の2面の検出面により確認された。

上層面は中世から古代の遺構検出面にあたり、各々、中世層（第5層灰色シルト質土）及び古代第1層（第6層黒褐～黄褐色シルト質土)・古代第2層（第7層褐灰色シルト質土）を遺構覆土とし、古代第3層（第8層黒褐色シルト質土）と弥生層（第9層黒色シルト質土）をベース土とする。但し、中世の遺構は古代第1層を切込んで認められるため、本来の遺構ベース面は古代第1層以上になる。

下層面は古代から弥生時代の遺構検出面にあたり、古代第3層と弥生層を遺構覆土とし、第12層黄灰色シルト質土をベース土とするものである。

1　第1・2次調査区

(1)　弥生時代の遺構　**下層面**

弥生時代の明確な遺構は検出されなかったが、G・H―27・28区、G―32・33区において、弥生時代終末期の土器の集中出土が認められた他、鞍部地形を検出した。

弥生土器集中出土地区

出土層は第9層黒色シルト質土である。

【G・H―28・29区、SX01】(第16図・第32図～第37図79)

南北5m、東西3mの範囲での出土が認められるが、特に28区のSX01（第1次調査区）の東西約3mにおいては集中している。

【G―32・33区】(第17図・第37図80～第39図101)

北東―南東に幅2.5m程度で、帯状にまとまりをもって出土した。

鞍部地形（第26図）

23～29区にて検出された北東―南西に走る凹み状地で調査区外に延びていく。上端幅は10m、深さは約0.2mを測り、自然地形とみられる。

南端部では小ピット群を検出しているが、建物を想定し得るようなしっかりとした柱穴は認められなかった。これらは、微高地縁から低地部にあたり、また、凹み地の肩淵にあたるため、自然植生の根痕跡にあたると思われる。

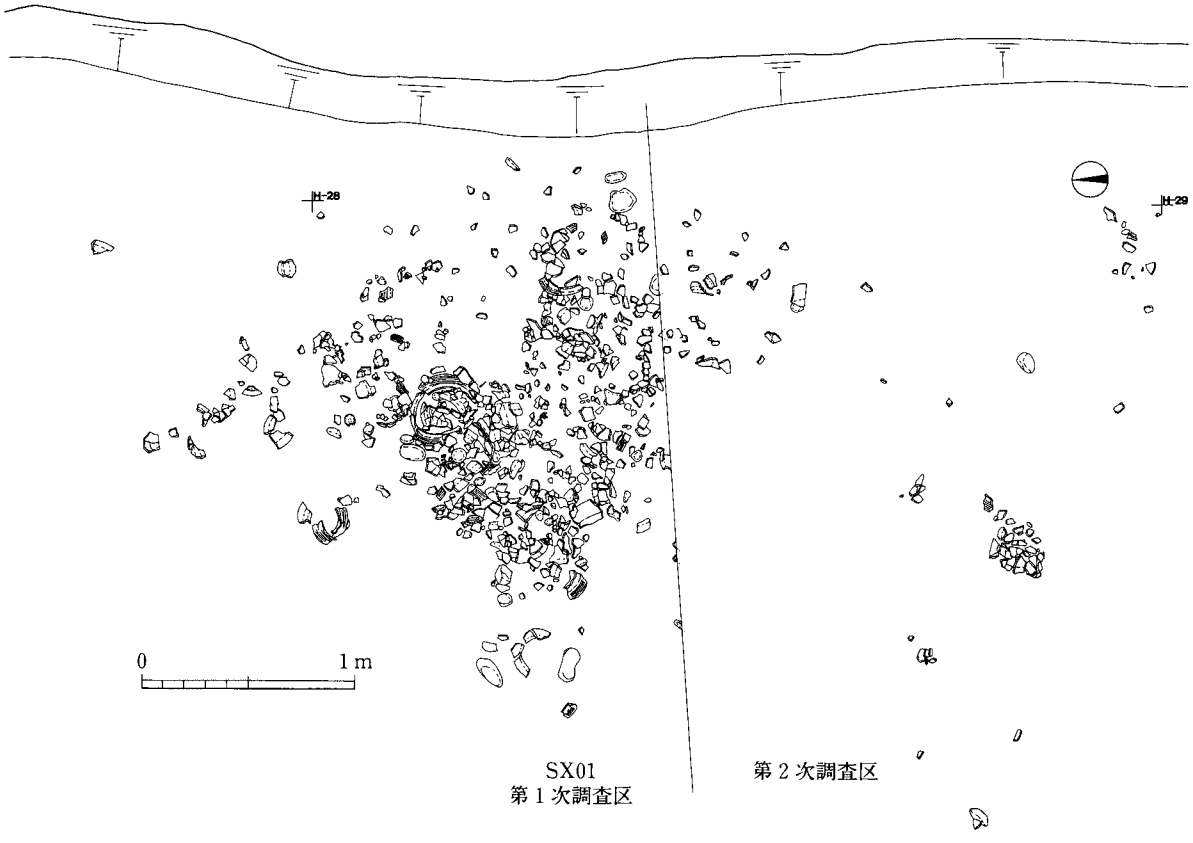
(2)　古代の遺構

当該期の遺構は遺構覆土の違いから古代第1～3層の3層を確認しており、新しい順に古代第1層を古代第3期、古代第2層を古代第2期、古代第3層を古代第1期とし報告していく。

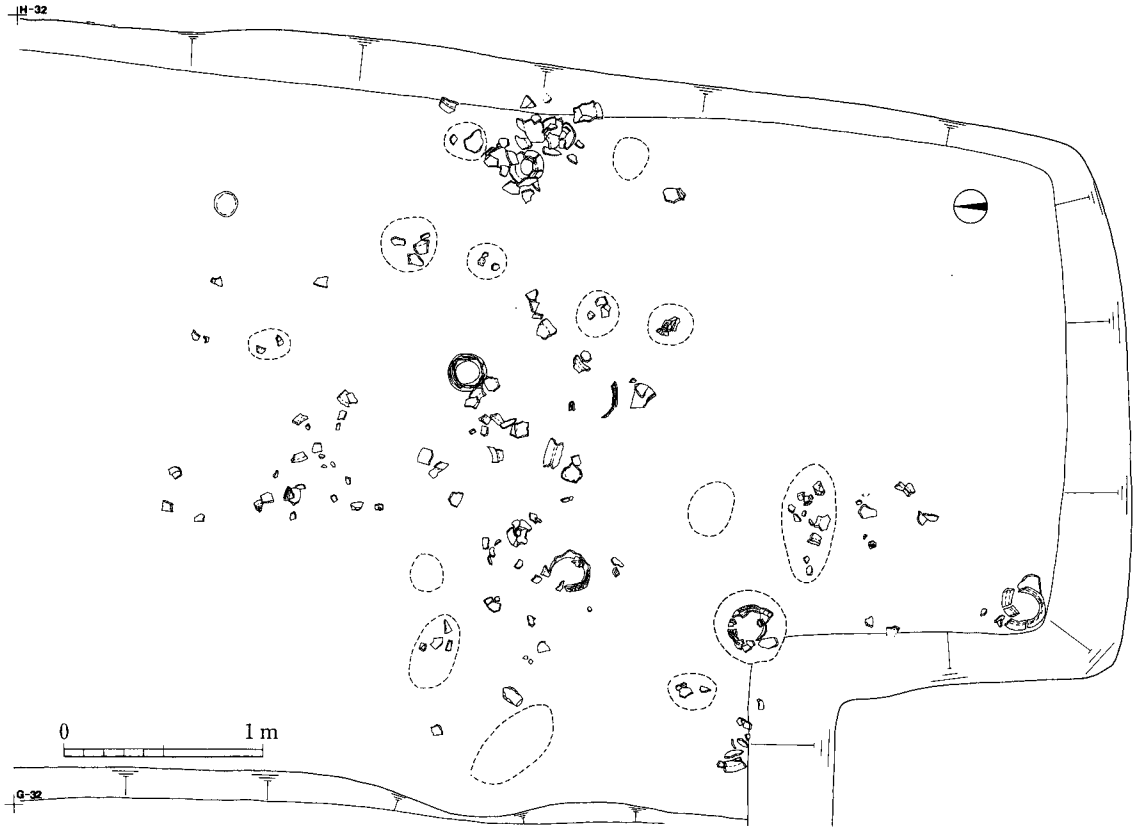
1　古代第1期　下層面

畝溝状遺構（第18図）

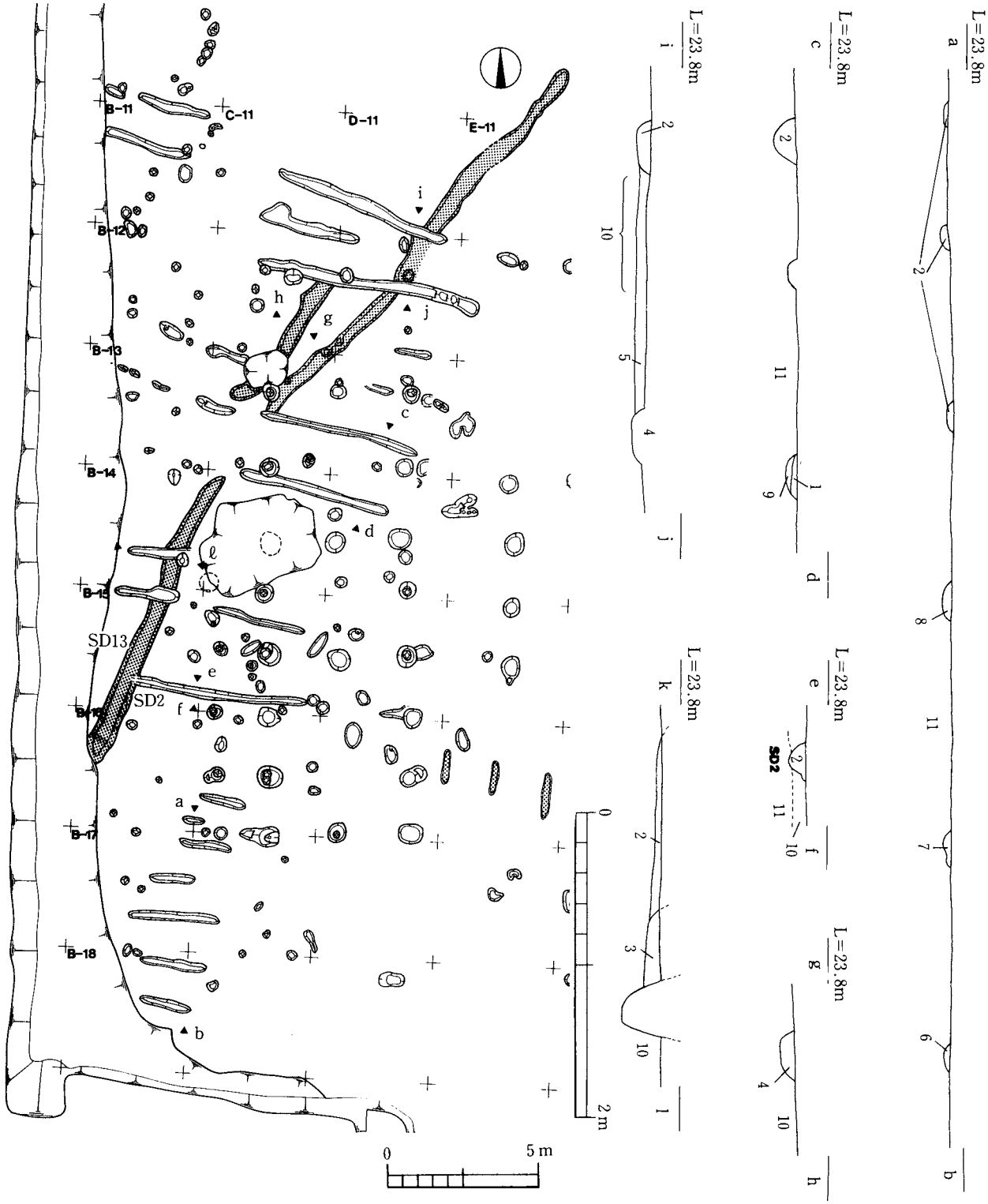
B～E―10～18区にて検出。南北に走る溝群（SD1・13等）と、それらを切り東西に走る溝群と、ほぼ真北に軸をとるものが数条認められ、およそ3時期を確認できる。但し、真北に軸をとる溝群は古代第2期の建物群と方位軸を同じにすることから、この時期の建物群に付随するものと想定される。



第16図　扇台遺跡Ｇ・Ｈ―27・28区SX01、Ｇ・Ｈ―28・29区弥生土器出土状況図（Ｓ＝1/40）



第17図　扇台遺跡Ｇ―32・33区弥生土器出土状況図（Ｓ＝1/40）



1．淡黒灰色シルト質細砂
2．1層に地山土11層が混じる
3．2層であるがやや黒い
4．2層であるが、茶褐色に近い
5．4層より淡い
6．茶褐色中砂
7．6層に地山土11層が混じる
8．7層に黒色シルト質土が混じる
9．灰色シルト質細砂＋地山土11層
10．濁黄褐色シルト質砂（粗砂粒含む）
11．10層より明るくきれい
} 地山土

第18図　扇台遺跡Ｂ～Ｅ－10～18区畝溝状遺構平面図（Ｓ＝1/200）・断面図（Ｓ＝1/40）

２　古代第２期　上層面

掘立柱建物

【SB1】（第19・41図）

C・D－15～17区にて検出された３間×２間に庇が１間付く掘立柱建物である。規模は身舎部分が桁行6.05(1.95＋2.05＋2.05)m×梁行4.6(2.35＋2.25)m、庇部分が桁行6.05×梁行1.5mである。面積は身舎部分で27.83㎡、庇部分で9.075㎡を測る。主軸方向はほぼ真北である。柱穴の形状は身舎部が径0.7m程度の不整円形、庇部は径0.4m程度の円形を呈する。覆土は褐灰～黒色のシルト質土で、身舎部柱穴Ｐ－10から土師器内面黒色碗（２）・甕（４・６）、須恵器碗（３）・甕（５）が、庇部柱穴Ｐ－３から土師器甕（７）、Ｐ－５より土師器内面黒色椀（１）が出土した。

【SB2】（第20・42図）

C・D－13・14区にて検出され、SB１の北側約３mに位置する。２間×２間の掘立柱建物。規模は５(2.5＋2.5)m×4.65(2.4＋2.25)mで、面積は23.25㎡を測る。主軸方向はほぼ真北を向く。柱穴の形状は径0.5m程度の不整円形を呈し、覆土はSB１と同様である。柱穴からの出土遺物はＰ－39より土師器内面黒色碗（３）・甕（４・５）、須恵器蓋（１）・甕（２）、Ｐ－45より土師器碗（６）・須恵器盤底部（７）、Ｐ－46より須恵器盤（９）、Ｐ－56より土師器碗（８）である。

【SB3】（第20・43図）

E・F－14・15区にて検出された３間×２間の掘立柱建物である。規模は桁行6.15(2.1＋2.05＋2)m、梁行は4.4(2.2＋2.2)mで、面積は27.06㎡を測る。主軸方向はほぼ真北を向く。柱穴の形状は径0.7m程度の不整円形を呈し、覆土はSB１と同様である。遺物はＰ--2009より須恵器坏（１）が出土している。

【SB4・5・6】（第21図）

G・H－15・16区にて検出された２間×２間の総柱掘立建物で３度の建替えが認められるが、切り合い関係は確認できず不明である。また、北側が排水溝埋設工事により壊されているため全容は把握できなかった。柱穴の形状は径0.6m程度の不整円形を呈し、覆土はSB１と同様である。

SB４は桁行５(2.6＋2.4)m、梁行2.4m以上を測る。SB５は桁行4.8(2.6＋2.2)mで梁行は不明である。SB６は桁行4.85(2.4＋2.45)m、桁行は不明である。各建物は主軸方向は違えずほぼ真北を向く。

出土遺物はSB５柱穴Ｐ－51より土師器内面黒色碗（４）、Ｐ－53より土師器内面黒色碗（２）・甕（３）である。

【SB7】（第22・43図）

G・H－12～14区にて検出された３間×１間以上の掘立柱建物で、規模は桁行6.2(1.75＋2.15＋2.3)m、梁行2.65m以上である。面積は16.43㎡以上を測り、主軸方向はＮ６°Ｗである。柱穴の形状は径0.5m程度の不整円形を呈し、覆土はSB１と同様である。遺物は柱穴Ｐ－2047より土師器甕（５）が出土している。

溝状遺構

【SD2004】（第25図）

Ｅ－19区の西端にて検出された北西－南東に走る上端幅約１m、下端幅約0.8m、深さ約0.1mの溝である。

３　古代第３期　上層面

掘立柱建物

【SB8】（第22・43図）

H・Ｉ－12～14区にて検出された。４間×２間の総柱掘立建物で、規模は桁行9.25(2.4＋2.4＋2.2＋2.25)m、桁行４(２＋２)mを測り、面積は37㎡である。柱穴の形状は径約0.3mの円形を呈し、覆土は黄濁～黄色のシルト質土である。主軸方向はＮ10°Ｗである。遺物は土師器内面黒色碗（７）の出土をみた。

【SB9】（第21図）

H・Ⅰ－11・12区にて検出された１間×１間の掘立柱建物である。桁行は1.75m、梁行は1.7mで面積は2.975㎡を測る。柱穴の形状は径約0.3mの円形を呈し、覆土はSB８と同じである。主軸方向はＮ５°Ｗである。

溝状遺構（第23・43図）

【SD2002】

H－13・14区にて検出され、SB８に切られている。最大上端幅1.5mを測り、南北に約5.4mの流路をとっている。覆土は暗灰褐色シルト質土である。遺物は土師器内面黒色外面赤彩碗（６）と内面黒色碗（８）が出土した。

【SD2003】

H－13・14区にて検出された。最大上幅0.5mを測り、SD2002と平行する。

(3)　中世の遺構　**上層面**

中世とする遺物を伴う確実な遺構は把握しきれなかったが、調査区土層断面や遺構覆土の対応関係により、K－13・14区の市教委調査区との境にて、溝状遺構１条と土坑１基を検出した。

溝状遺構（第12図）

K－13区にて検出。調査区東壁土層断面においてしか確認できなかったが、上端幅４m程度のものを想定できる。

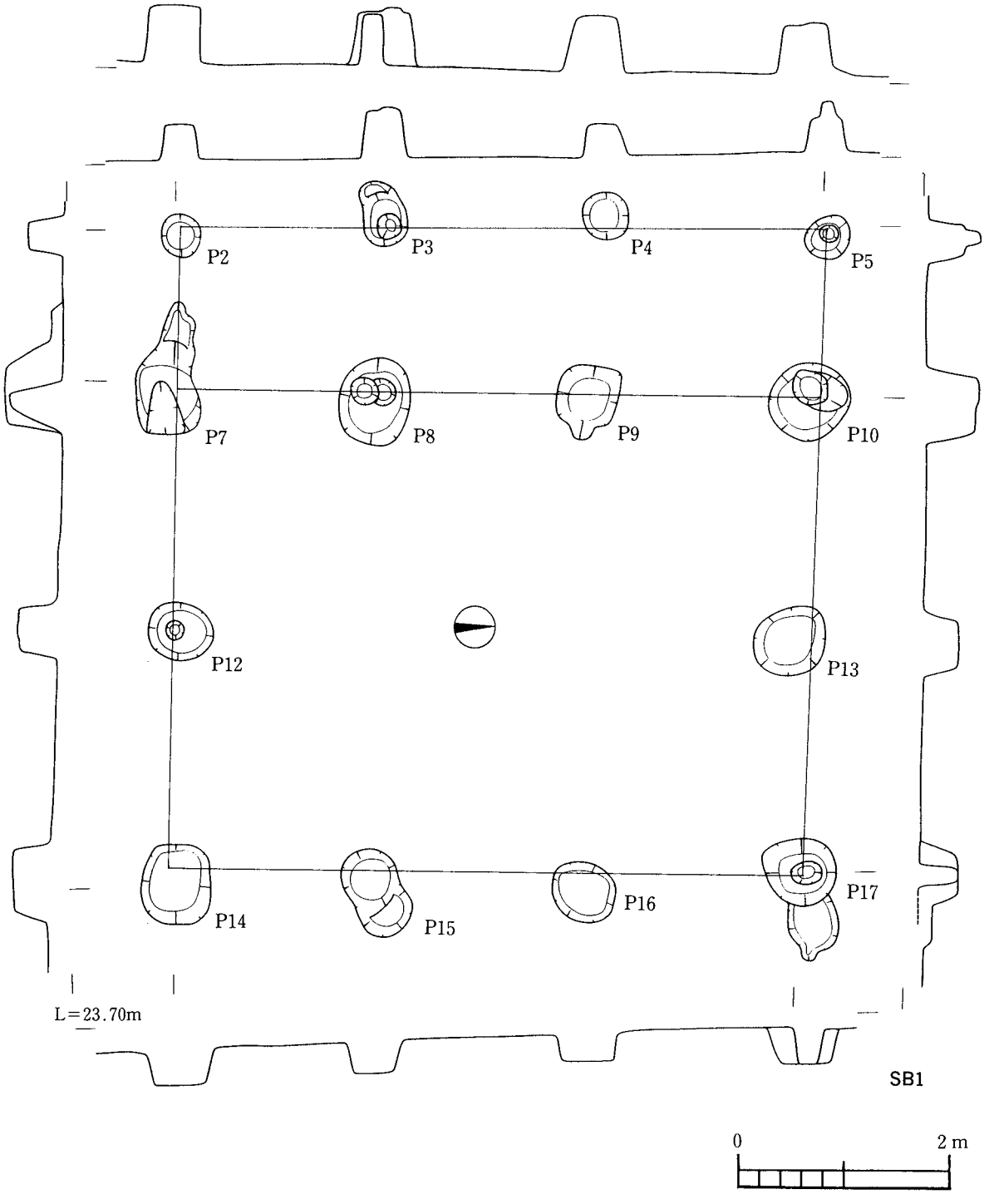
土坑（第25図）

【SK2001】

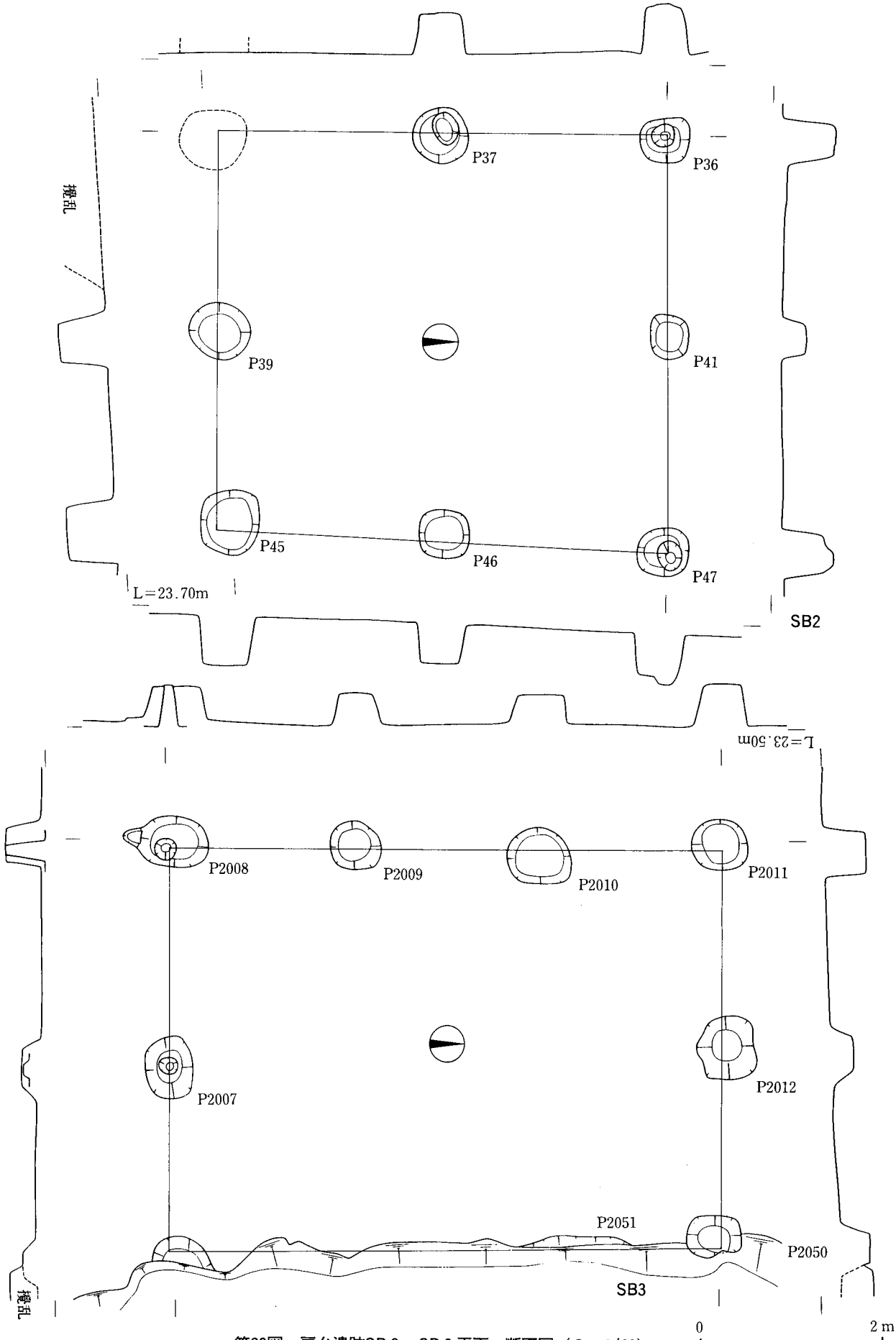
K－14区にて検出。調査区東壁際にて西半分が検出され、東側の市教委調査Ｂ区にて残りの東半分が検出された。辺２×1.9m、深さ0.4～0.5mを測る略正方形の土坑である。覆土は第21層以下の灰色系シルト質土である。

２　第４次調査区

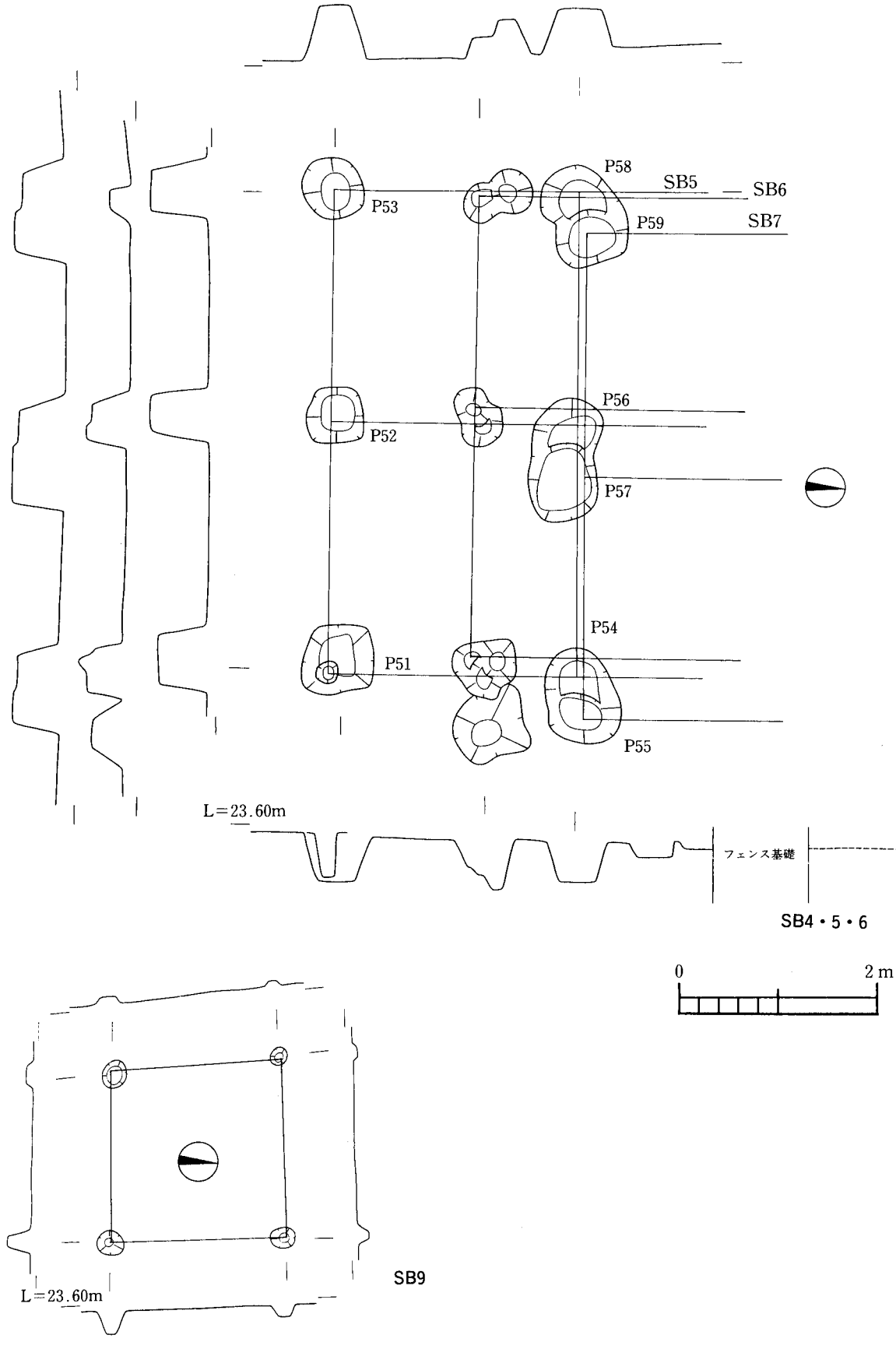
第２次調査区の南端部Ｇ－32・33区にて弥生土器の集中出土をみたが、その延びは当調査区には及ばなく、33区内の範囲で納まると思われる。また、第４次調査区は検出された遺構・遺物とも希薄で遺跡の縁辺部に相当するものと思われる。



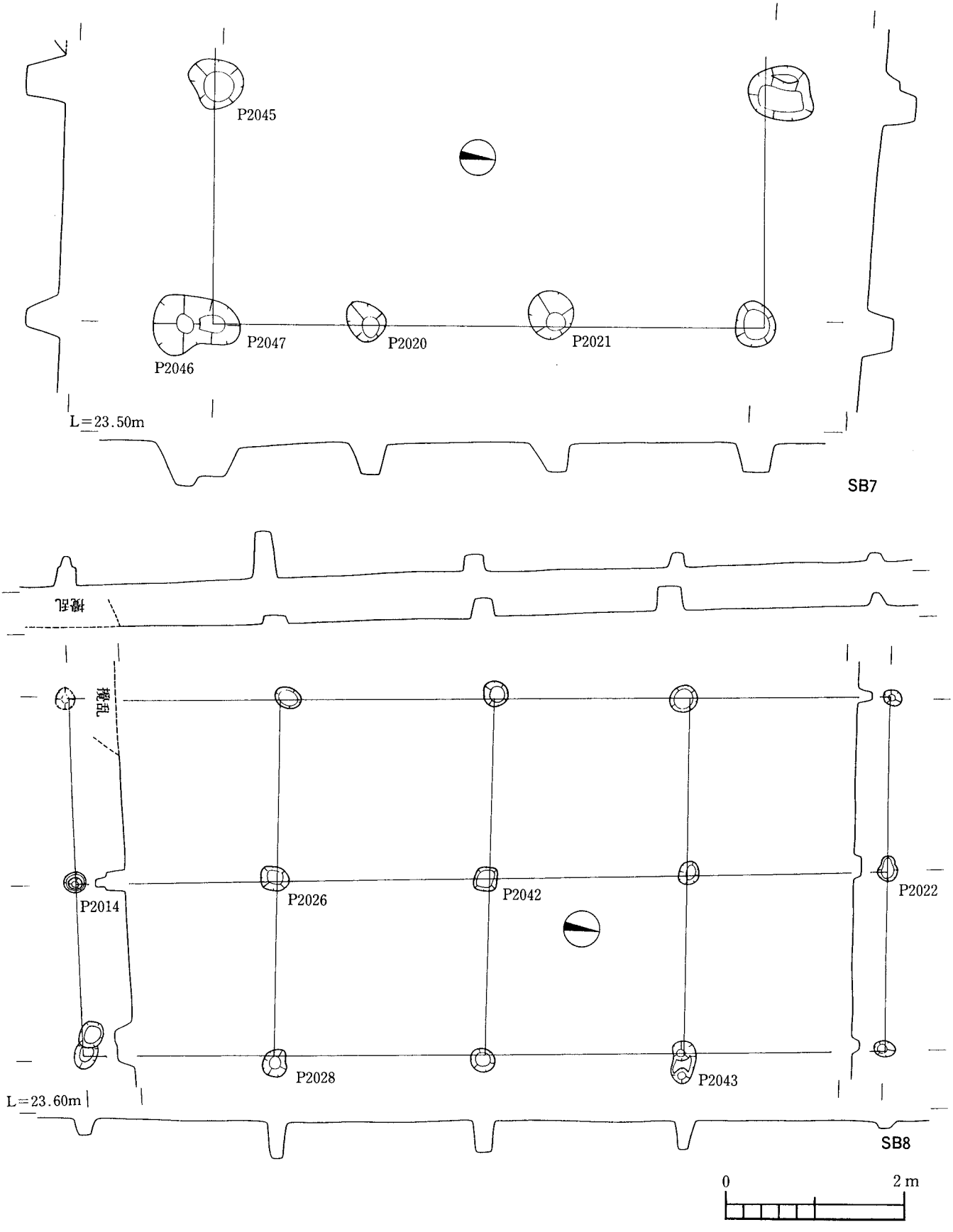
第19図　扇台遺跡SB1平面・断面図（Ｓ＝1/60）



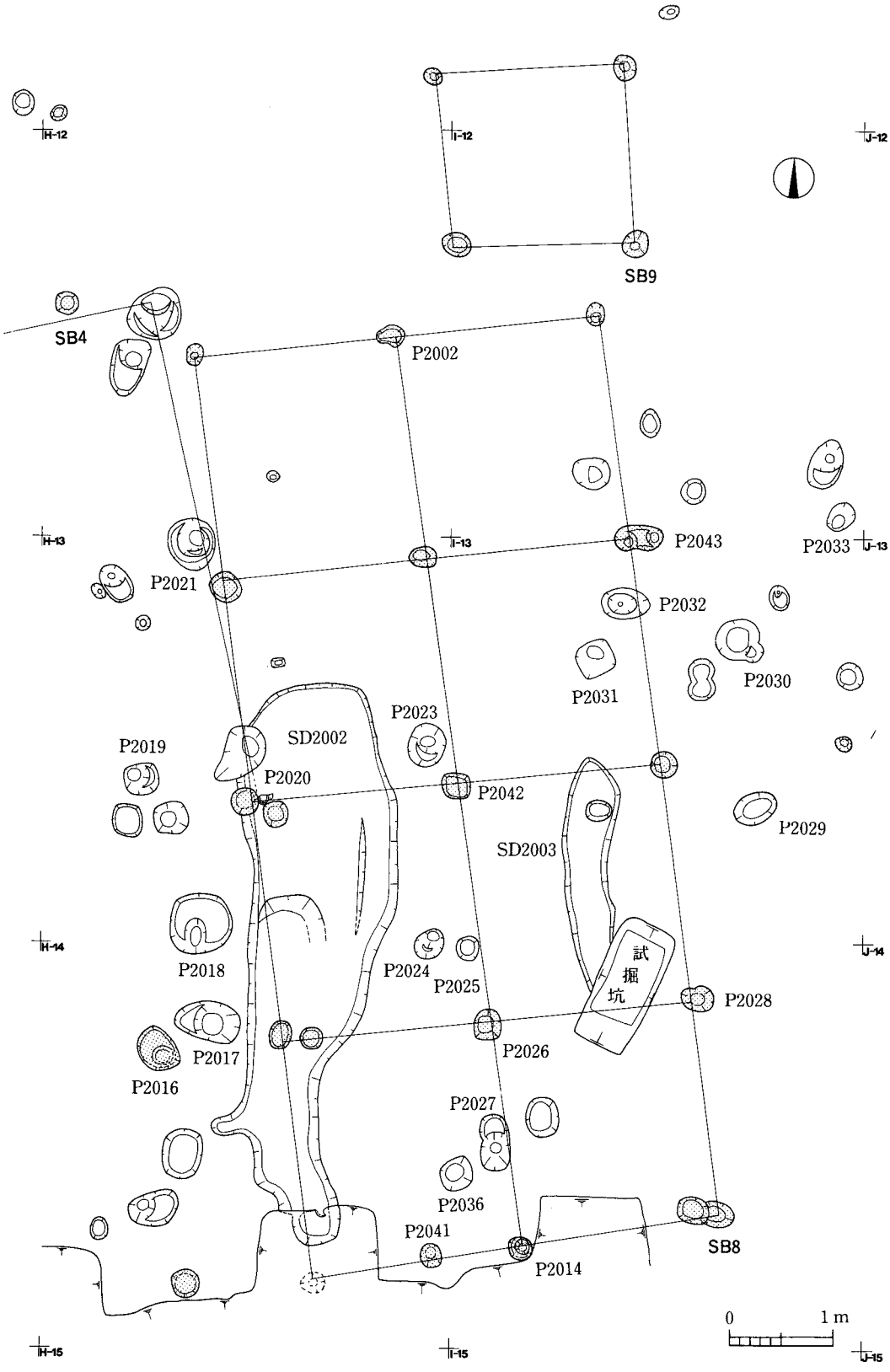
第20図　扇台遺跡SB２、SB３平面・断面図（S＝1/60）



第21図　扇台遺跡SB４・５・６、SB９平面・断面図（S＝1/60）

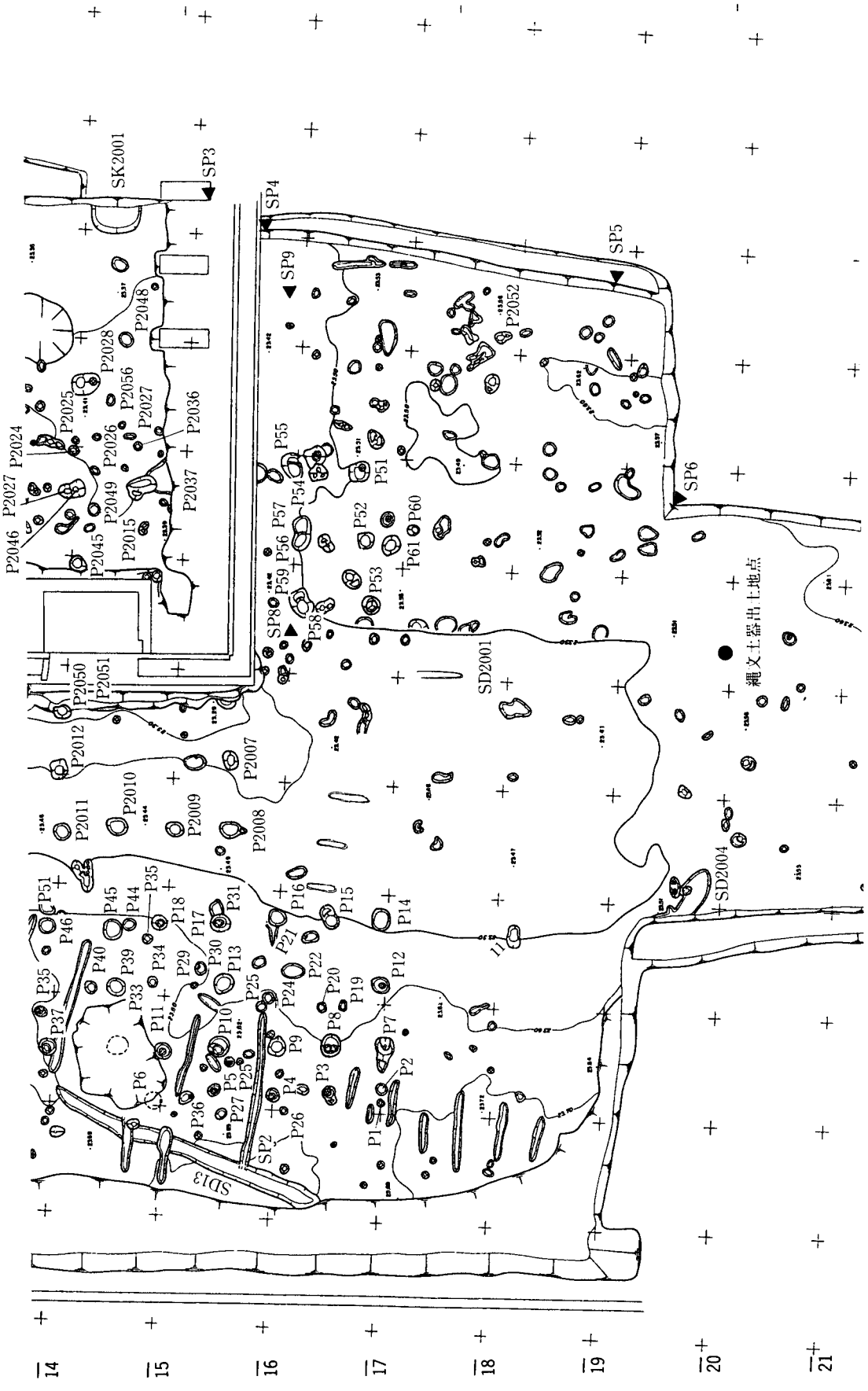


第22図　扇台遺跡SB７、SB８平面・断面図（S＝1/60）

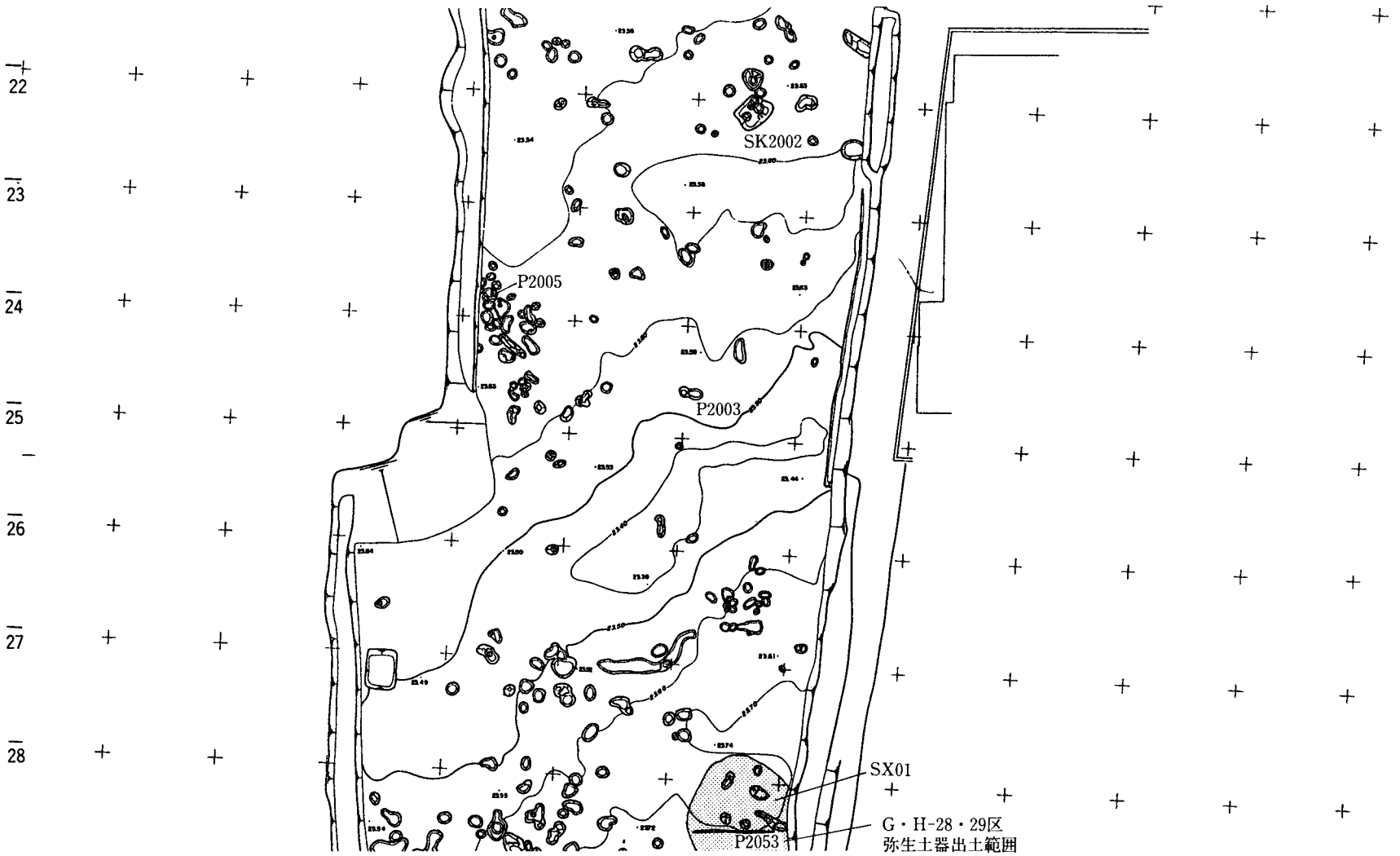


第23図　扇台遺跡Ｈ～Ｊ－11～14区　古代第3期遺構、SD2002・2003平面図（Ｓ＝1/60）

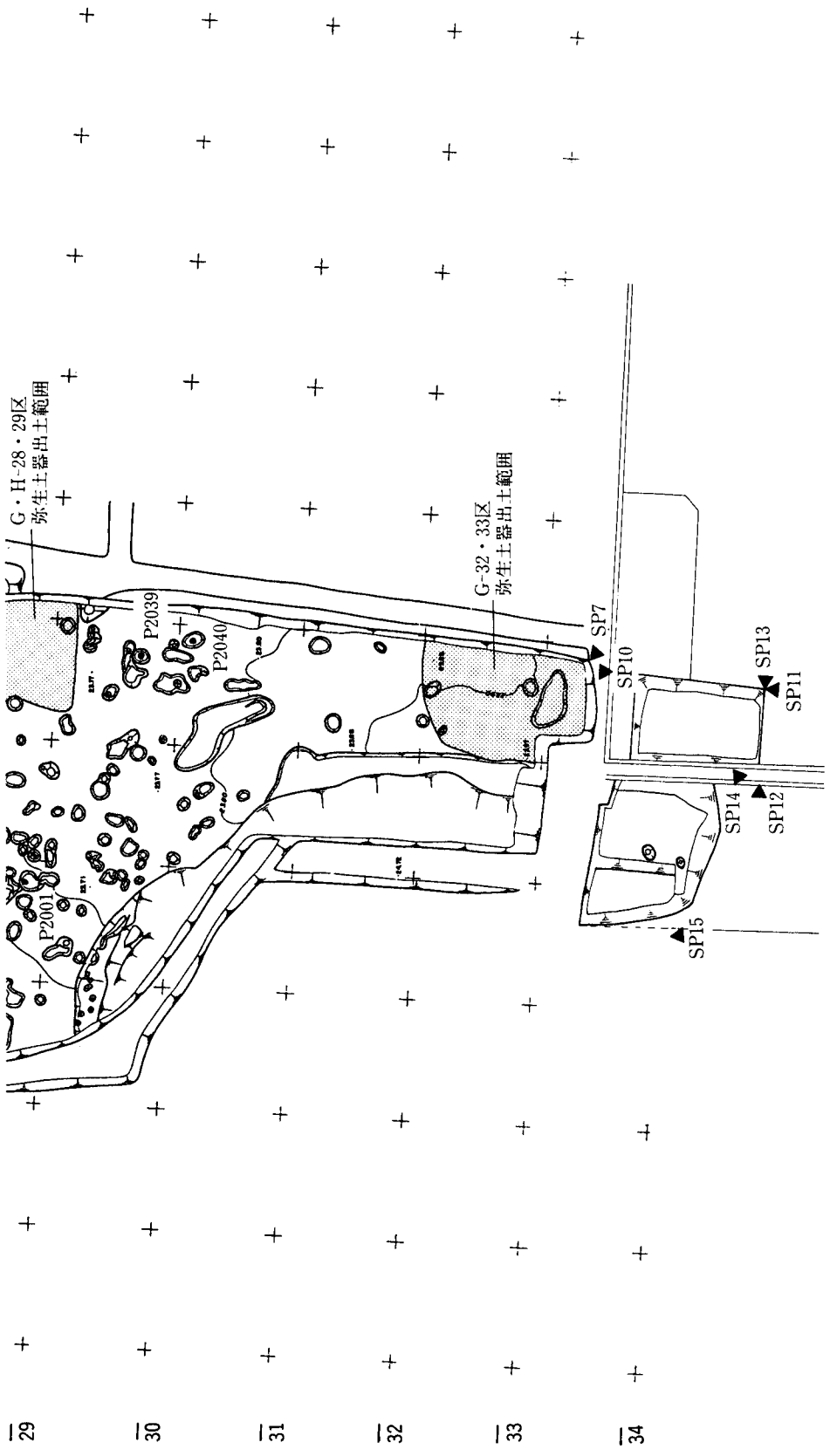
第24図　扇台遺跡第１・２・４次調査区遺構平面図その１（S＝1/200）



第25図　扇台遺跡第１・２・４次調査区遺構平面図その２（S＝1/200）



第26図　扇台遺跡第１・２・４次調査区遺構平面図その３（S＝1/200）



第27図　扇台遺跡第１・２・４次調査区遺構平面図その４（S＝1/200）

第4節　扇台遺跡の出土遺物

扇台遺跡から出土した遺物は大別すると、縄文時代後期～晩期の土器、弥生時代及弥生時代以前の石器、弥生時代後期の土器、9世紀～10世紀の須恵器、土師器、中世磁器に分けられる。各時代の遺物は、遺構及その周辺の包含層より出土している物が多い。また、包含層上で出土している遺物も出土地点ごとに時代がほぼ共通している。以下、出土遺物は時代ごとに分け、さらに遺構・出土地点ごとにまとめた。各遺物の出土地点、層位、器種、法量、調整等は後掲載の観察表を参照されたい。

1　縄文時代土器（第28図1～17）

縄文時代の遺物は有文土器が1点、条痕を施すものが11点、縄文を施すものが4点、無文のものが1点である。1は沈線が横位に3条施されるもので、中屋式もしくは井口式土器と考えられる。2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12は条痕を施すもので晩期下野式期と比定される。10は深鉢で胴部くびれ部である。11、12は内面、外面共に、条痕を施すもので下野式期の特徴を示す土器片である。13、14、15、17は縄文を施すもので時期は不詳である。13、14は同一個体である。

2　石器（第29図1～第31図24）

石器は時期不詳であるが、弥生時代終末期の土器が出土している地区から主に打製石斧が出土している。石器は、打製石斧が16点、擦痕がみとめられるものや磨かれた面を持つ石器が8点出土している。打製石斧は1～16で形態的に3タイプに分けられる。圧倒的に多いのは、両側縁が内曲するもの（1、2、3、4、5、10、11、15)。次に小型で短冊形を施すもの(6、12、13)。頭部幅が刀部幅より小さく三角形に近い形態のもの(9、14)。17、18、21、24は磨石で、17、18は被熱痕を持つ。用途は不明。19、20も磨石であるが、敲打痕を持つ。用途は不明。23は偏平な磨石で中央がやや摩耗し使用痕がみとめられることから石皿と考えられる。

3　弥生時代土器（第32図～第40図）

弥生時代土器の出土状況は主に2箇所の地点から一括廃棄に近い状況で集中的に出土している（第3章第3節遺構第16・17図)。ここに掲載した弥生時代土器は全部で123点で器形復元可能なものに限り、実測し掲載した。口径等不明なものは中心線を結んでいない。

(1)　G・H－27・28区、SX－01出土土器（第32図1～第37図79)

出土地点が第16図のG・H－27・28区、SX－01は、集中的に出土したものである。そのうち第16図左側半分はSX－01とし、1991年の調査時に検出されたものである。第16図右半分のG・H－27・28区から出土した弥生土器は1992年の調査時に検出されたものである。どちらとも、同時期に一括廃棄された可能性がある。

SX－01から出土した土器は55点で、甕が圧倒的に多い。その内訳をみると、甕で擬凹線文有段口縁のものが28点、甕で無文有段口縁のものが10点、甕で「く」の字口縁のものが4点、甕の底部が2点、壺が5点（胴部1点、口縁部4点)、小形の蓋が2点、高坏・器台が4点(口縁部1点、底部3点)である。有段口縁の甕は、口径が16～20cmのものが多く、口径が20cm以上のものは5点ある。口径が最大のものは23、24の32.4cm、33.6cmである。

G・H－27・28区から出土した土器は25点である。甕で擬凹線文有段口縁のものが10点、甕で無文有段口縁のものが4点、甕で「く」の字口縁のものが1点、甕の胴部が2点、甕の底部が2点、高坏・器台が5点（口縁部2点、底部3点)、台が1点である。甕はSX－01と同様に、口径20cm未満のものがほとんどである。

口径が最大のものは、63の30.4cmのものである。

SX－01、G・H－27・28区出土の遺物を総計すると、80点の土器が出土し、甕は63点を数え、全体の78.8％を

占める。内訳は　擬凹線文有段口縁のものが38点で47.5%、無文有段口縁のものが14点で17.5%、「く」字口縁のものが５点で6.3%、甕の胴部が２点で2.5%、甕の底部が４点で５%である。その他の遺物は高坏・器台が９点で11.3%、壺が５点で6.3%、蓋が２点で2.5%、台が１点で1.3%である。

(2)　G－32・33区出土土器（第37図80～第39図101）

G－32・33区から出土した土器もこの地区から集中的に出土し、一括廃棄の可能性が高い資料である。土器点数は総数で22点である。内訳は甕で擬凹線文有段口縁のものが14点で全体の63.6%を占める。甕で無文有段口縁のものは４点で全体の18.2%、壺は２点で9.1%、鉢は１点で4.5%、高坏は１点で4.5%である。

98は脚付の壺であるが、外面に赤彩が施されている。

(3)　その他の地区からの出土土器（第39図102～第40図123）

上述の地区以外から出土土器をここでまとめた。総数で22点である。甕は12点で全体の54.5%を占める。その内訳は擬凹線文有段口縁のものが９点で40.9%、無文有段口縁のものが２点で9.1%、甕の胴部が１点で4.5%である。その他のものは、壺が１点で4.5%、器台・高坏が１点で4.5%、鉢は２点で9.1%、蓋も２点で9.1%、土器底部が４点で18.2%である。113の鉢は内面に赤彩が施されている。123は大型の壺であるが、口縁内側に赤彩が施されている。119～122の土器の底部は壺の底部であるかもしれないが前節で説明した縄文土器の底部かもしれないが、古代の甕・壺の底部かもしれない。

(4)　出土弥生土器の小結

扇台遺跡から出土した弥生時代土器は弥生時代終末期の月影式の土器である。特にG・H－27・28区、SX－01とG－32・33区出土の土器は一括廃棄性が高くその組成は月影式期の生活様式を復元するうえで貴重な資料といえる。

4　古代土器

扇台遺跡から出土した古代の土器は９世紀後半から10世紀前半の須恵器、土師器で、出土状況は建物の柱穴や、建物周辺からである。遺物は建物の柱穴ごとと、建物の周辺ごとにまとめた。

(1)　SB－01柱穴出土土器（第41図１～７）

１はPit５より、７はPit３より、２、３、４、５、６はPit10より出土している。１、２は内面黒色の碗で内面にカキ目痕が残る。３は須恵器碗、４、６、７は土師器甕で６、７は比較的小型の甕である。５は須恵器の甕胴部で内側に同心円状のタタキ目、外側にもタタキ目が入る。

(2)　SB－02柱穴出土土器（第42図１～９）

１、２、３、４、５はPit39より、６、７はPit45より、８はPit56より、９はPit46より出土している。１はつまみ部が付く須恵器蓋。２は須恵器甕胴部で内外面ともにタタキ目が入る。３、６、８は土師器碗で３は内面黒色であるが、６、８は内面はナデのみの調整である。４、５は土師器甕である。７は須恵器の盤で９も須恵器盤の口唇部と推測される。

(3)　SB－03・05、SB－07・08、SD－2002（第43図１－８）

１はSB－03柱穴のPit2009出土の須恵器坏である。２はSB－05柱穴のPit53出土の内面黒色碗である。３はSB－05柱穴のPit53から出土の土師器甕胴部である。４はSB－05柱穴のPit51から出土の内面黒色碗である。５はSB－07柱穴のPit2047出土の土師器平底甕である。７はSB－08柱穴出土の内面黒色の碗底部である。６、７はSD－2002から出土した内面黒色の碗である。６は外面が赤彩である。

(4)　SB－01・02・03附近のPit・包含層出土遺物（第44図１～11）

１、２は内面にカキ目が入る内面黒色碗、３は台付土師器碗、４と10は青磁皿、碗片か。５は須恵器甕胴部片。11は須恵器横瓶の胴部か。９は土師器碗の底部、６、７、８は土師器長甕。８は平底で外面に削りの調整が入る。

(5) SB−04・05・06附近のPit・包含層出土遺物（第45図１～９）

１は台付内面黒色碗、２、３は内面黒色碗、４は須恵器盤底部、５は須恵器鉢、６、７、８は土師器長甕、９は美濃灰釉鉢口縁部。

(6) H−10区、扇台小学校旧グランド試掘出土遺物物、G−28・29区出土遺物（第46図１～５）

１は長甕で完形品。２は瓶胴部。３は有台坏。２、３は扇台小学校旧グランド試掘出土遺物。４は須恵器蓋。５は土師器碗で底部に糸切痕がある。10世紀後半のものと推定でき、この遺跡の遺物の中では、異色である。４は、G−28区包含層、G−29区包含層出土である。

(7) SB−07、08附近Pit・包含層出土遺物（第47図１～第49図44）

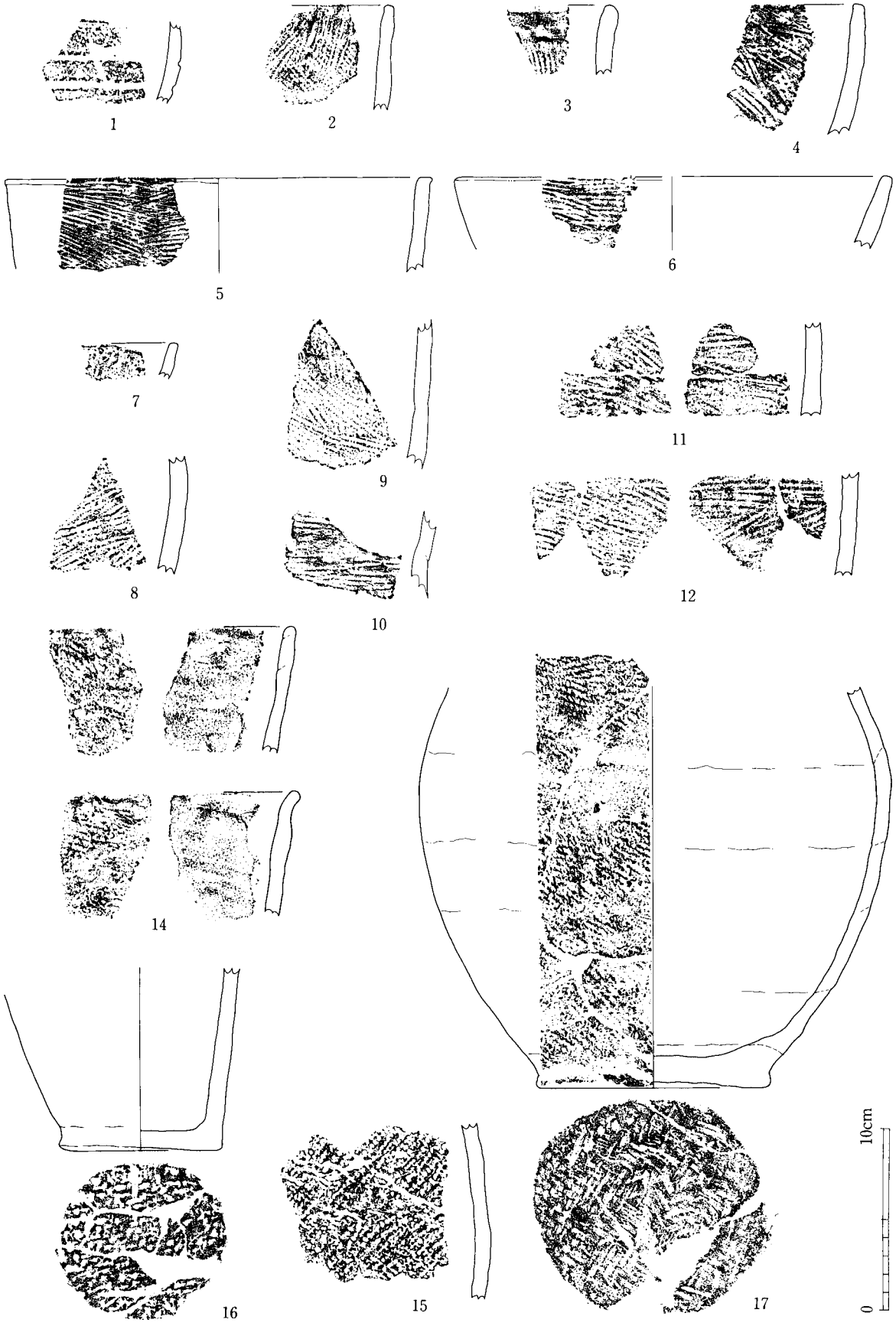
古代の遺物はSB−07、08付近のPit・包含層から出土したものが最も多い。１～６は須恵器有台坏。２、３は深身の有台坏で底径だけでも、２は9.0cm、３は7.9cmを計る。７～10は須恵器坏。９、10から７、８へ器形の変化が見られる。11、12は、須恵器盤。13は須恵器蓋。14、15は須恵器瓶口縁部。16は甑口縁部と思われる。17は須恵器瓶胴部。18は須恵器壺胴部。19は須恵器横瓶胴部片。20、21は土師器無台坏。22～30は、土師器内面黒色碗。内側にカキ目による調整痕を持つ。26、27、30は外面底部にロクロ回転による糸切痕が残る。31～は土師器内面黒色有台付碗。内部にカキ目による調整痕が入る。36～41は、土師器長甕。小型製品の長甕が多い。35、42、43も土師器長甕底部と思われる。44は土師器土鍋。

(8) 出土古代土器小結

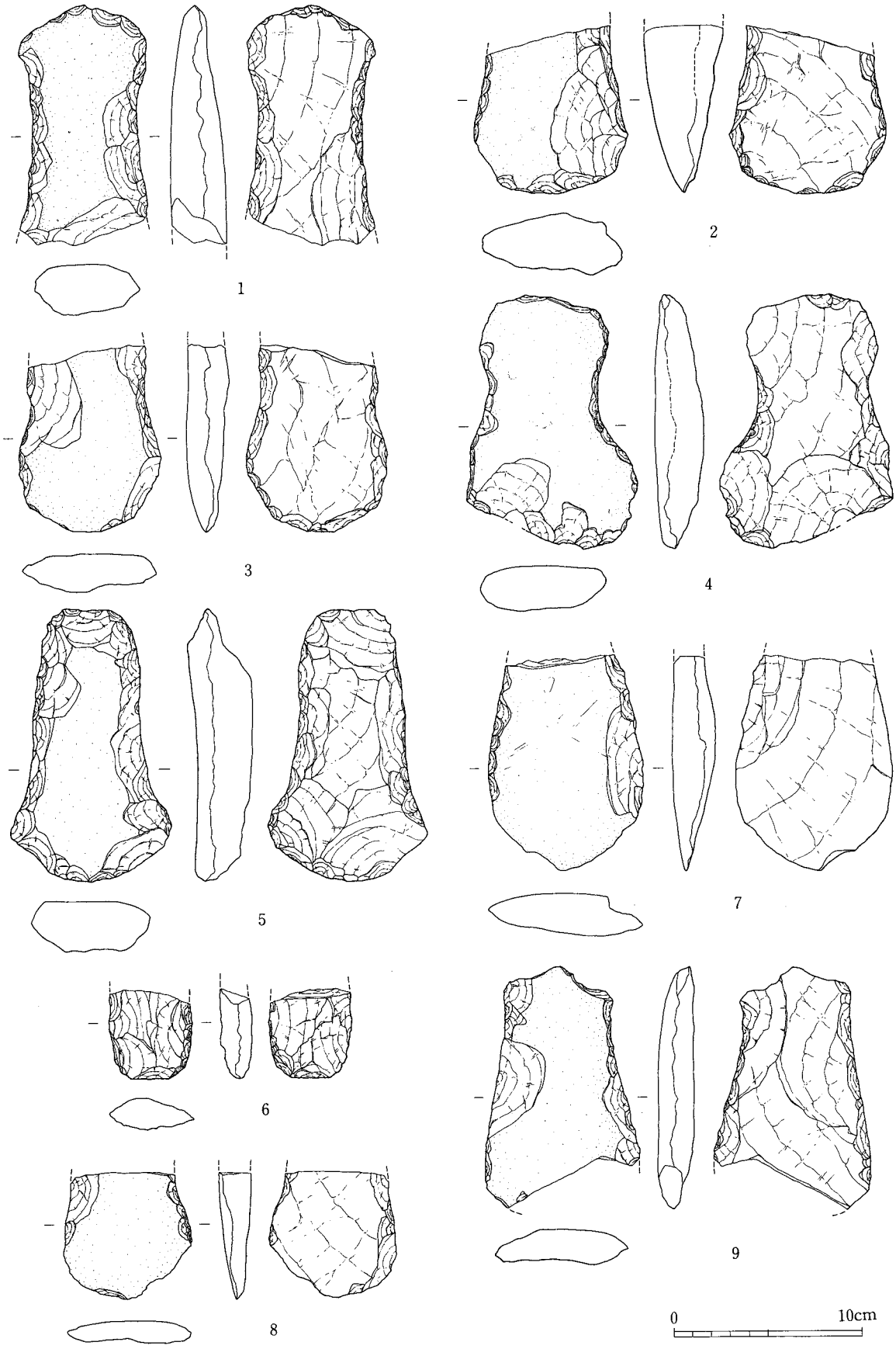
古代の遺物は主に９世紀後半から10世紀前葉かけてものが多い。遺物の出土状況も建物跡もしくはその周辺から出土している。遺物も長甕や瓶など生活に密着したものが多い。扇台遺跡の遺物は古代末の地方の村の様子を示している資料と言えよう。

《参考文献》

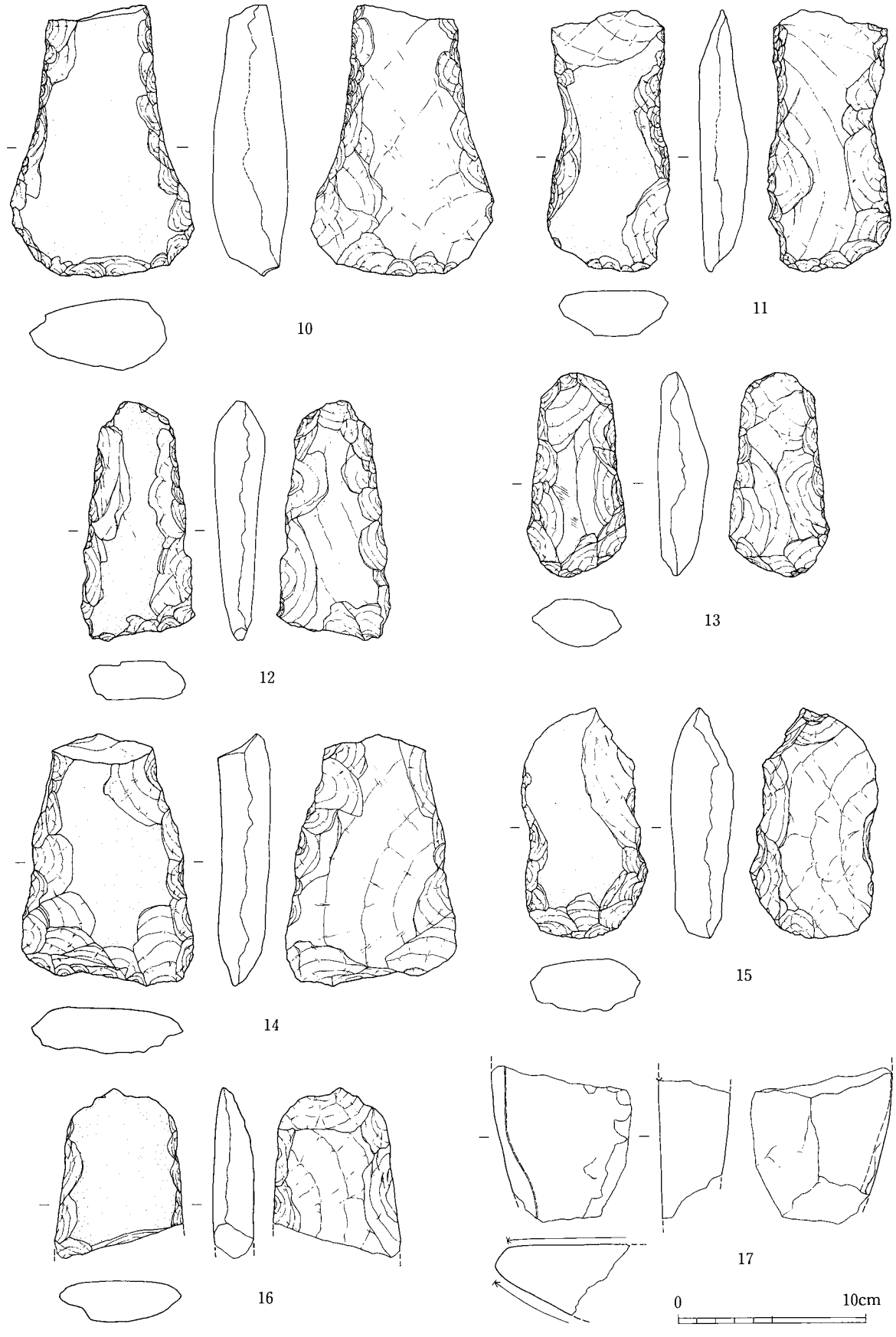
石川考古学研究会『シンポジウム「月影式」土器について』報告編　1986年
石川考古学研究会、北陸古代土器研究会『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題』報告編　1988年
北陸古代土器研究会　会誌第６号『北陸における９世紀の土器様相』1997年
南　久和『金沢市額新町遺跡』金沢市教育委員会　1995年
田村昌弘、吉田　淳『高橋セボネ遺跡』野々市町教育委員会　1996年
田嶋明人『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター　1986年
増山　仁『金沢市扇台遺跡』金沢市教育委員会　1994年
庄内式土器研究会『−庄内式併行期の土器生産とその動き−「庄内式期の土器の併行関係」』庄内式土器研究会　1994年
栃木英道　他『谷内・杉谷遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター　1995年
出越茂和『金沢市千木ヤシキダ遺跡』金沢市教育委員会　1991年



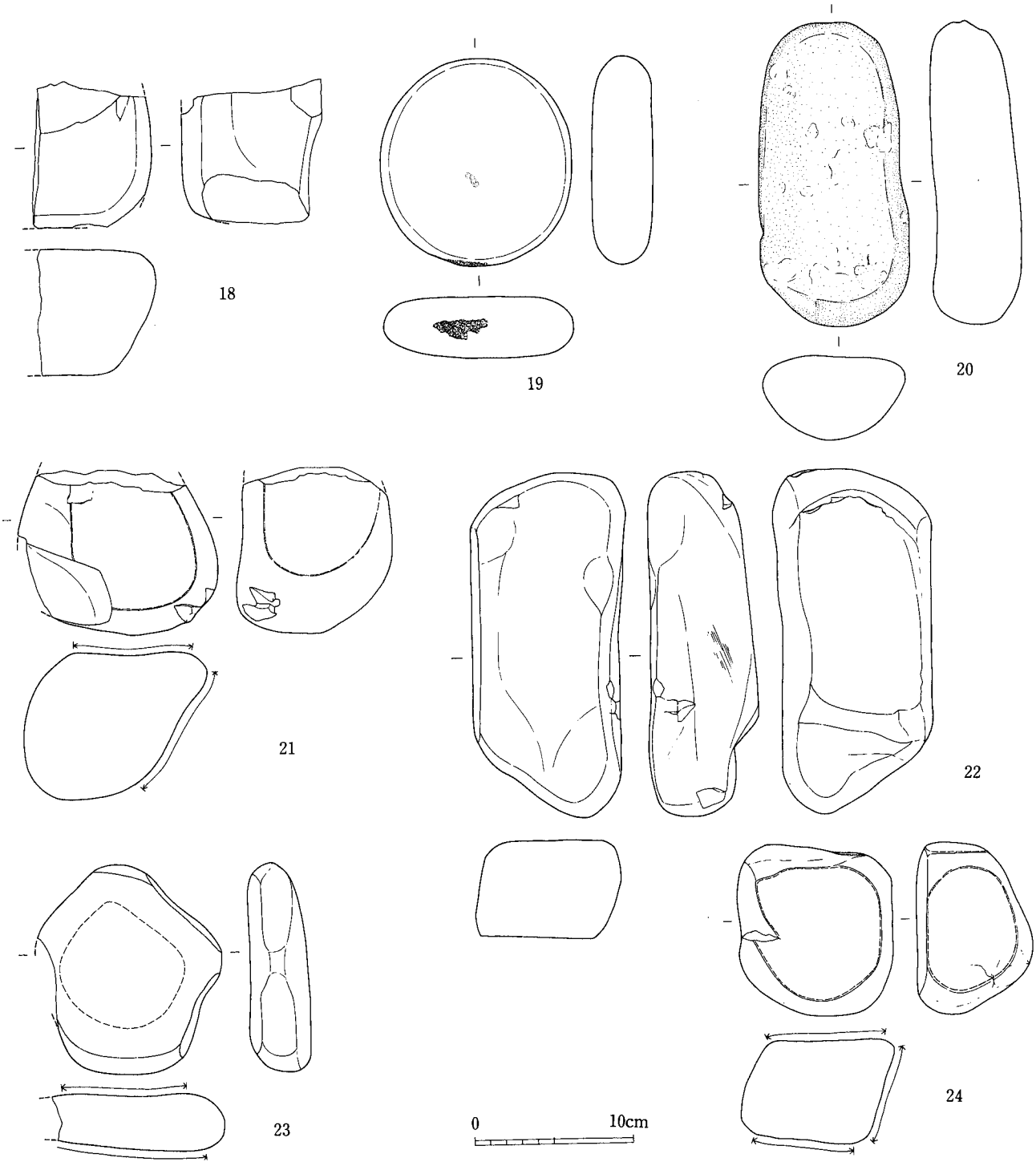
第28図　扇台遺跡出土縄文土器図（Ｓ＝1/3）



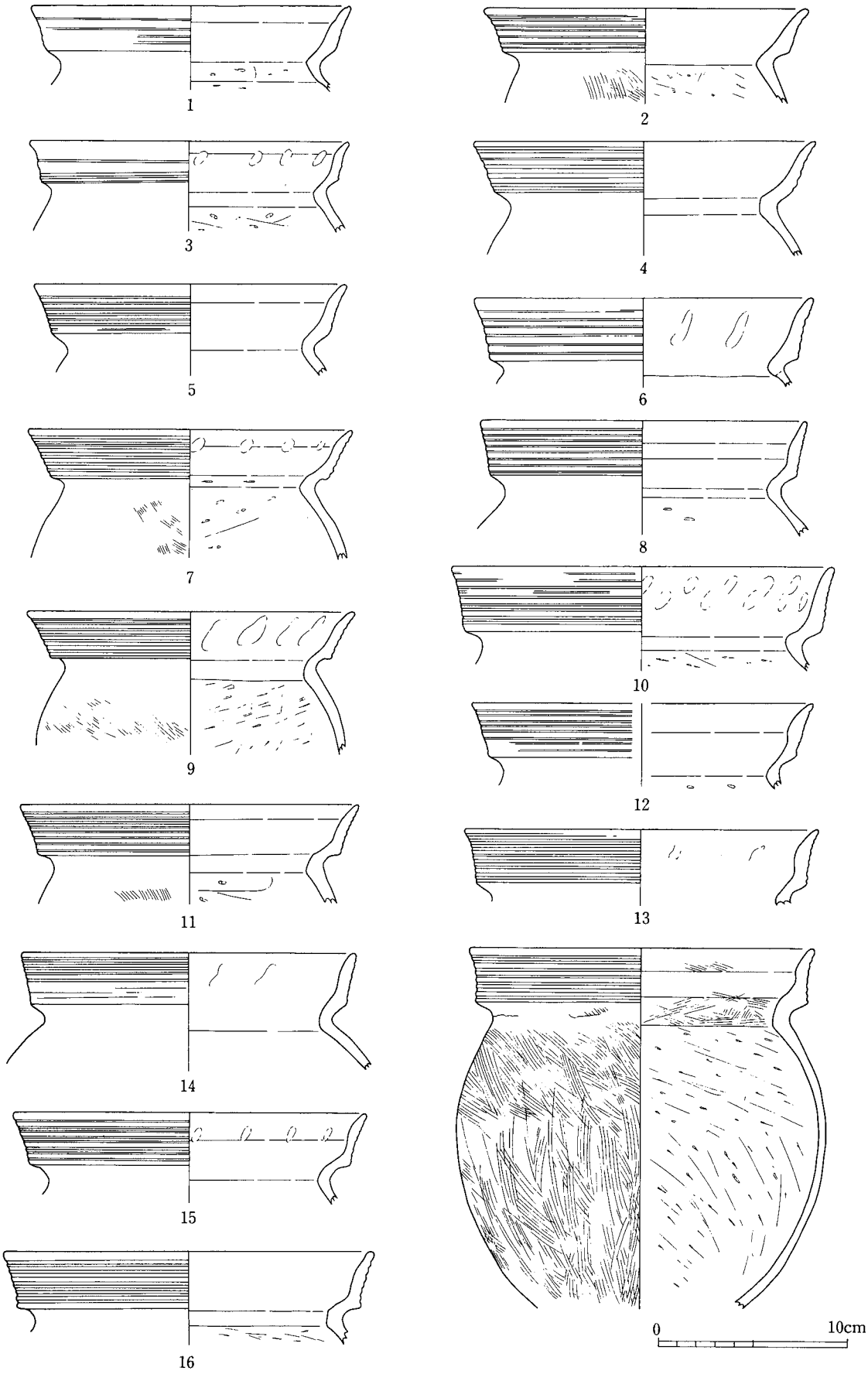
第29図　扇台遺跡出土石器図(1)（S＝1/3)



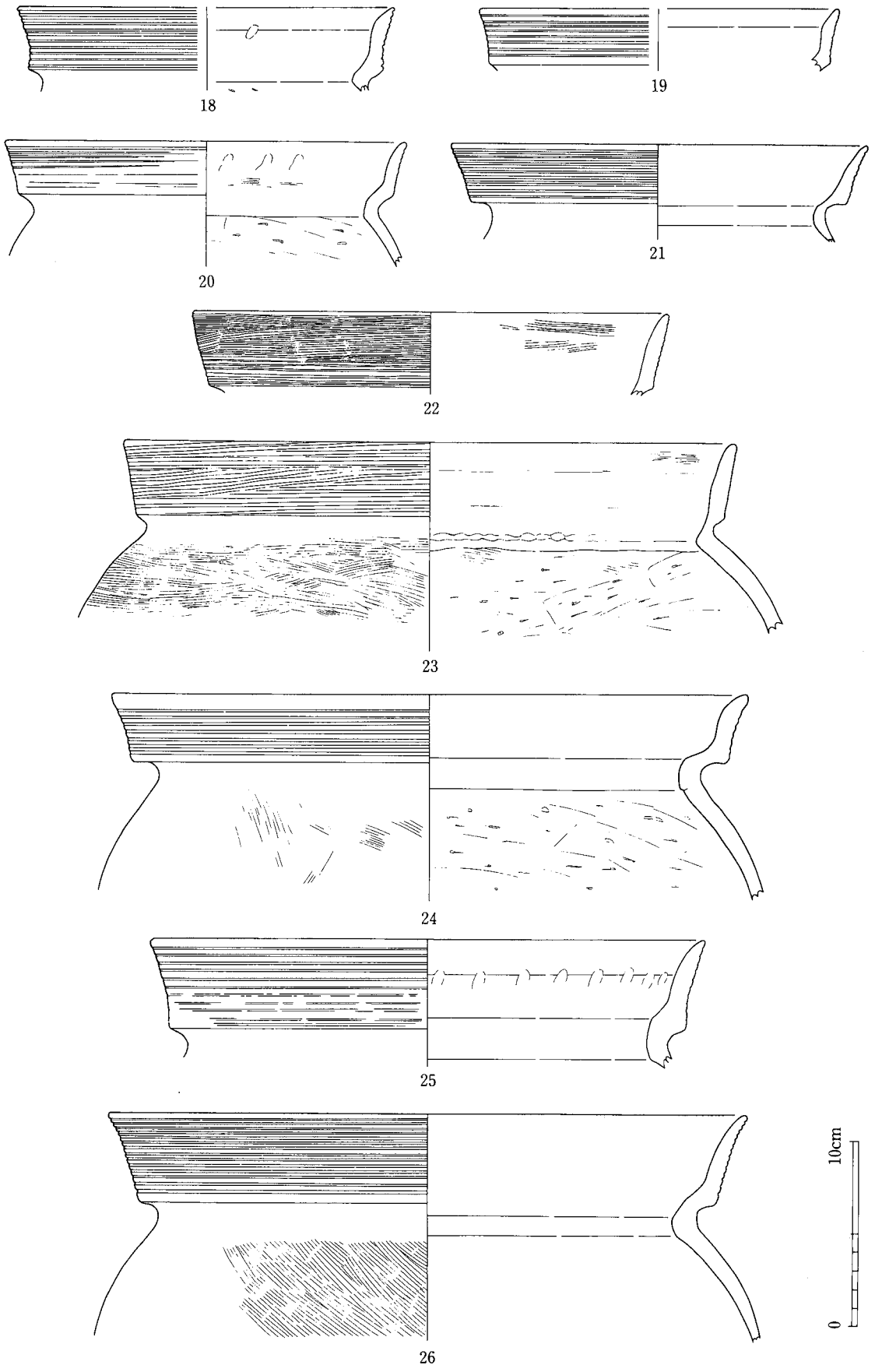
第30図　扇台遺跡出土石器図(2)（Ｓ＝1/3）



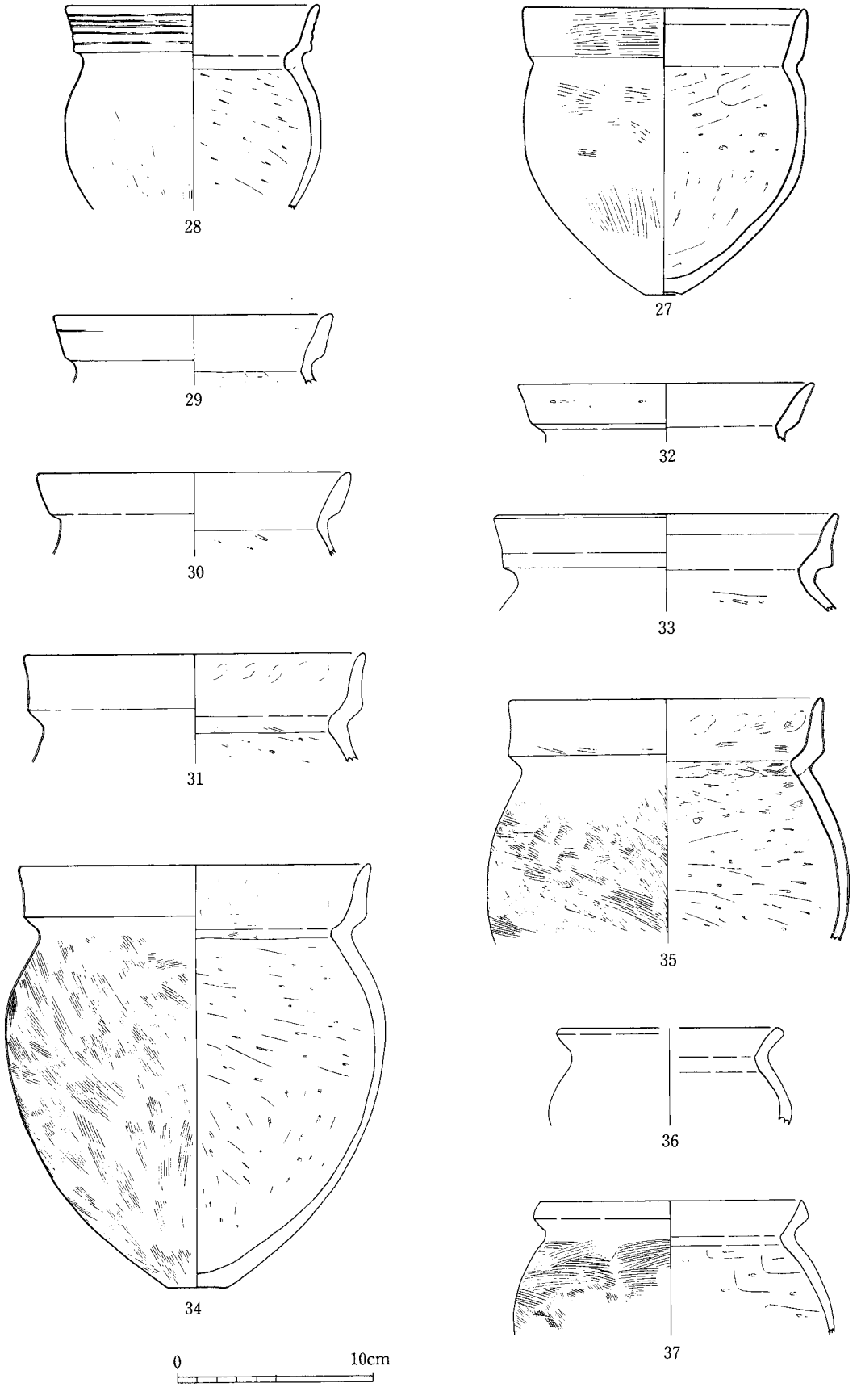
第31図　扇台遺跡出土石器図(3)（S＝1/4）



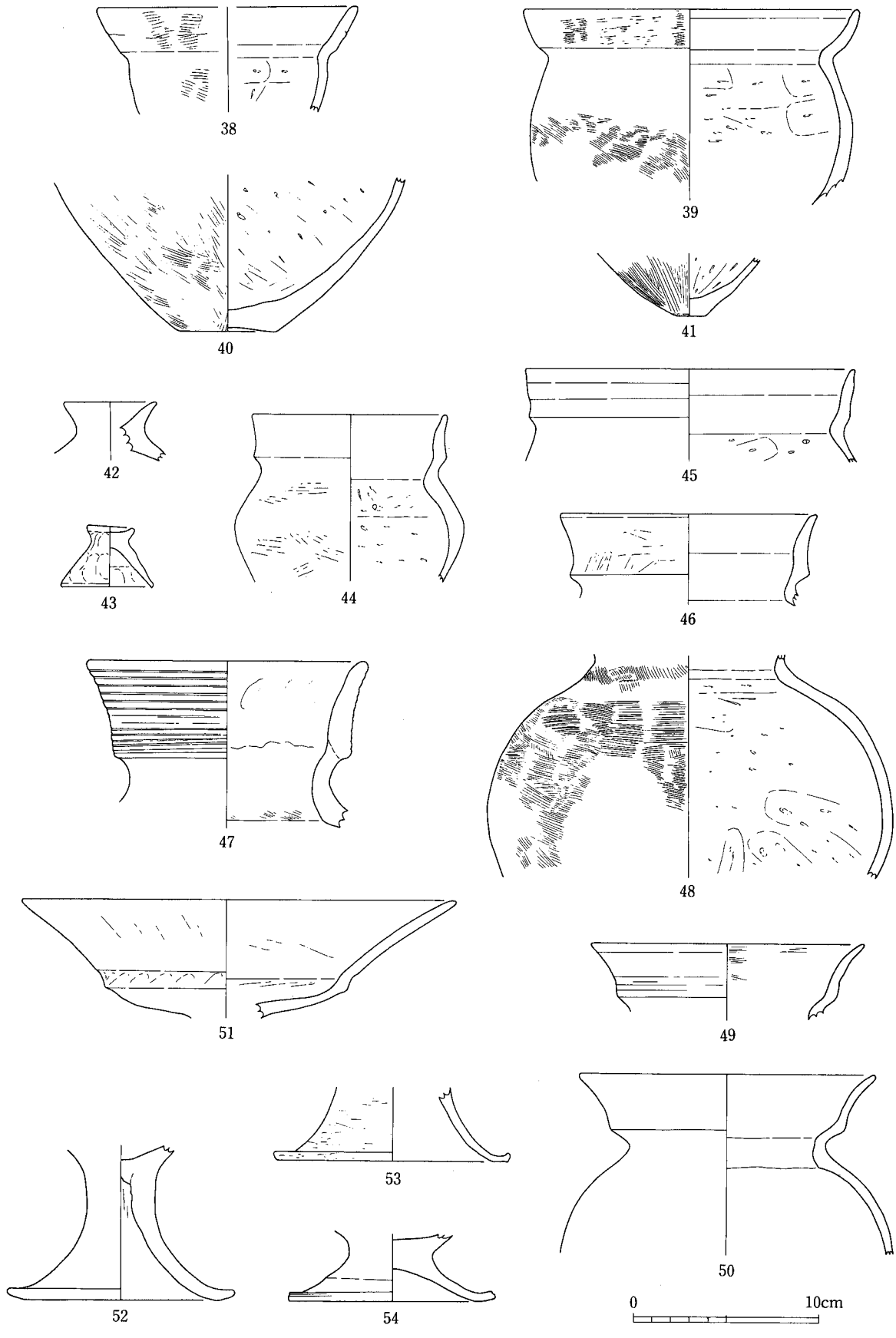
第32図　扇台遺跡SX01出土土器図(1)（S＝1/3）



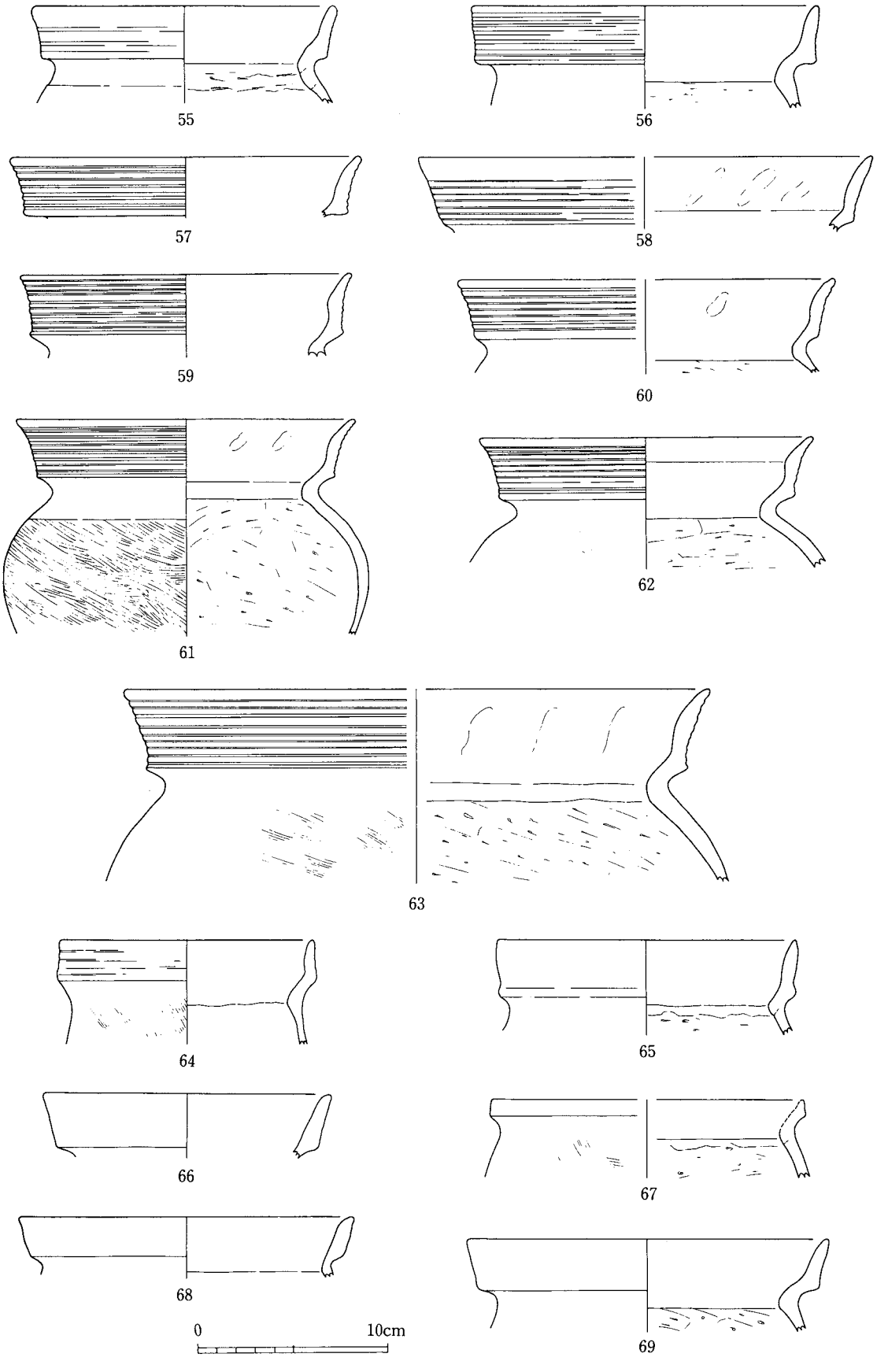
第33図　扇台遺跡SX01出土土器図(2)（S＝1/3）



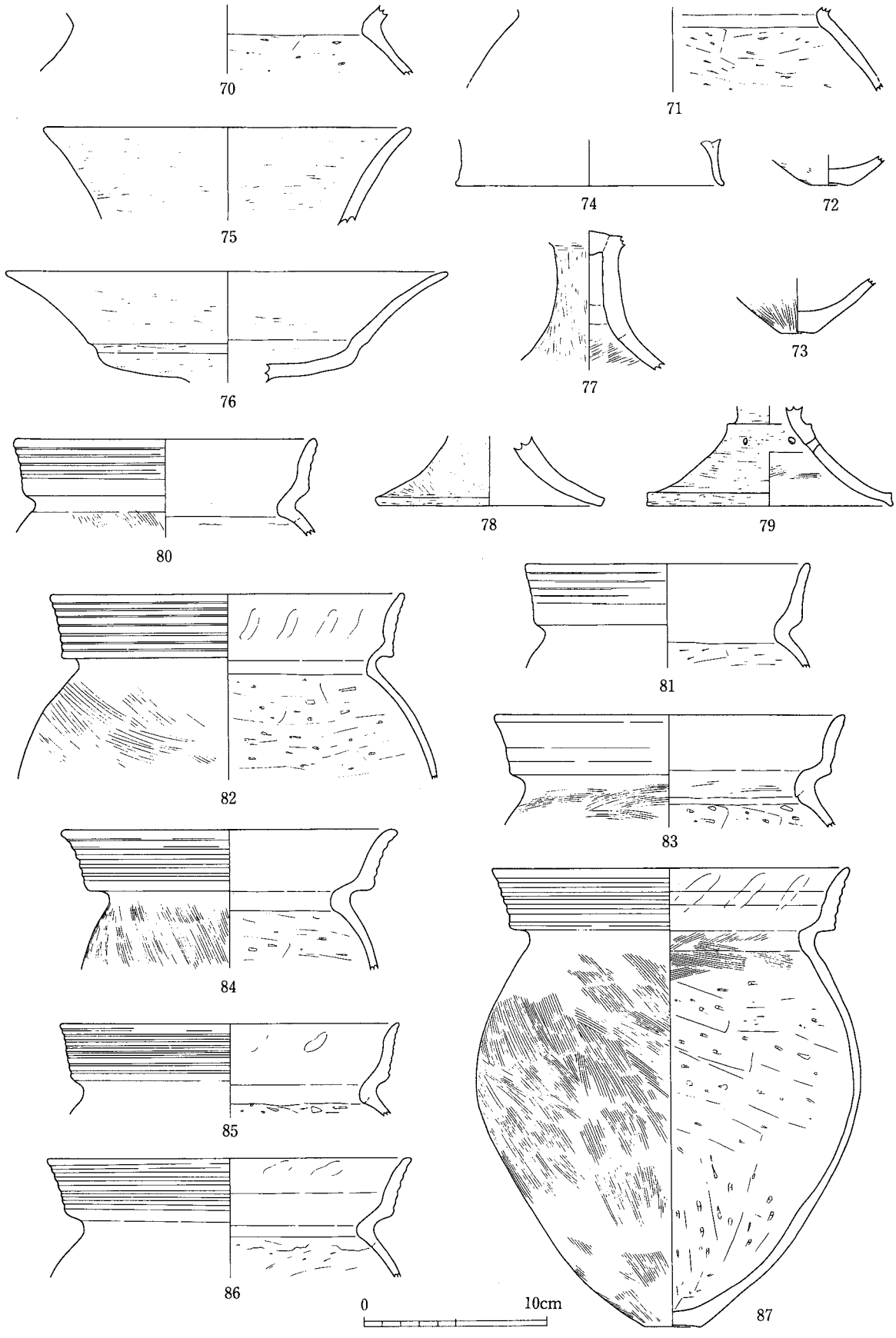
第34図　扇台遺跡SX01出土土器図(3)（S＝1/3）



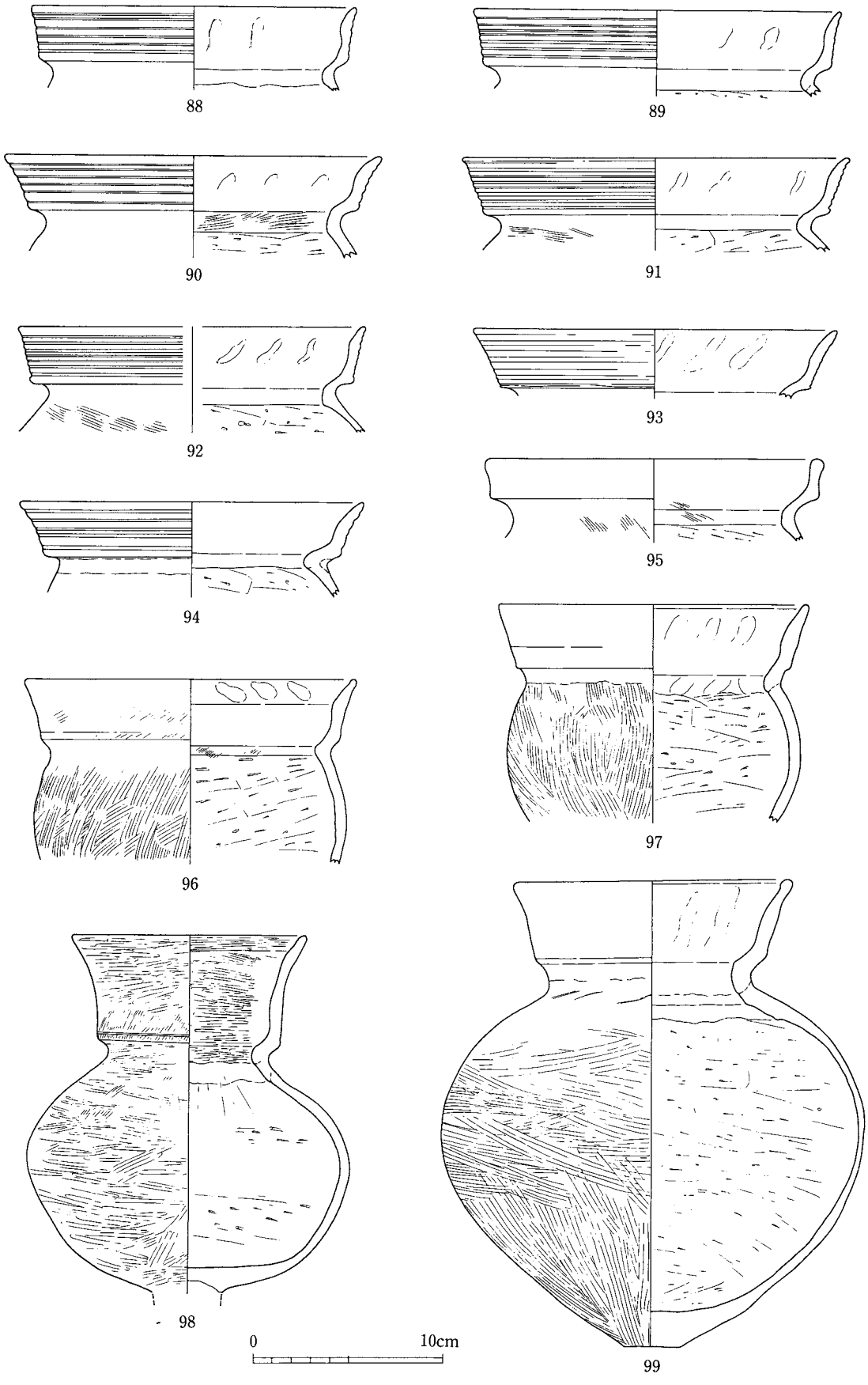
第35図　扇台遺跡SX01出土土器図(4)（S＝1/3）



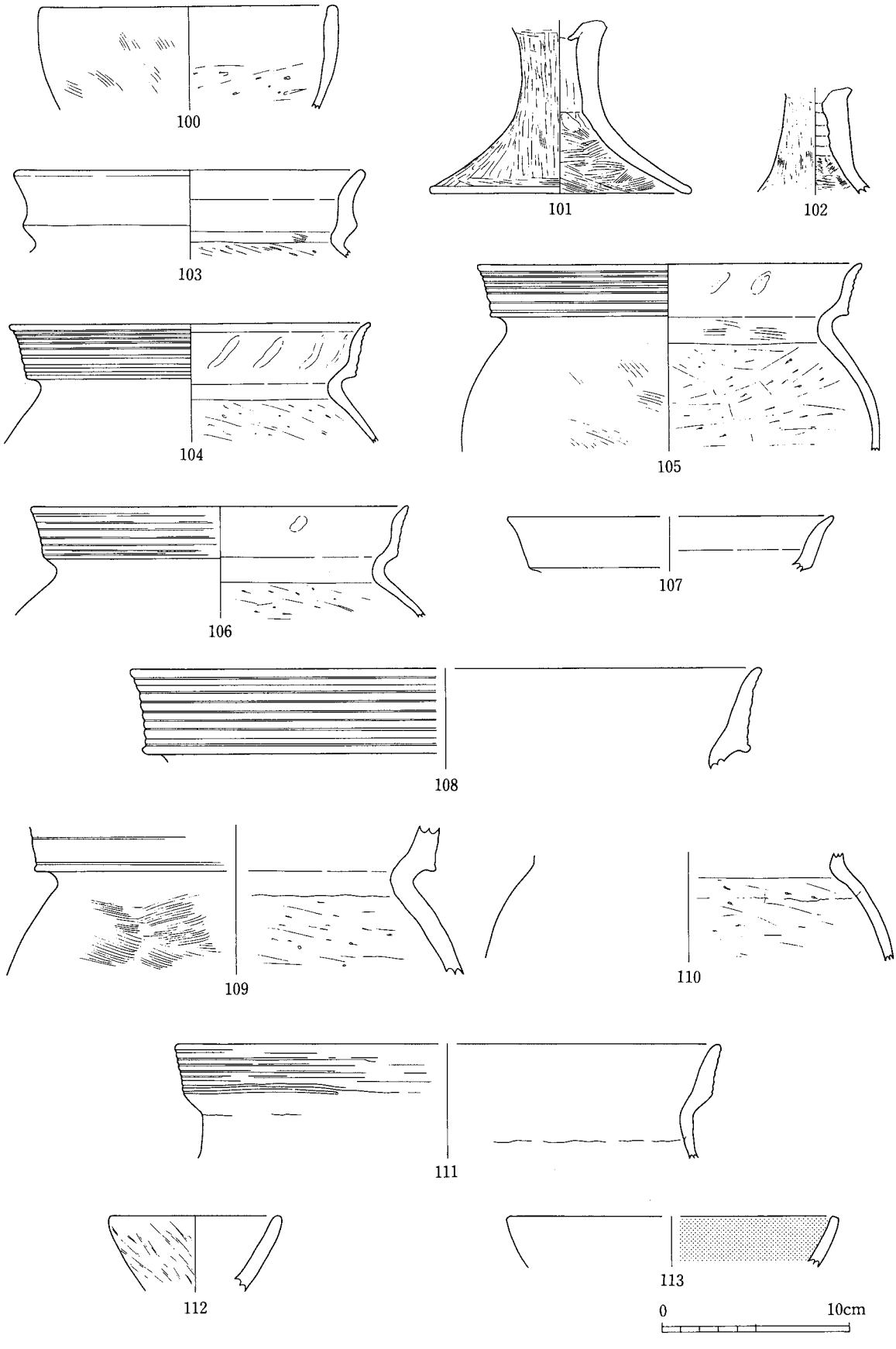
第36図　扇台遺跡G－27・28出土土器図（S＝1/3）



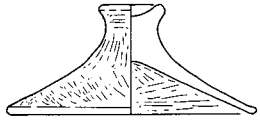
第37図　扇台遺跡Ｇ－26～28・Ｇ32・33出土土器図（Ｓ＝1/3）



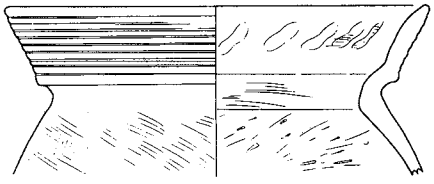
第38図　扇台遺跡Ｇ－32出土土器図（Ｓ＝1/3）



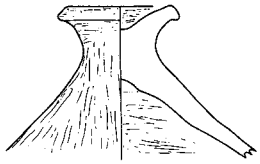
第39図　扇台遺跡Ｇ—32・その他の地区出土弥生土器図（Ｓ＝1/3）



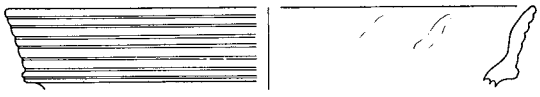
114



116

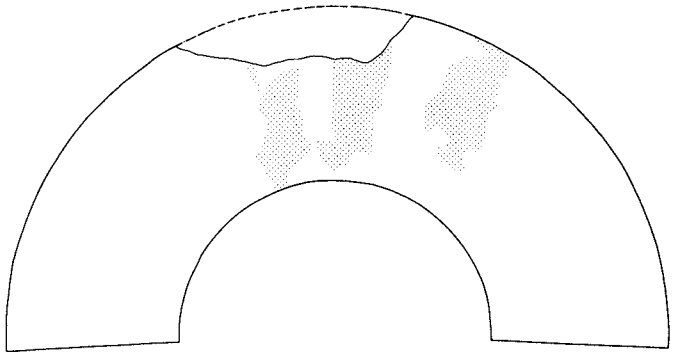


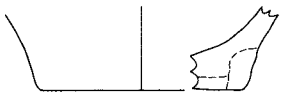
115



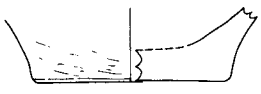
117

118

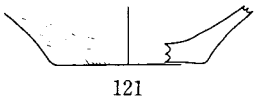




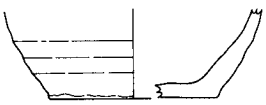
119



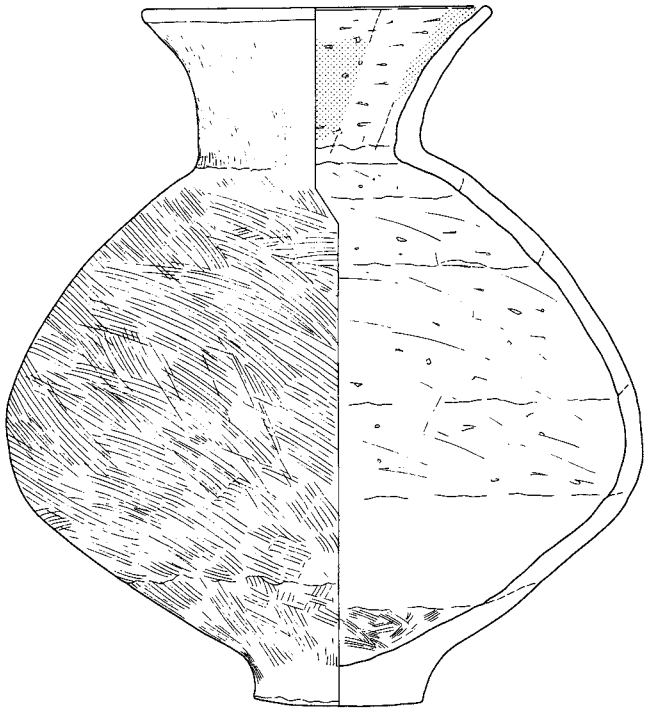
120



121



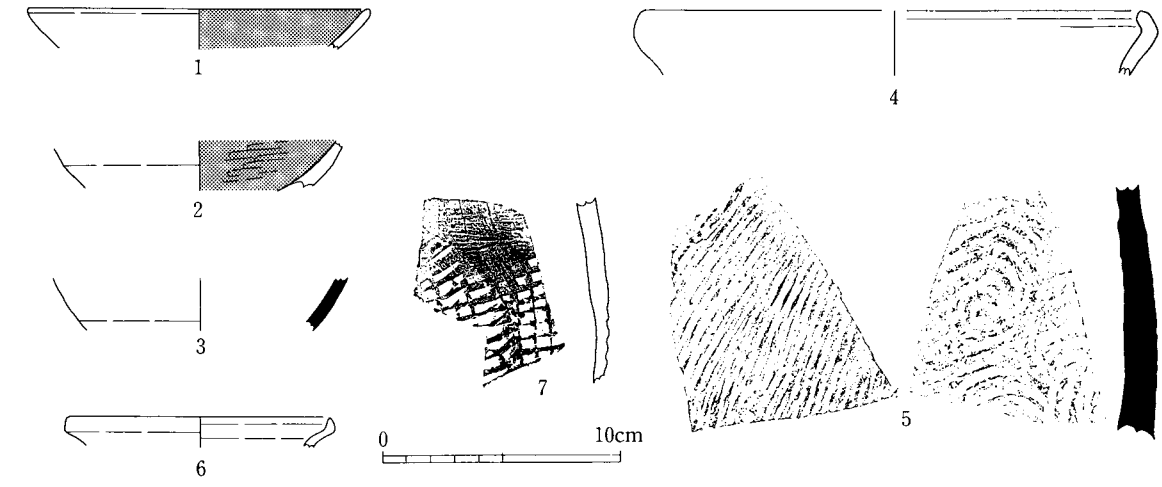
122



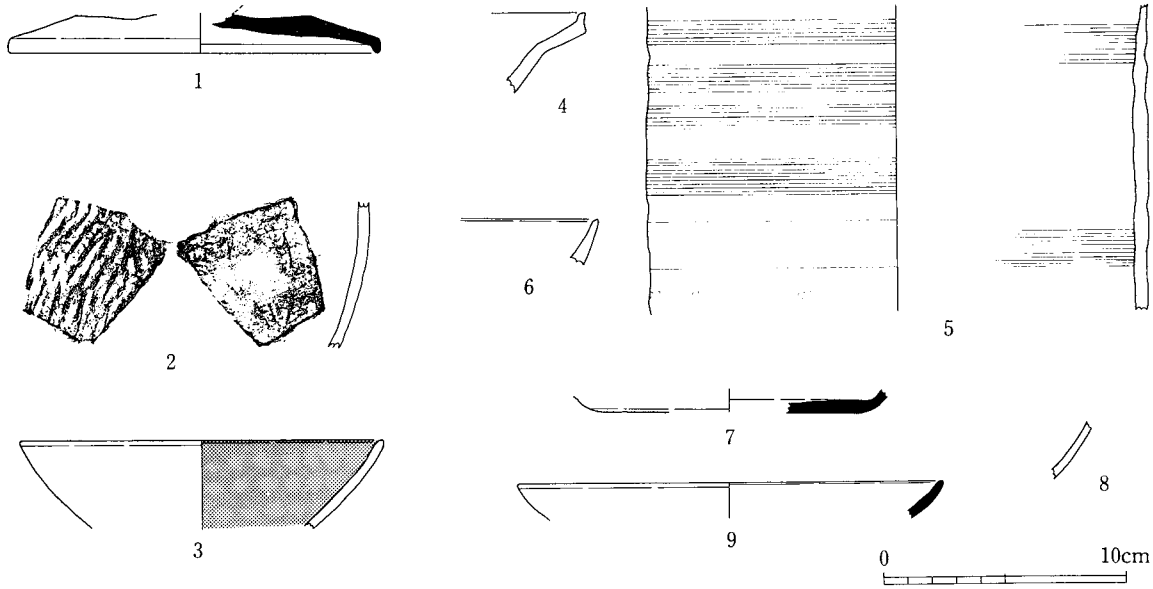
123

0　10cm

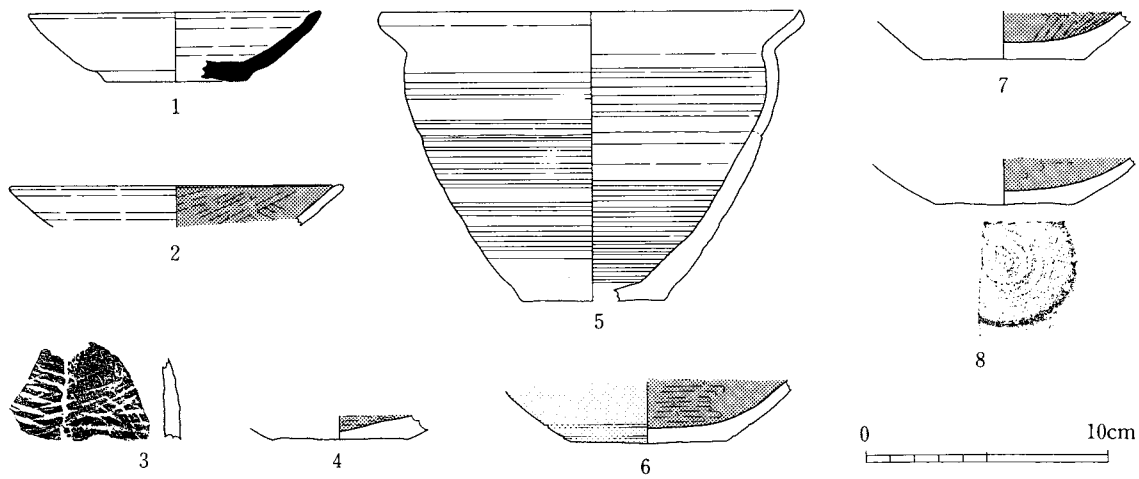
第40図　扇台遺跡その他の地区出土弥生土器図（Ｓ＝1/3）



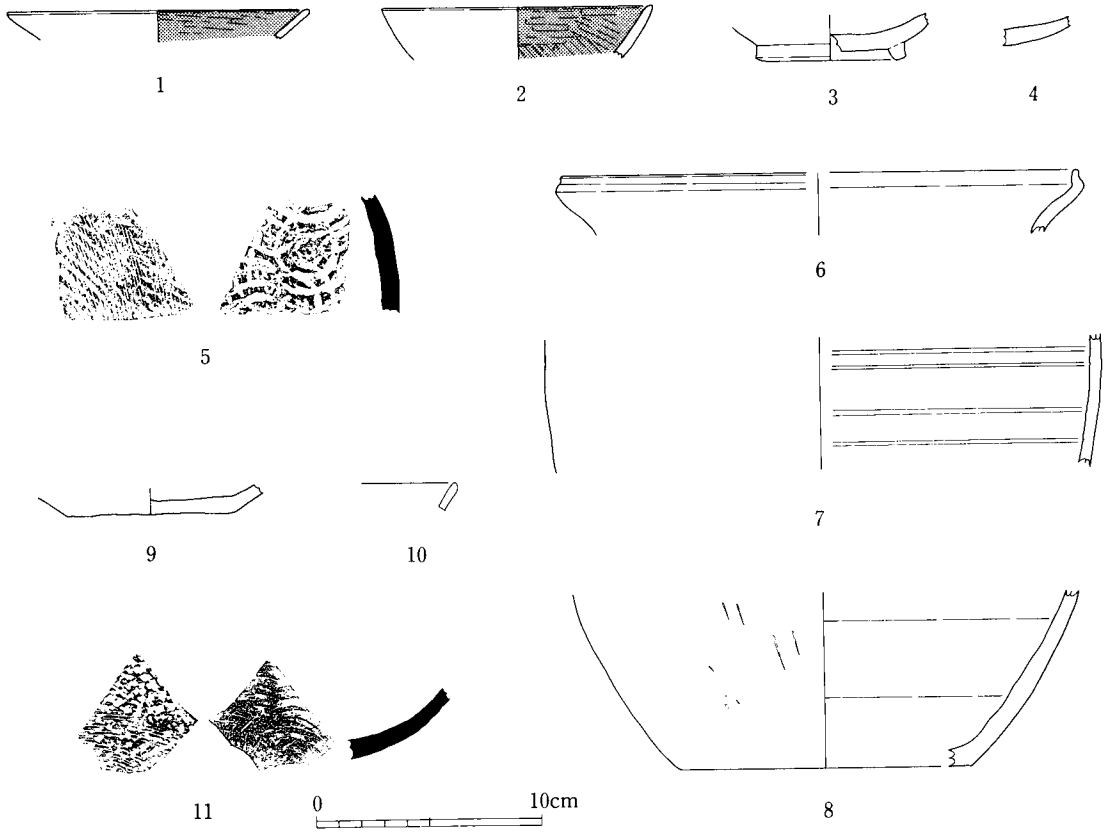
第41図　扇台遺跡SB―01柱穴出土遺物（S＝1/3）



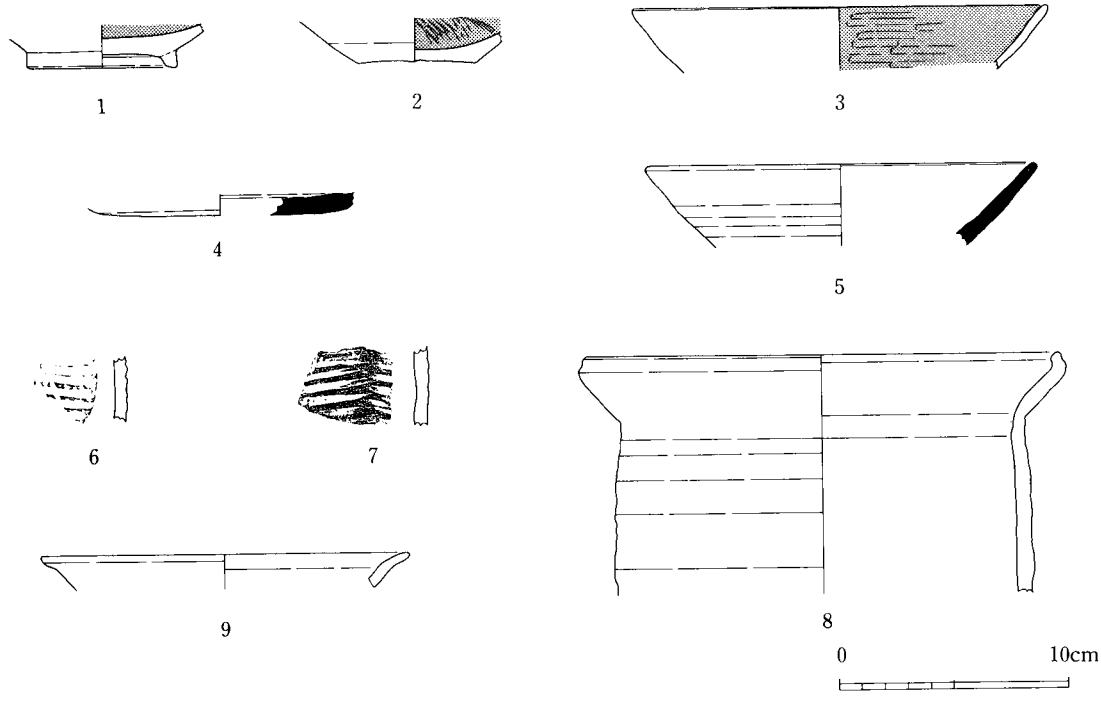
第42図　扇台遺跡SB―02柱穴出土遺物（S＝1/3）



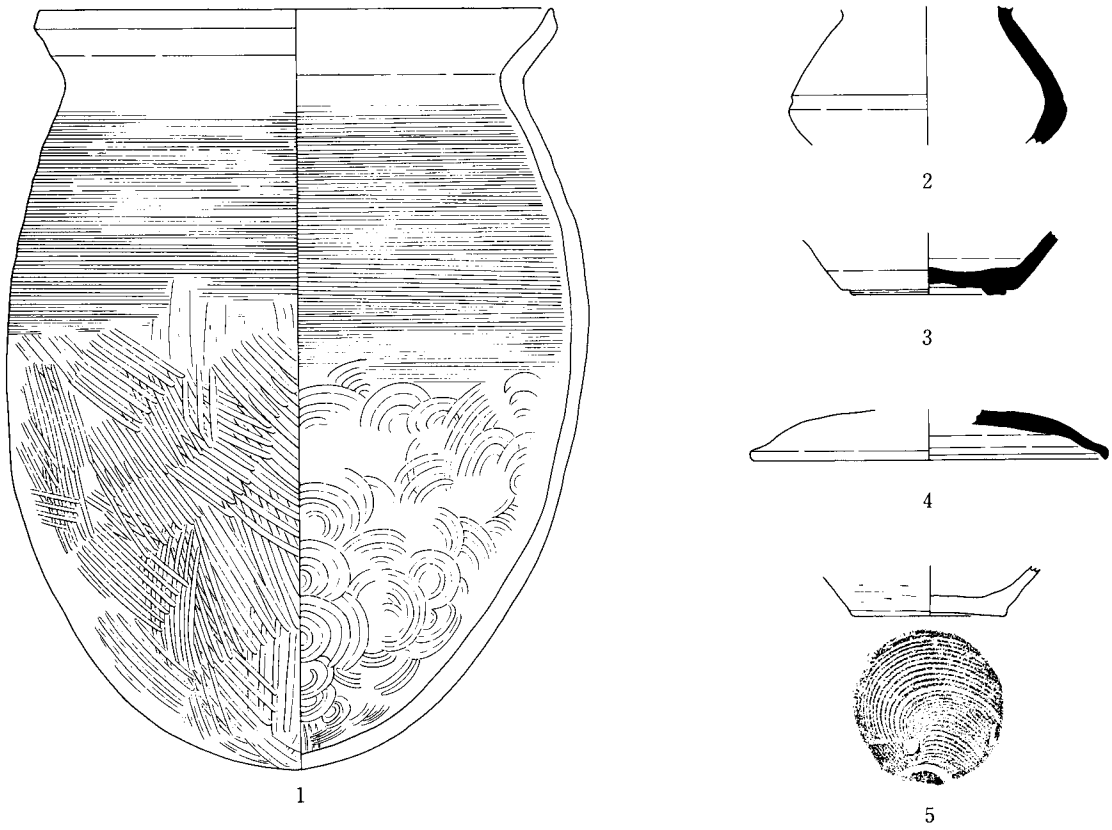
第43図　扇台遺跡SB03・04・07・08・SD2002出土遺物図（S＝1/3）



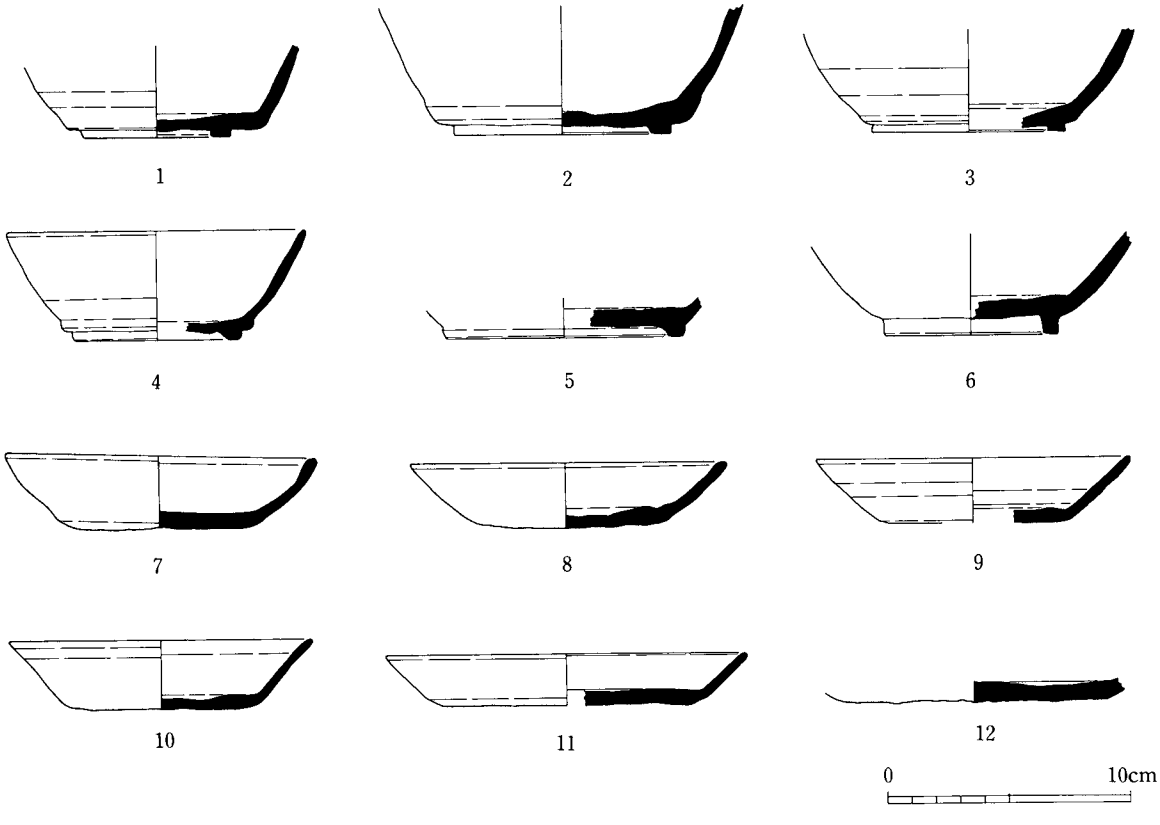
第44図　扇台遺跡Ｂ～Ｄ８区―Ｂ～Ｇ19区ピット・包含層出土遺物図（SB01・02附近出土）（Ｓ＝1/3）



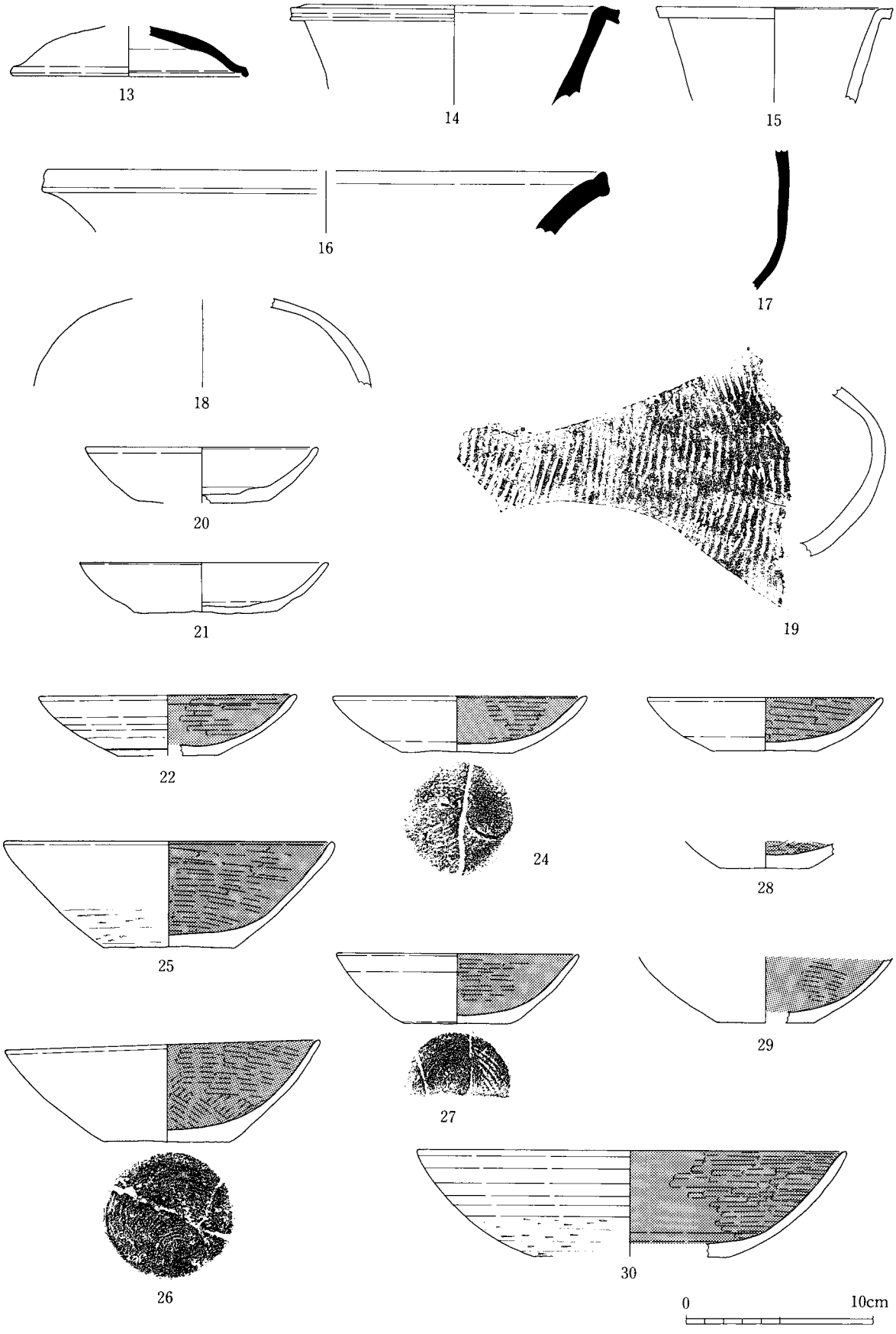
第45図　扇台遺跡Ｆ16・17区～Ｊ16・17区ピット・包含層出土遺物図（SB04・05・06・07附近出土）（Ｓ＝1/3）



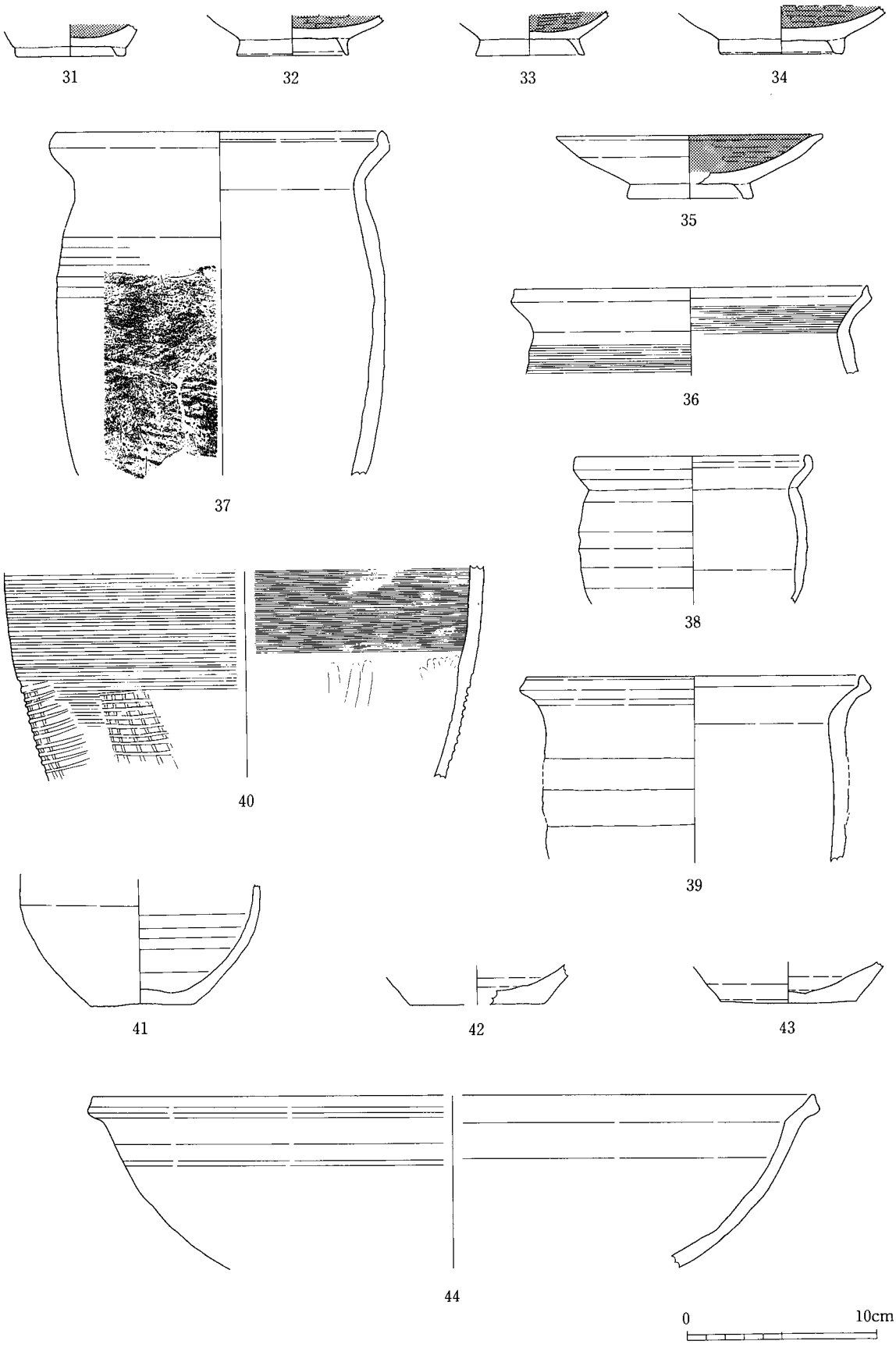
第46図　扇台遺跡Ｈ－10区・扇台小学校旧グラウンド試掘出土遺物・Ｇ－28・29区出土遺物（Ｓ＝1/3）



第47図　扇台遺跡SB07・08附近ピット・包含層出土遺物図(1)（Ｓ＝1/3）



第48図　扇台遺跡SB07・08附近ピット・包含層出土遺物図(2)（S＝1/3）



第49図　扇台遺跡SB07・08附近ピット・包含層出土遺物図(3)（S＝1/3）

第２表　扇台縄文土器観察表

図版No.	実No.	調査区	層位位置	種　別	口径a:底径b	施　　紋	色　　調	胎　土	備　　考
28-1	13	D-9	1トレ黒色層	縄 文 鉢		(外) 沈線／縄文	(内) 黄灰 (外) 淡灰褐	細砂混	節細かい
28-2	15	D-16	1トレSD02	縄文深鉢		(外) 条痕	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐	細砂混	
28-3	140	G-21	SK2002	縄文深鉢		(外) 微隆帯	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐	細砂混	口縁無文帯あり
28-4	49	G-24	3トレ	縄文深鉢		(外) 条痕	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐	細砂混	
28-5	45		3トレ	縄文深鉢	a：22.2	(外) 条痕煤付着	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐		
28-6	44		3トレ	縄文深鉢	a：23	(外) 条痕煤付着	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐		僅かに口縁面取り
28-7	16	D-16	1トレSD02	縄 文 鉢		(外) 条痕	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐	細砂混	僅かに口縁面取り
28-8	72	G-25	3トレ	縄文深鉢		(外) 条痕	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐		
28-9	34	F-24	黒色土層	縄文深鉢		(外) 条痕	(内) 黄灰 (外) 淡灰褐	細砂混	内面ケズリ
28-10	14	D-16	黒色土層	縄文深鉢		(外) 条痕	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐	細砂混	
28-11	82	G-23	3トレ	縄文深鉢		(内) (外) 条痕	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐		
28-12	83	G-24	3トレ	縄文深鉢		(内) (外) 条痕	(内) 淡灰褐 (外) 淡灰褐		
28-13	92	G-19	地山直上	縄文深鉢		(外) 撚り糸？	(内) 黄褐 (外) 黄褐		接合痕
28-14	92	G-19	地山直上	縄文深鉢		(外) 撚り糸？	(内) 黄褐 (外) 黄褐		口縁指頭痕
28-15	225	G-30	黒色下層	縄文深鉢		(外) 縄文	(内) 黄褐 (外) 黄褐		内面ナデ
28-16	159	B-13	P−2055	縄文深鉢	b：8.8	(外底) 網代	(内) 黄褐 (外) 黄褐		内面ナデ
28-17	243	G-19	地山直上	縄文深鉢	b：12.2	(外底) 網代	(内) 黄褐 (外) 黄褐		内面ナデ

第３表　扇台石器観察表

図版No.	実No.	調査区	層位位置	長　さ	幅	厚　さ	重　さ
29-1	1	C-10	黒色層	12.9	6.8	2.9	306.2
29-2	2	G-24	3トレ	9	8.2	4.2	204.7
29-3	3	排土		10	7.4	2.3	204.7
29-4	5	不明		13.6	9.1	2.6	307.5
29-5	6	G-24	3トレ	14.6	8.5	4.4	410.7
29-6	8	H-21	黒色層	4.8	4.4	2.7	38.7
29-7	9	G-32	黒色層下層	11.5	8.25	2.3	207.3
29-8	10	J-17	黒色層	6.8	6.8	2.7	77.3
29-9	11	E-14	黒色層	13	8.2	1.9	205.2
30-10	12	E-1	黒色層上層	14.6	9.9	4	597.4
30-11	13	G-13	黒色土層	14.2	6.4	2.6	269.4
30-12	14	G-21	地山直上	13	6.1	2.7	210.3
30-13	15	C-33	黒色層下層	11.1	5.2	2.7	165.7
30-14	18	不明		13.7	9.2	2.8	428.2
30-15	16	F-22	黒色層下層	12.5	6.8	3.3	299.6
30-16	17	J-13	SK2003	9.3	6.9	2.2	139.5
30-17	4	G-24	3トレ	8.5	7.4	4.2	244.9
31-18	7	G-24	3トレ	9.1	8.6	8.7	808.2
31-19	19	G-23	黒色層下面	12.9	11.9	3.8	908.9
31-20	20	I-12	黒色土層	18.9	9.2	5.5	1418.9
31-21	21	不明	黒色土層	10.3	12.3	9.2	1514.9
31-22	24	I-14	黒色土層	21.4	9.7	6.8	2179.2
31-23	23		3トレSx01	13	11.3	3.8	686.6
31-24	22	I-14	P2056	10.7	9.5	7	1075.2

第4表　扇台出土土器観察表（4－1）

図No.	実No.	出土地点	層位	種別	器種	口径	底径	器高	調整	色調	胎土	備考
32-1	C-75	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	16.9			(内)ヨコナデ (外)擬凹線？	(内)(外)淡灰褐	粒子細～中、軽い	
32-2	C-121	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	16.8			(内)ヨコナデ、ナデ (外)擬凹線	(内)(外)赤灰色	粒子細～中、堅い	
32-3	C-102	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	16.8			(内)ヨコナデ、指頭圧痕 (外)擬凹線？	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	
32-4	C-125	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.8			(内)ヨコナデ？ (外)擬凹線	(内)淡灰褐色(外)黄灰色	粒子細、もろい	
32-5	C-112	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	16.5			(内)ヨコナデ？ (外)擬凹線	(内)(外)淡灰褐色	粒子細、もろい	海綿骨針含む
32-6	C-103	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.6			(内)不明 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
32-7	C-94	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.1			(内)ヨコナデ、指頭圧痕 (外)擬凹線	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	
32-8	C-127	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17			(内)ヨコナデ？ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい、砂粒多い	海綿骨針含む
32-9	C-88	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.3			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)黄灰色 (外)灰褐色	粒子細～中、堅い	
32-10	C-96	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	19.9			(内)ヨコナデ、指頭圧痕 (外)擬凹線	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	
32-11	C-123	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	18			(内)ヨコナデ？ (外)擬凹線	(内)(外)淡灰褐色	粒子細、もろい	海綿骨針含む
32-12	C-108	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.8			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	口径予測値
32-13	C-126	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	18.7			(内)ナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	煤付着
32-14	C-117	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.6			(内)不明 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い、1㎜程度の砂粒多く含む	海綿骨針含む
32-15	C-111	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	18.7			(内)ヨコナデ、指頭圧痕 (外)擬凹線	(内)(外)淡灰褐色	粒子細、もろい	
32-16	C-119	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	19.4			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	煤付着
32-17	C-115	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	18			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い、1㎜程度の砂粒多い	海綿骨針含む
33-18	C-109	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	19.8			(内)ヨコナデ、指頭圧痕 (外)擬凹線	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	口径予測値
33-19	C-107	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	18.8			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	口径予測値
33-20	C-118	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	21.2			(内)ハケ (外)擬凹線	(内)灰褐色 (外)赤灰色	1㎜前後の砂粒多く含む	
33-21	C-133	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	21.8			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい、砂粒入る	
33-22	C-87	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	25.2			(内)ハケ (外)擬凹線	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	
33-23	C-84	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	32.4			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
33-24	C-89	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	33.6			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)黄灰色 (外)赤灰色	粒子細～中、堅い	
33-25	C-98	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	29.2			(内)ヨコナデ、指頭圧痕 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	
33-26	C-1	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	34			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ、ハケ	(内)(外)黄灰色	2㎜前後の砂粒含む	煤付着
34-27	C-132	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	14.2	1.8	14.8	(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ、ハケ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	(外)炭化物付着、器高予測値
34-28	C-113	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	12.8			(内)不明 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	小型甕
34-29	C-120	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	14.1			(内)ハケ (外)不明	(内)(外)赤灰色	粒子細～中、堅い、1㎜前後の砂入る	海綿骨針含む
34-30	C-129	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	15.7			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ？	(内)(外)淡灰褐色		海綿骨針含む
34-31	C-100	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.2			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
34-32	C-130	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	14.8			(内)ナデ (外)ケズリ→ナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	海綿骨針含む

第４表　扇台出土土器観察表（４－２）

図No.	実No.	出土地点	層位	種別	器種	口径	底径	器高	調整	色調	胎土	備考
34-33	C-92	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.7			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)黄灰色 (外)淡灰褐色	粒子細、もろい	
34-34	C-39	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.7	3	21.8	(内)ヨコナデケズリ→ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	(外)煤付着
34-35	C-38	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	15.7			(内)ヨコナデ指頭圧痕 (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
35-36	C-86	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	10.8			(内)不明 (外)不明	(内)(外)淡灰褐色	粒子細、もろい	小型甕？
35-37	C-91	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	13.2			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	
35-38	C-128	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	鉢	13.9			(内)ヨコナデ (外)ハケ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	小型
35-39	C-97	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.7			(内)ヨコナデ (外)ハケ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	
35-40	C-57	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	5.1			(内)ケズリ、ナデ (外)ハケ	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	甕？底部
35-41	C-99	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器？			1.8		(内)ケズリ (外)ハケ	(内)黄灰色 (外)淡灰褐色	粒子細、堅い	底部
35-42	C-85	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	蓋？				(内)不明 (外)不明	(内)(外)淡灰褐色	粒子細、もろい	つまみ径５㎜
35-43	C-122	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	蓋	2.3	4.8	3.2	(内)指頭圧痕→ナデ (外)指頭圧痕→ナデ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	(外)一部黒斑あり
35-44	C-131	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	10.5			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	小型
35-45	C-74	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	17.3			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ？摩耗	(内)(外)淡灰褐色	粒子細、もろい	
35-46	C-90	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	13.6			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ→ミガキ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	
35-47	C-114	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	壺	14.8			(内)ナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い、１㎜前後の砂入る	
35-48	C-124	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	壺				(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	
35-49	C-104	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	壺	14			(内)ハケ痕、摩耗 (外)擬凹線？	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い、１㎜程度の砂粒目立つ	
35-50	C-116	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	甕	15.8			(内)不明 (外)不明	(内)(外)黄灰色	粒子細、１㎜程度の砂粒多く含む	
36-51	C-110	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	高坏	23.3			(内)不明 (外)不明指頭圧痕	(内)(外)淡灰褐色	粒子細、もろい	
36-52	C-106	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	高坏		12.2		(内)不明 (外)不明	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い、１㎜程度の砂粒含む	
36-53	C-105	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	高坏		12.5		(内)ヨコナデ (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
36-54	C-93	3トレ、SX01	黒色土層	弥生土器	台付壺底部		10.1		(内)不明 (外)不明	(内)(外)淡灰褐色	粒子細、もろい	
36-55	C-250	G-28	黒色土層	弥生土器	甕	15.6			(内)ヨコナデ (外)擬凹線？	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)炭化物付着
36-56	C-137	G-28	黒色土層	弥生土器	甕	17.8			(内)炭化物付着 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
36-57	C-59	G-27	黒色土層	弥生土器	甕	18.2			(内)ヨコナデ (外)擬凹線、ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
36-58	C-63	G-27、28	黒色土層	弥生土器	甕	23.5			(内)ヨコナデ (外)擬凹線、ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	口径予測値 (内)指頭圧痕
36-59	C-61	G-27	黒色土層	弥生土器	甕	17.2			(内)ヨコナデ (外)擬凹線、ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
36-60	C-68	G-27	黒色土層	弥生土器	甕	19.4			(内)不明 (外)擬凹線、ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	口径予測値
36-61	C-64	G-27	黒色土層	弥生土器	甕	17.6			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
36-62	C-58	G-27	黒色土層	弥生土器	甕	17.2			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
36-63	C-134	G-28	黒色土層	弥生土器	甕	30.4			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
36-64	C-46	G-27	黒色土層	弥生土器	甕	13.3			(内)不明 (外)擬凹線、ハケ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	

第4表　扇台出土土器観察表（4－3）

図No.	実No.	出土地点	層位	種別	器種	口径	底径	器高	調　整	色　調	胎　土	備　考
36-65	C-47	G-27	黒色土層	弥生土器	甕	15.4			(内)ヨコナデ、ナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
36-66	C-66	G-28	土器だまり	弥生土器	甕	14.9			(内)不明 (外)不明	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
36-67	C-48	G-28		弥生土器	甕	16.2			(内)剝離 (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い、長石入る	口径予測値
36-68	C-70	G-27	黒色土層	弥生土器	甕	17.4			(内)不明 (外)不明	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
36-69	C-40	G-27、28	黒色、シルト層	弥生土器	甕	18.6			(内)ヨコナデ (外)不明	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
37-70	C-65	G-26、27、28	黒色、シルト層	弥生土器	甕				(内)ナデ、ケズリ (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
37-71	C-67	G-27	黒色、シルト層	弥生土器	甕				(内)ナデ、ケズリ (外)ヨコナデ、ハケ？	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
37-72	C-62	G-27	黒色、シルト層	弥生土器	底部		2		(内)ナデ (外)ハケ	(内)灰褐色(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	海綿骨針含む
37-73	C-69	G-27	黒色土層	弥生土器	底部		1.9		(内)不明 (外)ハケ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
37-74	C-43	G-26	黒色土層	弥生土器	装飾器台				(内)不明 (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
37-75	C-60	G-27	黒色土層	弥生土器	器台か高坏	19.6			(内)ミガキ (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
37-76	C-136	G-28	黒色土層	弥生土器	高坏	23.8			(内)ミガキ (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	(内)炭化物？多く付着
37-77	C-71	G-26	黒色土層	弥生土器	高坏				(内)ナデ、ハケ (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
37-78	C-42	G-26、27、28	黒色土層	弥生土器	器台		12		(内)ナデ、ヨコナデ (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	海綿骨針入る
37-79	C-135	G-28	黒色土層	弥生土器	器台		13		(内)ハケ、ヨコナデ (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	2コ1対2ケ突孔
37-80	C-217	G-32、33	黒色土層	弥生土器	甕	16			(内)不明 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	(内)炭化物付着多(外)煤付着
37-81	C-216	G-32、33	黒色土層	弥生土器	甕	15			(内)不明 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	(内)炭化物多く付着
37-82	C-218	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	17.6			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
37-83	C-219	G-33	黒色土層	弥生土器	甕	18.6			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
37-84	C-220	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	18.9			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	(外)煤付着
37-85	C-209	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	18.1			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
37-86	C-213	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	19.4			(内)ヨコナデ (外)擬凹線、不明	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	(外)剝離、摩耗著しい
37-87	C-224	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	19	3	24.9	(内)ヨコナデナデハケケズリ (外)擬凹線ヨコナデハケ、ナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
38-88	C-207	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	16.8			(内)不明 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	1㎜程度の砂粒目立つ	(内)摩耗著しい
38-89	C-206	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	18.8			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
38-90	C-231	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	19.6			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い、1㎜程度の砂粒多く含む	(外)煤付着
38-91	C-205	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	19.8			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
38-92	C-141	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	18			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	(外)煤付着
38-93	C-223	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	18.6			(内)ヨコナデ、指頭圧痕 (外)擬凹線？	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
38-94	C-222	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	17.8			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	(内)摩耗著しい(外)煤付着
38-95	C-208	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	17			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	

第４表　扇台出土土器観察表（４－４）

図No	実No	出土地点	層位	種別	器種	口径	底径	器高	調整	色調	胎土	備考
38-96	C-212	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	15.8			(内)ヨコナデ、指頭圧痕 (外)ヨコナデ	(内)黄灰色(外)赤灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
38-97	C-215	G-32	黒色土層	弥生土器	甕	17			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
38-98	C-201	G-32	黒色土層	弥生土器	台付壺	12			(内)ミガキ (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	(外)赤彩、沈線
38-99	C-221	G-32	黒色土層	弥生土器	壺	14	2.9	24.6	(内)ヨコナデ、ナデ、ケズリ (外)ヨコナデ、ナデ、ハケ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	(外)黒斑、ヘラ痕
39-100	C-235	G-32	黒色土層	弥生土器	鉢	15.7			(内)ケズリ (外)ハケ	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	(内)(外)剝離、摩耗著しい
39-101	C-204	G-32	黒色土層	弥生土器	器台		13.8		(内)ナデ、ハケ指頭圧痕 (外)ケズリ、ミガキ、ハケ	(内)灰褐色 (外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
39-102	C-165	G、H-19 22	黒色土層	弥生土器	高坏				(内)ナデ、ハケ (外)ミガキ、ハケ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
39-103	C-160	E-10	黒色土層	弥生土器	甕	18.3			(内)ヨコナデ、ナデ、ハケ (外)ヨコナデ	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
39-104	C-183	I-12	黒色土層	弥生土器	甕	19			(内)ヨコナデ、ナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	(外)煤付着
39-105	C-236	I-12	黒色土層	弥生土器	甕	20.3			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)黄灰色 (外)灰褐色	粒子細～中、堅い	
39-106	C-234	I-12	黒色層	弥生土器	甕	20			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	
39-107	C-52	E-16、H-16	黒色層	弥生土器	甕	17.2			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	口径予測値
39-108	C-229	I-17	黒色層	弥生土器	甕	33.6			(内)不明 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	1㎜程度の砂粒多く含む	口径予測値
39-109	C-230	I-17	黒色層	弥生土器	甕				(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	
39-110	C-226	H-21	黒色層	弥生土器	甕				(内)ナデ (外)不明	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	
39-111	C-237	J-18、東壁	黒色層	弥生土器	甕	29			(内)不明 (外)擬凹線	(内)赤灰色 (外)黄灰色	1～1.5㎜程度の砂粒多く含む	口径予測値
39-112	C-233	H-14	黒色層	弥生土器	椀	9			(内)ナデ (外)ハケ？	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
39-113	C-29	P-11	黒色層	弥生土器		17.2			(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	(内)赤彩、口径予測値
40-114	C-28	H-18	黒色土	弥生土器	蓋		10	4.5	(内)ミガキ (外)ミガキ	(内)(外)淡灰褐色	粒子細～中、堅い	つまみ径2.3cm
40-115	C-142	第４次調査区	黒色土層	弥生土器	蓋	4.2			(内)ミガキ、ナデ (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	粒子細、堅い	
40-116	C-139	第４次調査区	黒色土層	弥生土器	甕	17			(内)ヨコナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	(外)煤付着
40-117	C-241	不明	黒色土層	弥生土器	甕	21.5			(内)不明 (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細、もろい	
40-118	C-73	G-23	黒色土層	弥生土器	甕	16.5			(内)ナデ (外)擬凹線	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	口径予測値 (外)煤付着
40-119	C-41	H-24	黒色土層	弥生土器	底部		8.4		(内)不明 (外)不明	(内)(外)黄灰色	1㎜程度の砂粒多く含む	
40-120	C-51	G-24	黒色土層	弥生土器	底部		8.2		(内)不明、剝離 (外)ミガキ？	(内)(外)黄灰色	粒子細～中、堅い	
40-121	C-50	G-24	黒色土層	弥生土器	底部		6		(内)不明 (外)ミガキ	(内)(外)黄灰色	1㎜程度の砂粒多く含む	
40-122	C-240	試掘	黒色土層	弥生土器	底部		6.9		(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)黄灰色(外)灰褐色	粒子細、もろい	
40-123	C-214	I-14	黒色土層	弥生土器	壺	13.6	6.9	28.9	(内)ヨコナデケズリナデハケ (外)ヨコナデ、ナデ、ハケ	(内)黄灰色 (外)灰褐色	粒子細、堅い	(内)赤彩(外)煤付着

第4表　扇台出土土器観察表（4－5）

図版	No.	実測No.	遺構・位置	器　種	口径a：底径b	色　　調	調　整	胎　土	備　考
41	1	7	SB01柱穴	土師器	a：14.1	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデ	脆弱	91
41	2	10	SB01柱穴	土師器		(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ナデ	粗砂混	91
41	3	9	SB01柱穴	土師器		(内)灰(外)灰	(内)横ナデ (外)ナデ	細砂	91
41	4	8	SB01柱穴	甕	a：20.4	(内)淡灰褐色(外)淡灰褐色		細砂	91
41	5	23	SB01柱穴	須恵器甕		(内)灰(外)オリーブ灰	(内)タタキ (外)タタキ	粗砂	91
41	6	30	SB01柱穴	土師器	a：10.9	(内)にぶい黄橙(外)灰黄褐	(内)横ナデ (外)不明	細砂	91
41	7	12	SB01柱穴	土師器甕		(内)にぶい黄橙(外)灰黄	(内)ナデ (外)タタキ	細砂	91
42	1	21	SB02柱穴	須恵器蓋	b：15.7	(内)明オリーブ灰(外)灰	(内)横ナデ (外)降灰	細砂	91
42	2	14	SB02柱穴	須恵器		(内)淡灰褐色(外)淡灰褐色	(内)タタキ (外)タタキ	細砂	91
42	3	20	SB02柱穴	土師器椀	a：15.1	(内)内黒(外)にぶい橙	(内)横ナデ (外)横ナデ	細砂	91、海綿骨針含む
42	4	21	SB02柱穴	土師片		(内)にぶい橙(外)にぶい橙	(内)横ナデ (外)横ナデ	細砂	91
42	5	25	SB02柱穴	土師甕		(内)にぶい橙(外)にぶい黄橙	(内)カキ目 (外)カキ目、タタキ	粗砂混	91
42	6	27	SB02柱穴	土師片		(内)灰黄(外)浅黄橙	(内)ナデ(外)ナデ	細砂	91
42	7	22	SB02柱穴	須恵器杯	b：11	(内)緑灰(外)緑灰	(内)横ナデナデ (外)横ナデ	細砂	91
42	8	19	SB02柱穴	土師器片		(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)不明	細砂	91、海綿骨針含む
42	9	33	SB02柱穴	須恵器片	a：17.5		(内)横ナデ (外)横ナデ	細砂	91
43	1	145	SB03柱穴	須恵器杯	a：12b：5.8	(内)灰白(外)灰	(内)横ナデ (外)横ナデ	粗砂	92
43	2	35	SB04.5.6	土師器椀	a：13.7	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデ	細砂	91、海綿骨針含む
43	3	37	SB04.5.6柱穴	土師器片		(内)灰黄(外)浅黄	(内)不明 (外)タタキ	細砂	91
43	4	36	SB04.5.6	土師器	b：5.6	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ナデ	細砂	91、海綿骨針含む
43	5	156	SB07	土師器甕	a：17.5b：6	(内)にぶい黄橙(外)浅黄橙	(内)カキ目 (外)カキ目ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
43	6	144	SD2002	土師器椀	b：6.5	(内)内黒(外)赤彩	(内)ミガキ (外)カキ目	細砂	92、海綿骨針含む
43	7	154	SB08	土師器底部	b：6.3	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ロクロナデ	細砂	92
43	8	143	SD2002	土師器底部	b：5.6	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ロクロナデ	細砂	92、海綿骨針含む
45	1	202	J-17	土師器杯	b：6.4	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)不明 (外)ナデ	粗砂混	92
45	2	164	F-17	土師器底部	b：5.1	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデ	細砂脆弱	92
45	3	11	J-16	土師器片	a：18.1	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
45	4	203	J-17	須恵器	b：11.0	(内)にぶい橙(外)にぶい橙	(内)横ナデナデ (外)ナデ	細砂	92
45	5	56	2トレP-62	須恵器	a：16.9	(内)灰(外)青灰	(内)横ナデ (外)横ナデ	粗砂混	91
45	6	54	2トレP-60	須恵器甕		(内)灰黄褐(外)にぶい黄橙	(内)不明 (外)タタキ	細砂	91
45	7	55	2トレP-61	須恵器甕		(内)にぶい黄橙(外)にぶい橙	(内)不明 (外)タタキ	粗砂混	91
45	8	163	F-16	土師器甕	a：20.5	(内)にぶい褐(外)にぶい黄橙	(内)横ナデナデ (外)横ナデナデ	粗砂混	92
45	9	162	F-17	古瀬戸	a：16.2	(内)灰白(外)明オリーブ灰		細砂	92
44	1	32	P-40	土師器椀	a：13.3	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデ	細砂	91

第４表　扇台出土土器観察表（４－６）

図版	No.	実測No.	遺構・位置	器　種	口径a：底径b	色　　調	調　整	胎　土	備　考
44	2	18	1トレD-12、P-64	土師器椀	a：12.0	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデ	細砂	91、海綿骨針含む
44	3	17	D-11、Pフクド	土師器	b：5.2	(内)淡黄(外)淡黄	(内)不明 (外)ナデ	粗砂混	91
44	4	2	1トレB-12	青磁片		(内)緑灰(外)明緑灰		細砂	91
44	5	3	B-14	須恵器甕		(内)灰(外)オリーブ灰	(内)タタキ (外)タタキ	粗砂混	91
44	6	16	P-24	土師器	a：22.3	(内)淡灰褐色(外)淡灰褐	(内)横ナデ (外)横ナデ	細砂	91
44	7	6	1トレC-14・15、P-11	土師器		(内)淡灰褐色(外)淡灰褐	(内)摩耗 (外)摩耗	細砂	91
44	8	31	1トレP-28	鉢底部	b：12.6	(内)淡灰褐色(外)淡灰褐	(内)横ナデ (外)ケズリ横ナデナデ	細砂	91
44	9	161	E-9	土師器	b：7.2	(内)浅黄橙(外)浅黄橙	(内)ナデ (外)横ナデ	細砂	92
44	10	4	B-15	青磁片		(内)灰(外)灰、灰白		細砂	91
44	11	53	1トレ東南壁	須恵器		(内)灰(外)灰	(内)タタキ (外)タタキ	細砂	91
47	1	169	H-13	須恵器	b：6.0	(内)灰白(外)灰	(内)横ナデ (外)横ナデ	粗砂混	92
47	2	172	H-13	須恵器	b：9.0	(内)灰白(外)灰白	(内)横ナデ (外)横ナデナデ	粗砂混	92
47	3	197	I-14	須恵器	b：7.9	(内)明オリーブ灰(外)灰	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
47	4	232	I.J-14	須恵器	a：12.2 b：6.8	(内)灰白(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92
47	5	198	I-14	須恵器	b：9.8	(内)灰白(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
47	6	189	I-14	須恵器	b：7.0	(内)灰白(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	粗砂混	92
47	7	168	H-12	須恵器	a：12.7 b：8.1	(内)灰白、灰(外)灰白	(内)横ナデ (外)横ナデ	粗砂混	92
47	8	171	H-13	須恵器	a：13.2 b：7.9	(内)灰(外)灰	(内)横ナデ (外)横ナデ	細砂	92
47	9	199	J-13	須恵器	a：12.8 b：7.8	(内)灰白(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
47	10	191	I-13	須恵器	a：12.6 b：8.2	(内)灰白(外)灰	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
47	11	184	I-14	須恵器	a：15.1 b：10.5	(内)灰(外)灰	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
47	12	153	H-14	須恵器	b：10.7	(内)浅黄橙(外)浅黄橙	(内)ナデ(外) 横ナデ	細砂	92
46	1	166	H-10	長胴甕	a：21.2	(内)灰褐(外)灰褐	(内)(外)横ナデナデ カキ目タタキ		92(外)煤付着
46	2	238	扇台小グランド	須恵器		(内)灰白(外)灰	(内)横ナデ (外)横ナデ	細砂	92
46	3	239	扇台小グランド	須恵器	b：6.3	(内)灰白(外)灰	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
46	4	138	G-28	須恵器蓋	b：14.5	(内)黄灰(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92
46	5	242		土師器底部	b：6.2	(内)黄灰(外)黄灰	(内)横ナデ (外)ナデ糸キリ	細砂	92
48	13	151	H-13	須恵器蓋	b：12.5	(内)灰白(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92
48	14	182	I-13	長頸瓶	a：16	(内)灰オリーブ(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	粗砂	92降灰
48	15	170	I-13	長頸瓶か	a：12.6	(内)灰白(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92降灰
48	16	181	H-13	須恵器口縁	a：31.1	(内)灰白(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92
48	17	190	I-13	須恵器瓶		(内)灰白(外)灰白	(内)ナデ (外)ナデ	細砂	92
48	18	195	I-14	土師器壺		(内)灰白(外)灰	(外)タタキ	細砂	92
48	19	195	I-14	横瓶		(内)灰白(外)灰	(内)不明 (外)タタキ	細砂	92

第4表　扇台出土土器観察表（4－7）

図版	No.	実測No.	遺構・位置	器　種	口径a：底径b	色　　調	調　整	胎　土	備　考
48	20	179	H-14	土師器杯	a：12.5b：7	(内)灰白(外)灰	(内)ナデ (外)ナデ	粗砂	92
48	21	176	H-14	土師器杯	a：13.5 b：7.8	(内)灰白(外)灰	(内)ナデ (外)ナデ	粗砂	92
48	22	187	I-13	土師器椀	a：13.8 b：5.4	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
48	23	155	H-14	土師器椀	a：13.8 b：6.0	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ロクロナデ	細砂	92、海綿骨針含む
48	24	200	I-14	土師器椀	a：12.4 b：5.6	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)不明	細砂	92、海綿骨針含む
48	25	177	H-14	土師器椀	a：17.8 b：7.0	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデケズリ痕	細砂	92、海綿骨針含む
48	26	167	H-12	土師器椀	a：17.0 b：6.9	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
48	27	196	I-14	土師器椀	a：13.1 b：5.5	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)不明	細砂	92、海綿骨針含む
48	28	188	I-13	土師器底部	b：4.6	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)不明	細砂	92、海綿骨針含む
48	29	173	H-13	土師器椀	b：5.2	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
48	30	150	I-13	土師器椀	a：22.9	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ナデケズリ	細砂	92、海綿骨針含む
49	31	186	I-13	土師器椀	b：5.7	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)不明 (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
49	32	174	H-13	土師器	b：5.7	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)横ナデ	細砂	92
49	33	185	I-13	土師器	b：5.9	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ナデ	細砂	92、海綿骨針含む
49	34	192	I-13	土師器	b：6.4	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ナデ	細砂	92
49	35	151	H-13.14	土師器	a：14.0 b：6.5	(内)内黒(外)浅黄橙	(内)ミガキ (外)ナデ	粗砂混	92
49	36	148	I-14	土師器甕	a：18.6	(内)赤灰(外)赤灰	(内)カキ目 (外)カキ目	粗砂混	92
49	37	147	I-14	土師器甕	a：17.3	(内)浅黄橙(外)浅黄橙		粗砂混	92
49	38	152	H-13	土師器甕	a：12.4	(内)浅黄橙(外)にぶい橙	(内)ナデ (外)ナデ	粗砂混	92
49	39	180	H-14	土師器	a：17.7	(内)灰黄褐(外)にぶい黄橙	(内)横ナデ (外)不明	細砂	92
49	40	149	I-14	土師器甕		(内)浅黄橙(外)灰褐	(内)カキ目 (外)カキ目タタキ	粗砂混	92
49	41	146	H-14	土師器椀	b：5.4	(内)浅黄橙(外)浅黄橙	(内)ナデカキ目 (外)ナデ糸切り	粗砂混	92
49	43	193	I-13	土師器	b：7.0	(内)浅黄橙(外)灰黄褐	(内)ナデ (外)ナデ	粗砂混	92
49	44	194	I-13	土師器	b：7.0	(内)浅黄橙(外)浅黄橙	(内)ナデ (外)横ナデ	粗砂混	92
49	45	178	H-14	土師器鍋	a：38.0	(内)橙(外)橙	(内)ナデ (外)横ナデ	粗砂混	92

第５節　小　結

今回の調査及び平成４・５年度に金沢市教育委員会が実施した調査成果（増山　仁『金沢市扇台遺跡』金沢市教育委員会　1994）と合わせて本遺跡の特色を概述したい。

確認された時期としては、縄文時代から中世の時期幅を確認したが、中心をなすのは弥生時代終末期・平安時代10世紀前半・中世の各時期で、出土遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品である。

弥生時代終末期では、G・H－28・29区・SX01、G－32・33区にて、弥生土器の集中出土が認められた。これは東方向の微高地からの一括廃棄的出土状態を示すものと思われ、集落本体はおそらく東に求められよう。また、K区以東においての市教委調査区（第３次調査区）にて、竪穴住居跡１棟、土坑２基、コの字状に巡る溝で小竪穴の可能性をもつもの１条を検出している。この竪穴住居跡は、3.4×3.8m、深さ0.3～0.4mを測り、幅0.2～0.3m、深さ0.1m前後の壁溝をもち、ややいびつな隅丸方形を呈する。西側の本調査区においては、弥生時代の遺構は認められなかったことより、市教委調査区以東に中心を置くものと想定される。

古代では平安時代10世紀前半を中心として、古代第１から３期の３時期を確認した。

古代第１期では、B～E－10～18区にて検出された畝溝状遺構群があたる。畝溝は南北方向と東西方向の２時期があり、後者の方が新しい。

古代第２期では、掘立柱建物を中心とした集落跡が検出された。３間×２間に庇が１間付いた掘立柱建物（SB１）を中心とし、その北側に２間×２間（SB２）、東面に３間×２間（SB３）を、更に東南に倉庫（SB４・５・６）が位置する掘立柱建物の配置構造が明かとなった。

各々の機能区分を想定するならば、SB１を主屋、SB２を副屋１、SB３を副屋２、SB４・５・６は倉庫機能と考えられ、隣接して畑作を行っていたことを想起させる。但し、その北東に位置する３間×１間以上の掘立柱建物（SB７）はこれら建物群より主軸方位等の違いにより若干新しい可能性が指摘できる。

また、この検出された建物群の性格としては、収穫物を収納するであろう倉庫機能を持つことにより、自立した集団の居住域と考えておきたい。

古代第３期では、総柱掘立建物２棟を検出している。４間×２間（SB８）を中心とし、１間×１間（SB９）を小作業空間と想定される。

中世には本調査区・市教委調査区にて検出された土坑１基の他、市教委調査区において、２間×３間で南側と西側に庇をもつ総柱掘立建物（市SB１）などが認められる。

市SB１は南側の庇は全面ではなく、東側の１間には庇がみられない。また、南東隅には土坑（市SK06）が認められ、大きさは2.2×２m、深さ0.05mでほぼ正方形を呈するものであり、掘立柱建物に付随する小竪穴跡の可能性がある。

以上、各時期における遺跡の展開をみてきたが、特に古代においては、建物方位がほぼ真北を主軸とすることから、ある程度の規格･計画的建物配置が認められる点が注目される。同様に本遺跡の下流約0.2kmに位置する扇が丘ハワイゴク遺跡でも、ほぼ同時期の10世紀前後の段階に、同軸方位をとる建物・溝が検出されており、殊に建物は２間×２間四面庇付掘立柱建物で「お堂」的施設と想定されるものである（木立雅朗・端　猛『扇が丘ハワイゴク遺跡』石川県立埋蔵文化財センター　1995）。また、時代は11世紀後半と下がるものの約0.8km上流に位置する大額キョウデン遺跡においてもほぼ同軸の方位をとる溝も検出されている。田嶋明人氏＊によれば、本遺跡周辺は実態は不分明としながら、古代を通じて間断なく遺跡が営まれた拠点的地域と想定されており、これらの調査は、高橋川流域における土地・建物規制等を考える上で貴重な資料を得ることができたと思われる。

＊　氏は手取扇状地における遺跡の消長を数遺跡を包括した小領域単位「遺跡ブロック」で整理し、小領域間の連鎖を考えることで、遺跡の動態をより構造的に把握することを主眼とし考察されている。大額･馬替地区周辺は富樫用水系遺跡群の中流域Bブロックとして捉えている（「手取扇状地にみる古代遺跡の動態」『東大寺領域横江庄遺跡II』松任市教育委員会　1996）。

第４章　大額キョウデン遺跡

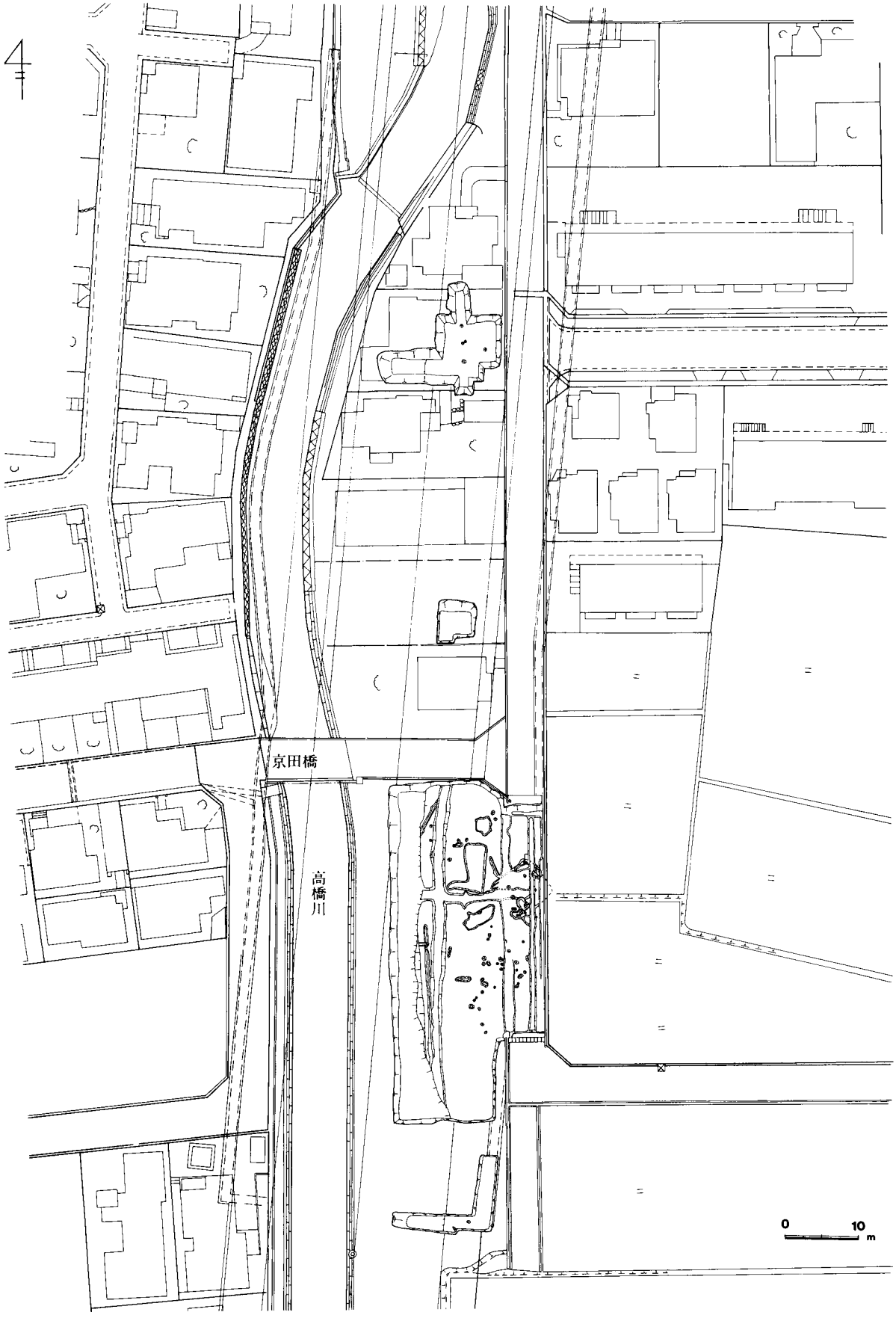
第１節　調査の経過

現地発掘調査の範囲は、当初試掘調査の結果から900㎡と試算されたが、調査中遺構の中で一番多く遺物を包含する溝が南北に継続が見込まれたため拡張することとなり、南北にトレンチ状に離れて調査区を設定した。北トレンチ・南トレンチ調査区と名付けて最終的には1,200㎡を発掘調査した。平成5年6月21日より調査が行われ、同9月18日の現地説明会を経て平成5年9月27日に調査は終了した。

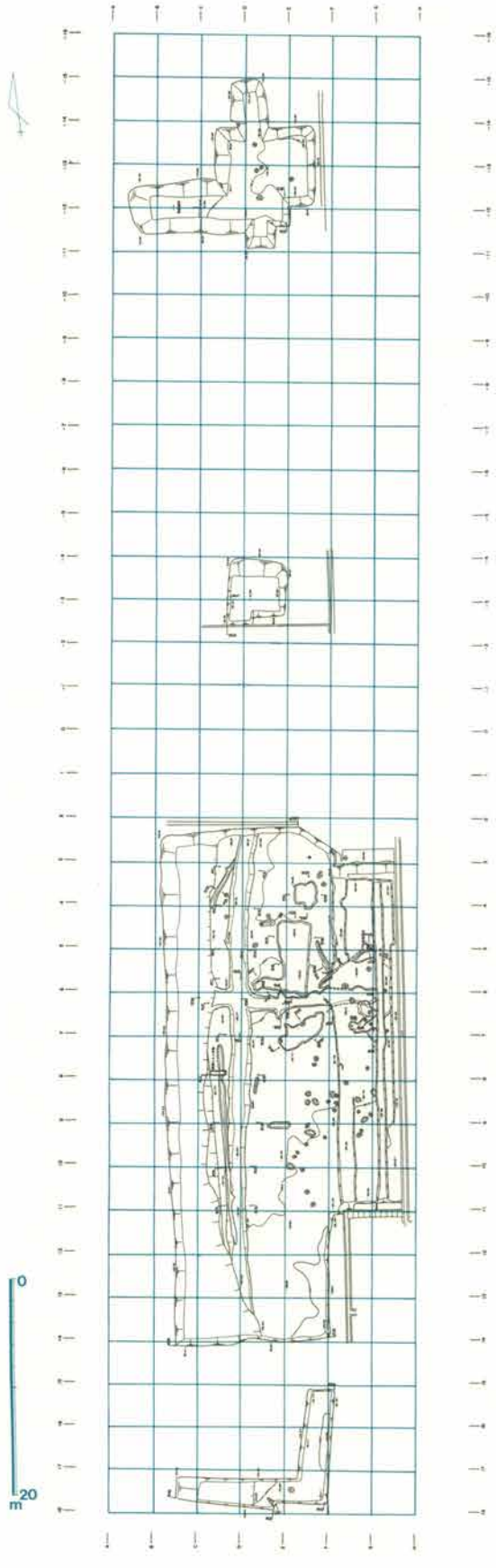
発掘日誌（抄）

平成５年

６月21日(木)～24日(月)		
	晴のち雨	重機による掘削・表土剝ぎ作業。
６月25日(金)	晴	草刈り作業。
６月28日(月)～30日(水)		
	曇、雨	溝作り。断面精査、杭打ち作業。
７月１日(火)～６日(火)		
	晴	２ｂ層掘り下げ、調査区基準杭杭打ち。北面断面図作成。
７月７日(水)	晴	３層上面遺構検出作業（未完）。
７月８日(木)	晴	３層上面遺構検出作業（完了）。３層上面写真撮影。
７月９日(金)	曇	SD01掘り下げ開始。SD03掘り下げ完了。
７月15日(木)～16日(金)		
	曇のち晴	SD01掘り下げ。SX01・SX02・SD04掘り下げ。SD04掘り下げ完了。
７月19日(月)	曇	SD01掘り下げ。SX01・SX02・SD05掘り下完了。SX01断面実測。
７月20日(火)	晴	SD01掘り下げ続行。SD03・SD05断面実測完了
７月21日(水)	雲	SD01掘り下げ（８ラインまで完了）。SD021・２層堀下げ。断面実測。
７月22日(木)	曇	SD02掘り下げ完了。SD02写真撮影。SD04平面実測（未完）３層上面レベル測定。
７月23日(金)	晴	SD04平面実測（完了）３層上面掘り下げ。
７月26日(月)・28日(水)		
	晴	SD01掘り下げ継続。SD01、SD02平面実測拡張区重機による表土剝ぎ。
７月30日(金)	雨のち曇	調査区略図作成。３層上面掘り下げ継続。
８月２日(月)	晴	平面実測SD05・SD02・SD01。拡張区バラス・砂あげ。
８月３日(火)	曇時々雨	拡張区掘り下げ続行。
８月５日(木)	晴	初任者研修約50名の新任教師と多数の報道陣来訪のため現場騒然。拡張区の３層上面少し掘り下げ。
８月６日(金)～９日(月)		
	晴	拡張区の３層上面掘り下げ続行。南側は遺構密度低いと判明。
８月19日(木)	曇時々雨	拡張区基準杭杭打ち。
８月23日(月)	曇	３層土器出土状況写真撮影。
８月24日(火)	晴	SD01断面実測。３層土器出土状況実測開始。南北トレンチ重機による表土掘削。
８月26日(木)～31日(火)		
	晴	３層土器実測継続、土器取り上げ開始。３層掘り下げ継続。
９月１日(水)	晴	北トレンチ断面精査削り。
９月２日(木)	晴	北トレンチ断面図作成。北トレンチ平面図作成いずれも完了。北トレンチ重機にて拡張。
９月６日(月)	晴	南トレンチ重機にて拡張。
９月７日(火)	曇時々雨	SK01、SX04の断面図作成。
９月11日(土)	晴	南トレンチ掘り下げ完了。
９月14日(火)	曇時々雨	北トレンチ重機にて拡張完了。
９月16日(木)	晴	ラジコンにて航空測量。
９月17日(金)	曇	北トレンチ断面図作成。
９月18日(土)	曇	現地説明会。約60名参加。
９月20日(月)～21日(火)		
	晴	南トレンチ内遺構平面図・プレハブ横トレンチ柱状断面図作成いずれも完了。
９月22日(水)	曇	機材撤収。
９月27日(水)	晴	高橋川川幅拡張工事立合い調査。現地調査終了。



第50図　大額キョウデン遺跡調査区位置図（Ｓ＝1/750）



第51図　大額キョウデン遺跡調査区グリッド図（S＝1/600）

第2節　調査区の位置と地区割り

本調査区は、金沢市大額1丁目地内に位置し、伏見・高橋川の流路脇に所在する。調査区は南北に細長い調査区と、東に拡張区を設け、遺構SD01の伸びの確認のために、調査区とした北トレンチ・南トレンチよりなる約1,200㎡の調査区である。調査区区割りは、調査区の線形にあわせて、任意に4mグリッドを設定し北西杭を基準杭として進めた。当初トレンチの調査区がなかったため、南北方向に0～15の数字を、東西方向にアルファベットA～Gをあてたが、トレンチを拡張したため－18（マイナス18）～＋18まで南北方向に36区画の数字をふった区割りとなった。キョウデンは、当遺跡字から付けたが、当調査区の字はヨノキマチであったことが後日判明した。

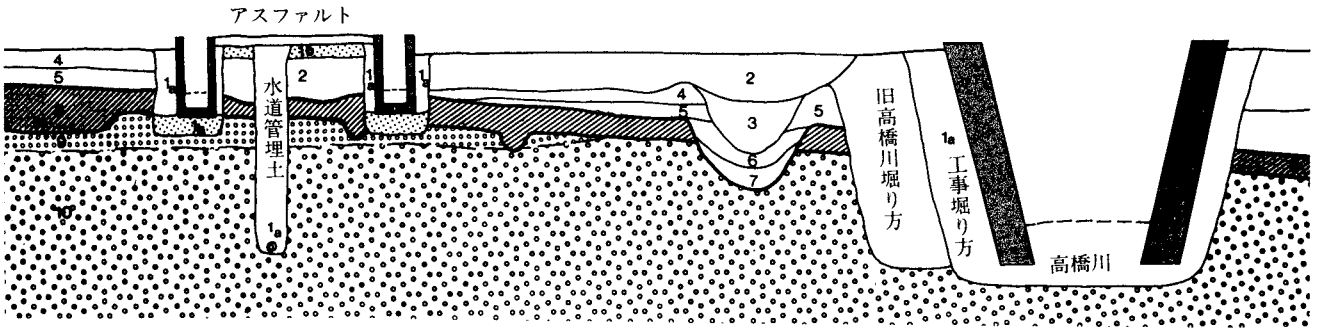
第3節　基本土層

大額キョウデン遺跡の地所は調査前は、一部宅地一部道路であり、20数年前までは水田地であった。河川及び道路を敷設するにあったって、盛土がなされ水道ガス等様々な配管のための掘削等の工事がされていた。

1から3層が、上述による昭和に入ってからの造成に起因する工事盛土の層位である。Ⅰ層は、旧耕作土、Ⅱ層は旧床土である。Ⅱ層は古代末から中世の包含層にもあたり、調査区の一部で分層している。Ⅲ層は、本調査の総遺物量の7・8割を占める弥生・古墳時代の遺物包含層である。Ⅳ層はいわゆる地山層であり、Ⅳb層は手取川扇状地の形成に起因する河川堆積の礫層である。

基本土層土色

1層　工事掘方
2層　バラス（角礫アスファルト下）
3層　青灰色シルト砂質ブロック（混合層盛土）
4層　淡黒灰色シルト（SD01上層）
5層　青灰色シルト層（Ⅰ層）
6層　褐灰色シルト層（Ⅱ層）
7層　暗灰色シルト層（SD01中層）
8層　灰色シルト質細砂（SD01下層）
9層　黒褐色シルト層（Ⅲ層）
10層　黄灰色砂層（Ⅳa層）
11層　灰色砂礫層（Ⅳb層）



基本土層
1層　工事掘方
2層　バラス（角硬アスファルト下）
3層　青灰色シルト砂質ブロック（混合層盛土）
4層　淡黒灰色シルト（SD01上層）
5層　青灰色シルト肩（１層）
6層　褐灰色シルト層（II層）
7層　暗灰色シルト層（SD01中層）
8層　灰色シルト質細砂（SD01下層）
9層　黒褐色シルト層（III層）
10層　黄灰色砂層（IVa層）
11層　灰色砂礫層（IVb層）

第52図　大額キョウデン遺跡基本土層略図

第４節　遺　構

大額キョウデン遺跡の現地発掘調査では、弥生時代～古墳時代の遺構と平安末の遺構及び中・近世の遺構が確認された。

1　弥生・古墳時代の遺構

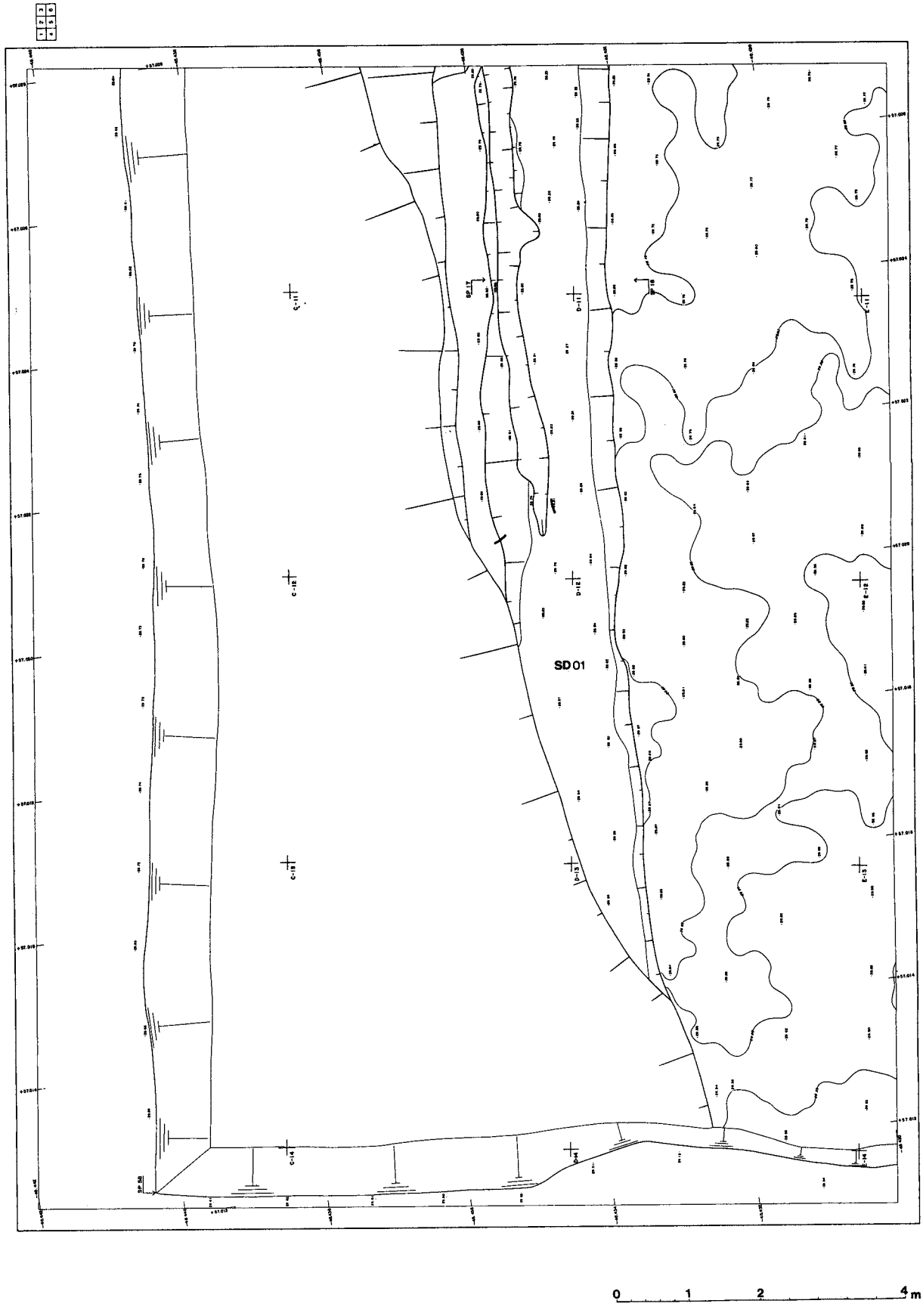
a　竪穴建物　ＳＩ01（第63図）

調査区西端に位置する竪穴建物。調査区の西側に接して存在した道路下に当たる拡張区に位置し、Ｆ－５区、Ｆ－６区、Ｇ－５区、Ｇ－６区、一部Ｅ－５区に当たる。遺構の東端はＳＤ02が東西方向に幅１m～1.6m、長さ５mにわたり重複している。道路下の昭和の水道管・ガス管埋設工事によりほぼ南北方向に切られる。ＳＫ02の土坑とも重複がＦ・Ｇ－６区でみられた。ＳＩ01は正方形に近い隅丸方形であり、主軸方位はＮ－61°－Ｅである。検出面より約10cm下で床面を確認した、床面は砂質シルトであった。長径約6.7m、短径約6.1m、面積約40㎡を測る中規模の住居であると想定できるが、遺構の東端は調査区外で未調査であるが２割ほどは現水田下になっている。SK02が南東壁ぎわに位置している。長径60cm、短径50cm、深さ40cmの柱穴を含め柱穴は３穴確認されているが、４本柱を持つ住居である。他のピットも検出されたが、造り替えは、確認できなかった。壁溝、周溝、炉跡等も確認できなかった。住居の覆土は３層黒褐色シルト層が主である。床面上20cmのレベルからはＳＸ03につながる土器群を出土している。北コーナーからは、当遺跡で他に未検出の白色の粘土塊の出土も認められた。出土遺物の大半が床面レベル20cm上の28.8mよりの出土であった。住居プラン等より、ＳＩ01は弥生後期後半の竪穴住居と想定される。

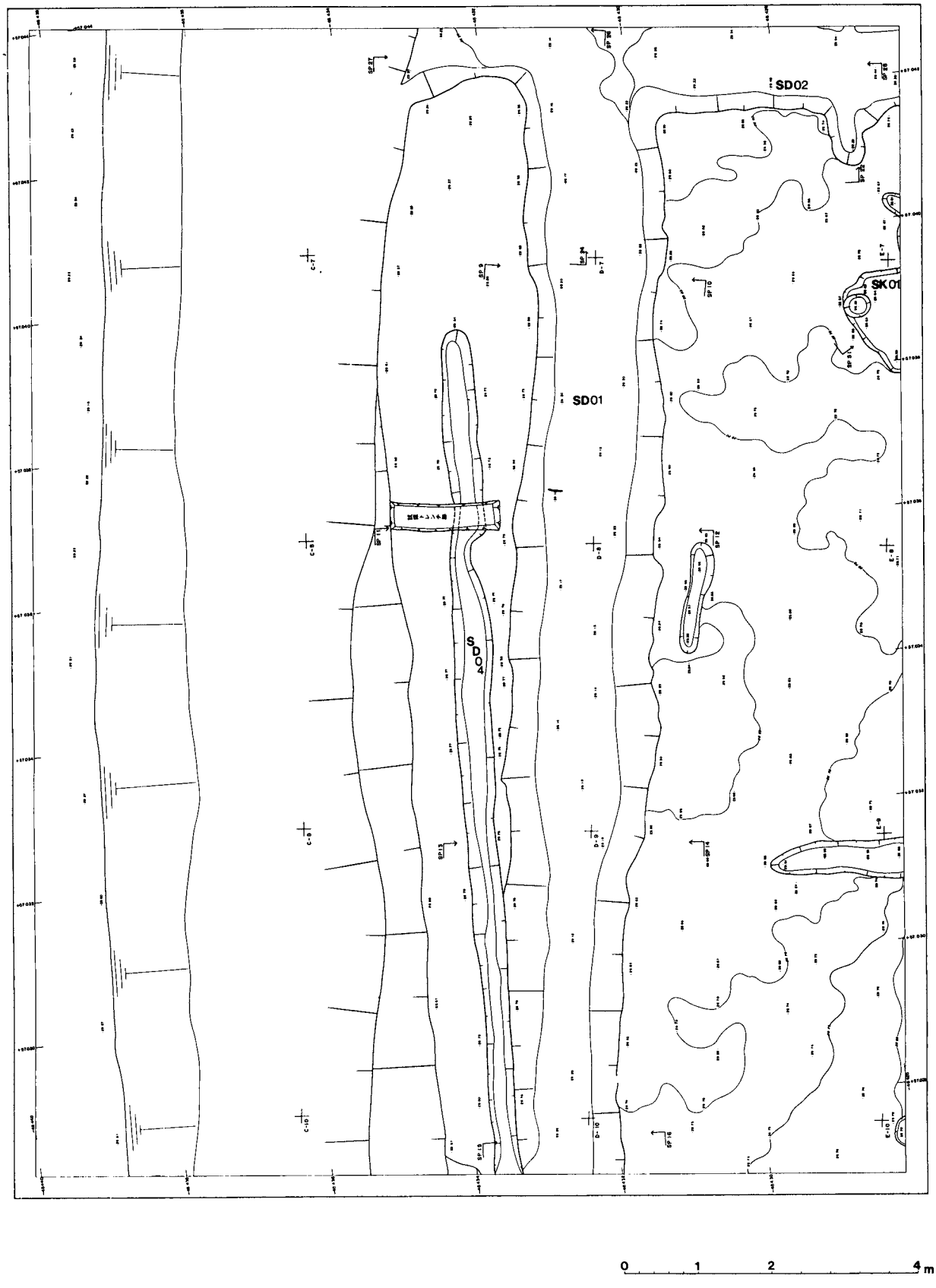
b　土坑

・ＳＫ01（第66図）

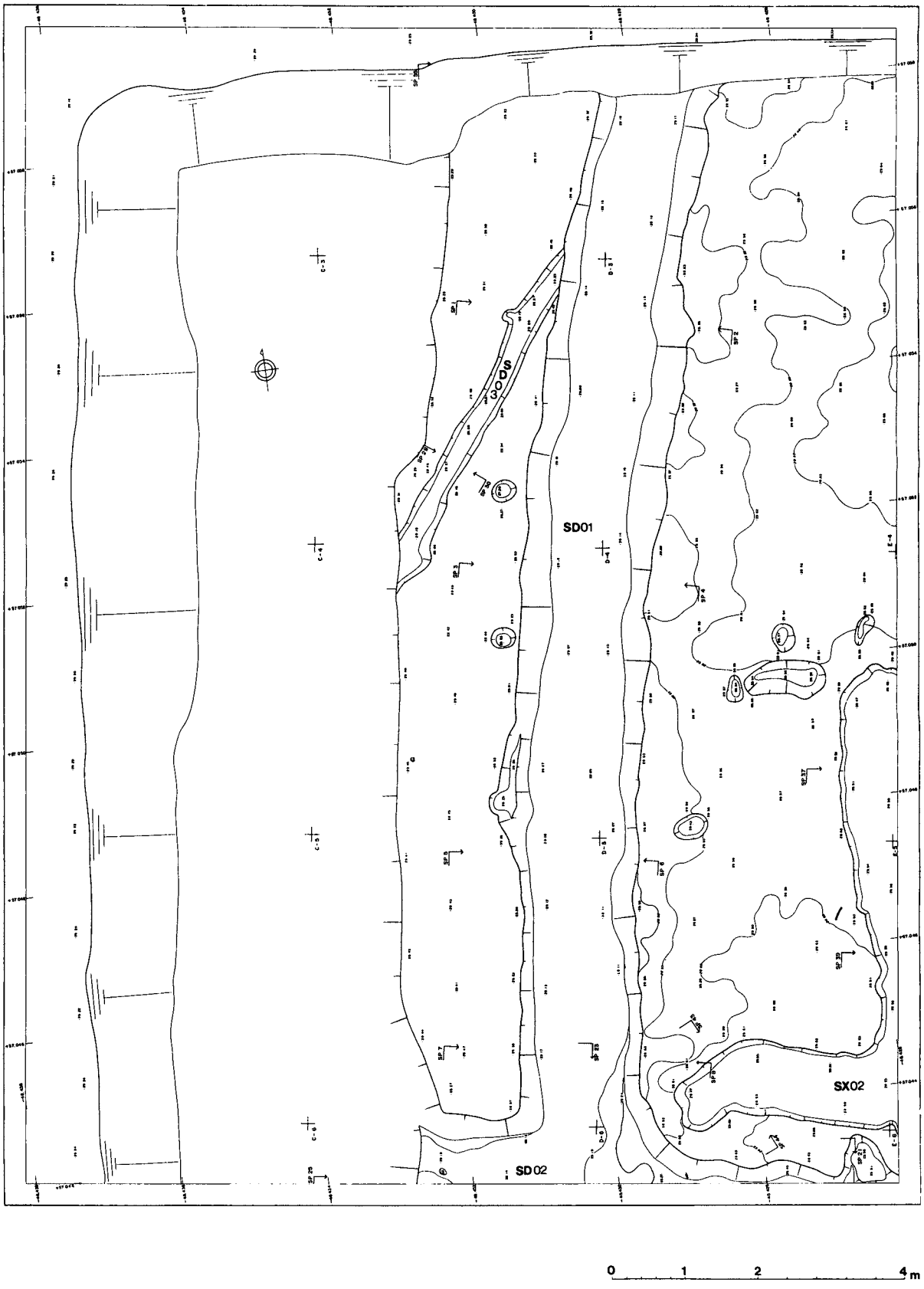
本調査区のほぼ中央、Ｅ－６区、Ｅ－７区、一部Ｄ－７区にまたがって位置する土坑である。主軸方位はＮ－60°－Ｅで、住居跡ＳＩ01とほぼ同方位である。長径５m、短径1.7m深さ10cmであった。面積は、ほぼ９㎡を測る。他の遺構との重複はない。北方向には直線的な外形をなし、南方向は、弧状を呈する。３層上面の検出面で、下層４層からの礫の突出、遺物の散乱等のため不定形なプランとなったが形状はほぼ楕円形である。覆土は、３層黒褐色シルト層である。土器以外の出土遺物はない。遺物は、小型丸底壷が出土した付近に集中出土した。一部



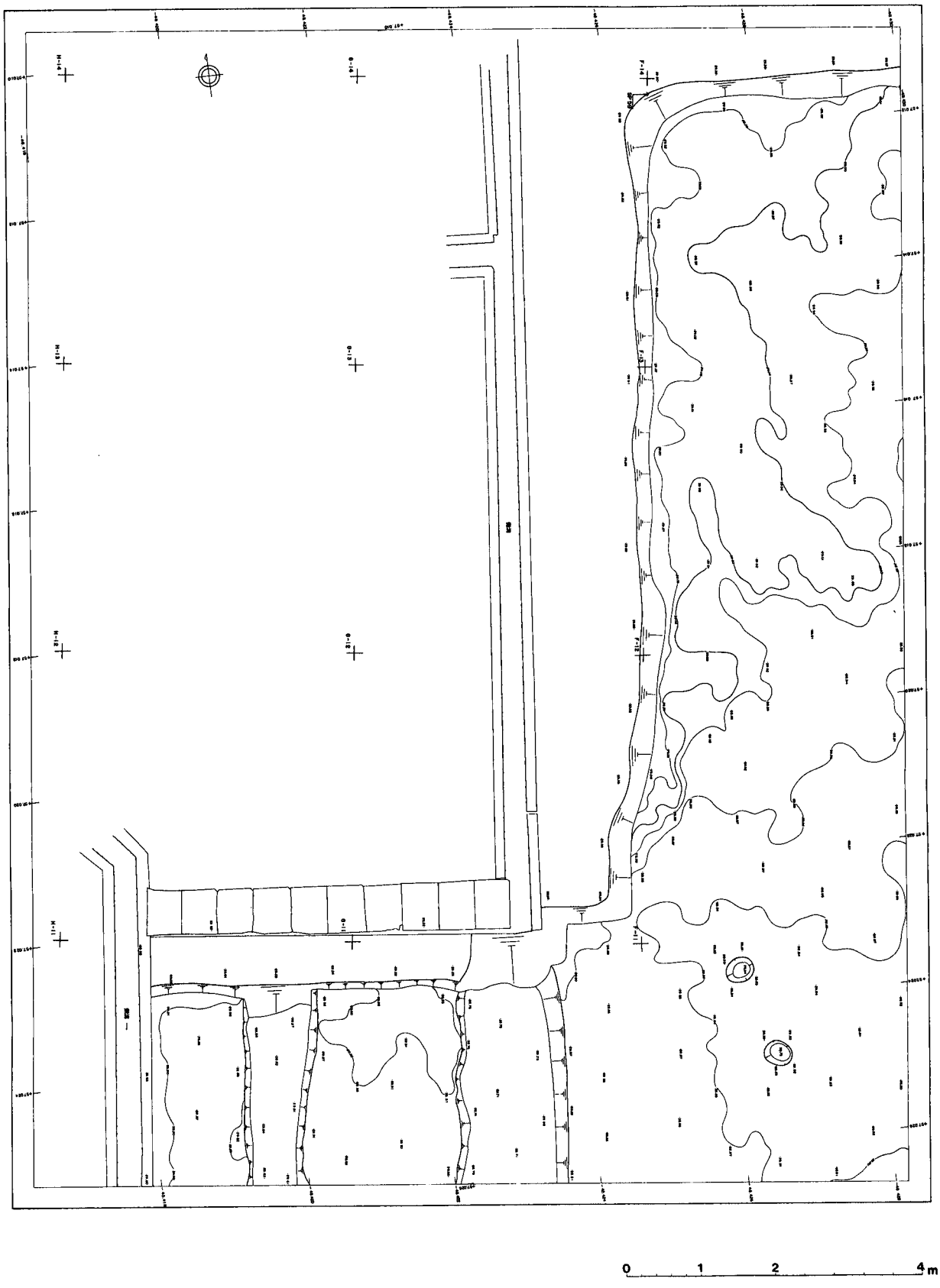
第53図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅰ（S＝1/80）



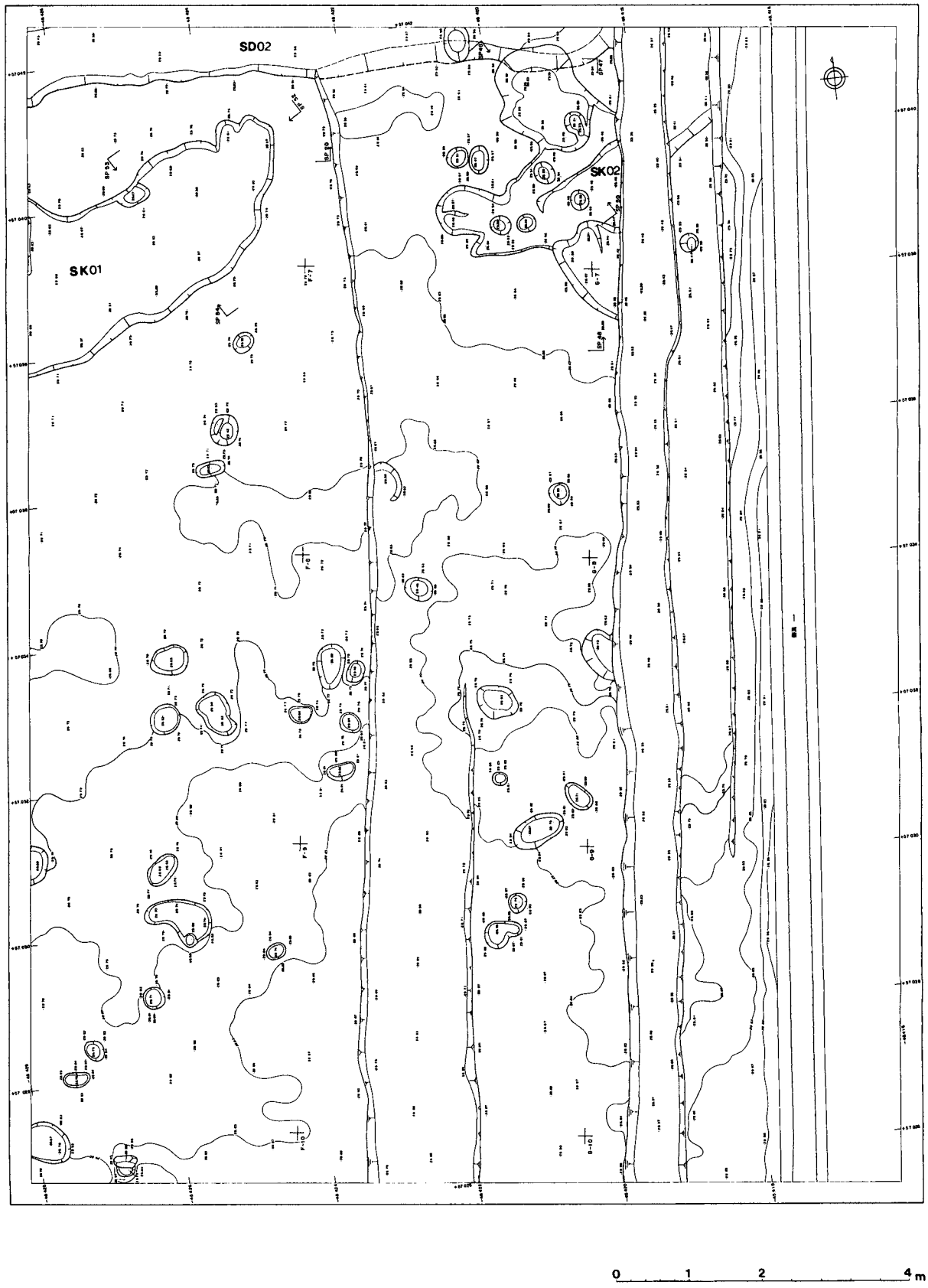
第54図　大額キョウデン遺跡調査区平面図II（S＝1/80）



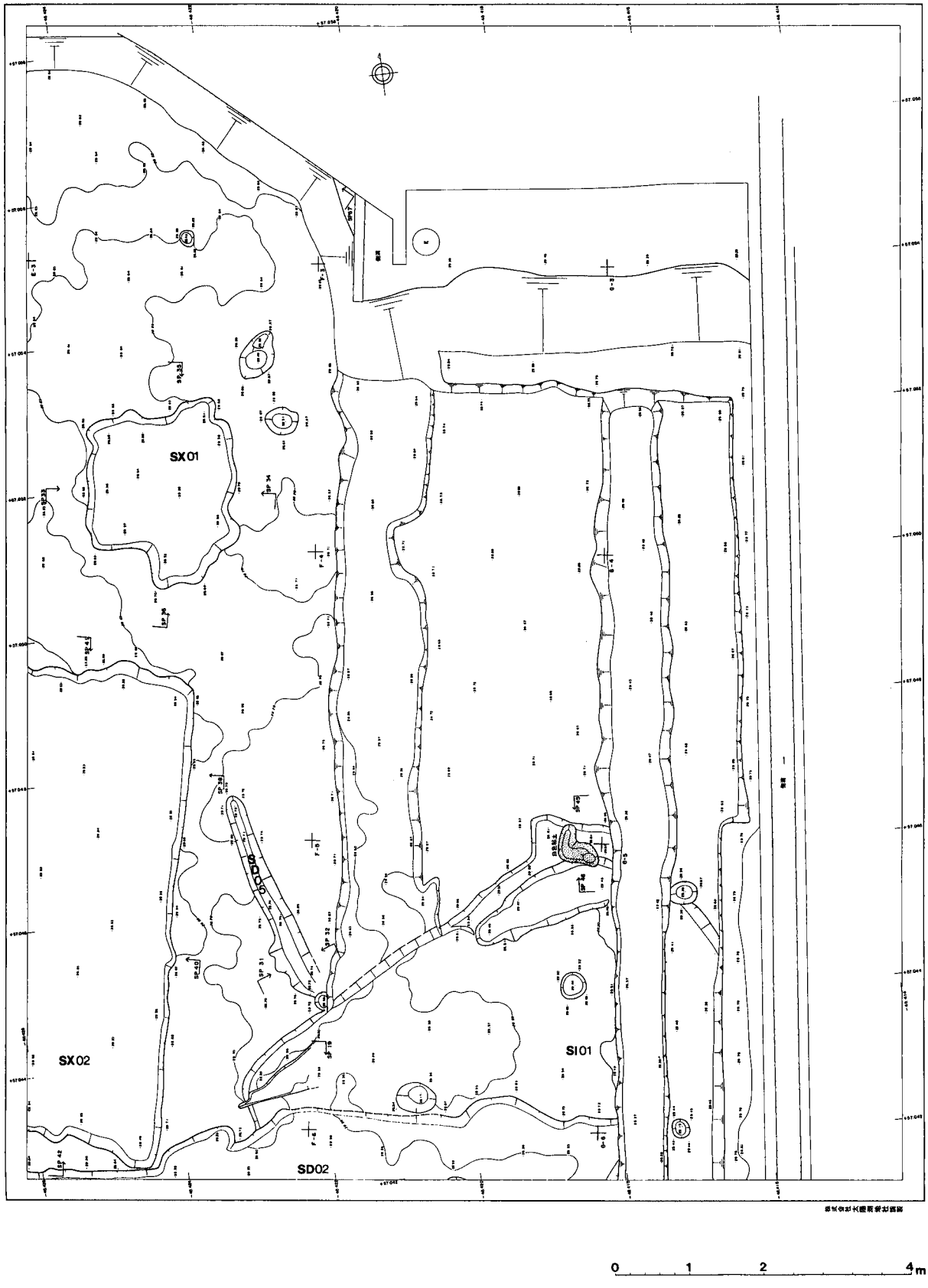
第55図　大額キョウデン遺跡調査区平面図III（S＝1/80）



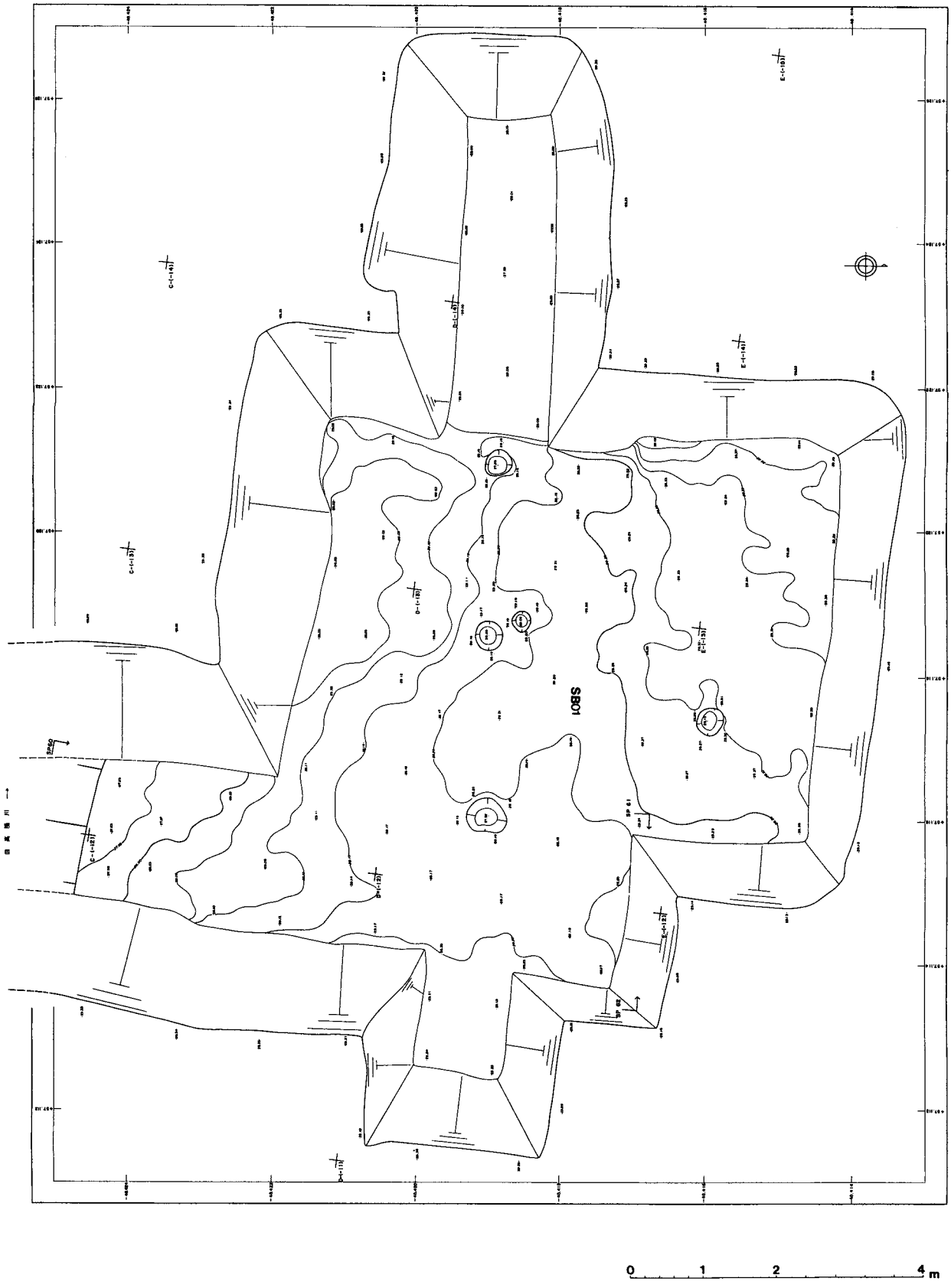
第56図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅳ（Ｓ＝1/80）



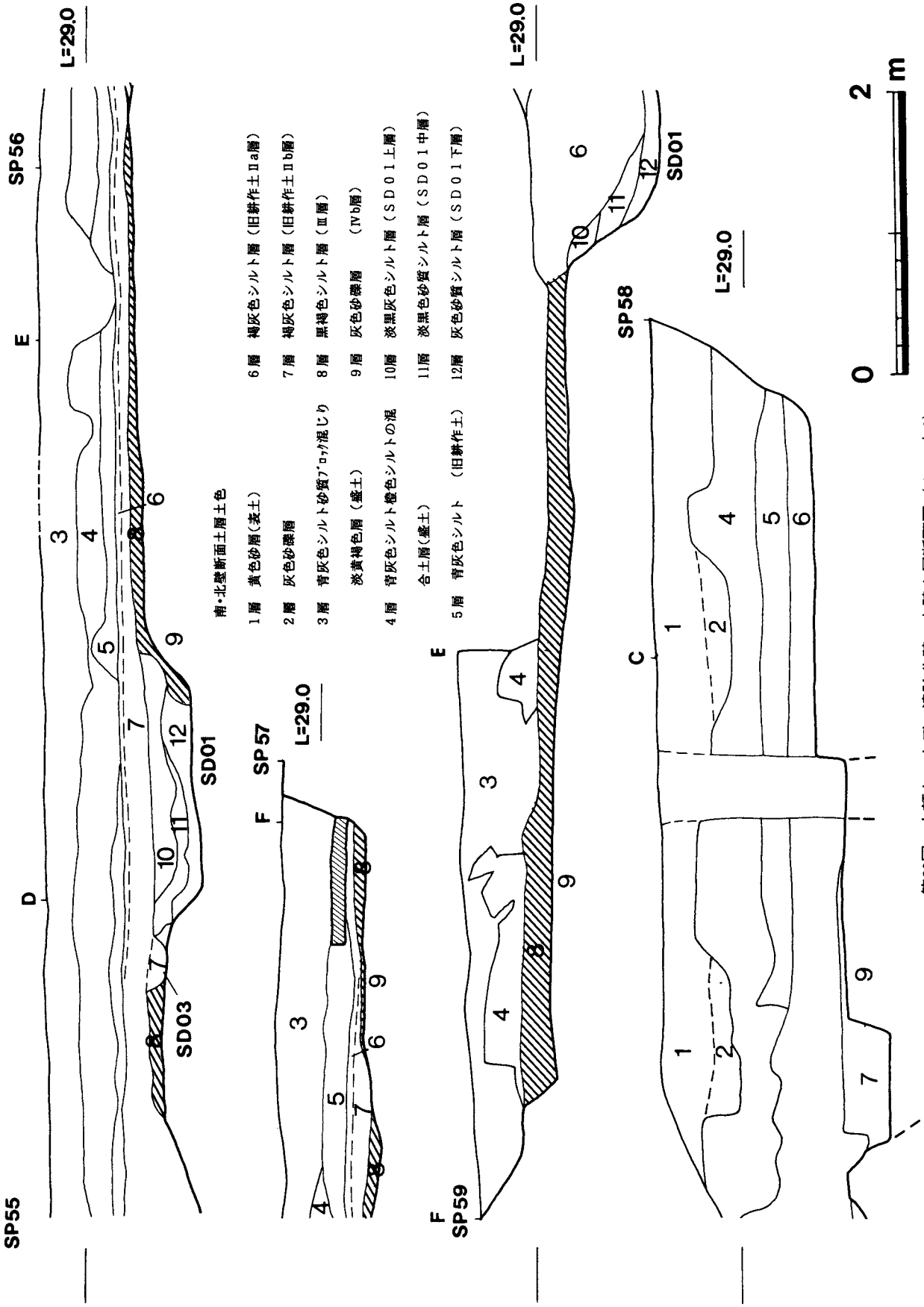
第57図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅴ（S＝1/80）



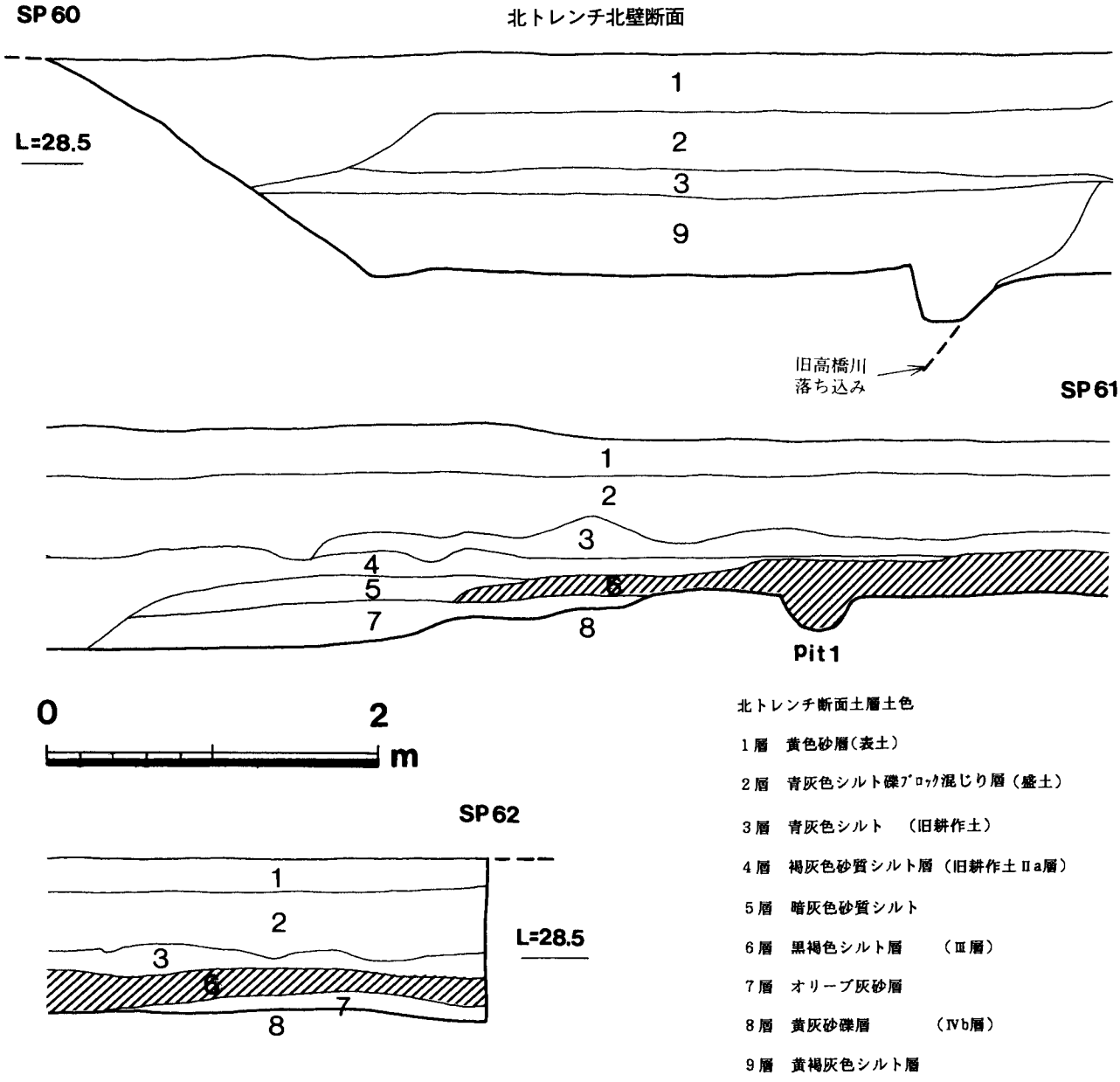
第58図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅵ（Ｓ＝1/80）



第59図　大額キョウデン遺跡調査区平面図Ⅶ（S＝1/80）



第60図　大額キョウデン遺跡北壁・南壁土層断面図（S＝1/40）



第61図　大額キョウデン遺跡北トレンチ北壁土層図（S＝1/40）

折り重って出土した遺物を3層下層遺物とした。古墳時代高畠式期の遺構に比定される。

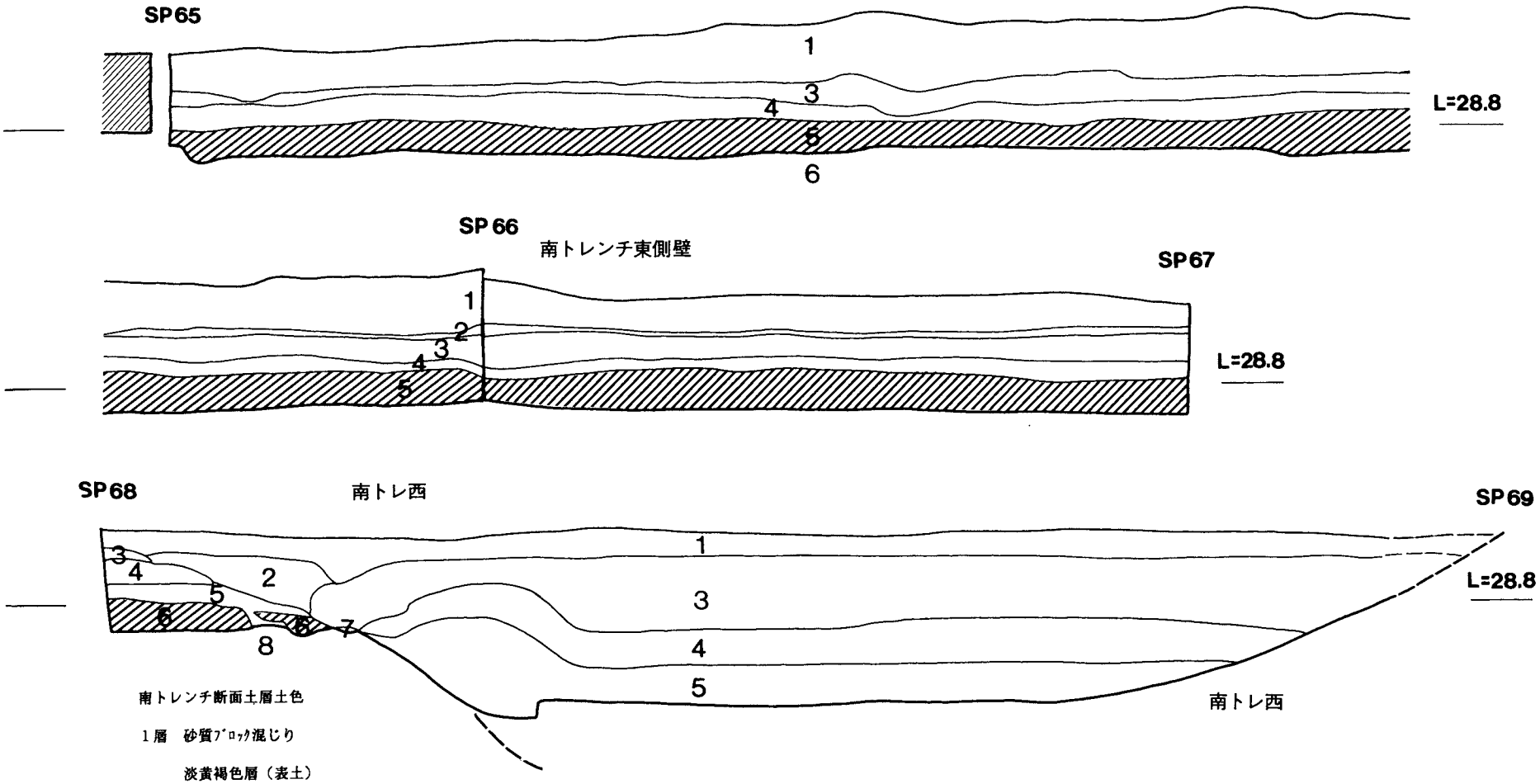
・SK02（第66図）

大半がSI01と重複する土坑であり、F・G－6区に位置する。不定形なプランである。深さは、10cmと浅い。検出面までが道路敷設等により削平されている。F－6区で一部SD02との重複が見られ、覆土の混じり込み等も多少考えられる。1遺構でなく重複の可能性が大きいが、切り合いの確認ができなかったため1土坑とした。遺構内からは、多数の炭化物と弥生時代の後期後半の土器が出土している。

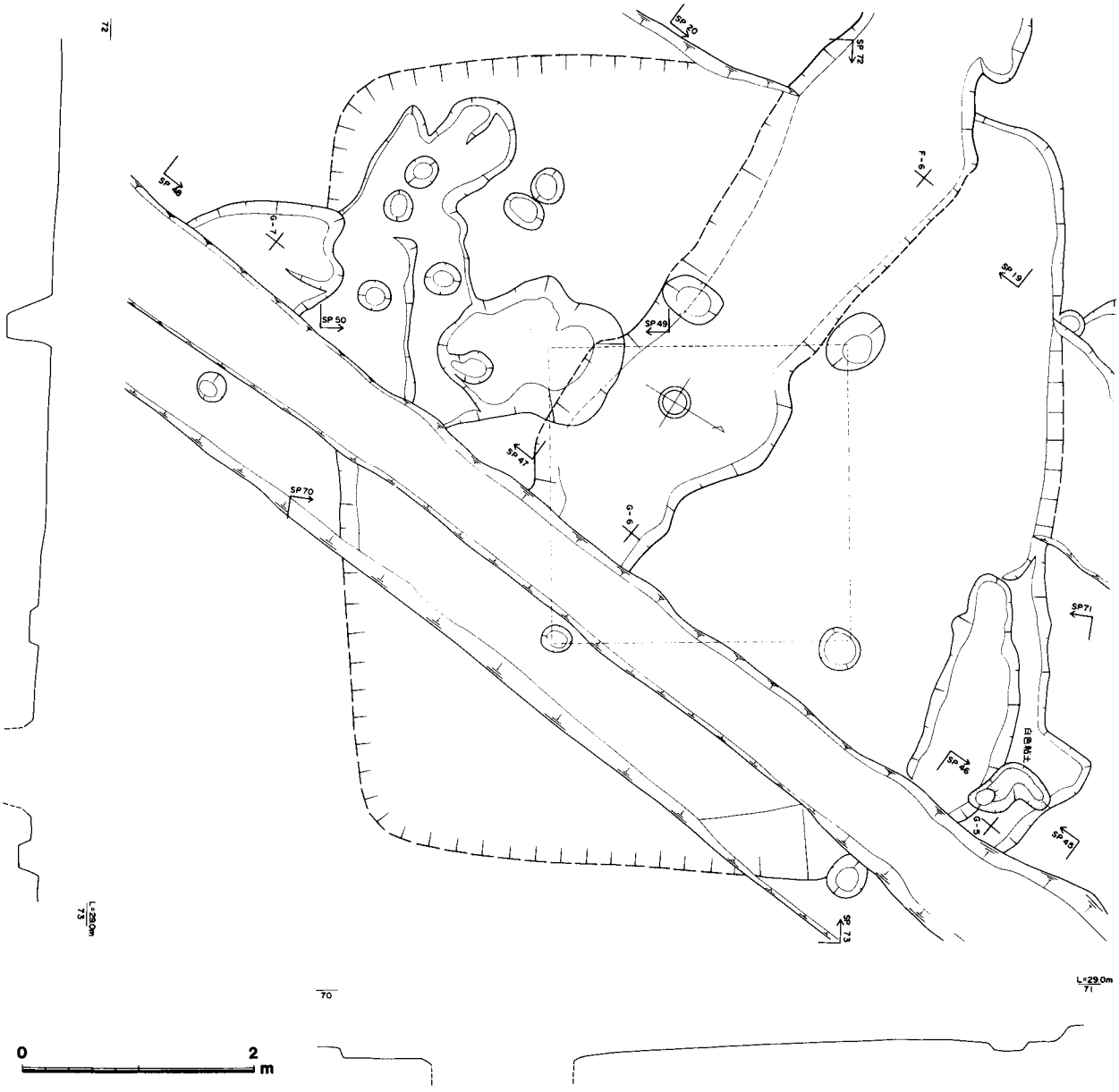
2　古代末・中世の遺構

a　掘立柱建物（第59図）

北トレンチより、南北方向に並ぶ3個の柱穴を確認している。2間×1間の掘立柱建物で、主軸は、N－88°－Wであり、南北方向に伸びが予測される。柱状高台の土師器小皿等を出土している。



第62図 大額キョウデン遺跡南トレンチ東南壁土層図（S＝1/40）

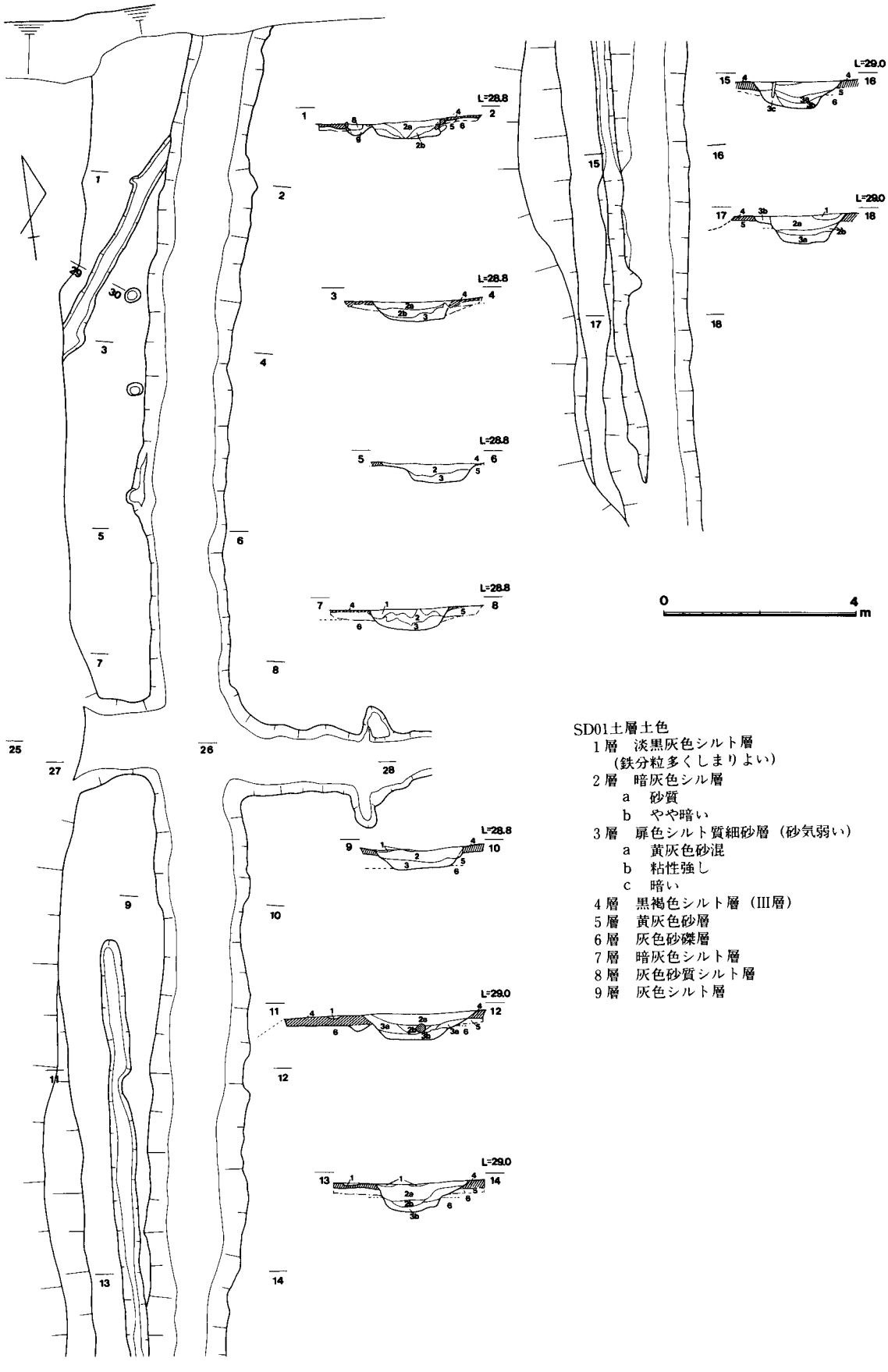


第63図　大額キョウデン遺跡ＳＩ01平面・断面図（Ｓ＝1/60）

b　溝

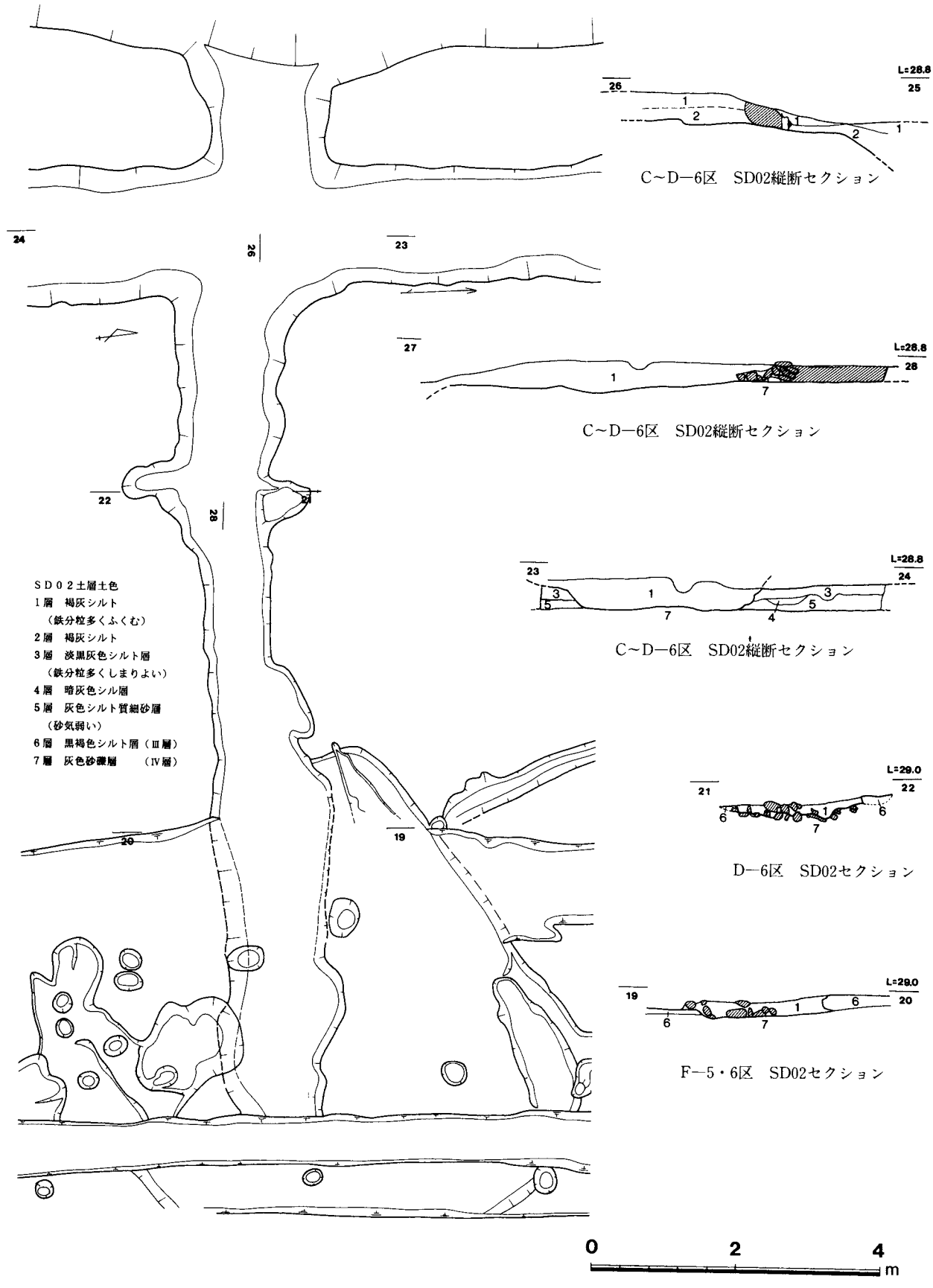
・SD01（第64図）

Ｃ・Ｄ－２区からＣ・Ｄ－11区で平面プランを確認している。調査区北壁からは、断面上に溝下層の残存を認めた溝で南北方向に、調査区を縦割りにする様に位置する溝である。南北の延長線上に溝の伸びの確認のトレンチをそれぞれ掘ったが、確認できなかった。Ｃ・Ｄ－５、６区でSD02と重複する。溝の幅は平均値で約1.2m、深さは約85cmを測る。最上層（褐灰色シルト層）上層（淡黒色シルト層）下層（暗灰色シルト層）の３層よりなるが、概ね上層、下層の２層よりなる。下層Ｃ・Ｄ－３区レベル28.2mより、古代末の完形の土師器椀を正位で出土している。Ｃ、Ｄ10区で溝底のレベルが28.3m、Ｃ－３区では28.2mを測る。僅かな比高差であるが溝は現在の高橋川と同様に南から北へ流れ出ている。Ｃ・Ｄ－８区以南で、溝内に自然木や、割材の杭列がみられた。一部SD03とＣ・Ｄ－２、３区で重複している。古代末より近世までの遺物を出土している。

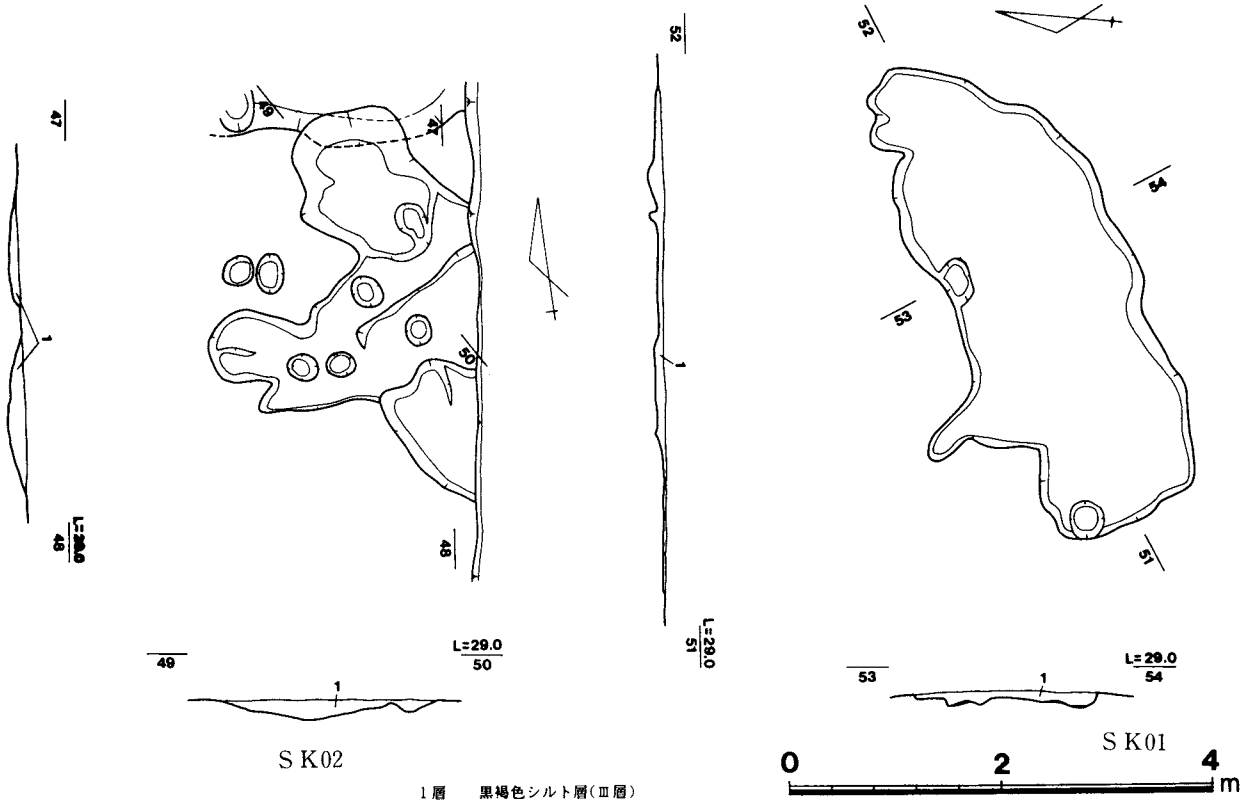


SD01土層土色
1層　淡黒灰色シルト層
（鉄分粒多くしまりよい）
2層　暗灰色シル層
a　砂質
b　やや暗い
3層　扉色シルト質細砂層（砂気弱い）
a　黄灰色砂混
b　粘性強し
c　暗い
4層　黒褐色シルト層（III層）
5層　黄灰色砂層
6層　灰色砂礫層
7層　暗灰色シルト層
8層　灰色砂質シルト層
9層　灰色シルト層

第64図　大額キョウデン遺跡SD01平面・断面図（S＝1/120）



第65図　大額キョウデン遺跡SD02平面・断面図（S＝1/80）



第66図　大額キョウデン遺跡SK02・SK01平面・断面図（S＝1/80）

3　中・近世の遺構

a　溝

・SD02（第65図）

C・D－6、7区から、F－6、7区で平面プランを、確認している。東西に走る溝で、SD01及びSI01と重複する。溝内に直線に並ぶ東西方向の礫集積帯が存在した。覆土は、褐灰色シルト土で一部2層に分層できた。発掘調査位置図（第50図）にあるように調査区東に現存する水田の畦畔の延長線上で合致する。旧高橋川掘方とも重複がみられる。幅1～1.6m深さ20cmを測る。遺物は中・近世の陶磁器を主に出土している（図版73）。

・SD04（第54図）

C－7区からC－11区にかけて、SD01に併走するように、南北方向にまたがって位置する溝である。一部で、SD01をきっている。幅11cm、深さ9cmを測る。覆土は、灰色砂質シルトであった。図版73－40の白磁皿を出土している。

4　その他

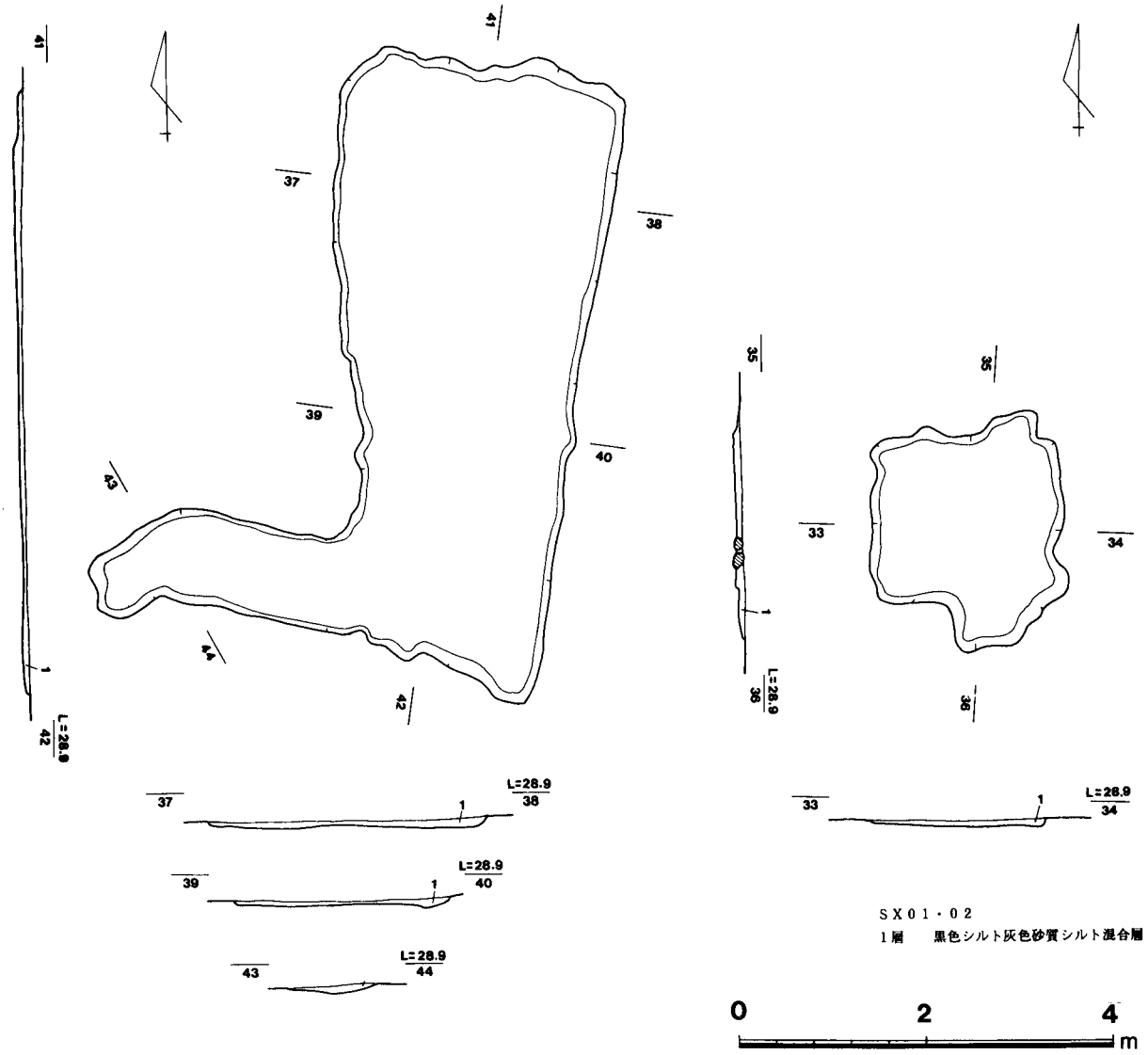
a　溝

・SD03（第55図）

SD03は、C・D－2、3に位置し、一部SD01と重複する。幅12cm、深さ10cmをはかる。平面の方位は北東から南西に位置する。覆土は灰色砂質シルトであった。遺物の出土をみなかった。性格は不明である。

・SD05（第58図）

E－4・5区に平面の方位で北西から、南東に位置する。重複関係はない。覆土は灰色砂質シルトをしている。



第67図　大額キョウデン遺跡SX01・SX02平面・断面図（S＝1/80）

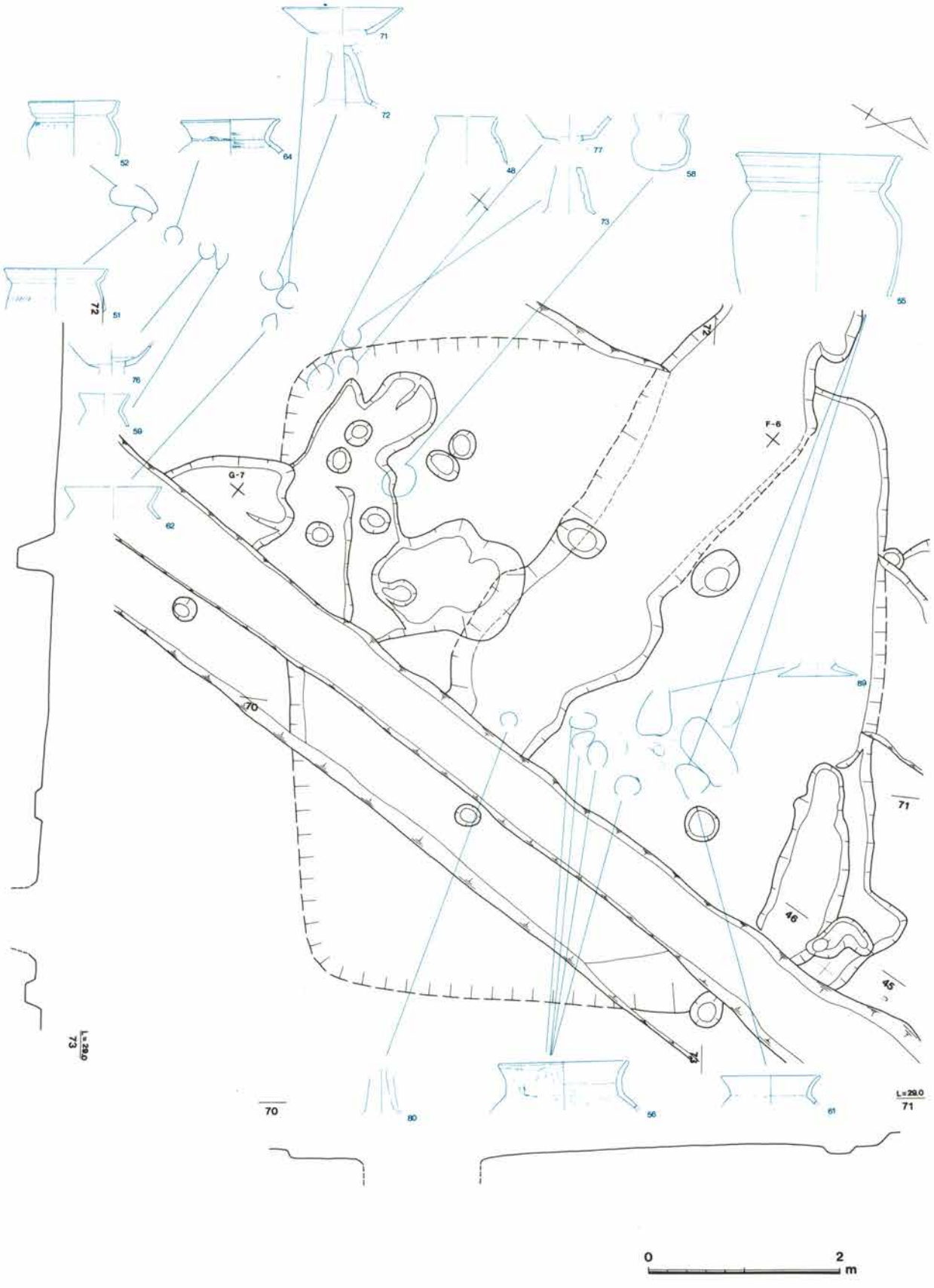
上記溝は灰色砂質シルトの覆土から、中・近世に至る時期に流路となっていた溝と推定される。

b　不明遺構

・ＳＸ01・02（第67図）

ＳＸ01は、Ｅ－３区に位置する。またＳＸ02は、ＤＥ－４、５区に位置する。三層面で検出された遺構であるが、遺物は包含層と差異がなく、性格は不明である。地山４層中からの礫の飛び出しのための凹凸がみられたが断面は単純化して表現した。

・ＳＸ03は、土器集中区であり、遺構の認識がなかったが、黒色層中の溝・土坑等の黒色土遺構が有った可能性も否定できない。勾玉をＥ－７で出土している。また３層中、自然礫とみまがう石群中より炭化物も多量に検出している。



第68図　大額キョウデン遺跡SI01上面遺物出土状況図（S＝1/60）

第5節　遺　物

本遺跡出土の遺物は、パンケース27箱に上りほぼ弥生・古墳時代の遺物が8割を占める。平安時代および中・近世の遺物も出土している。土器類が主体を占める。石器は、打製石斧・擦り石類・勾玉・砥石が確認された。溝出土の遺物、砥石等一部を除けば弥生・古墳時代の土器と同層III層からの出土である。

1　弥生・古墳時代の遺物

a　土坑出土遺物

・ＳＫ02（第72図1・2・3・7）

1は有段口縁甕で、ほぼ直立に立ちあがる。肩部にハケ状具により連続刻みがされる、肩部下半より煤が多く付着する。胴部最大径は18cmを測る。2は内外面磨きを施す、外傾する浅い有段の受け部で赤彩を施す。3は、透文穴を3穴持つ八の字状に外展する脚部である。

・ＳＫ01（第72図4・5・6・8～12）

赤彩を施す4は、高坏脚裾部で下層からの出土である。5は、高坏受け部で、磨耗のため調整不明。6は、高坏の棒状脚である。脚部内面の絞り痕を粘土のなすりつけによる調整で消しているが調整が雑なため痕跡がのこる。9は器高17.5cmをはかる、壷である。口縁は緩く内湾しながら直線的に立ち上がり、球状に続く胴部を持つ。11は、くの字状に外反する甕の口縁部である。口縁内外面ともに横ナデで調整し、頸部より下半は外面を斜位のハケ目、内面をケズリ調整している。

b　ＳＩ・ＳＸ出土遺物

・竪穴建物上層出土遺物（第75図55・56・58・61・80・89）

ＳＩ01上層出土の遺物の55は、白色系の胎土を持つ山陰系の甕である。56は甕口縁部であり、口縁端部に僅かに面取りがみられる。80は外面に赤彩を施す。89は、屈折脚の裾部である。

・ＳＸ03出土遺物（第72図12第74図43～53・第75図54・57・58・59・6～67・第76図68～79・81・83～85・87・130・146）

43・47・49・63～65はいずれも「くの字」口縁甕である。46・63・64はなだらかに外反する口縁部をもち、口縁端部横方向のナデを行っている。62は畿内布留系甕である。50～52は有段甕である。50は、口縁に擬凹線を施し、頸部にハケ状工具による連続刻みを施している。51、52は無文の有段甕である。58は、口縁が内湾気味のくの字を呈するように立ち上がる小型丸底壺である。（第76図）は、器台および高坏形土器である。68は高坏で、杯部の屈曲から伸長するが外反はなく、やや内湾気味の杯を持つ。69は高坏である。屈曲して広がる杯部と裾部で八の字に広がる脚部をもつ。70は、高坏である。途中で屈曲して広がる杯部と裾部で強く外反する脚部をもつ。82の脚部は、内面の接合痕を鮮明に残す。古墳時代前期高畠式期に盛期をもつが弥生後期後半から古墳中期の遺物を出土している。

c　包含層出土遺物（第78図・79図）

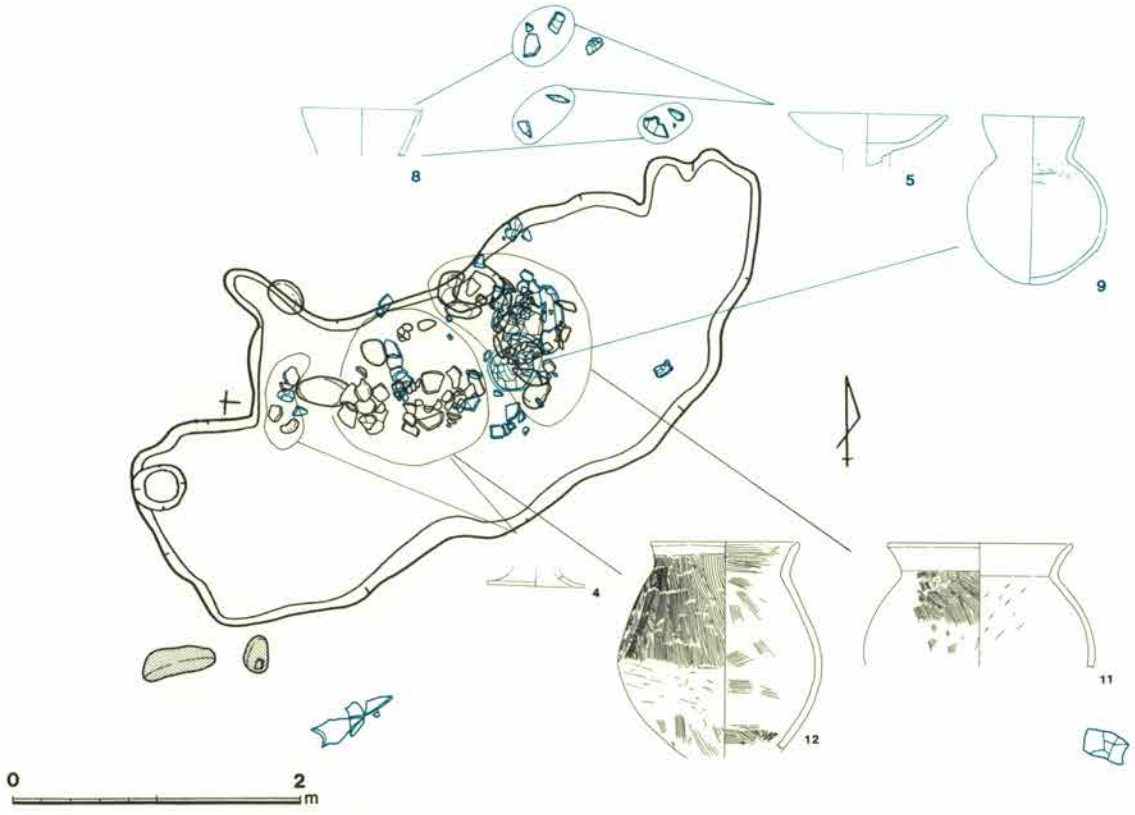
117～121は有段甕でいずれも擬凹線を4～8条持つ、磨耗のため指頭の痕跡は不明瞭。122～126は、端部に面取りを施すくの字甕である。127は、小型化した小型壺である。128、129は口縁が直線的に立ち上る直口壺である。133～135は有段無文の甕である。162は縄文土器であり、並行短沈線を施す縄文中期後半の土器に当たろう。

2　古代の遺物

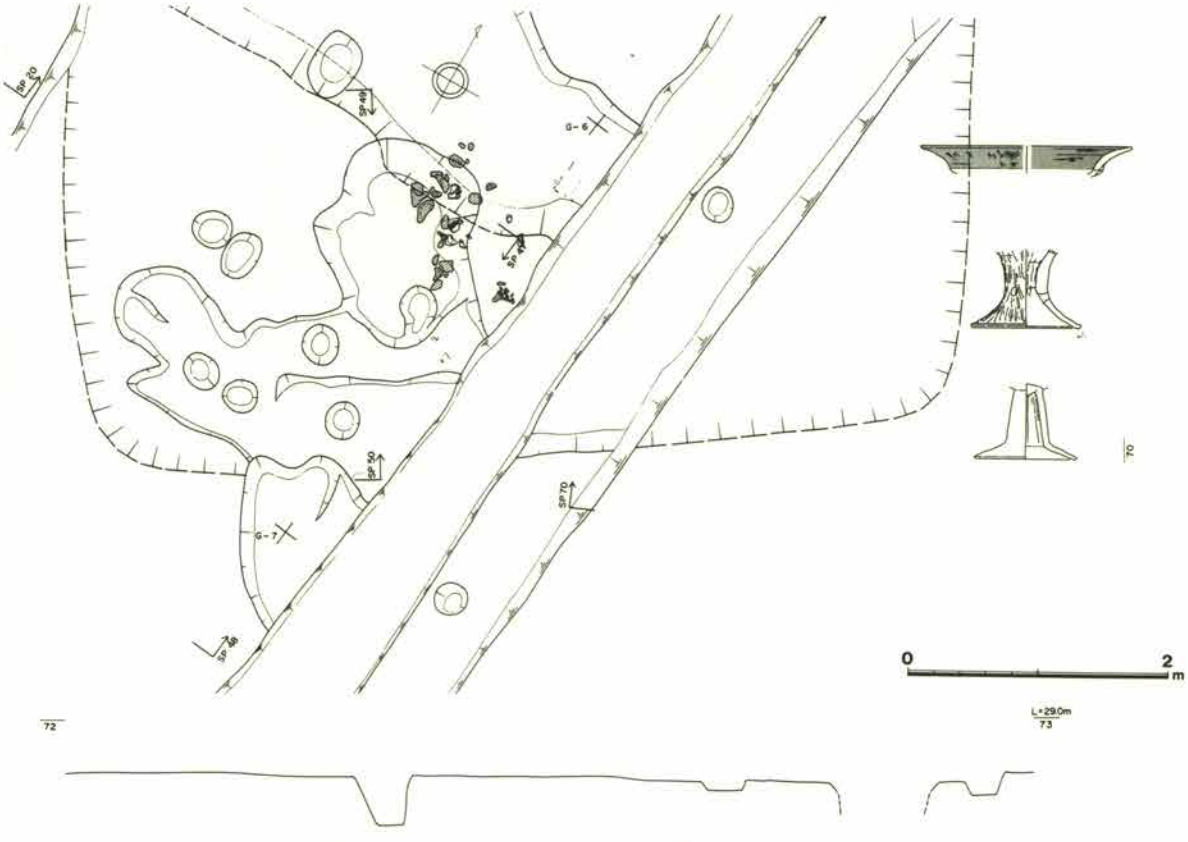
a　掘立柱建物出土遺物（第77図99～103・106～108）

北トレンチ出土の土師器の一群である。99、100は土師器の椀である、やや内湾する口縁をもつ。磨耗のため調整は不明である。101、102は、杯または椀である。内外面ともにヨコナデを施す。106～108は柱状を呈する底部を持つ杯または小皿である。106は復元口径8cmで、底部糸切りの他は磨耗のため調整不明。

第69図　大額キョウデン遺跡SX03遺物出土状況図（Ｓ＝1/30）



第70図　大額キョウデン遺跡SK01附近遺物出土状況図（S＝1/60）



第71図　大額キョウデン遺跡SK02 3 層下層遺物出土状況図

b　溝出土遺物

・ＳＤ01出土遺物（第73図13～31）

13～15は、底部糸切りの椀である。13は、ＳＤ01下層から出土した完形の椀で、口径15cm、底径5.6cm、器高5.6cmを測る。底部での器厚２cmを測る。同様にＳＤ01下層出土の遺物は、糸切りの約５cmの底部を持つ椀26、坏20である。須恵器の30は、図化下面に自然釉が多量にかかっており、一端部に溝を持つ、他面の端部は斜めに面取りをしている土師器椀。26も、糸切りの底部を持つが、底部器厚は１cmと薄い。須恵器杯Ｂ31はＳＤ01上層の出土である。18、19の須恵器の壺は、同一個体で、９世紀後半の高松産広口瓶である。

・ＳＤ02出土遺物（第73図42）42は、須恵器碗の底部で高台径が7.1cmある。９世紀後半に比定できる。

・包含層遺物

104は、土師器有台杯で底径5.8cmを測り、内面黒色を呈する。105は、須恵器壷か瓶類で、胎土、調整ともＳＤ01出土の18、19と近似している。

３　中・近世の遺物

a　溝出土遺物

・ＳＤ02出土遺物（第73図32～41）

32は、白磁の小碗(杯)で口径6.5cmを測る。口縁部が外反して、口縁外面がナデにより薄く仕上げられている、輪高台が付く。33、34は白磁の皿である。ピンホールが多少みられる。34は青みがかった白色を呈している。40は、白磁で、全面薄く施釉され見込み部分に、部分的剝落が見られる。重ね焼きの痕跡と思われる。高台の切れ込みは３箇所である。41は、畳付けまで施釉された器種不明の白磁で、えぐり高台に施釉ムラがみられる。破断面に漆継ぎの痕跡がのこる。青磁、白磁は15世紀。35は、口縁部が外反する陶器の鉢である。黒褐色の釉が施されている。36は、型押しの輪花皿、半磁胎である。器厚が薄く仕上げられ内外面緑釉が施されている。菊花様の花弁が２弁外面に残る。口縁附近の釉が溶け粒状になっている。被熱があったとみられる。交趾には軟質の胎土と半磁胎の２者がみられるが後者にあたろう。

37、38ともに染付けの碗である。37は、端反り気味の碗口縁で、濃みに濃淡がみられ、一部内面にも呉須が飛んでいる。肥前か。34は、見込みに圏線を外面に草を描く。39は、見込み部分無釉の皿底部で、褐色釉が雑に懸けられている越中瀬戸。

・SD01出土遺物（第73図16・17・23）

16は、窯不明の丸椀、高台径3.4cmとこぶりである。高台内面まで釉がけされ畳付けはかきとりがされ無釉である。化粧土により白濁した外観を呈する。一部器面に鉄絵の模様が残る。貫入が多い。17は、SD01上層より出土している青磁碗で、底部の器厚が２cmを越える。23は、玉縁の白磁椀で貫入が多数入る、12世紀。

・その他

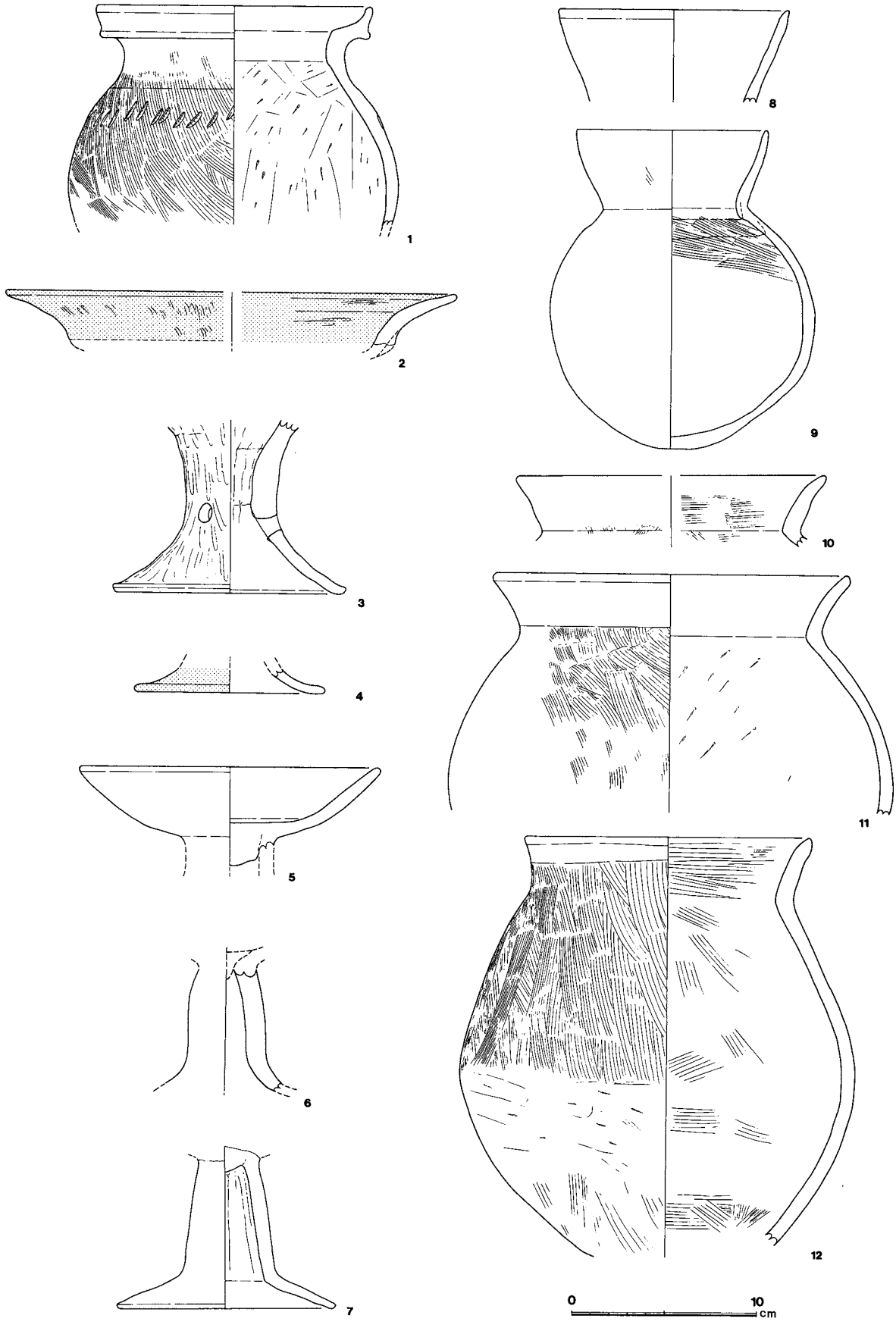
石器（第80・81図）

２～21は、１面に自然面をもつ打製石斧である。７点を完形と判断したが、残りはすべて欠損している。１は、粗悪な質の翡翠製の勾玉である。出土はＥ－８区である。重さ１ｇの勾玉で穿穴の直径は、両方とも2.5㎜であるが、一方の孔の端面がとれている。出土レベル28.9mからの出土である。22は、軽石である、当遺跡では他に出土していないが、全体に磨耗して丸くなっており、研磨等に使用されたものと思われる。

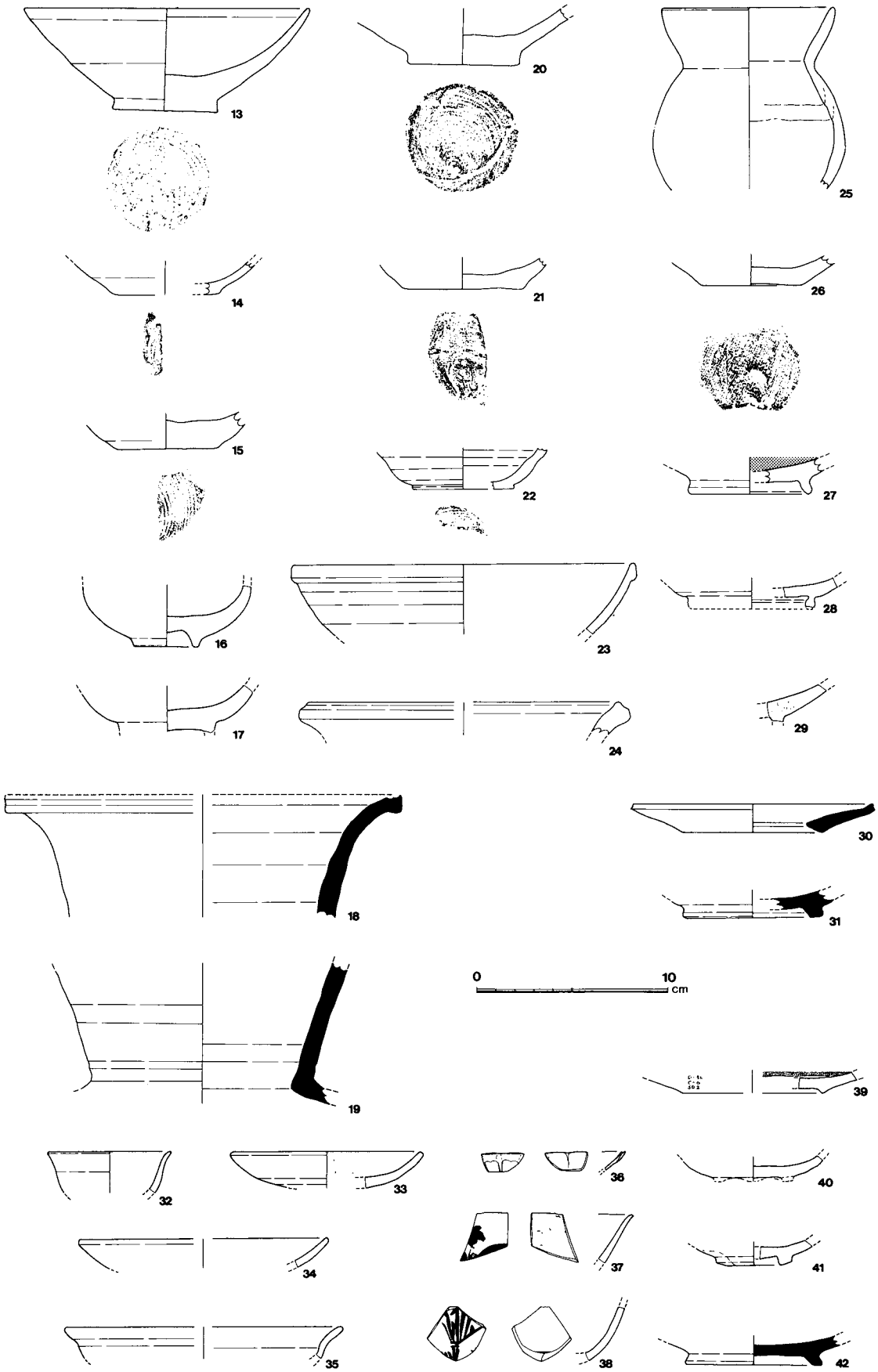
砥石（第81図28）

28は、黄白色を呈する砥石である。幅4.3cmを測る。他の数値は現存値を示す。天草砥と呼称される石であり、中世以降の所産である。

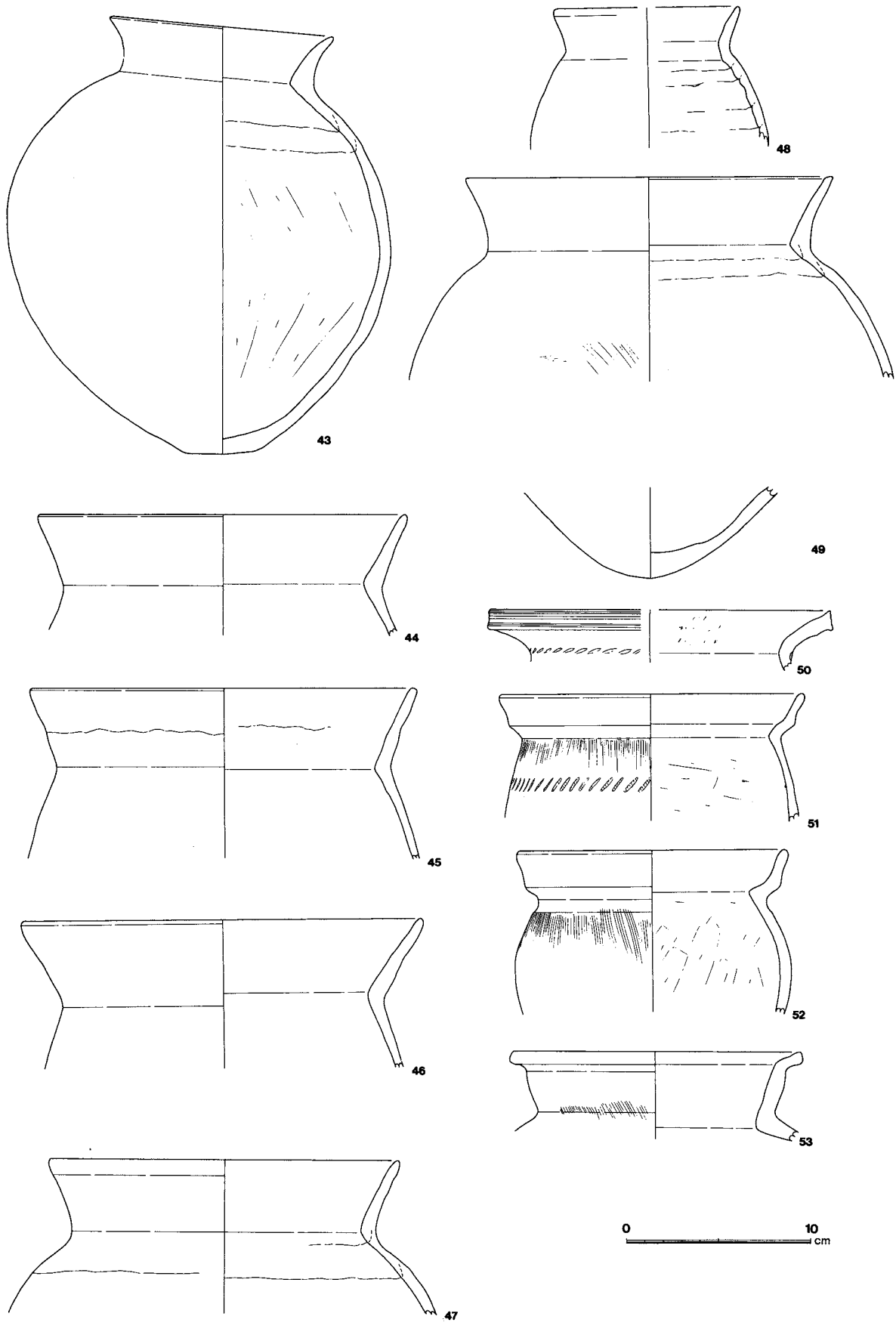
遺構遺物について、栃木英道、垣内光次郎、安英樹、岩瀬由美、布尾和史、埋蔵文化財保存協会の滝川重徳各氏にご教授を得た感謝します。



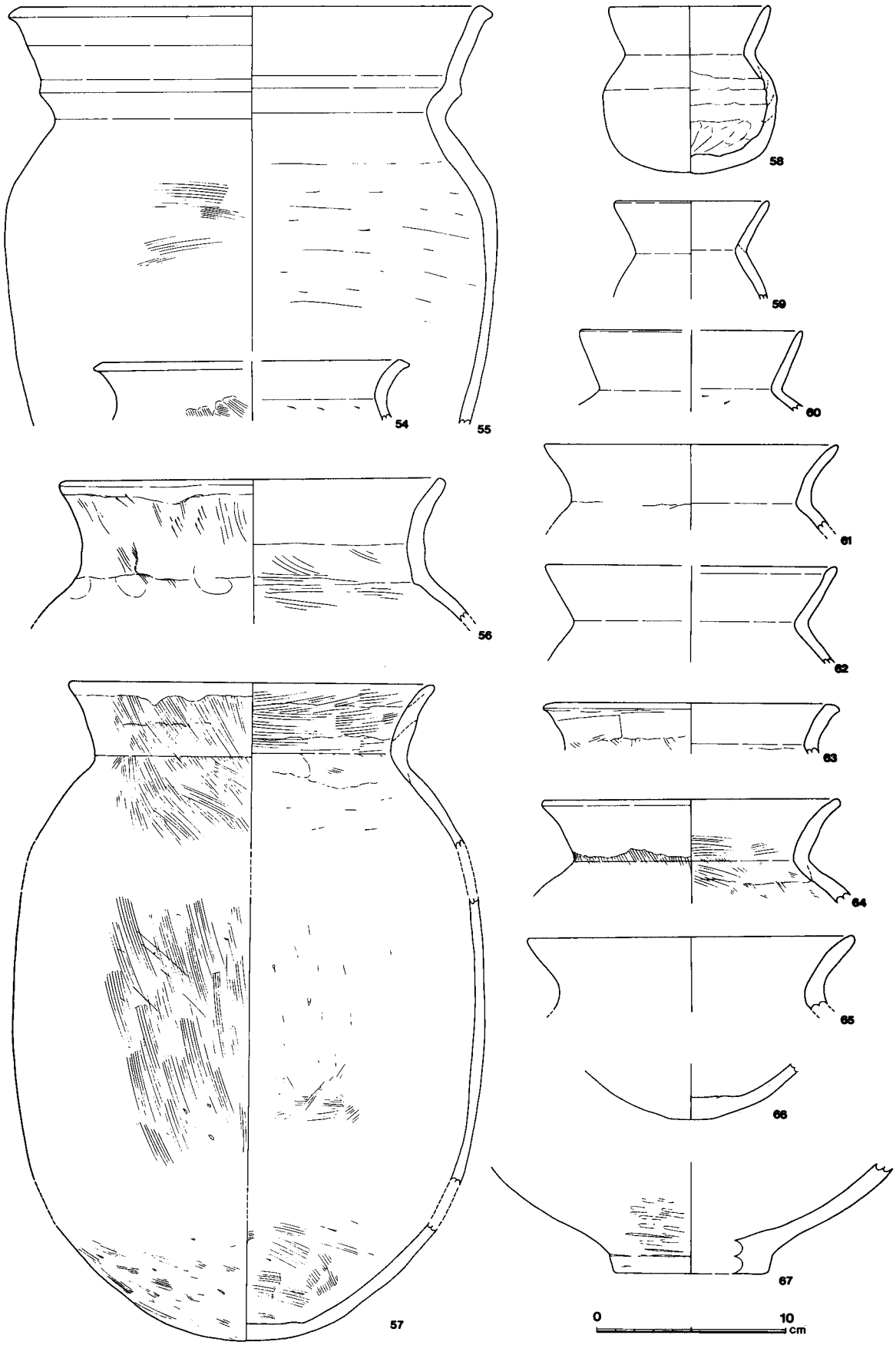
第72図　大額キョウデン遺跡出土土器第１図（Ｓ＝1/3）



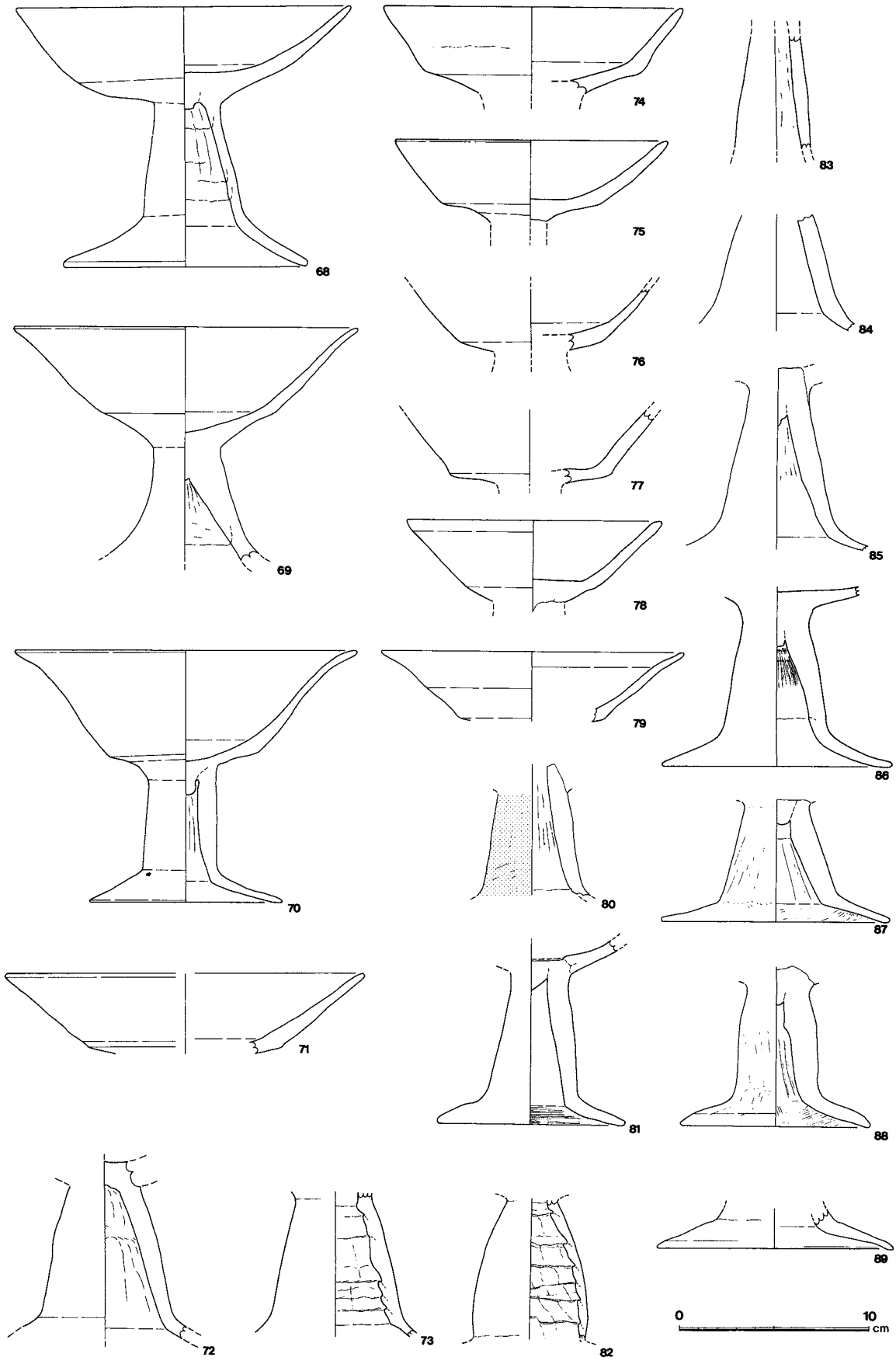
第73図　大額キョウデン遺跡出土土器第２図（Ｓ＝1/3）



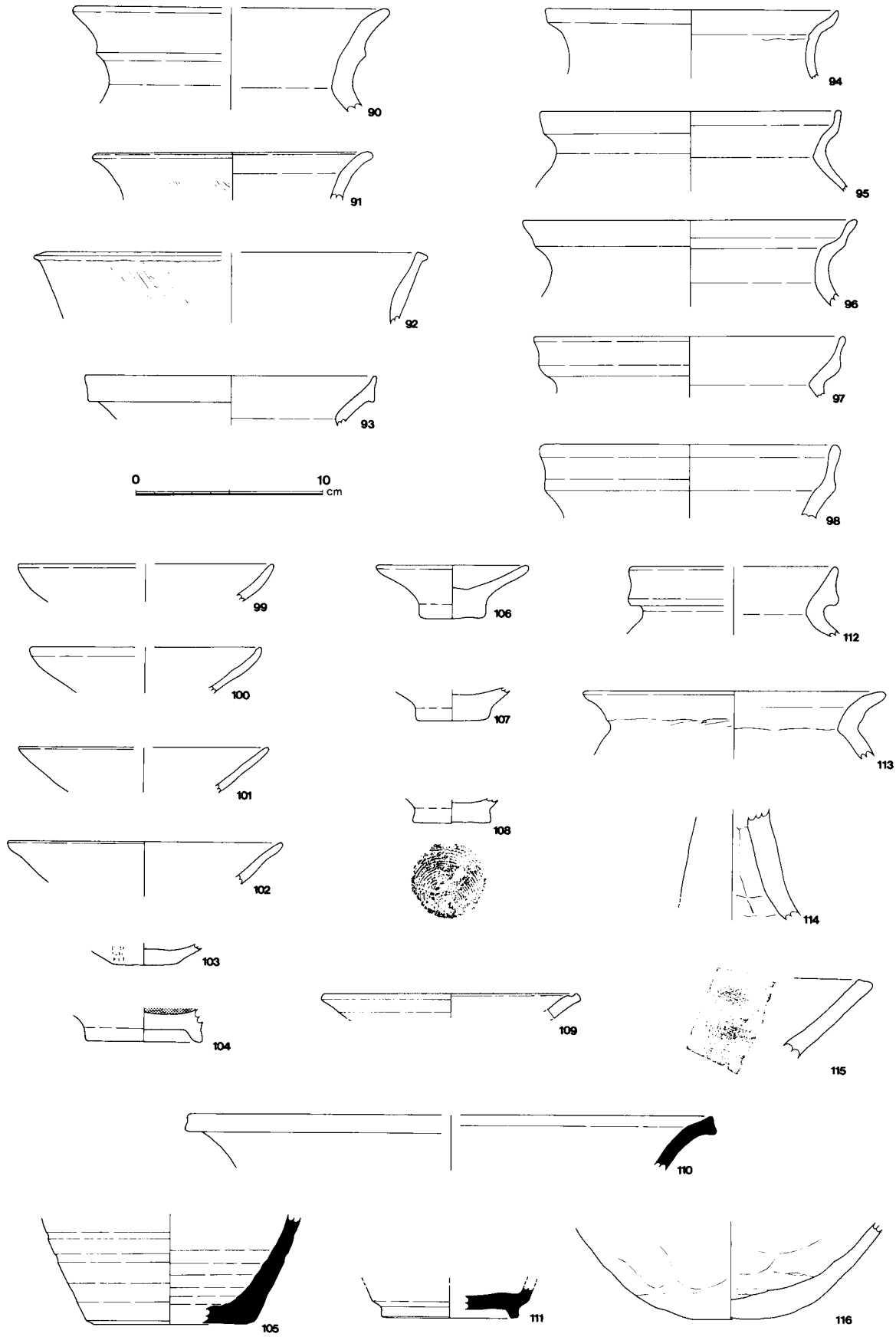
第74図　大額キョウデン遺跡出土土器第３図（Ｓ＝1/3）



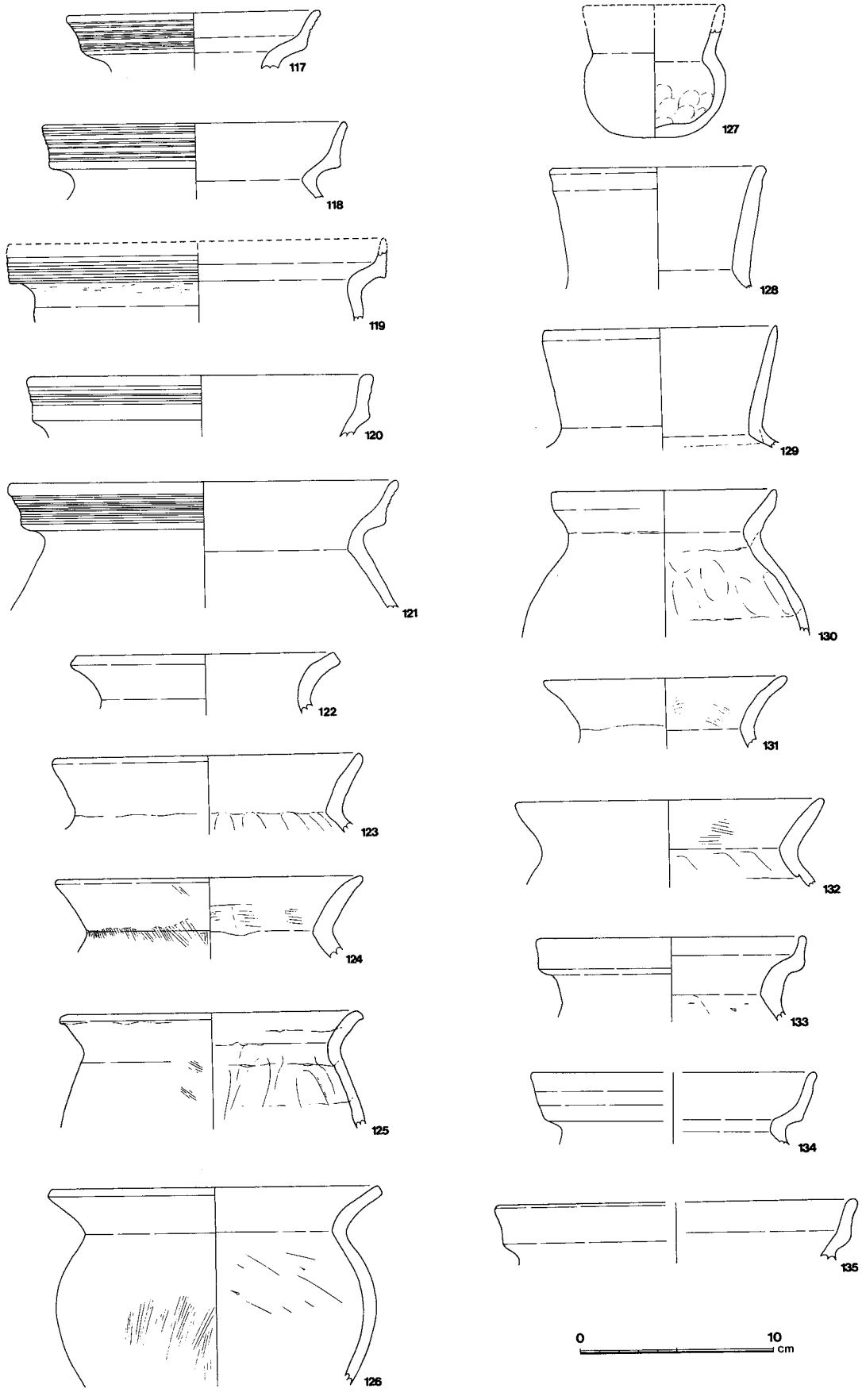
第75図　大額キョウデン遺跡出土土器第４図（Ｓ＝1/3）



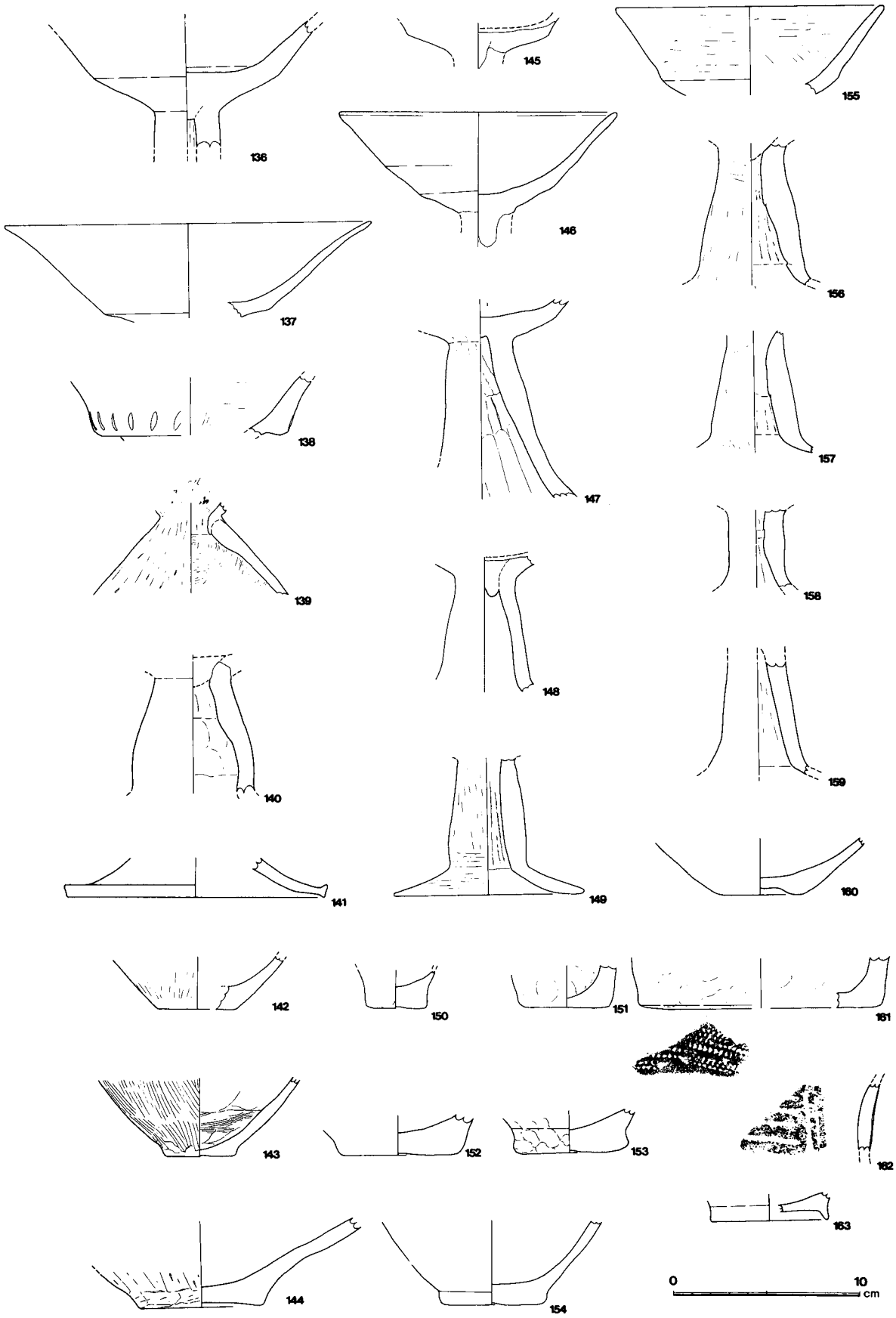
第76図　大額キョウデン遺跡出土土器第５図（Ｓ＝1/3）



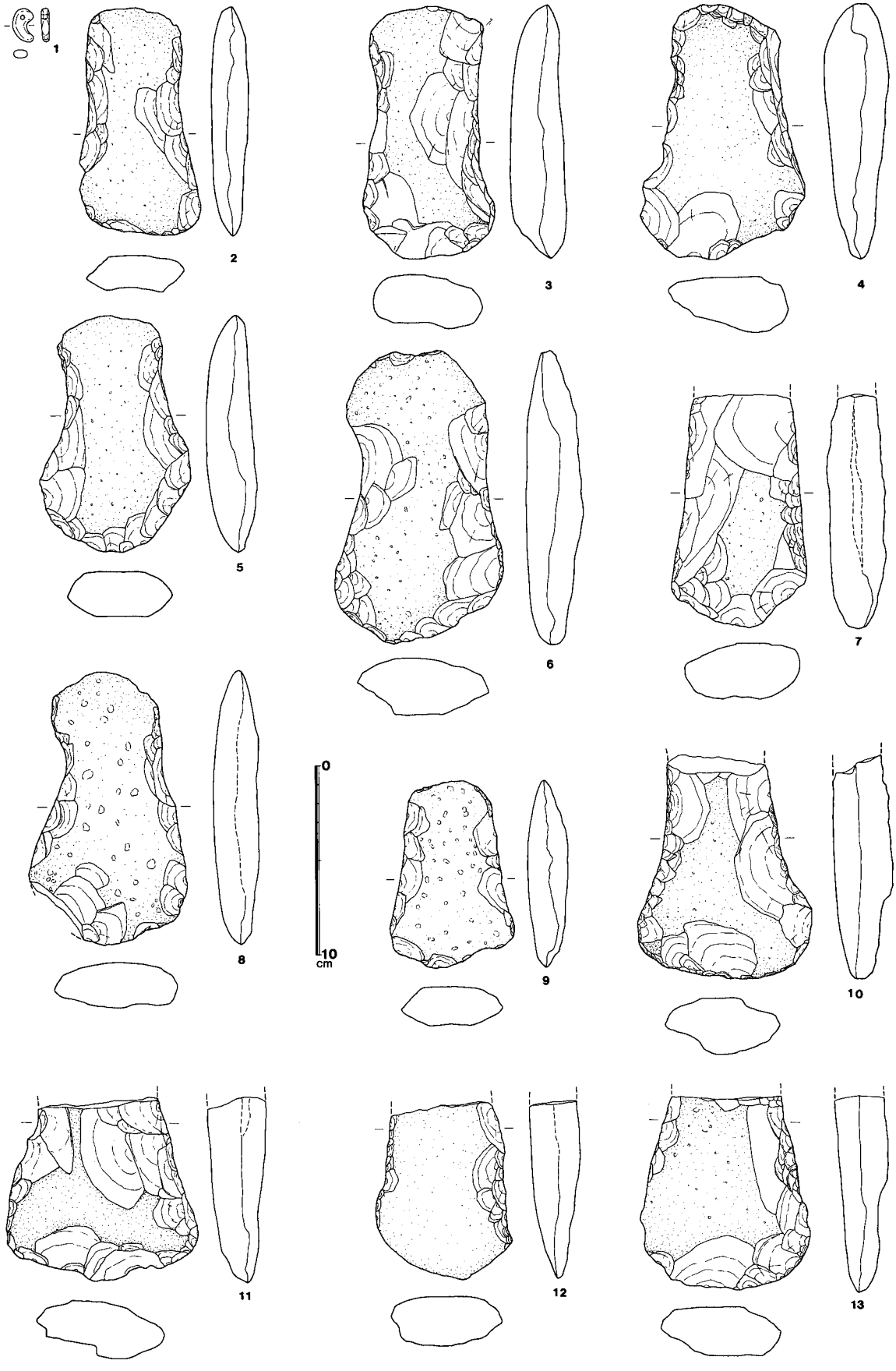
第77図　大額キョウデン遺跡出土土器第６図（Ｓ＝1/3）



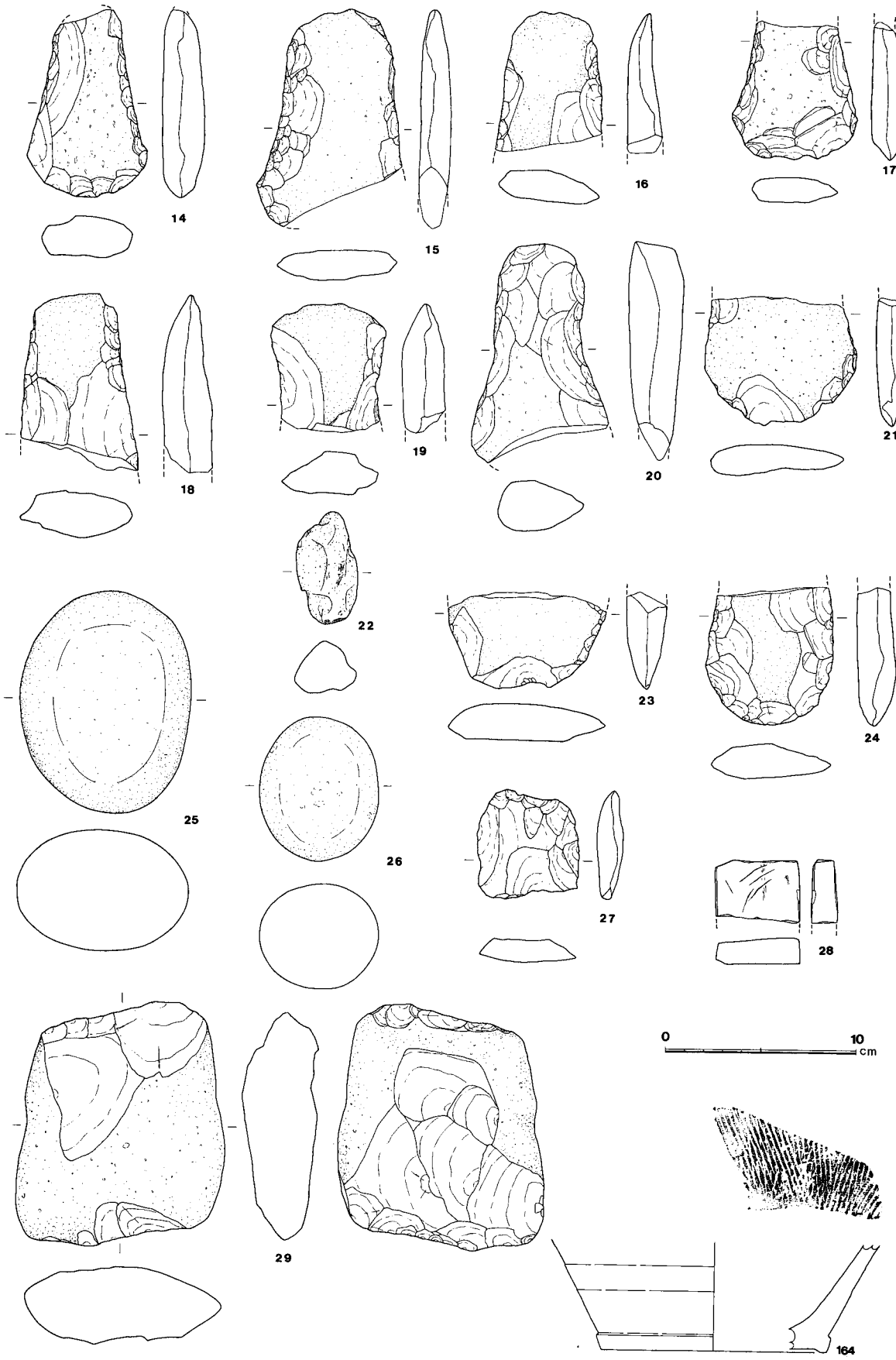
第78図　大額キョウデン遺跡出土土器第７図（Ｓ＝1/3）



第79図　大額キョウデン遺跡出土土器第８図（Ｓ＝1/3）



第80図　大額キョウデン遺跡出土石器図（S＝1/3）



第81図　大額キョウデン遺跡出土遺物図（Ｓ＝1/3）

第5表　大額キョウデン遺跡出土土器観察表（5－1）

図	図NO	実番	調査区	層位・位置	器　種	口　径　等	調　　整	色　　調	胎　　土	備　考
72	1	203	F-6	Sk02	甕	a：(15.0)	(外)ハケ、ヨコナデ (内)ケズリ、ヨコナデ	(内/外)にぶい褐	粗砂多、細礫少し含む	
72	2	206	F-6	Sk02	高坏	a：(24.6)	(外/内)ミガキ	(内/外)にぶい橙	粗砂少量含む	
72	3	204	F-6	Sk02	高坏	b：12.6	(外)ミガキ (内)不明	(内/外)淡黄	砂粒混入少	
72	4	320	E-6	Sk01下	高坏脚部	b：9.8	(外/内)不明	(内/外)にぶい黄橙	粗砂粒含む	
72	5	226	E-6	Sk01	高坏受部	a：16.0	(外/内)不明	(内/外)橙	粗砂含む	
72	6	225	E-6	3層	高坏脚部		(外)不明 (内)しぼり痕	(内/外)灰白	粗砂含む	
72	7	205		Sk02	高坏	b：11.9	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	赤色粒多く含む	
72	8	227	E-6	SI01上	壺	a：12.4	(外/内)不明	(内)褐灰　(外)浅黄橙	粗砂含む	
72	9	224	E-6	SI01上	甕	a：10.2c：17.5 b：1.6	(外)ヨコナデ→ナデ (内)ヨコナデ→ハケ→ナデ	(内)にぶい黄橙(外)黒褐	粗砂含む	
72	10	319	E-6	SK01下	甕	a：16.6	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ハケ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂粒含む	
72	11	201	E-6	SK01	甕	a：19.2c：(13.0)	(外)ヨコナデ斜位ナデ (内)ヨコナデケズリ	(内/外)浅黄橙	粗砂多く含む	
72	12	202	F-6	SI01上	甕	a：15.5c：(22.0)	(外/内)ハケ粗い	(内/外)にぶい褐	細砂少量含む	
73	13	110	C・D-3	SD1下層	椀	a：15.0c：5.6 b：5.5	(外/内)ナデ	(内/外)橙褐色	細砂極僅か含む	
73	14	114	C-6	SD1下層	椀	b：(5.5)	(外/内)ヨコナデ	(内/外)にぶい黄橙	細砂僅かに含む	
73	15	117	C・D-8	SD1上層	椀	b：(5.3)	(外/内)ナデ/底部糸切り	(内/外)にぶい黄橙	粗砂少量含む	
73	16	126	C・D-6	SD1	碗	b：3.4c：(3.3)		(内/外)灰オリーブ	暗灰褐色、精良	鉄絵
73	17	124	C・D-6	SD1	碗			(内/外)オリーブ灰	白色、精良	青磁
73	18	120	D-11	SD1	壺	a：21	(外/内)ヨコナデ	(内)灰白　(外)灰		須恵器
73	19	119	C・D-8	SD1上層	壺		(外/内)ヨコナデ	(内)灰白　(外)灰		須恵器
73	20	113	C・D-5	SD1下層	坏	b：5.8	(外/内)ヨコナデ	(内)灰　(外)灰白	粗砂含む	
73	21	116	C・D-8	SD1上層	椀	b：6.4	(外/内)ヨコナデ	(内/外)灰白	海綿骨針含む	
73	22	123	F区	SD1	椀	c：6.4	(外/内)ナデ	(内)浅黄橙　(外)灰白	海綿骨針少量含む	
73	23	122	C・D-10	SD1上層	椀	a：18c：(3.8)		(内/外)灰オリーブ	精良	白磁
73	24	125	C・D-6	SD1	壺	a：(16.4)	(外/内)ヨコナデ	(内)灰色　(外)灰黄	細砂僅かに含む	珠洲
73	25	207	C・D-7	SD1	壺	a：8.8	(外)ヨコナデ→不明 (内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	土師器
73	26	111	C・D-4	SD1下層	椀	b：5.4	(外/内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	糸切底
73	27	115	C・D-8	SD1最上層	有台坏	b：(6.4)	(外/内)不明	(内)黒、　(外)淡黄	粗砂少量含む	土師器
73	28	121	C・D-9	SD1最上層		b：(6.6)	(外/内)不明	(内/外)灰白	砂粒の混入少	灰釉k90
73	29	127	D-8	SD1上層	皿			(内/外)灰褐色	橙褐色	唐津
73	30	112	C・D-2	SD1下層	?	a：12.4c：1.5	(外/内)ヨコナデ	(内/外)灰	粗砂含む	須恵器
73	31	118	C・D-8	SD1上層	有台坏	b：(7.3)	(外)ヨコナデ (外底/内)ナデ	(内/外)にぶい黄橙	細砂少量含む	須恵器
73	32	106	E-6	SD2	小椀	a：6.5c：(2.2)		(内/外)白	精良	白磁
73	33	101	D-6	SD2	皿	a：10.2c：(2.0)	(外)ヨコナデ	(内/外)白	精良	白磁
73	34	103	F-6	SD2	皿	a：12.9c：(1.6)		(内/外)青灰白色	精良	白磁
73	35	105	F-6	SD2アゼ2b層	鉢	a：14.6c：(1.7)		(内/外)暗黄褐色	灰褐色	鉄釉
73	36	102	不明	SD2下層	菊皿			(内/外)緑	精良(灰白色)	交趾三彩
73	37	107	F-6	SD2	椀			(内/外)白	精良	磁器
73	38	104	F-6	SD2	椀			(内)白　(外)白	精良	磁器
73	39	141	C-6	SD2	皿	b：7.2	ゴケ底/錆釉	(内/外)にぶい黄橙	粗砂含む	越中瀬戸
73	40	109	C・D-9	SD4	皿	b：4.1c：(1.3)		(内/外)白	精良	白磁
73	41	108	D-6	SD2	?	b：3.9c：(1.3)		(内/外)緑がかった白	灰白	白磁漆継ぎ
73	42	128	C-5	SD2	坏	b：7.1c：(1.6)	高台内オサエナデ	(内/外)灰白色	細砂含む	高松産か？
74	43	300	E-8	SX3、3	甕	a：12.0c：23.4	(外)ナデ (内)ケズリ→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	

第５表　大額キョウデン遺跡出土土器観察表（５－２）

図	図NO	実番	調査区	層位・位置	器　種	口　径　等	調　　整	色　　調	胎　　土	備　考
74	44	234	F-7	SX3、3	甕	a：20.0	(外)ナデ (内)ヨコナデ→ナデ	(内)浅黄橙　(外)灰褐	礫を含む	
74	45	237	F-7	SX3、3	甕口縁	a：21.0	(外)ナデ (内)不明	(内/外)浅黄橙	礫を含む	
74	46	242	F-7	SX3、3	甕	a：21.8	(外)ナデ (内)ヨコナデ→ケズリ→ナデ	(内/外)にぶい黄橙	礫多く含む	234、237同一か
74	47	236	E-7	SX3、3	甕	a：19.0	(外)ヨコナデ→不明 (内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)にぶい黄橙	礫を含む	
74	48	250	F-7	SX3	甕	a：(10.1)	(外/内)不明	(内/外)にぶい橙	粗砂少量含む	
74	49	261	E-8	SX3、3	甕	a：20.0	(外)ヨコナデ→不明 (内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂粒を含む	
74	50	259	F-8	SX3、3	甕	a：(17.8)	(外/内)不明	(内)灰白　(外)浅黄橙	粗砂少量含む	
74	51	240	F-7	SX3、3	甕	a：16.4	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ケズリ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂を含む	
74	52	239	F-7	SX3、3	甕	a：14.4	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ケズリ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂を含む	
74	53	238	E-7	SX3、3	甕	a：15.6	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ケズリ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂を含む	
75	54	311	F-7	SX3、3	甕	a：(15.8)	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ケズリ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂粒含む	
75	55	209	F-5	SI1上	甕	a：24.6	(外)ヨコナデ→不明 (内)ヨコナデ→ケズリ→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
75	56	208	F-5	SI1上	甕	a：20.8	(外)ケズリ、ハケ、ナデ (内)ハケ、ナデ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂やや多く含む	
75	57	228	F-7、E-8	SX3、3	甕	a：18.6	(外)ハケ (内)ハケ→ケズリ→ナデ	(内/外)にぶい黄橙	礫含む	
75	58	214	F-6	SX3	壺	a：8.4c：9.0	(外/内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂含む	
75	59	314	F-7	SX3、3	壺	a：8.0	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	粗砂粒含む	
75	60	243	F-7	SX3、3	甕口縁	a：11.6	(外)ヨコナデ→ナデ (内)ヨコナデ→ケズリ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂含む	
75	61	212	F-5	ＳＩ１上	甕	a：(15.5)	(外/内)不明	(内)灰黄　(外)淡黄	粗砂やや多く含む	
75	62	315	F-7	SX3、3	甕	a：(15.2)	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	粗砂粒含む	
75	63	246	F-7	SX3、3	甕	a：(15.7)	(外/内)ヨコナデ	(内)淡黄(外)にぶい黄橙	細砂、砂礫少量含む	
75	64	241	F-7	SX3、3	甕	a：15.6	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ハケのちナデ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂を含む	
75	65	303	E-8	SX3、3カ	甕	c：(4.0)	(外)ヨコナデ	(内/外)淡橙褐色	細砂含む	
75	66	268	E-8	SX3、3	甕		(内/外)ヨコナデ	(内)灰白　(外)橙	粗砂含む	
75	67	304	E-8	SX3、3	壺底部	c：(6.0)	(内)ケズリ→ナデ (外)ケズリ→ミガキ	(内)灰黄　(外)淡黄灰色	細砂多く含む	
76	68	307	E-8	SX3、3	高坏	a：17.6c：13.8	(外/内)ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
76	69	247	F-7	SX3、3	高坏	a：18.1	(外/内)不明	(内/外)灰白	粗砂含む	
76	70	305	E-8、F-6	SX3、3	高坏	a：18.0c：13.4	(外/内)不明	(内/外)にぶい橙	粗砂含む	
76	71	251	F-7	SX3	高坏受部	a：19.0	(外/内)不明	(内)にぶい黄橙(外)にぶい橙	粗砂少量含む	
76	72	235	F-7	SX3、3	高坏脚部		(外)ナデ (内)しぼり痕	(内/外)にぶい橙	粗砂を含む	
76	73	245	F-7	SX3、3	器台		(外/内)不明	(内/外)橙	粗砂粒僅かに含む	
76	74	262	E-8	SX3、3	高坏	a：15.8	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	粗砂粒を含む	
76	75	257	F-7・8	SX3、3	高坏受部	a：14.4	(外/内)不明	(内/外)にぶい黄橙	粗砂少量含む	
76	76	313	F-7	SX3、3	高坏受部		(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	粗砂粒含む	
76	77	244	F-7	SX3、3	高坏		(外/内)不明	(内/外)にぶい橙	赤色粒少量含む	
76	78	253	F-8	SX3、3	高坏受部	a：13.4	(外/内)不明	(内/外)にぶい橙	粗砂少量含む	
76	79	269	E-8	SX3、3	高坏？	a：16.2	摩耗	(内/外)灰白	細砂を含む	
76	80	231	F-5	SX3、3	高坏？		摩耗	(内)灰白　(外)赤橙	細砂を含む	
76	81	302	E-8	SX3、3	高坏	c：(9.9)b：10	(内)底部ハケ目	(内/外)淡橙褐色	細砂含む	
76	82	210	F-5	3層	高坏		(外/内)不明	(内)にぶい橙(外)浅黄橙	赤色粒少量含む	

第５表　大額キョウデン遺跡出土土器観察表（５－３）

図	図NO	実番	調査区	層位・位置	器　種	口　径　等	調　　整	色　　調	胎　土	備　考
76	83	312	F-7	SX3、3	高坏脚部		(外)不明 (内)しぼり痕	(内/外)にぶい橙	粗砂粒含む	
76	84	270	E-8	SX3、3	高坏？		摩耗	(内/外)橙	粗砂を含む	
76	85	267	E-8	SX3、3	高坏		摩耗	(内/外)橙	粗砂含む	
76	86	301	E-3	SX3、3	高坏	c：(9.6)b：12.1	摩耗	(内/外)淡橙褐色	粗砂多く含む	
76	87	258	F-7・8	SX3、3	高坏受部	b：12.0	摩耗	(内/外)にぶい黄橙	粗砂少量含む	
76	88	232	F-5	3層	高坏	b：10.0	(外/内)不明	(内/外)灰白	粗砂を含む	
76	89	211	F-5	SX3	高坏？	b：(12.5)	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	赤色粒少量含む	
77	90	289	D-6	3層	甕口縁	a：16.6	(外/内)不明	(内/外)にぶい橙	礫を多く含む	
77	91	308		3層	甕	a：(15.0)	(外)ハケ目→ヨコナデ (内)不明	(内)浅黄橙(外)にぶい橙	粗砂含む	
77	92	317	D-8	3層	甕口縁	a：(20.0)	(外)ヨコナデ (内)ハケ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂含む	
77	93	291	D-6・8	3層、3層上面	甕口縁	a：15.6	(外/内)ヨコナデ	(内/外)浅黄橙	粗の砂を含む	
77	94	229	G-6	3層	甕	a：5.6	(外/内)不明	(内)浅黄橙(外)にぶい橙	粗砂多く含む	
77	95	286	D-8	3層	甕口縁	a：16.0	(外)不明 (内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)浅黄橙	礫を含む	
77	96	285	D-8	3層上面	甕口縁	a：17.8	(外)ヨコナデ (内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂を含む	
77	97	266		表土	甕	a：16.6	摩耗	(内/外)にぶい橙	粗砂含む	
77	98	230	G-6	3層	甕	a：16.0	(外/内)不明	(内/外)灰白	細砂を含む	
77	99	144	北トレ	3層	椀	a：(13.6)	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
77	100	145	北トレ	3層	椀	a：(12.4)	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
77	101	140	北トレ	3層	椀	a：13.6	(外/内)ヨコナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
77	102	136	北トレ	P1	椀	a：14.6	(外)ヨコナデ (内)ナデ	(内)灰白　(外)褐灰	粗砂含む	
77	103	137	北トレ	P1	底部	b：3.5	(外/内)ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
77	104	129	D-6	SP30～29	有台椀	b：5.8	(外)ヨコナデ→ナデ (内)ミガキ	(内)黒　(外)にぶい橙	粗砂粒含む	
77	105	138	D-9・10	2b層	壺？	b：8.2	(外/内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)灰	粗砂含む	高松産
77	106	133	北トレ	3層	坏	a：8.0c：2.9 b：3.4	(外/内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)灰黄	粗砂多く含む	柱状底部
77	107	135	北トレ	P1	底部	b：3.8	(外/内)ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
77	108	134	北トレ	3層	底部	b：4.2	(外)ナデ→糸切り (内)ナデ	(内/外)灰褐	粗砂多く含む	
77	109	132	C・D-11	2層	溝縁皿	a：13.6	(外/内)ヨコナデ	(内/外)オリーブ灰	緻密で堅地	肥前
77	110	139	D-8	2b層		a：(28.0)	(外/内)ヨコナデ	(内/外)灰	粗砂含む	須恵器
77	111	131	C-3	2b層	有台坏	b：7.4	(外)ヨコナデ→ナデ (内)ヨコナデ	(内/外)灰	粗砂粒含む	高松産か
77	112	292	D-3	2b層	甕口縁	a：10.7	(外)不明 (内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗の砂を含む	
77	113	263	E-17	南トレ	甕	a：(16.1)	(外/内)不明	(内)浅黄橙(外)にぶい橙	石英？礫少量含む	
77	114	264	E-17	南トレ3層	器台？		(外/内)不明	(内/外)にぶい橙	礫粗砂多く含む	
77	115	130	C-4	2b層	擂り鉢		(外)ヨコナデ (内)ヨコナデ→擂り目	(内/外)灰	粗砂粒含む	珠洲
77	116	265	E-17	南トレ	甕	b：5.8	不明	(内)明褐　(外)橙	礫やや多く含む	
78	117	254	F-8	3層	壺	a：13.2	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	粗砂少量含む	
78	118	275	E-7	3層	甕	a：15.8	(外)ヨコナデ (内)摩耗	(内)褐灰　(外)橙	粗砂を多く含む	
78	119	218	F-6	3層	甕口縁	a：(29.8)	(外)擬凹線→ミガキ (内)ヨコナデ→ナデ	(内)浅黄橙　(外)黒褐	粗砂含む	
78	120	222	E-6	3層	甕口縁	a：17.4	(外)擬凹線 (内)ヨコナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
78	121	260	F-8	3層	甕	a：20.4	(外/内)不明	(内)灰白　(外)橙	礫砂を多く含む	
78	122	219	F-6	3層	甕口縁	a：13.0	(外/内)ヨコナデ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂含む	
78	123	248	F-7	SX3、3	甕	a：(16.2)	(外/内)不明	(内/外)灰黄褐	粗砂／礫多く含む	
78	124	288	D-8	3層	甕口縁	a：15.8	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ハケ→ナデ	(内/外)灰褐	礫を含む	

第５表　大額キョウデン遺跡出土土器観察表（５－４）

図	図NO	実番	調査区	層位・位置	器　種	口　径　等	調　　整	色　　調	胎　　土	備　考
78	125	249	F-7	SX3	甕	a：(15.8)	(外)ナデ (内)ヨコナデ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂少量含む	
78	126	252	E-9	3層上面	甕	a：17.0	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂少量含む	
78	127	274	E-7	3層	壺	c：4.8	(外)ヨコナデ (内)ナデ指頭	(内/外)浅黄橙	粗砂を多く含む	
78	128	276	E-7	3層	壺	a：11.2	(外)ミガキ (内)摩耗	(内)にぶい橙　(外)橙	粗砂を多く含む	
78	129	215	F-6	3層	壺	a：12.0	(外)不明 (内)ヨコナデ→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
78	130	294	E-8	3層	小甕	a：(11.6)	(外/内)不明	(内/外)にぶい橙	粗砂やや多く含む	
78	131	277	E-7	3層	壺	a：12.6	(外)ヨコナデ (内)ヨコナデ一部ハケ	(内/外)褐灰	粗砂を多く含む	
78	132	295	E-8	3層	甕	a：16.0	(外)ヨコナデ (内)ヨコナデ一部ハケ	(内/外)灰白	粗砂やや多く含む	
78	133	221	F-6		甕口縁	a：13.6	(外)ヨコナデ→ハケ (内)ヨコナデ→ケズリ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂含む	
78	134	279	E-7	3層	甕	a：(14.8)	(外)ヨコナデ (内)ヨコナデ	(内/外)灰白	粗砂を多く含む	
78	135	223	E-6	3層	甕口縁	a：(18.4)	(外)擬凹線→ナデ (内)ヨコナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
79	136	216	F-6	3層	高坏		(外)不明 (内)ナデ	(内/外)にぶい黄橙	粗砂含む	
79	137	298	E-8	SX3、3	高坏	a：20.0	摩耗	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
79	138	283	E-7	3層	?		(外)摩耗 (内)ミガキ	(内)浅黄橙　(外)灰白	細砂を含む	
79	139	296	E-8	3層	高坏		(外)ケズリ後ミガキ (内)ハケ	(内)灰白　(外)褐灰	粗砂含む	
79	140	217	F-6	3層	高坏脚部	a：2.8c：7.5 b：6.4	(外/内)ナデ	(内/外)にぶい橙	粗砂含む	
79	141	287	D-7	3層	高坏	b：14.0	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	礫を含む	
79	142	255	F-8	3層	?	b：4.2	(外/内)不明	(内)灰白　(外)淡橙	粗砂少量含む	
79	143	316	F-7	3層	甕	b：4	(外)ハケ (内)ハケ、ナデ	(内)にぶい橙(外)明褐灰	粗砂僅かに含む	
79	144	213	F-6	SD2	甕、壺	b：6.9	(外)ケズリ、ナデ (内)不明	(内)にぶい橙　(外)浅黄	粗砂多く含む	
79	145	282	E-7	3層	高坏		摩耗	(内)浅黄橙　(外)灰白	細砂多く含む	
79	146	309	E-8	SX3、3	高坏	a：15.1	不明	(内外)浅黄橙	粗砂/礫多く含む	
79	147	306	E-8	3層	高坏		(外)不明 (内)ケズリ、ナデ		粗砂/礫やや多く含む	
79	148	278	E-7	3層	高坏		摩耗	(内/外)灰白	粗砂を多く含む	
79	149	256	F-8	3層	高坏？	b：10	(外/内)不明	(内)灰白　(外)明褐灰	粗砂少量含む	
79	150	299	E-8	3層		c：3.3	(外/内)指頭圧痕	(内/外)淡橙	粗砂含む	
79	151	233	F-5	3層	?	b：4.6	(外/内)不明	(内/外)灰白	粗砂を含む	
79	152	290	D-6	2b層	底部	b：6.4	(外/内)ナデ	(内/外)にぶい赤橙	粗砂を含む	
79	153	220	F-6	3層	壺底部	b：6.0	(外/内)ナデ	(内)浅黄橙　(外)黒	粗砂含む	
79	154	297	E-8	3層	椀	b：5.8	摩耗	(内)灰白　(外)淡橙	粗砂多く含む	
79	155	280	E-7	3層	高坏	a：14.4	(外)ミガキ (内)ミガキ	(内/外)灰白	粗砂多く含む	
79	156	272	E-7	3層	高杯		(外)ミガキ (内)ナデ	(内/外)灰白	粗砂を含む	
79	157	273	E-7	3層	高杯？		(外)ミガキ	(内/外)浅黄橙	粗砂を含む	
79	158	271	E-7	3層	高坏		(内)ケズリ	(内/外)灰白	粗砂を含む	
79	159	284	C-10	3層	高坏		(外)不明 (内)しぼり目→ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂を含む	
79	160	281	E-7	3層	不明		摩耗	(内/外)灰白	細砂多く含む	
79	161	318	不明	3層	?		(外/内)指頭圧痕	(内/外)淡橙	細砂多く含む	
79	162	293	C-6・7	3層	深鉢		(外)沈線 (内)ナデ	(内/外)浅黄橙	粗砂を含む	
79	163	143	F区	3層	有台椀	b：6.2	(外/内)不明	(内/外)浅黄橙	粗砂含む	
81	164	142	不明	表土	擂り鉢	b：11.8	(外)ケズリ (内)卸目	(内/外)橙	粗砂含む	肥前

第6表　大額キョウデン石器計測表

図版NO	実番	調 査 区	層位・位置	遺存状態	石　　質	種　　類	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g
1	1	E-7	3層	完形	翡翠	勾玉	1.8	1.1	0.4	1.08
2	2	D-7	3層	完形	石英粗面岩	打製石斧	12.1	6.4	2	184.4
3	14	E-11	3層	完形	花崗斑岩	打製石斧	13.4	7.1	3	352.4
4	19	E-10	3層		変麻岩	打製石斧	13.6	8.7	3.4	399.1
5	22	F-16	3層南トレンチ	完形	流紋岩	打製石斧	12.5	8	2.2	318.1
6	12	E-11	3層	完形	石英粗面岩	打製石斧	15.6	9.1	3.1	476.7
7	23	C-4	3層北トレンチ		ヒン岩	打製石斧	12.4	7.2	3.1	365.8
8	21	E-12	3層上面		安山岩	打製石斧	14.6	8.4	2.4	329.3
9	5	E-7	3層か		安山岩	打製石斧	10	6.7	2.2	161.5
10	10	F-8	3層排水溝西側		流紋岩	打製石斧	11.9	9.2	3.2	325.3
11	7	D-5	3層		安山岩	打製石斧	9.9	10.2	3.1	330
12	11	F-8	3層排水溝西側		花崗斑岩	打製石斧	9.5	7.4	2.6	210.3
13	3	C-3	3層		安山岩	打製石斧	10.5	9	2.7	305.4
14	27	D-2	2b層		安山岩	打製石斧	10	6.5	2.3	167.5
15	20	D-16	3層南トレンチ		安山岩	打製石斧	11.7	7.7	1.7	168.9
16	13	E-11	3層		石英斑岩	打製石斧	7.5	5.6	1.8	88.3
17	9	E-10	3層		流紋岩	打製石斧	7.4	6.6	1.1	104.6
18	15	E-11	3層		流紋岩	打製石斧	9.5	6.3	2.6	170.1
19	8	E-8	3層		流紋岩	打製石斧	6.9	6.1	2.3	117.6
20	25	E-8	排水溝壁内		流紋岩	打製石斧	11.7	7.3	2.9	250.7
21	24	G-3	排水溝壁内		安山岩	打製石斧	6.9	8	1.7	102
22	6	E-7	3層か			軽石	6	3.3	2.8	8.3
23	4	C-4	3層		安山岩	打製石斧	5.2	8.4	2.1	111.3
24	16	G-3	3層		石英斑岩	打製石斧	7.4	6.7	1.9	132.5
25	18	E-8	3層	完形	安山岩	打製石斧	11.9	9.1	6.5	999.5
26	26	C-6、7	3層	完形	砂岩	打製石斧	7.8	6.5	5.6	356.2
27	30	D-7	3層		流紋岩	打製石斧	5.9	5.4	1.4	47.3
29	17	G-3	3層		ヒン岩	打製石斧	13.2	11.1	4.5	824.1
50	28	D-8	3層		凝灰岩	打製石斧	6.9	6.4	1.3	49.2
50	29	CD-3	SD1下層			打製石斧	7	7.8	1.2	51.6
50	31	D-6	2b層			砥石	3.4	4.3	1.5	32.6
50	32	D-6	2b層			打製石斧	5	6.2	2.2	26.7

観察表中、a：は口径　b：は底径または高台径　c：は器高を表す。

また実NOは、実測時の番号で100番台は古代以降、200・300番台は主として弥生・古墳時代の遺物である。胎土の細砂、粗砂の表記は標準土色表の基準値に従った。

第6節　小　結

大額キョウデン遺跡は、手取扇状地扇端部に主として弥生後期後半～古墳中期及び古代末に集落の営まれた遺跡である。

第1の盛期の弥生後期後半・古墳前期～古墳中期は、弥生後期後半に居住がされ、廃絶した住居跡は、古墳時代の土器廃棄場所の一角となっている。

隅丸方形の柱穴4穴を持つ中型竪穴住居1棟を検出している。

土器廃棄域は、SX03と呼称した域であり、勾玉の出土、自然石に囲まれた部分からは多数の炭化物及び甕・壷・高坏・器台の出土があった。SX03内で図化可能な出土土器の、器種比率は、甕・壺・高坏器台類＝6：1：6である。高坏・器台が量的に増大する時期に当たろうがSX03の性格は、長野市松代中村遺跡の「一時的に形成された物ではなく少なくとも3時期あるように思う……浅い凹状の竪穴を掘り、その中で火をたき、祭りを行い、祭り終了後、使用土器等用具を投棄し、更に自然石を投入する」や飯山市田草川遺跡「土器群と石組みより成り立っている。土器の出土状況は、使用した土器をそのままおいたものが倒れて重なりあったという状況であり、土器群につづいて大小の河原石が配置されている。……配石がされた場所には若干の小礫と土器片が散在し、同時に焼土と灰層が認められている。」等と状況が類似しているため、なんらかの祭祀行為が行なわれたことも考慮に入れたい。

法仏期・高畠期・宮地期の各期の遺物を一定量レベル約28.8mで出土することから、弥生末および古墳前期初等に遺跡が一度途絶えたが、古墳時代前半から中期には継続して生活が営まれていたと想定される。

出土石器の約9割が、破損した打製石斧であった。扇が丘ハワイゴク遺跡では、縄文深鉢との共伴がみられ同出土石器を縄文晩期と位置づけているが、本遺跡では石器と土器の出土レベルに差異がなく同層位である点、手取扇状地の他の遺跡、額谷ドウシンダ遺跡等からも弥生後期に打製石斧の出土をみて縄文土器の出土をほとんどみていないことから、当遺跡でも弥生時代後期に使用され放置したと想定した。

第2の盛期は、掘立柱建物1棟と南北に走る溝が検出された時期である。糸切り底の柱状高台を持つ椀、小皿類を一定量出土している、加賀市田尻シンペイタン遺跡01大溝、第13次北塚遺跡出土古代後半遺物との類似より11世紀後半（中世Ⅰ－1）を上限と想定した。掘立柱建物と同方位の柱穴を4穴F・G－8・9区で認めている（第57図）が、遺物の出土をみなかったことでその関係は以後の課題とした。調査時、SD01を条里の坪境溝の可能性ありとトレンチを拡張して調査をしたが、結論は出ずこれも今後の課題となった。

2つの盛期の他にも、平安時代前期の猿投窯（K90）の灰釉1、河北郡高松産の須恵器4、中国青白磁6、交趾三彩（？）1、珠洲2、肥前磁器3、越中瀬戸1、唐津1と多彩な出土遺物をみることは、縁辺部に連綿と生活が営まれていたことを示すものである。

最後に大額町は、大糠郷と呼称されていた時期、真宗大谷派の専光寺が元応2（1320）年に志念により建立された地である。

志念上人像の裏書き（本願寺実如の下附）真宗諸家文脈系図の他は、絵図、古文書等は現存していない。以下に専光寺譜の系図の志念上人および第五世康寂慶心の抜粋を載せる。

「開基　　志念上人

俗名康忠。征夷将軍惟親親王之男成。出塵之後。正和年中謁覚如上人。稟承宗義。元応元巳未年遊于北陸。垂下於加州。緇素帰伏不遑于計。同二年於同国石河郡大糠之郷。創梵刹居焉。従此法化益振。加能両国之弘通最盛云云。　　康安元辛丑年二月十二日寂。寿六十七。」

「第五世　　康寂慶心

康教之子也。城主富樫某令移る境地於他所。乃退大糠之地。更建同郡吉藤。

文明十一己亥年三月二十五日卒。年三十七。」

専光寺は、第五世康寂の時、領主富樫氏の命により寺地を移り大糠村を退いた。本遺構のSD02内の石列は畦畔に係わるが、専光寺に関連の遺構の可能性もありやと一時考慮した。護方山専光寺は、現在金沢市本町２丁目に所在し、長享一揆鼓舞の「鶴丸の旗」をも伝える寺である。

平成の始めより、伏見・高橋川工事事務所が安原・高橋川事務所に変わるまでご協力頂いた河川課ならびに金沢土木事務所関係諸氏に感謝いたします。

〈引用・参考文献〉

木立雅朗・澤田まさ子・白田義彦『北塚遺跡』石川県立埋蔵文化財センター　1994
田嶋明人『加賀市田尻シンペイダン遺跡』石川県教育委員会　1979
田嶋明人『漆町遺跡II』石川県立埋蔵文化財センター　1988
端　　猛『扇が丘ハワイゴク遺跡』石川県立埋蔵文化財センター　1995
北西　弘『専光寺文書』北国出版社　1985
八田健一『吉藤専光寺史』吉藤専光寺史刊行会　1960
穂積裕昌「古墳時代の湧水点祭祀について」『考古学と信仰』森浩一編　1994
山本直人「石川県における打製石斧について」『石川考古学研究会会誌第28号』石川考古学研究会　1985
『古墳時代の祭祀』―祭祀関係の遺跡と遺物―東日本埋蔵文化財研究会　1993

扇台遺跡図版

扇台遺跡垂直写真（1/10,000）

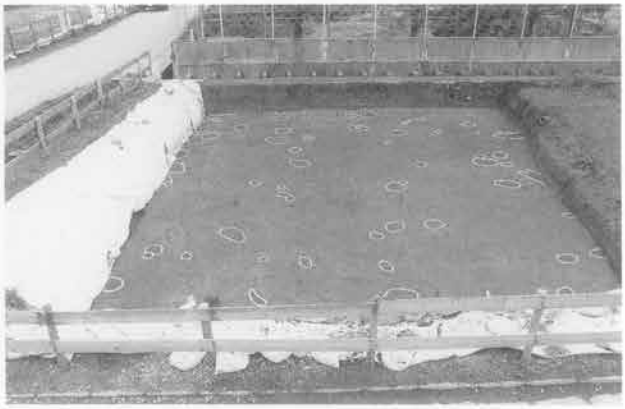
1　調査前風景（南から）

2　第1トレンチ調査風景（南から）

3　第1トレンチSB1・2遺構完掘状況（北から）

4　第1トレンチSB1・2遺構完掘状況（北から）

5　第2トレンチ調査風景（南から）



6　第2トレンチ遺構検出状況（南から）

7　第2トレンチ遺構完掘状況（南から）

8　第1・2トレンチ遺構完掘状況（南から）

1　第3トレンチ遺構検出状況（南から）

2　第3トレンチ弥生土器出土状況（西から）

3　第3トレンチ弥生土器取り上げ作業（西から）

4　第3トレンチ弥生土器取り上げ後（北から）

5　第3トレンチ遺構完掘状況（北から）

6　現地説明会の様子

7　調査後ビニールシートによる保護措置（第1トレンチ）

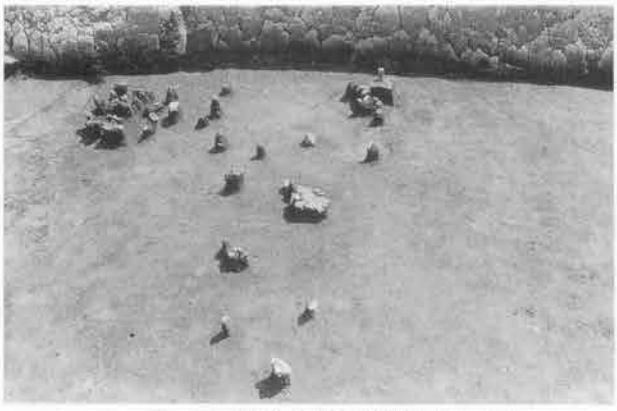
8　調査参加者

1　重機による表土除去作業

2　第1次調査区保護シート撤去作業

3　24～32区遺構検出状況（北西から）

4　24～32区遺構完掘状況（北西から）



5　G－28区弥生土器出土状況（西から）

6　G－28区弥生土器出土状況（西から）

7　G－28区弥生土器取り上げ作業（北から）

8　G－28区完掘状況（西から）

1　G－32・33区弥生土器出土状況（南東から）

2　G－32・33区弥生土器出土状況（南から）

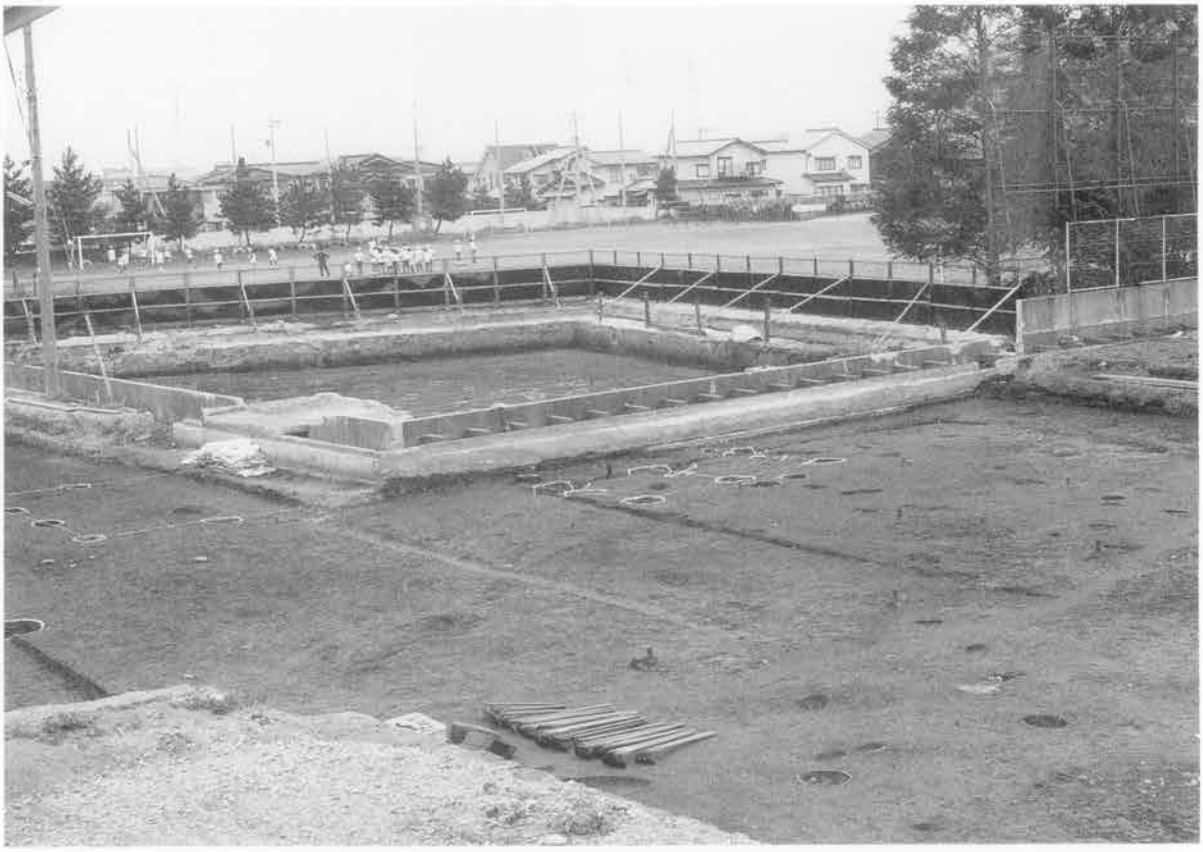
3　G－32・33区完掘状況（北から）

4　G－32・33区完掘状況（北から）

5　SB1・2・3完掘状況（南から）

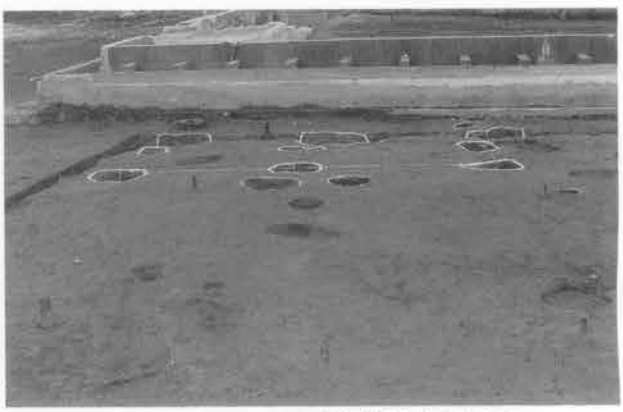
1　SB1・2完掘状況（南から）

2　SB1柱穴土層断面（西から・第1次調査）



3　SB3・4・5・6完掘状況（南西から）

4　SB3完掘状況（南から）



5　SB4・5・6完掘状況（南から）

1　G～K－8～14区古代第3期遺構検出状況（南から）

2　G～K－8～14区古代第3期遺構完掘状況（南から）

1　G～K－8～14区古代第2期遺構検出状況（南から）

2　G～K－8～14区古代第2期遺構完掘状況（南から）

1　基本土層（H－28区東壁断面）（西から）

2　基本土層（H－31区東壁断面）（西から）

3　扇台小学校児童体験発掘の様子①

4　扇台小学校児童体験発掘の様子②

5　扇台小学校児童体験発掘の様子③

6　扇台小学校児童体験発掘の様子④

7　現地説明会の様子

8　調査参加者

1　重機による表土除去作業（東から）

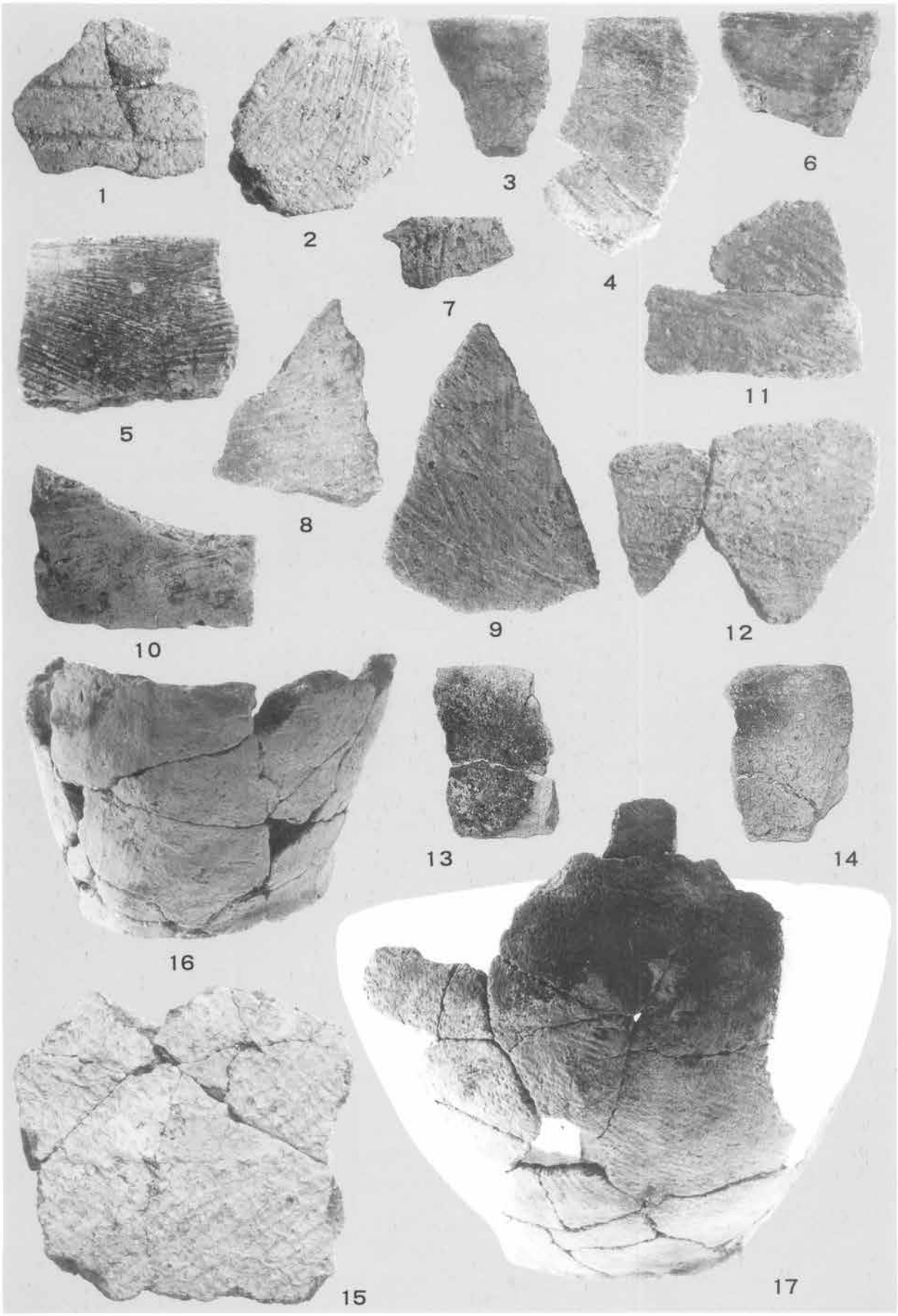
2　西区完掘状況（南から）

3　西区完掘状況（東から）

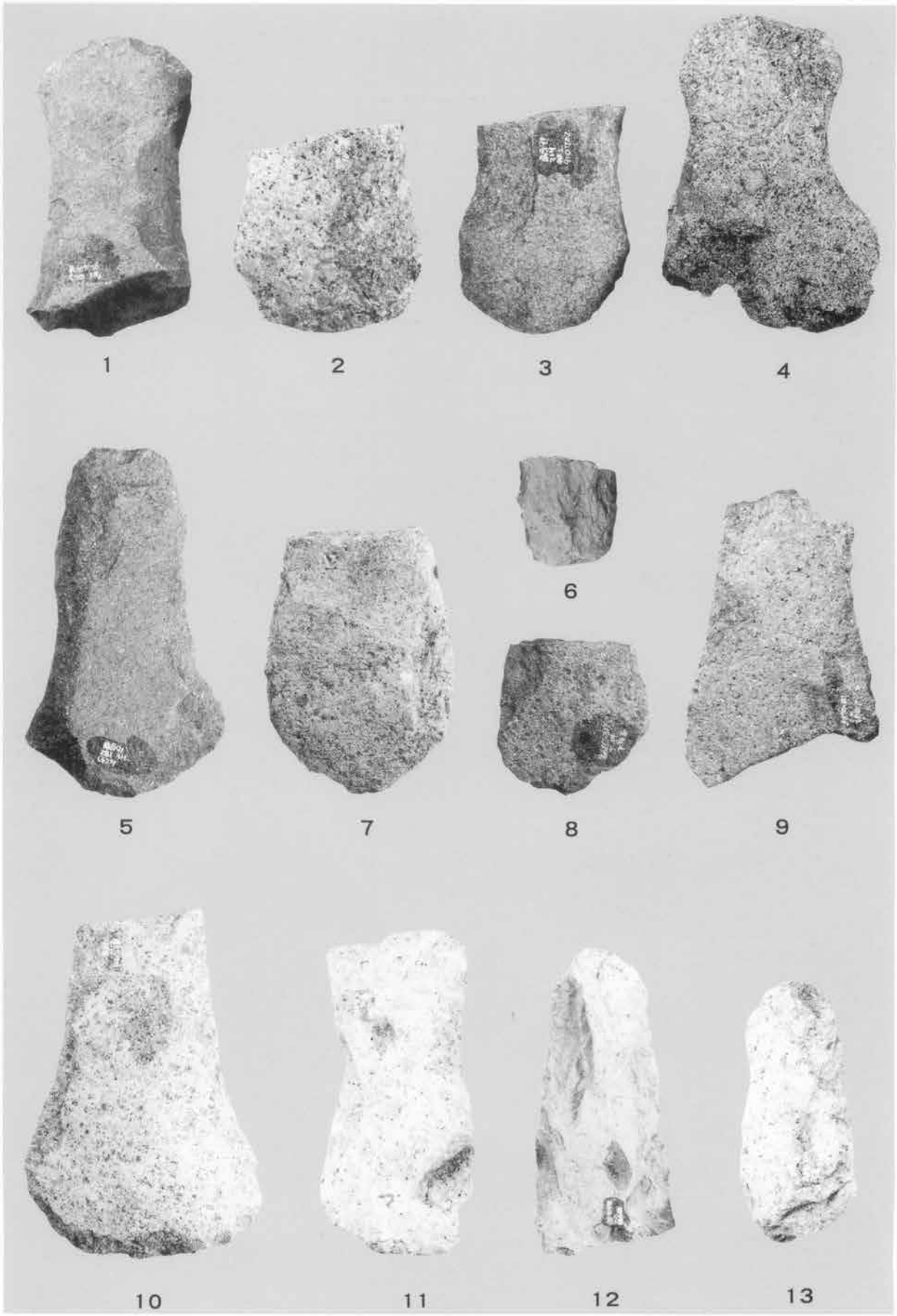
4　西区東壁土層断面（北から）

5　東区完掘状況（南から）

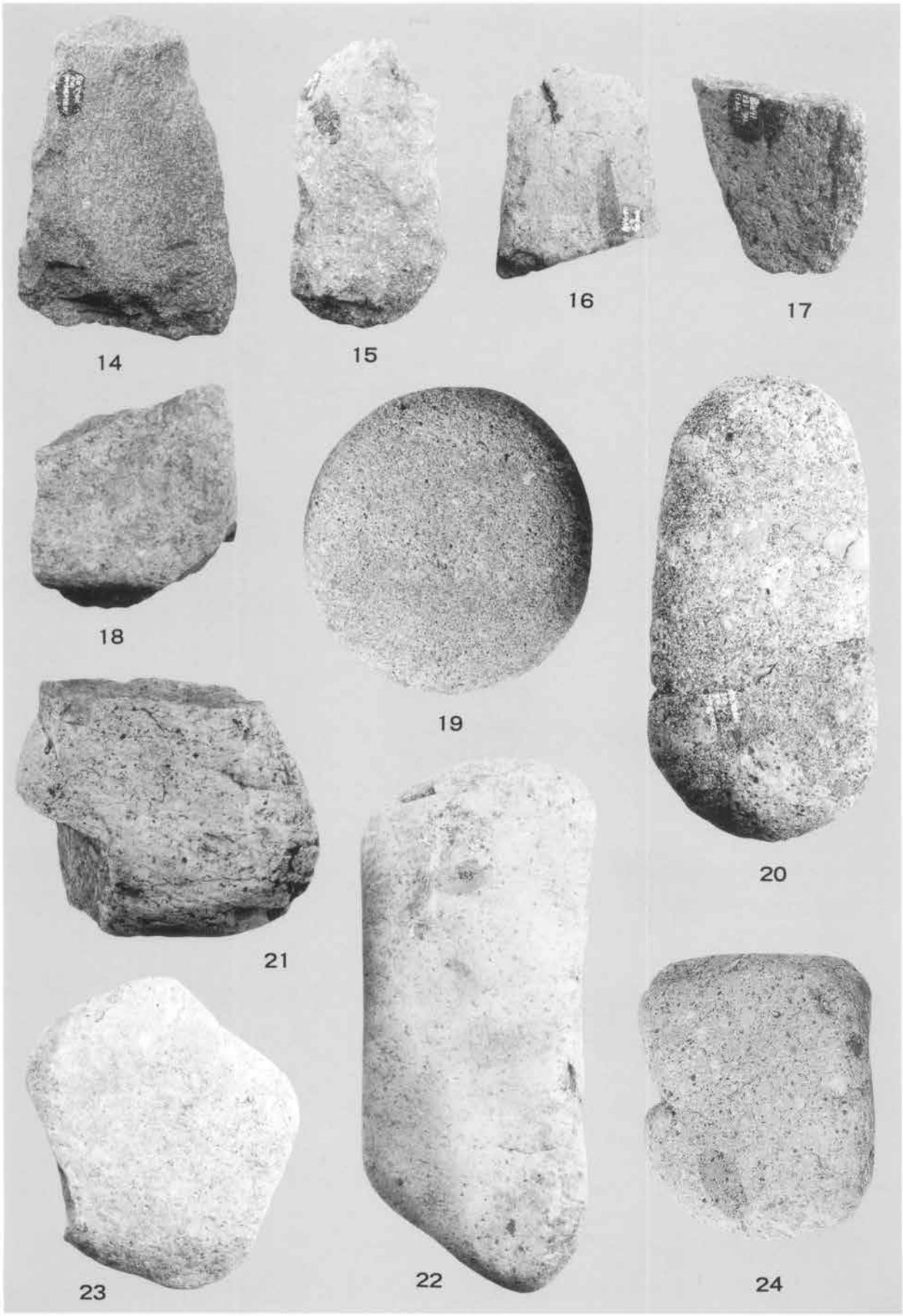
6　東区北壁土層断面（南から）



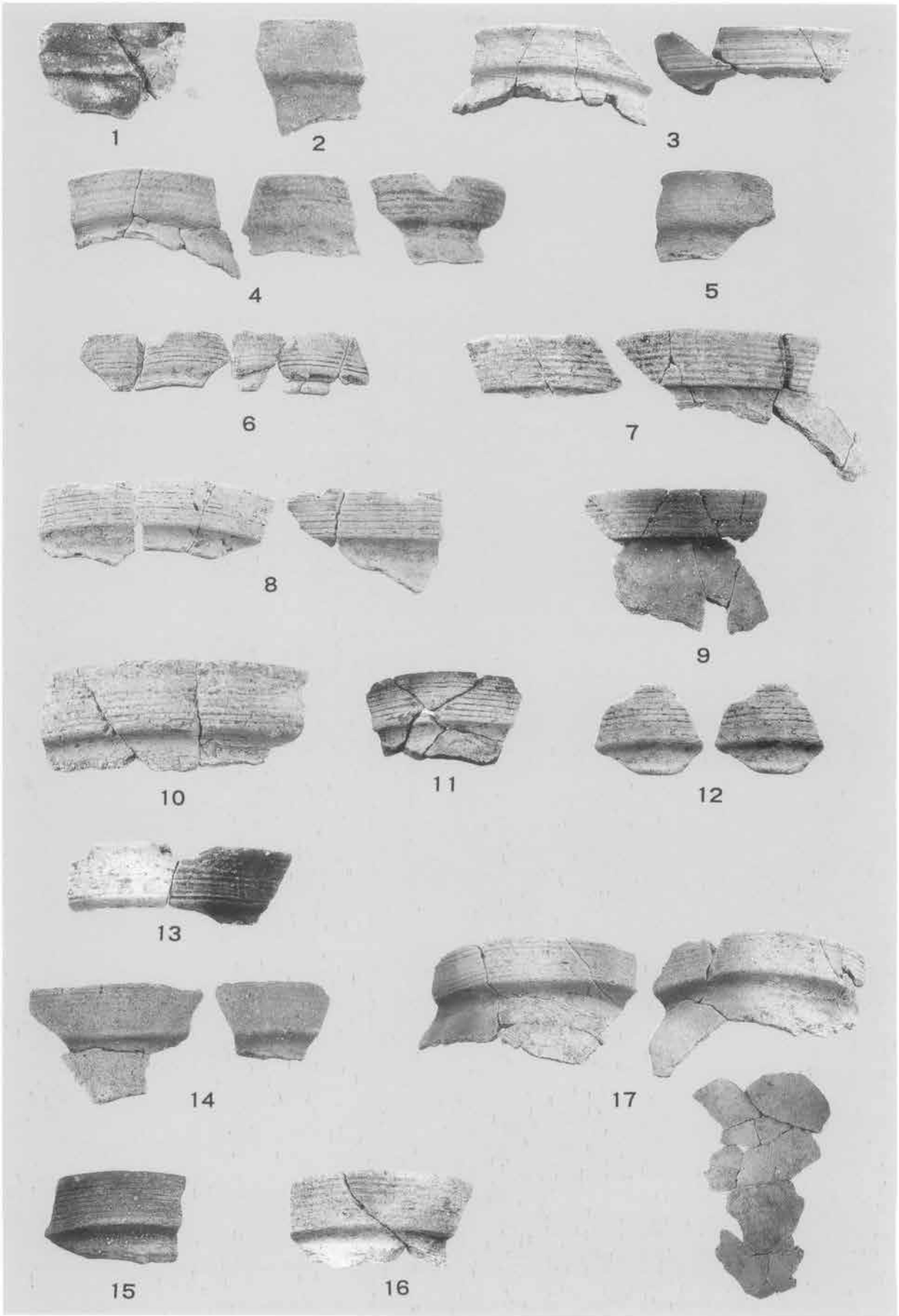
縄文土器



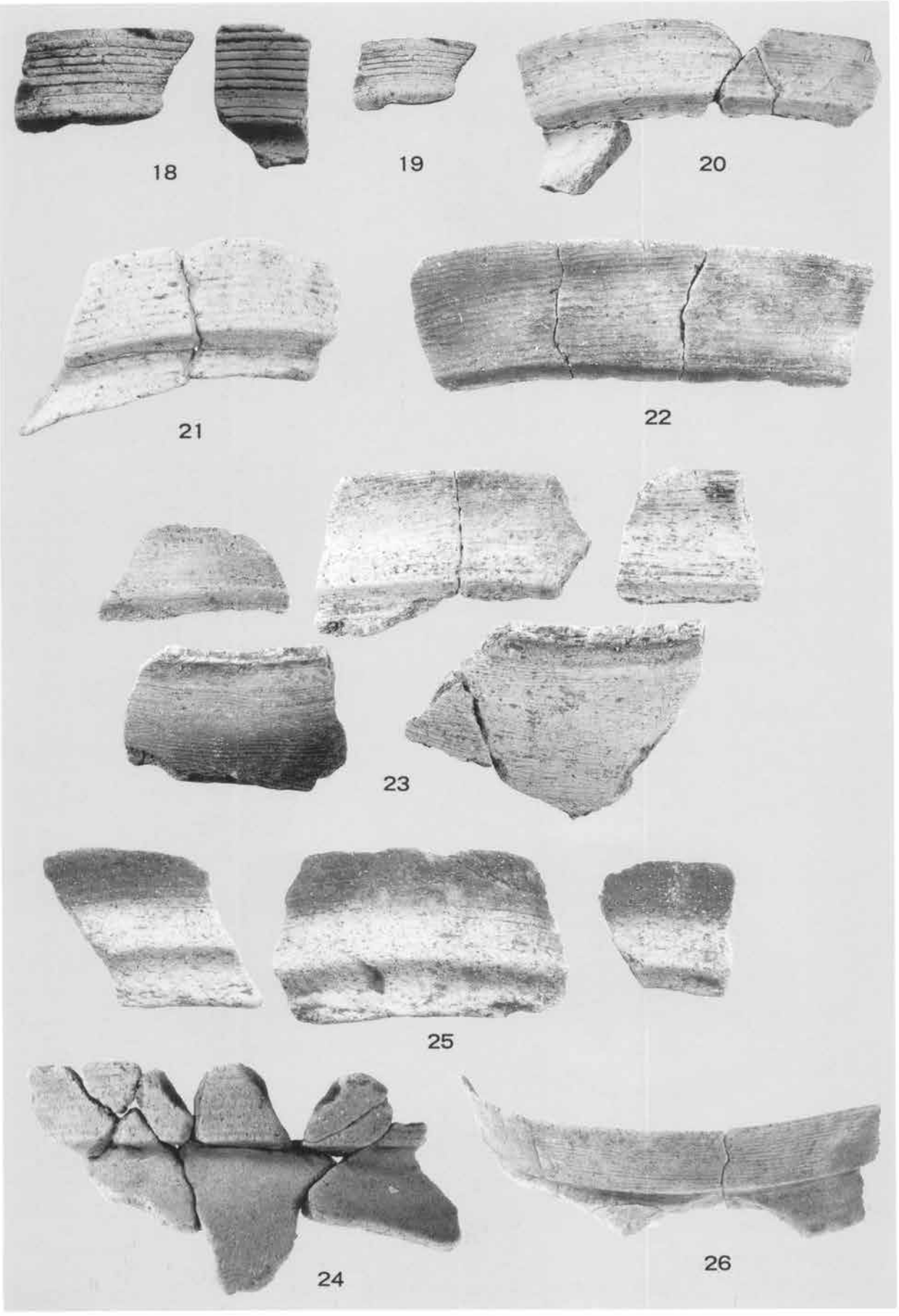
石器（打製石斧）



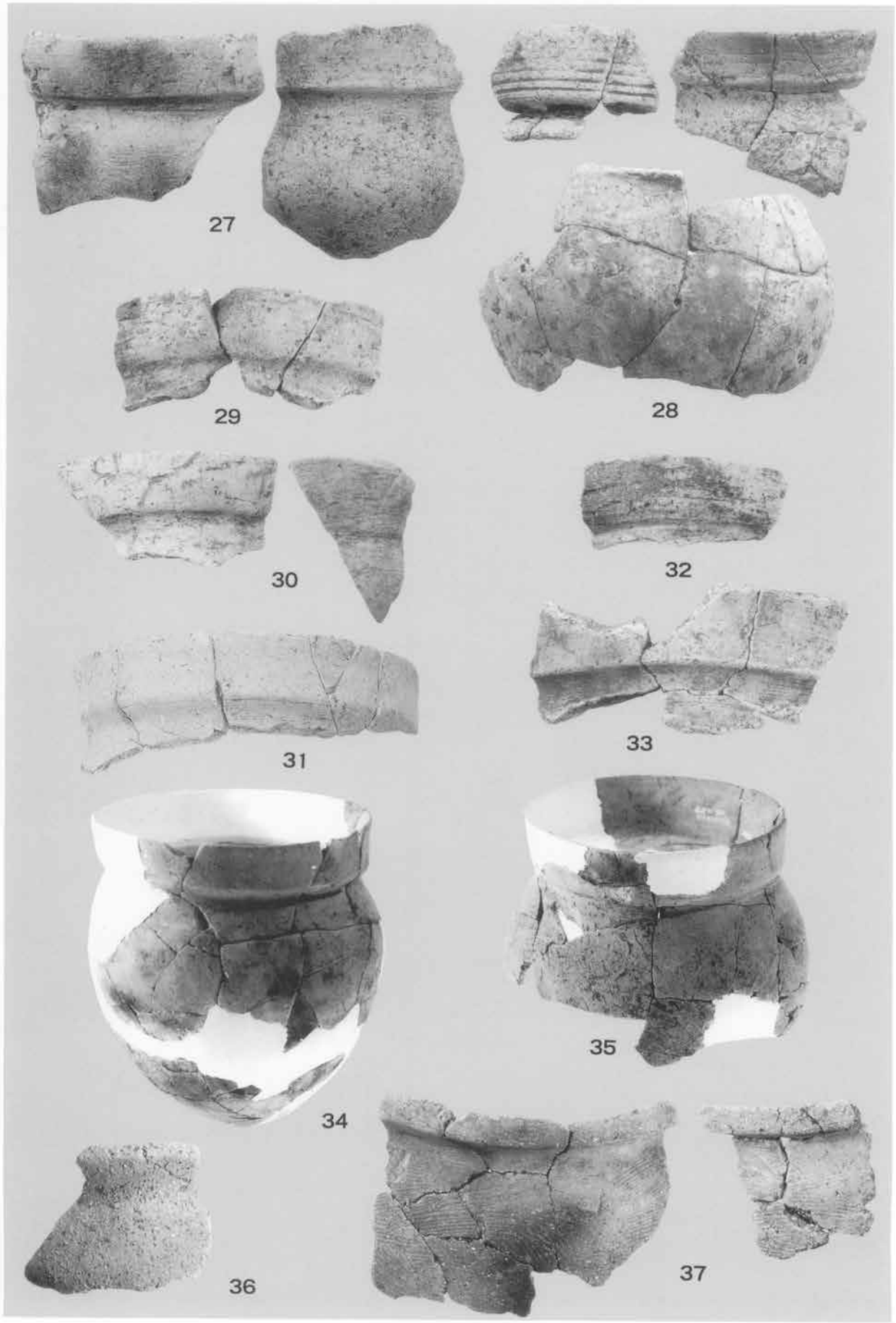
石器（打製石斧、磨石）



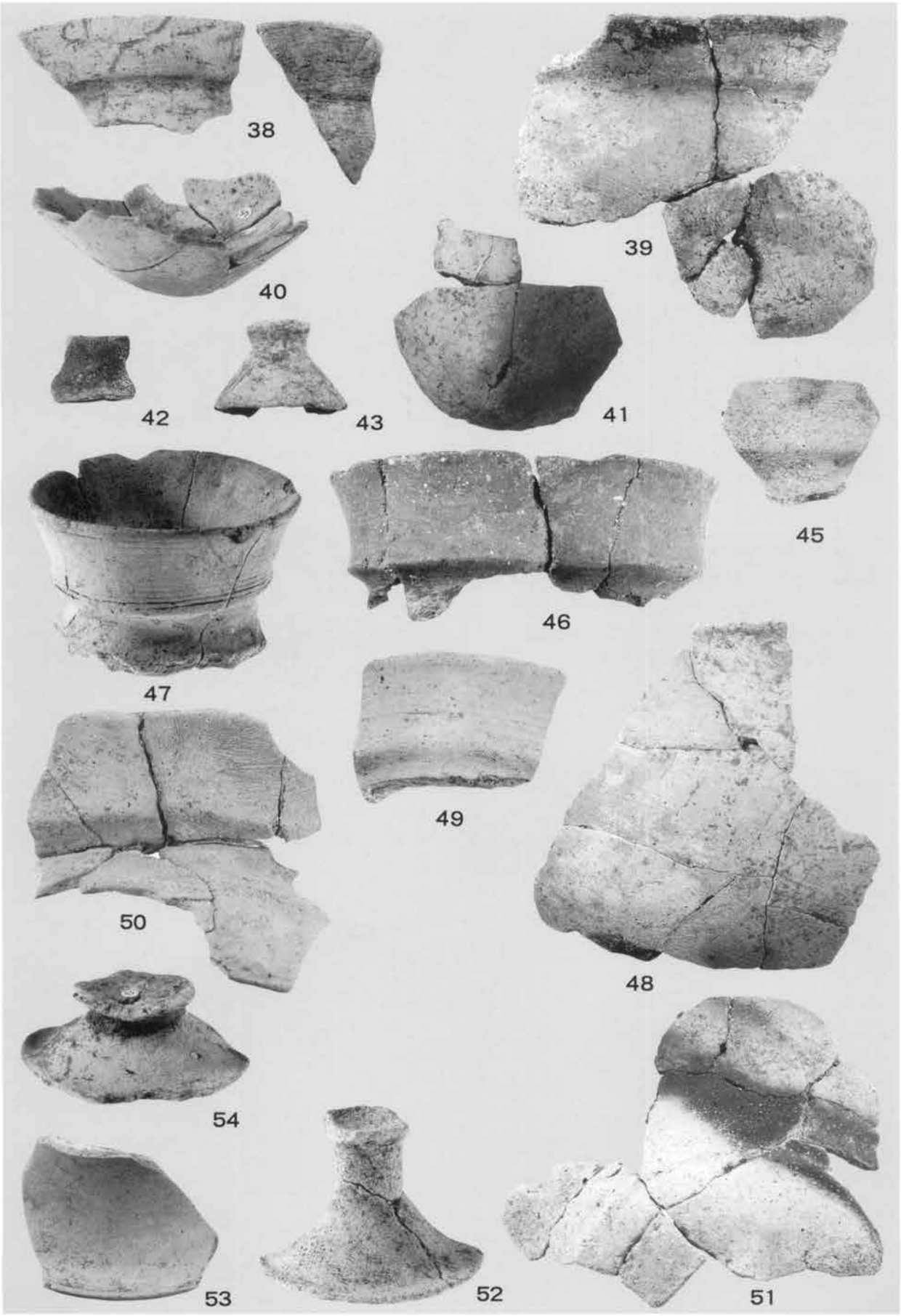
SX－01出土土器(1)



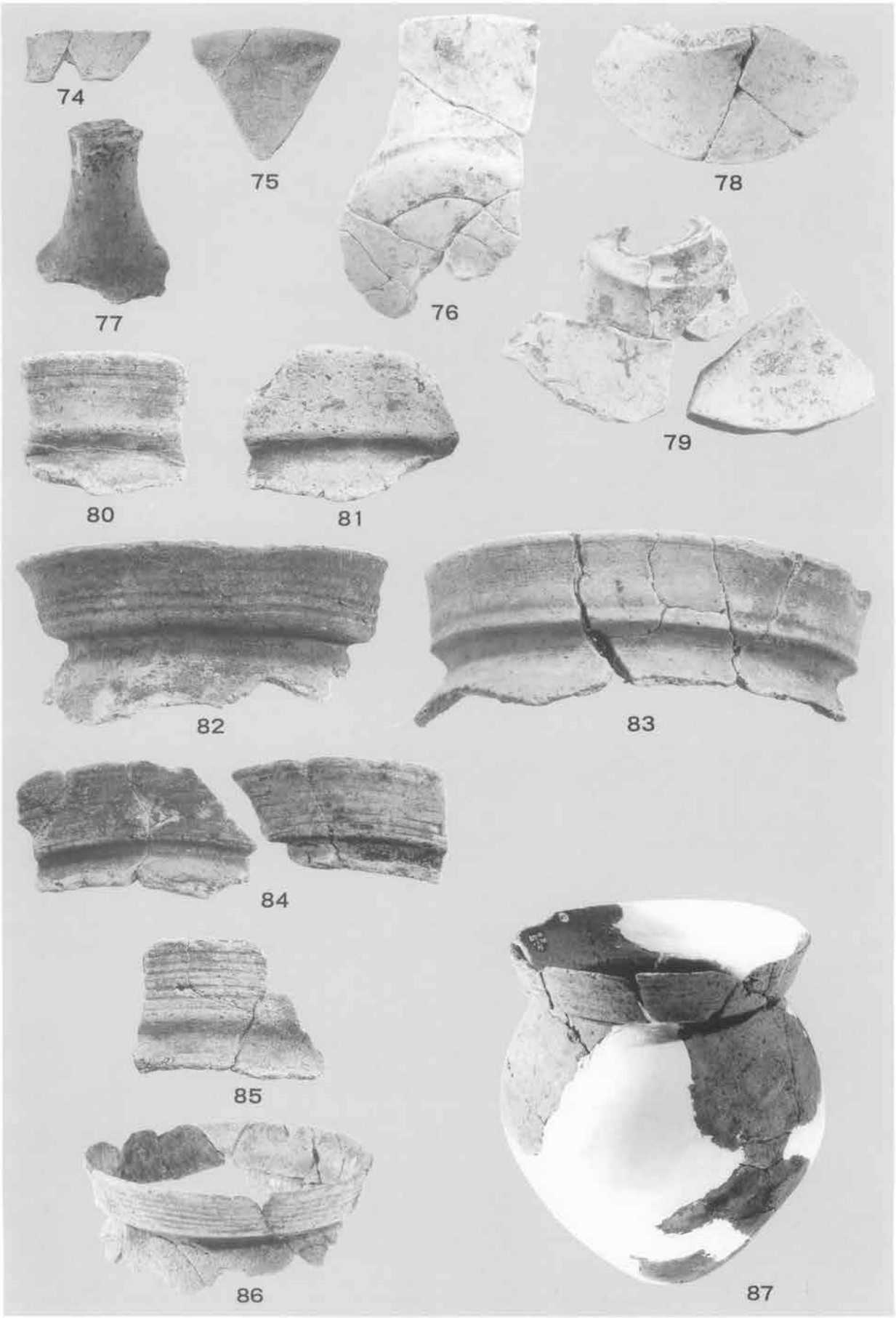
SX−01出土土器(2)



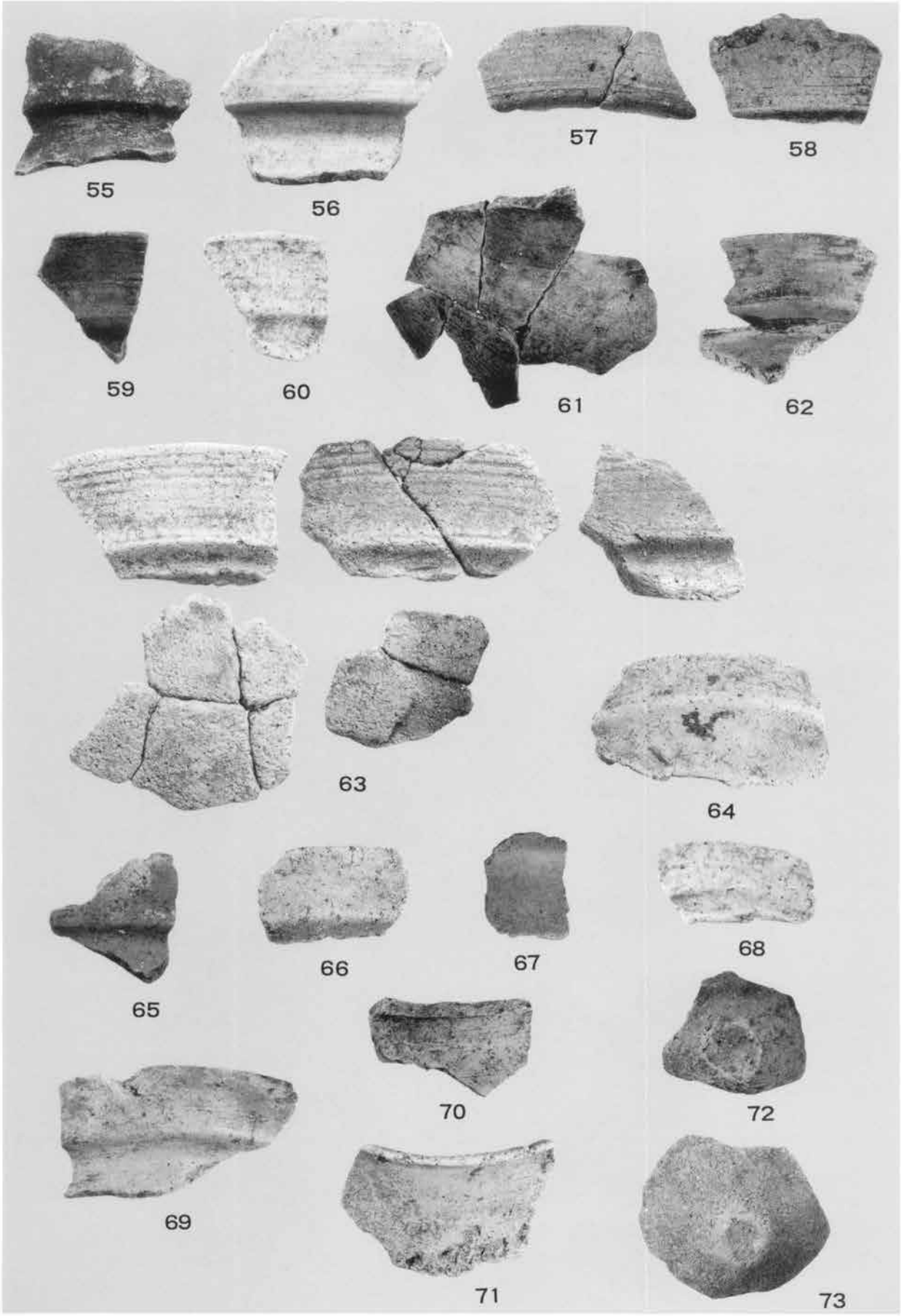
SX−01出土土器(3)



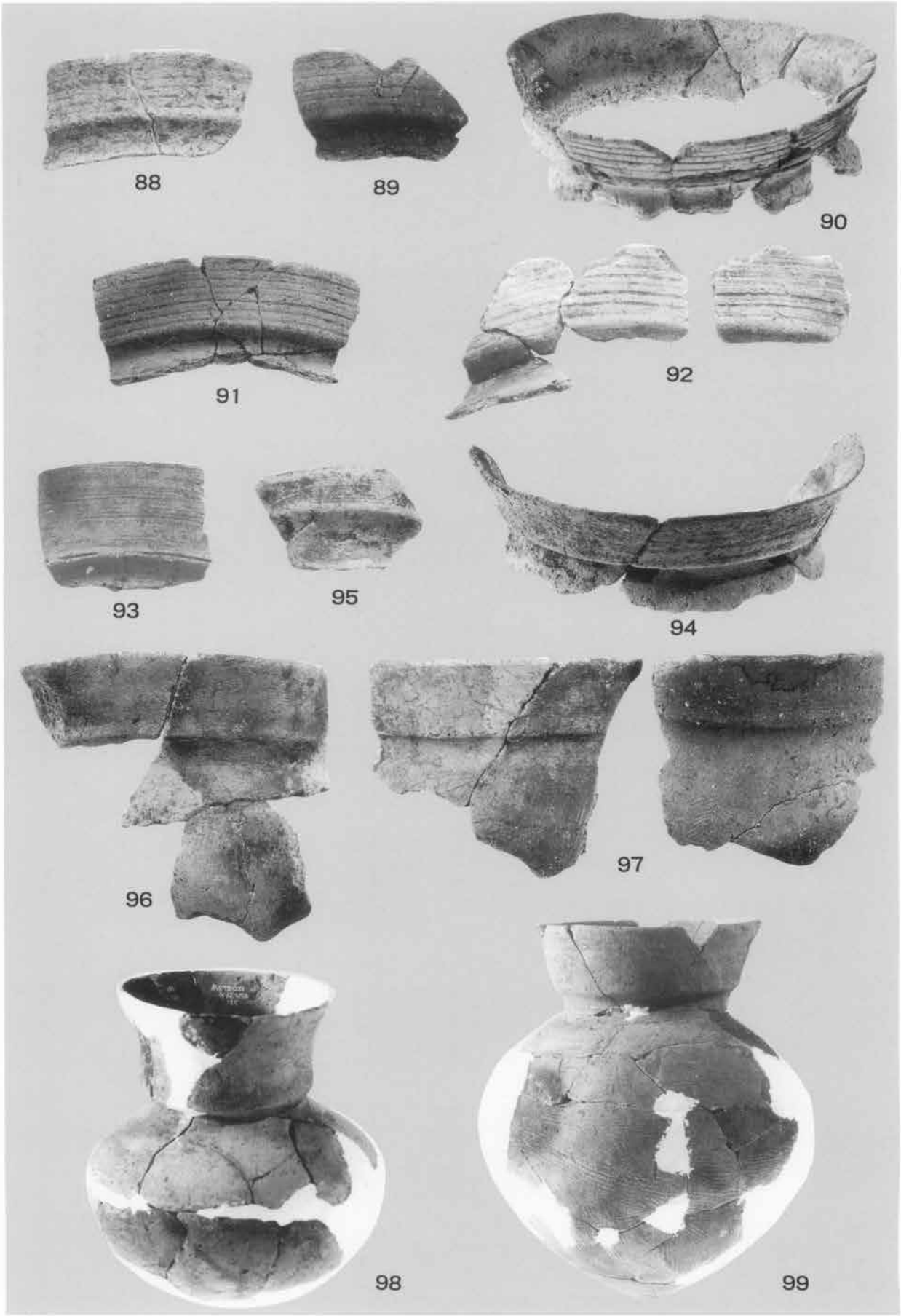
SX—01出土土器(4)



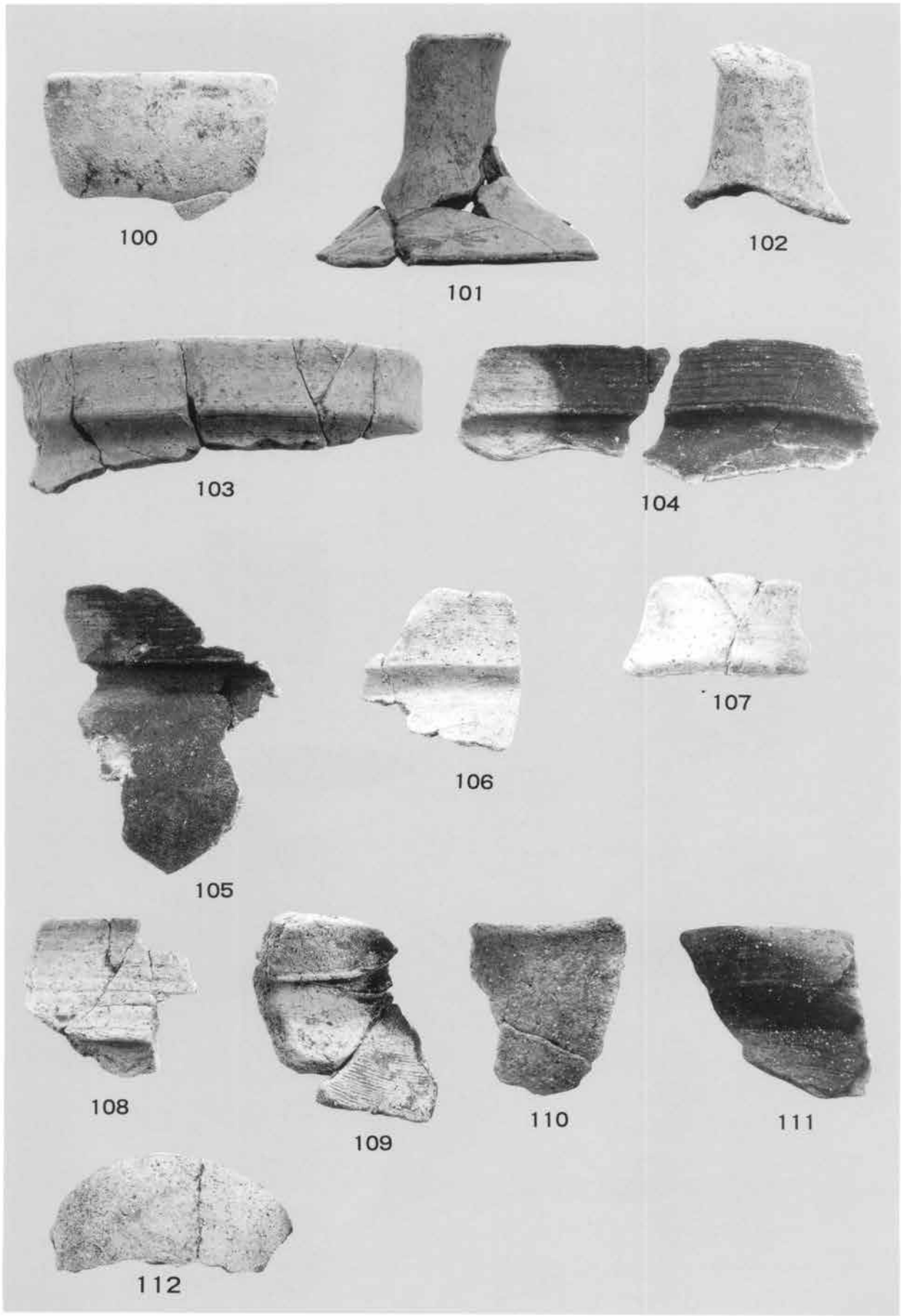
G26～28区、G—32・33区出土土器



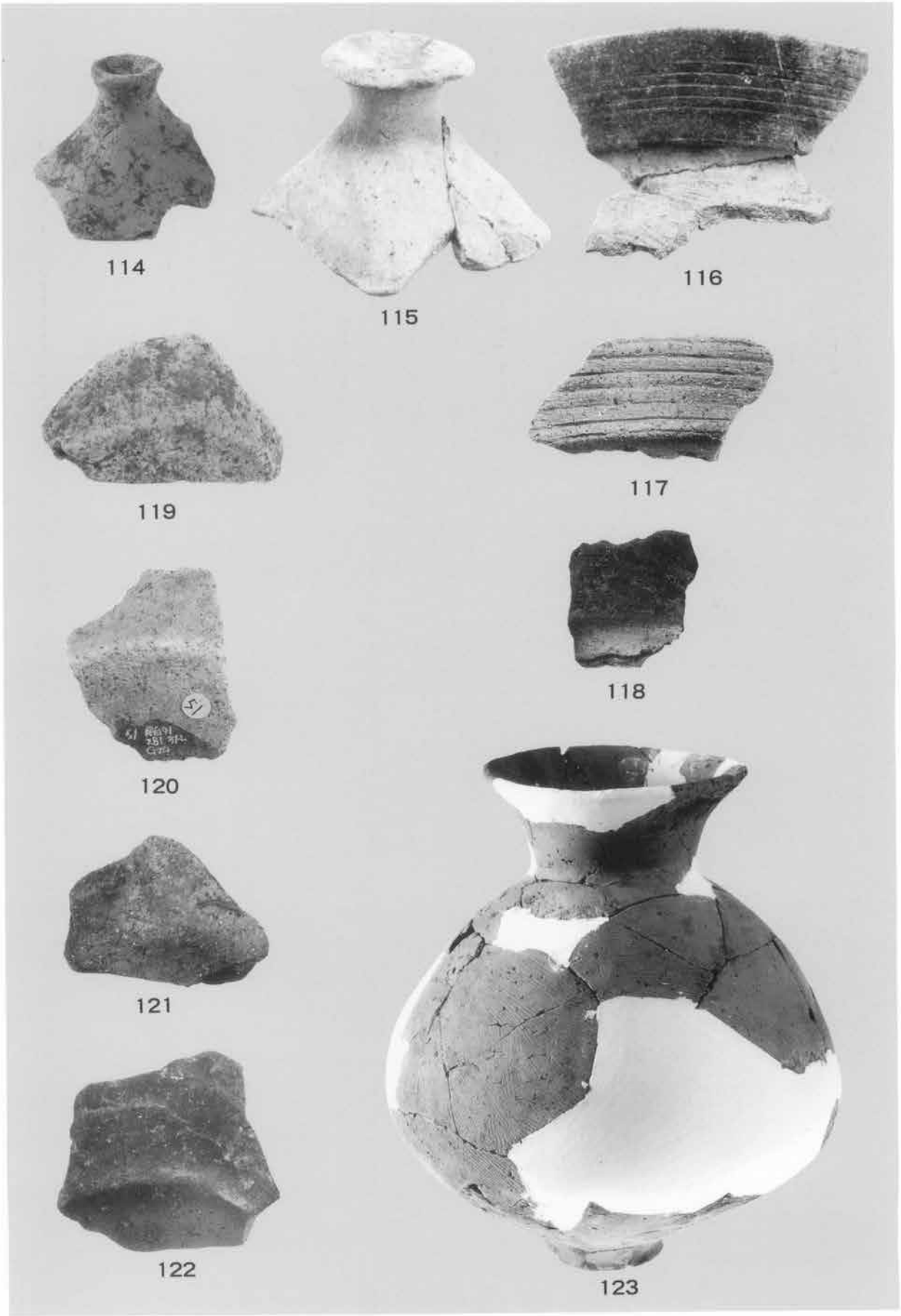
G—27・28区出土土器



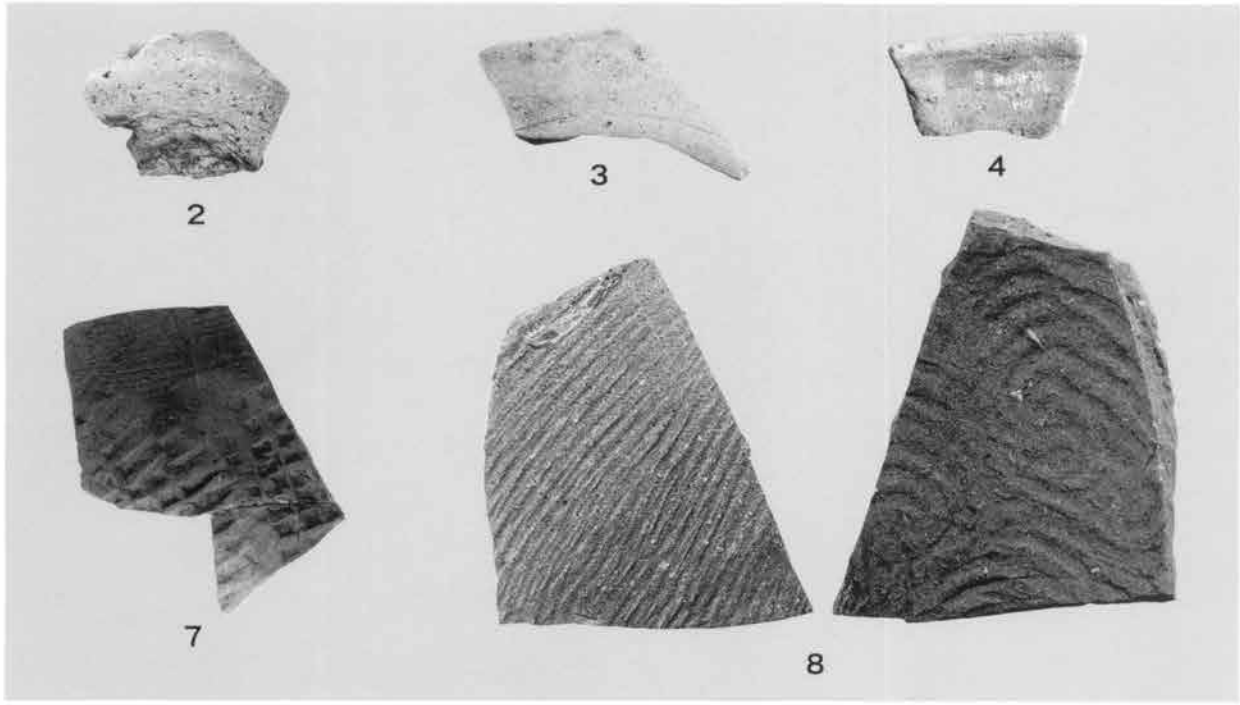
G—32区出土土器



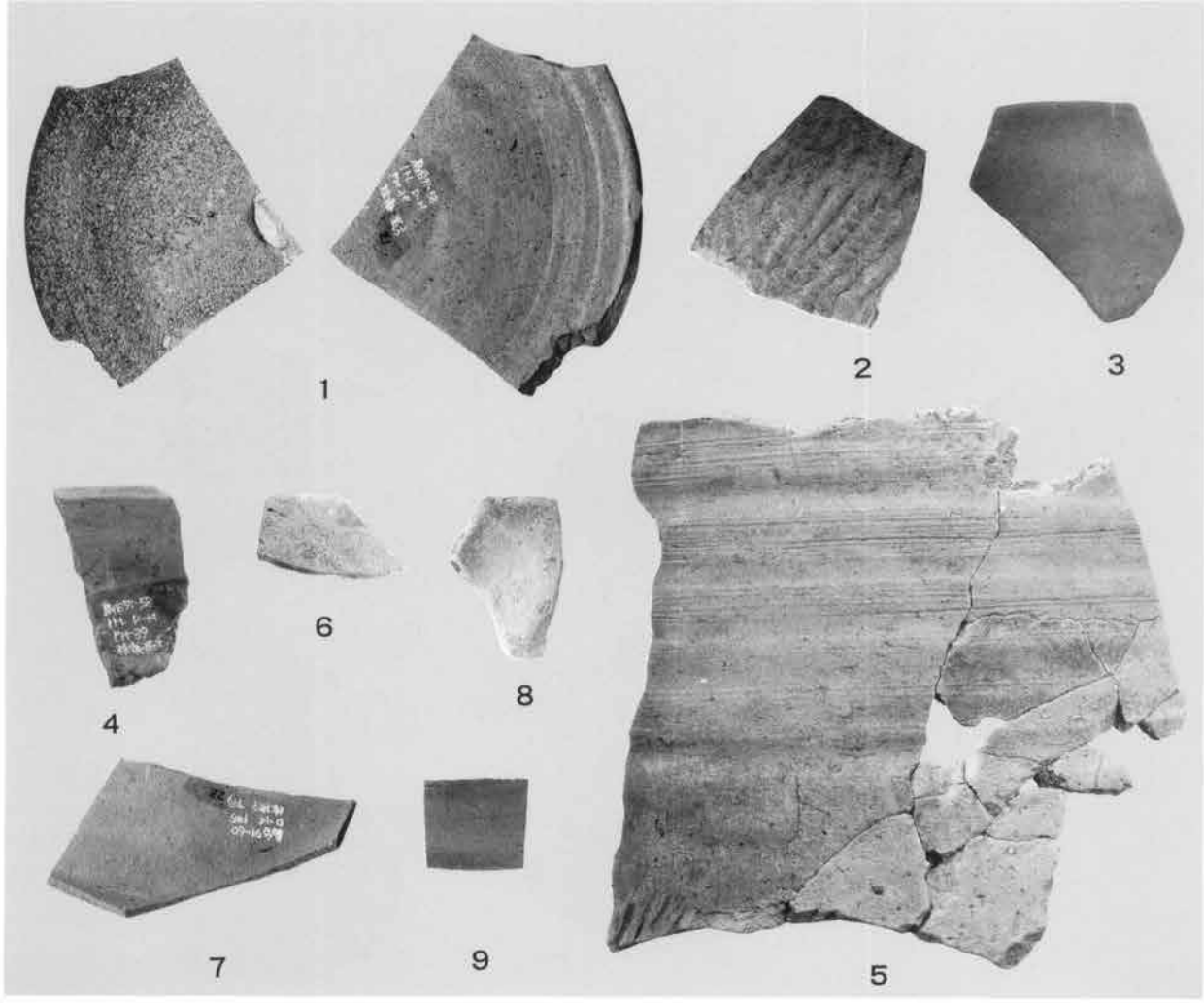
G—32区、その他の地区から出土した弥生土器



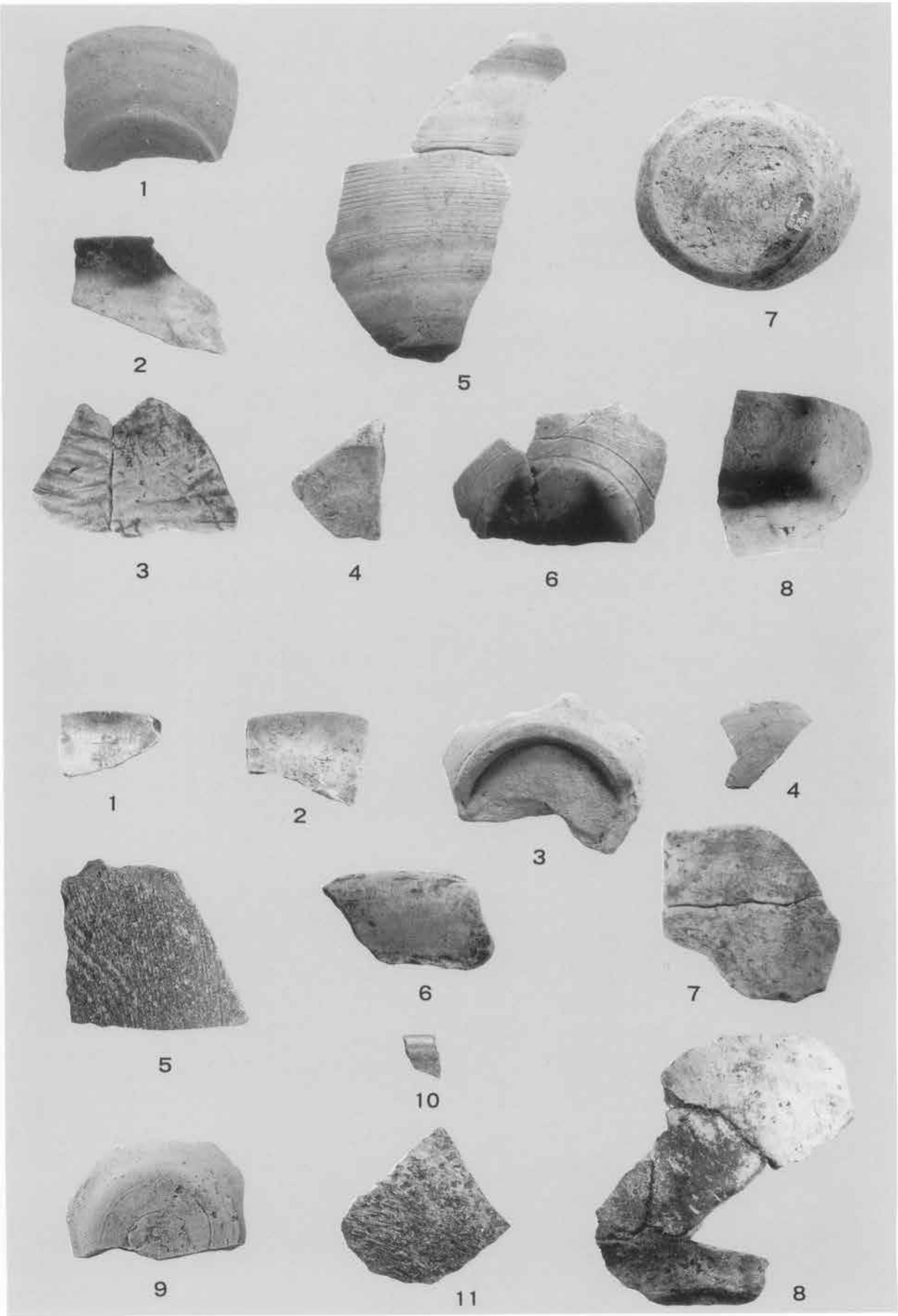
その他の地区より出土した弥生土器



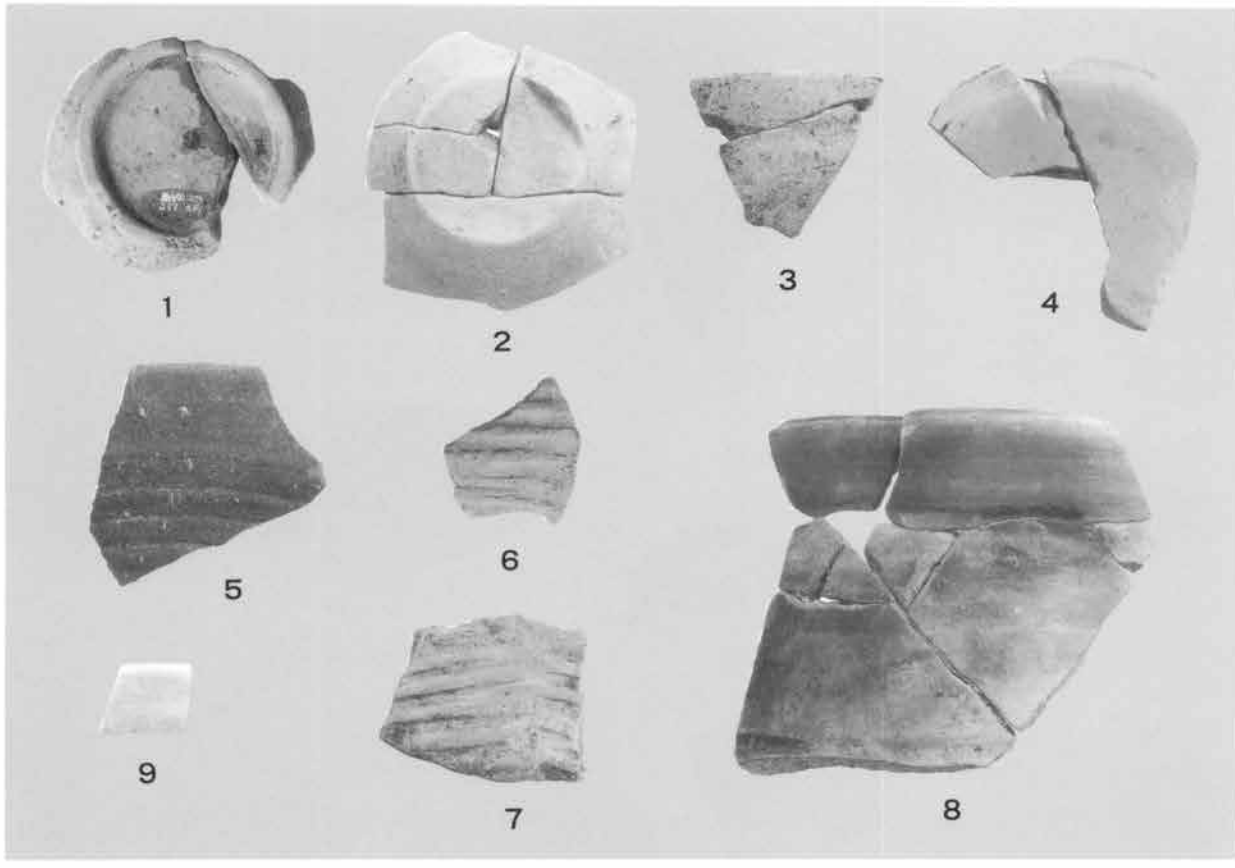
SB—01　柱穴出土遺物



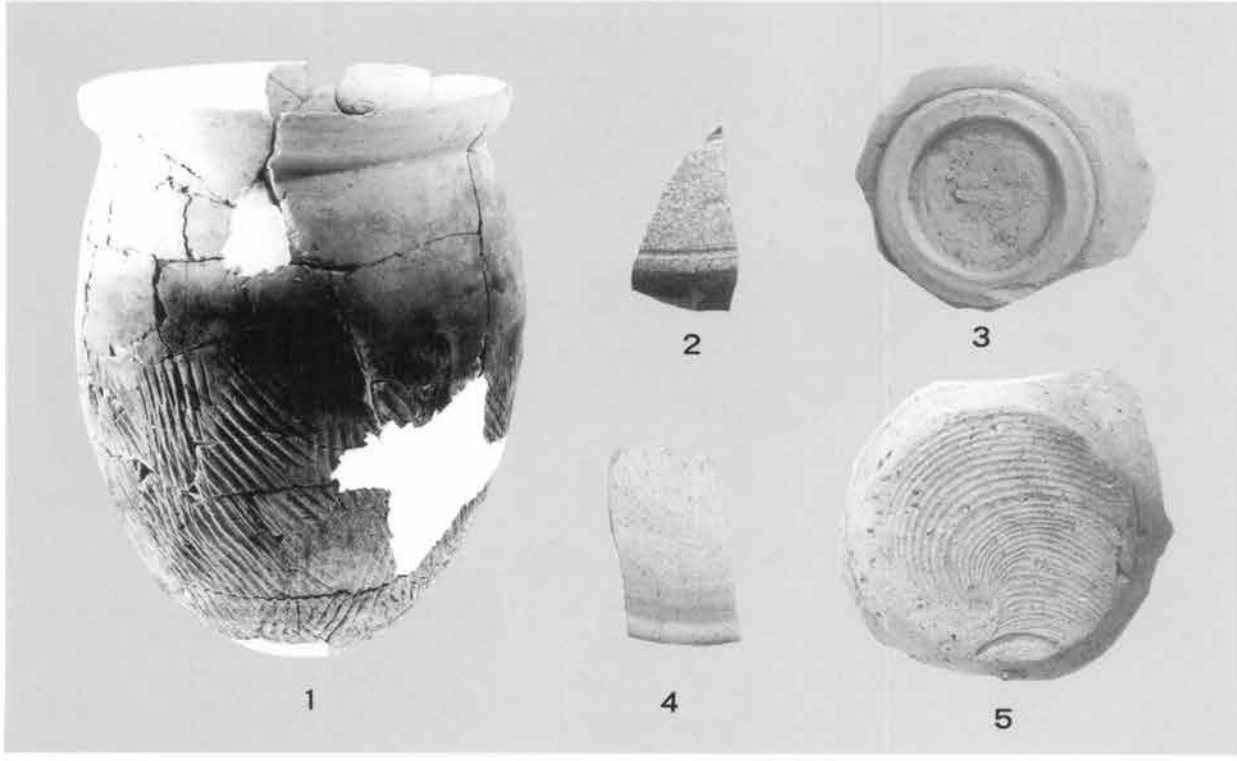
SB—02　柱穴出土遺物



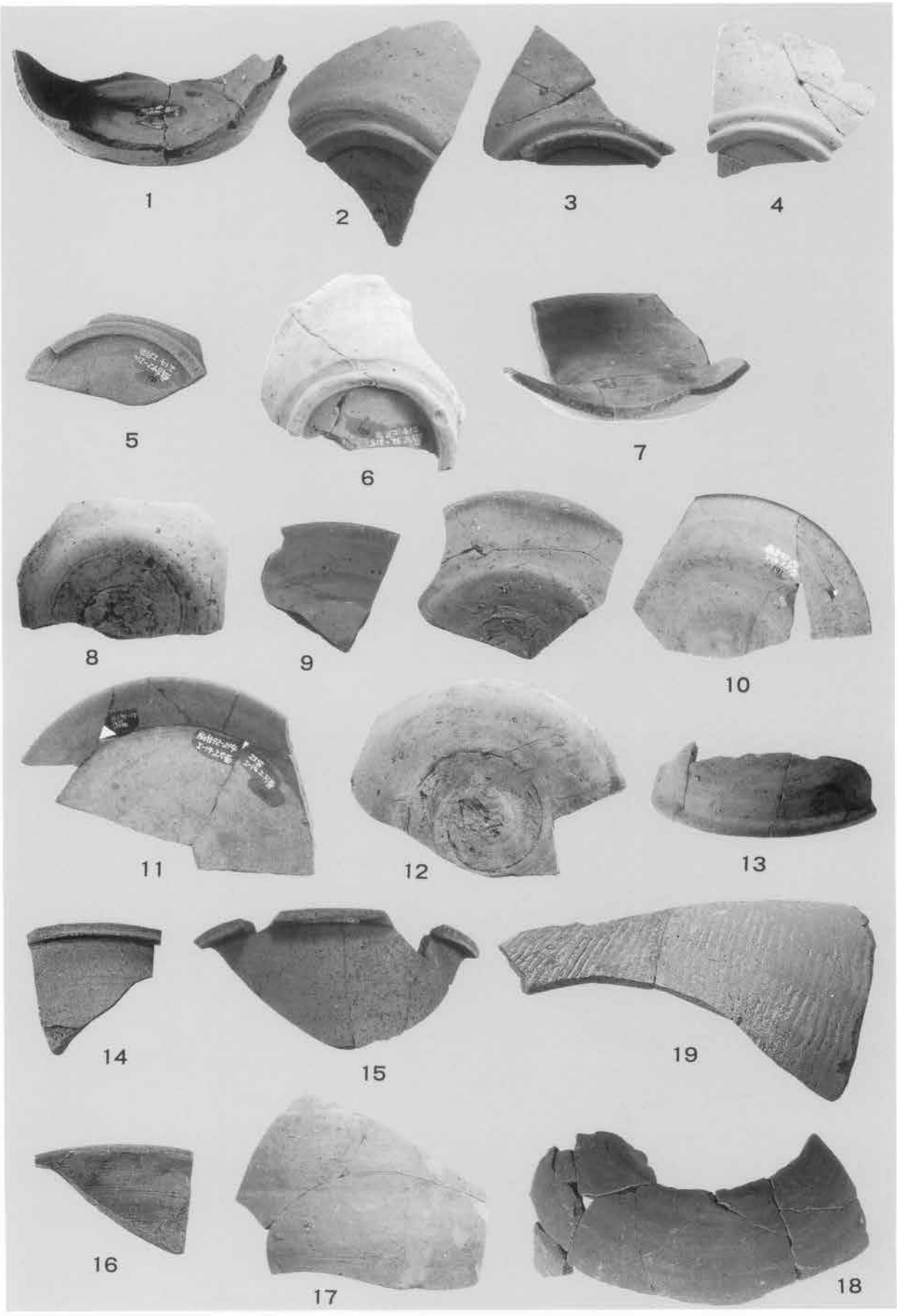
SB—01、02附近出土のピット包含層出土遺物



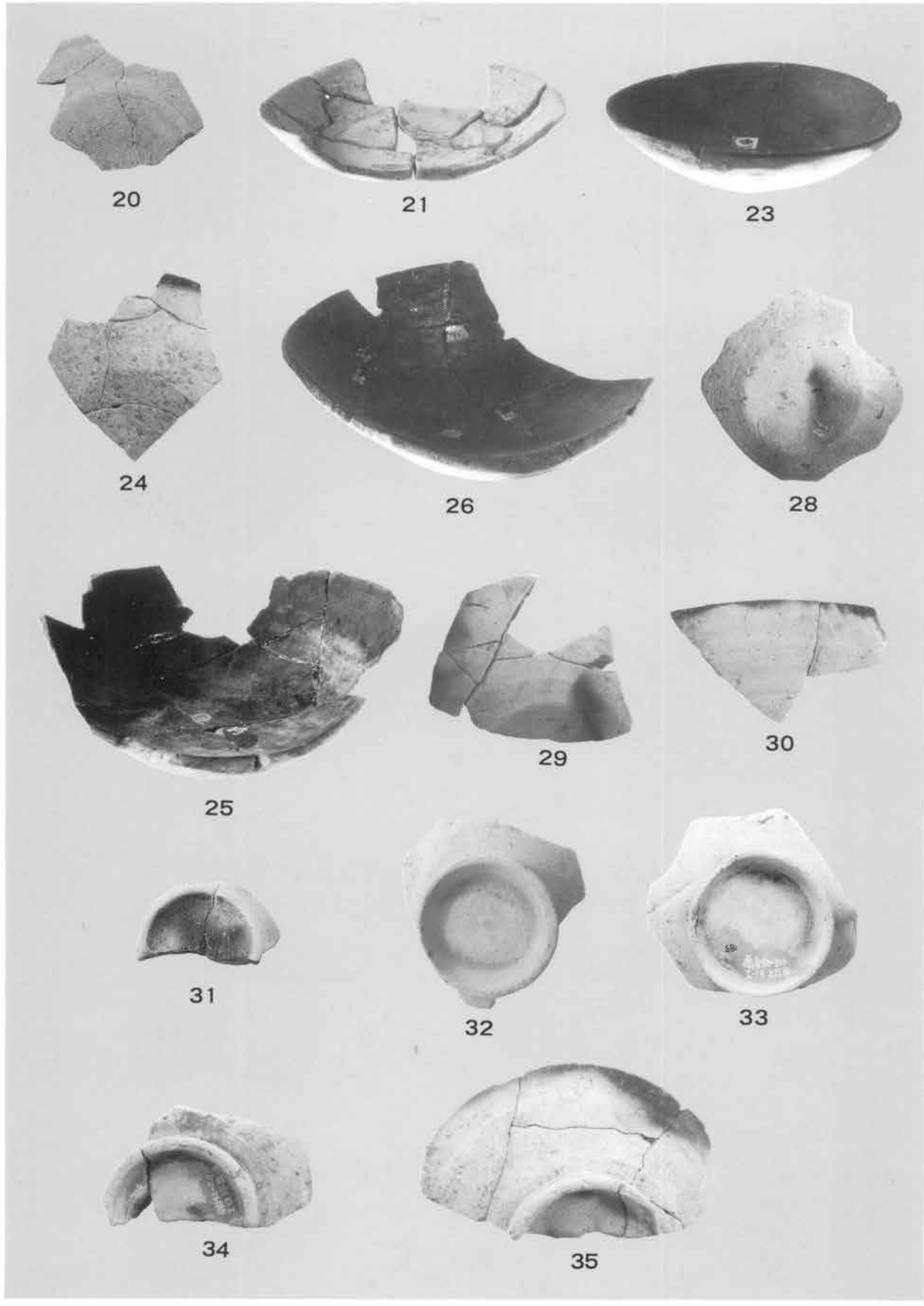
SB—04、05、06附近出土ピット・包含層出土遺物



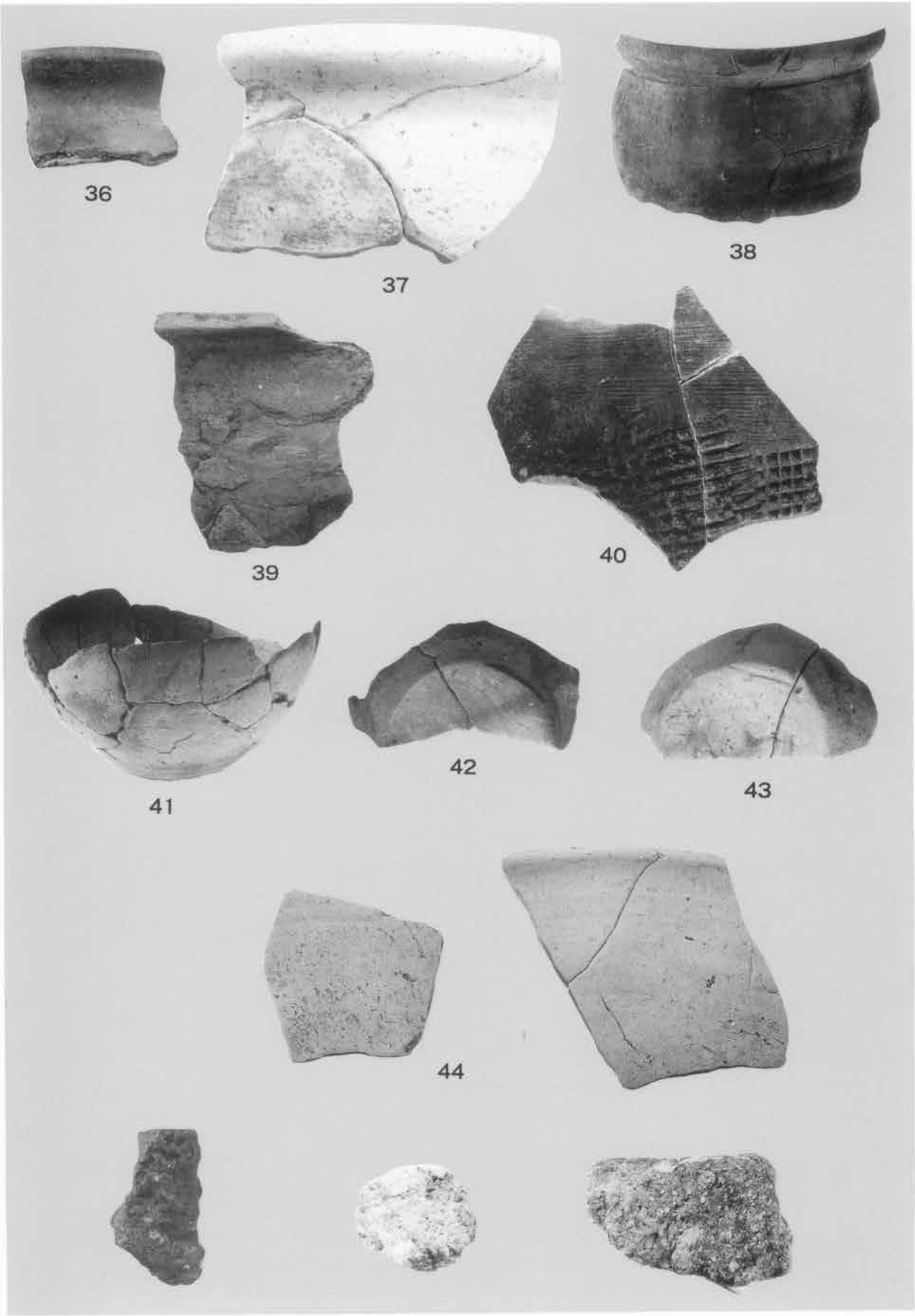
H—10区、扇台小学校旧グランド試掘遺物、G—28、29区出土遺物



SB—07、08附近ピット・包含層出土遺物(1)



SB—07、08附近ピット・包含層出土遺物(2)



SB—07、08附近ピット・包含層出土遺物(3)

大額キョウデン遺跡図版
PLATE

図版1　大額キョウデン遺跡体験発掘・現地説明会

図版2　大額キョウデン遺跡全景（トレンチをのぞく）

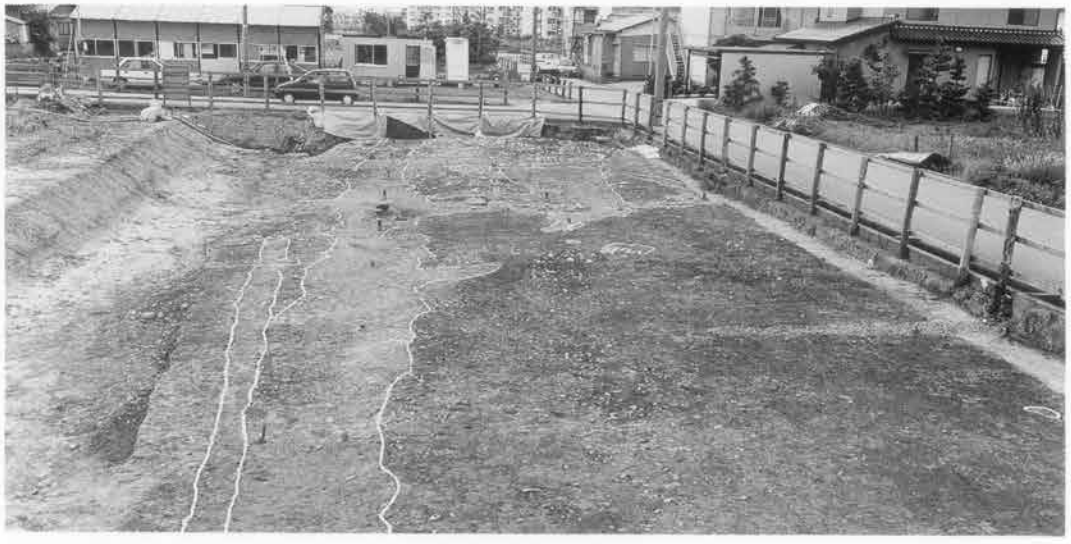
図版3　大額キョウデン遺跡発掘調査状況

発掘作業開始（南より）

3層掘り下げ状況（北より）

図版4　大額キョウデン遺跡調査区完掘状況

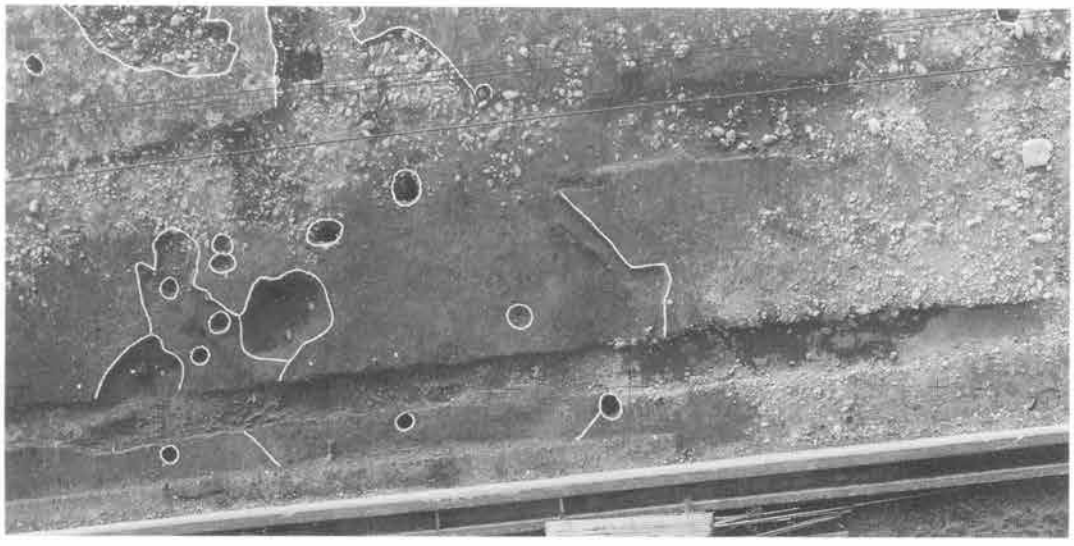
完掘状況（北より）



2層下面（南より）

3層下面（南より）

図版5　大額キョウデン遺跡SI01①

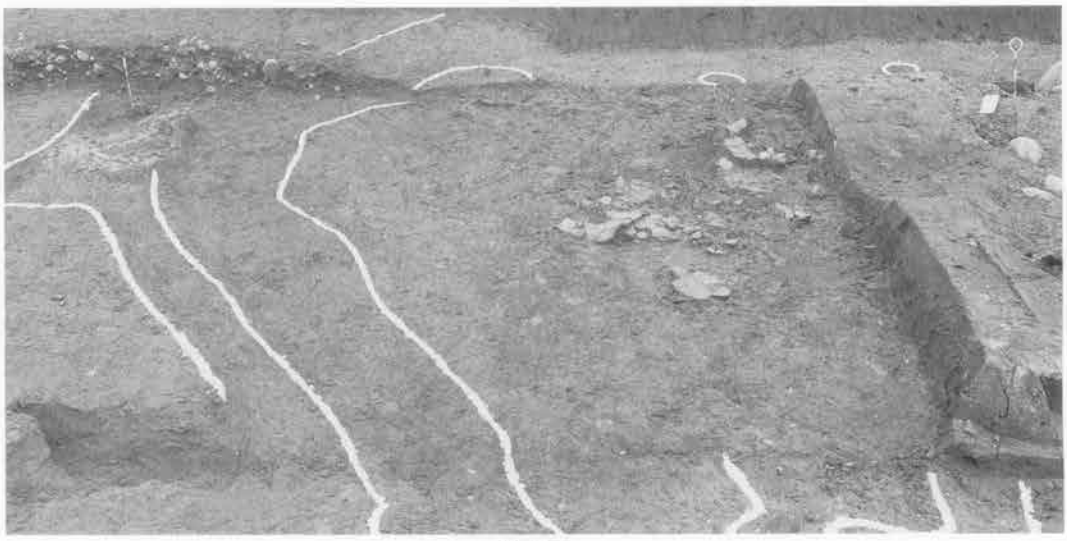


府　瞰

北東より

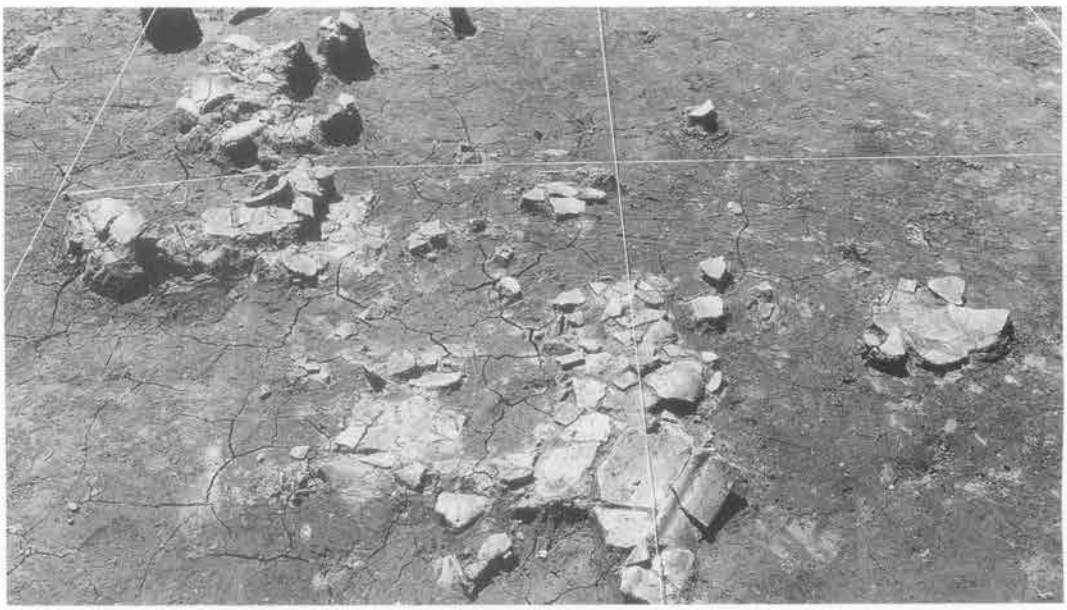
白色粘土

図版6　大額キョウデン遺跡SI01②



北東肩

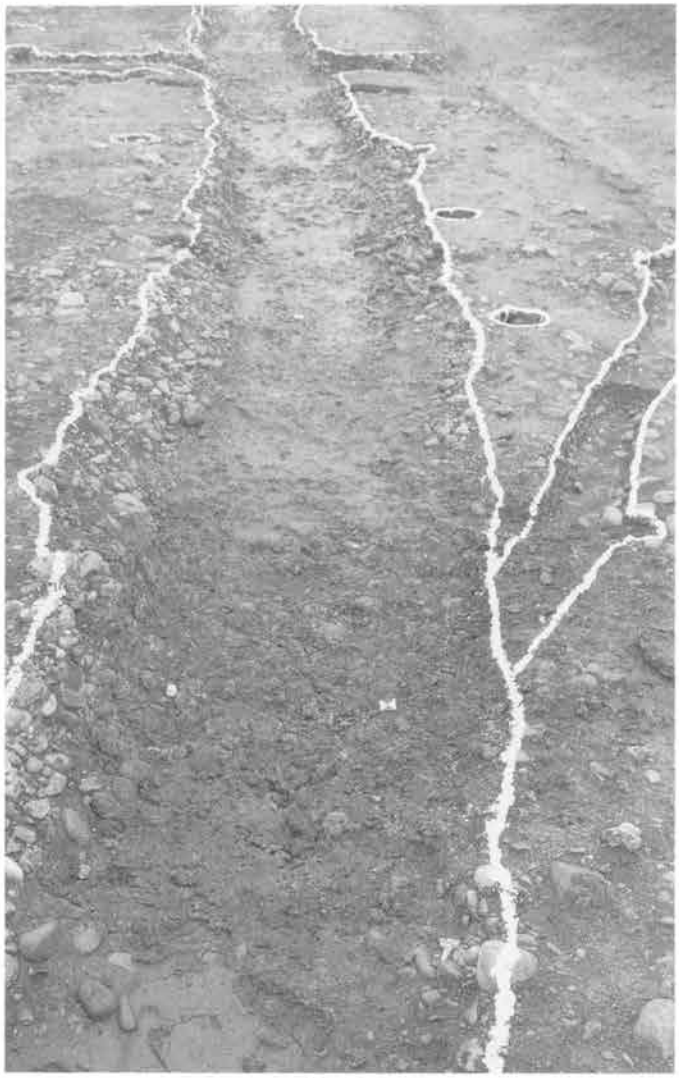
2層下面



土器出土状況

図版7　大額キョウデン遺跡ＳＤ０１他

ＳＤ０１



ＳＤ０３と完掘状況（北より）

Ｃ・Ｄ－３区椀出土状況

図版8　大額キョウデン遺跡ＳＤ０１とその周辺

ＳＤ０１周辺土層

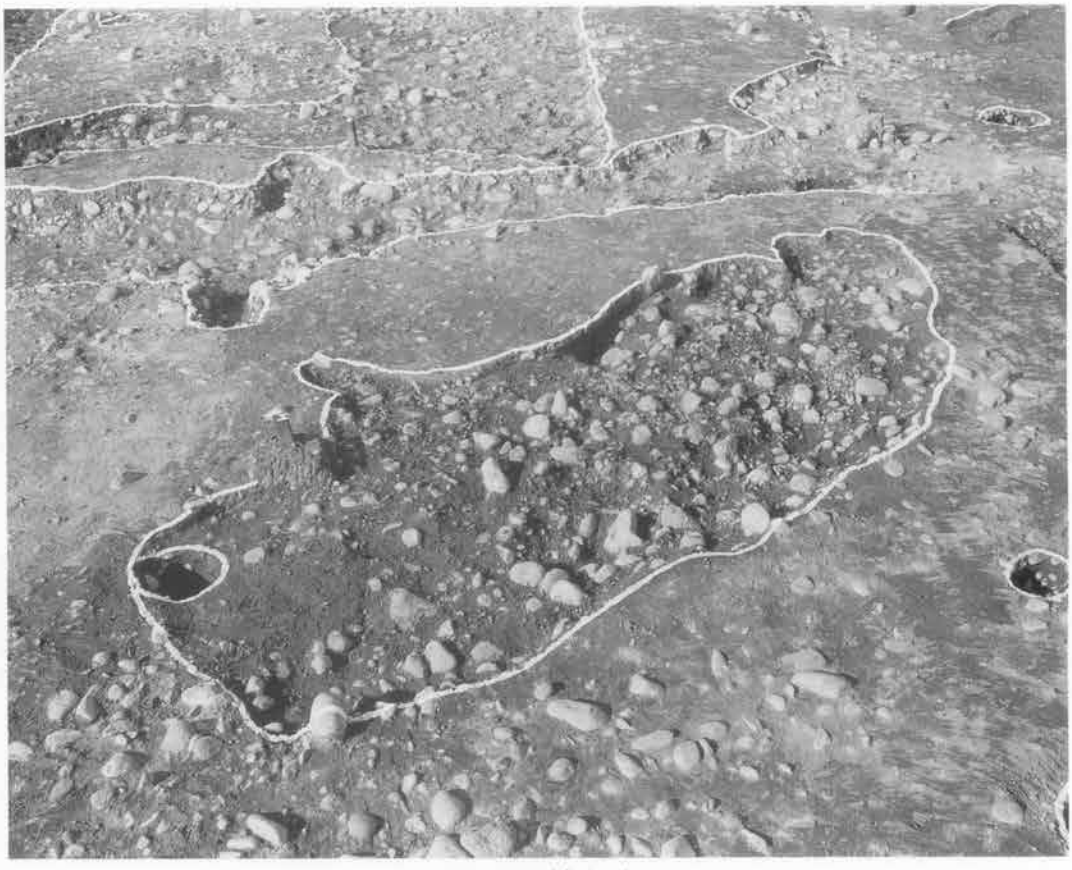
ＳＤ０４とＳＤ０１（南より）

図版9　大額キョウデン遺跡ＳＤ０２

ＳＤ０２完掘状況（西より）

ＳＤ０２内セクション（西より）

図版10　大額キョウデン遺跡ＳＫ０１・ＳＸ０３



ＳＫ０１（南より）

匂玉出土状況

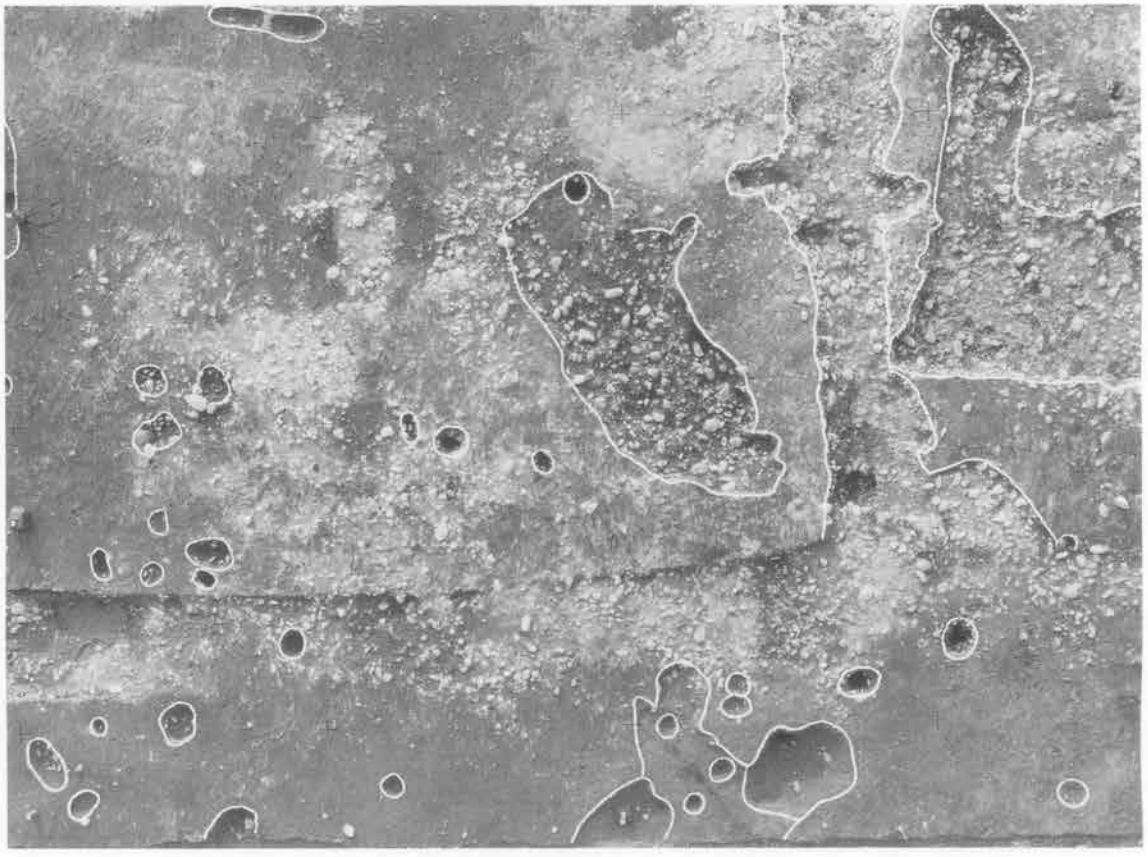
ＳＸ０３土器出土状況（南より）

図版11　大額キョウデン遺跡南・北トレンチ

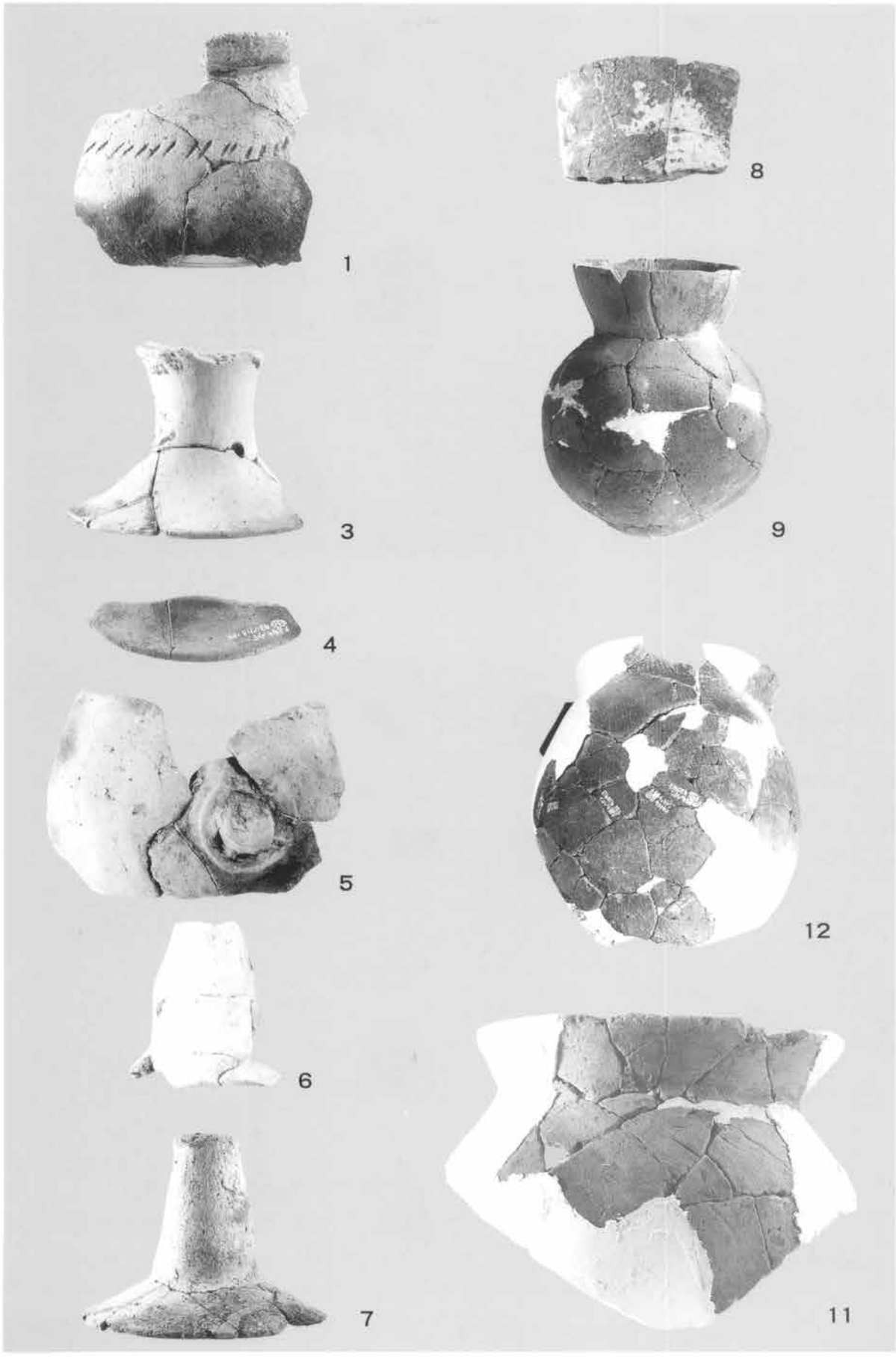
北トレンチ

南トレンチ

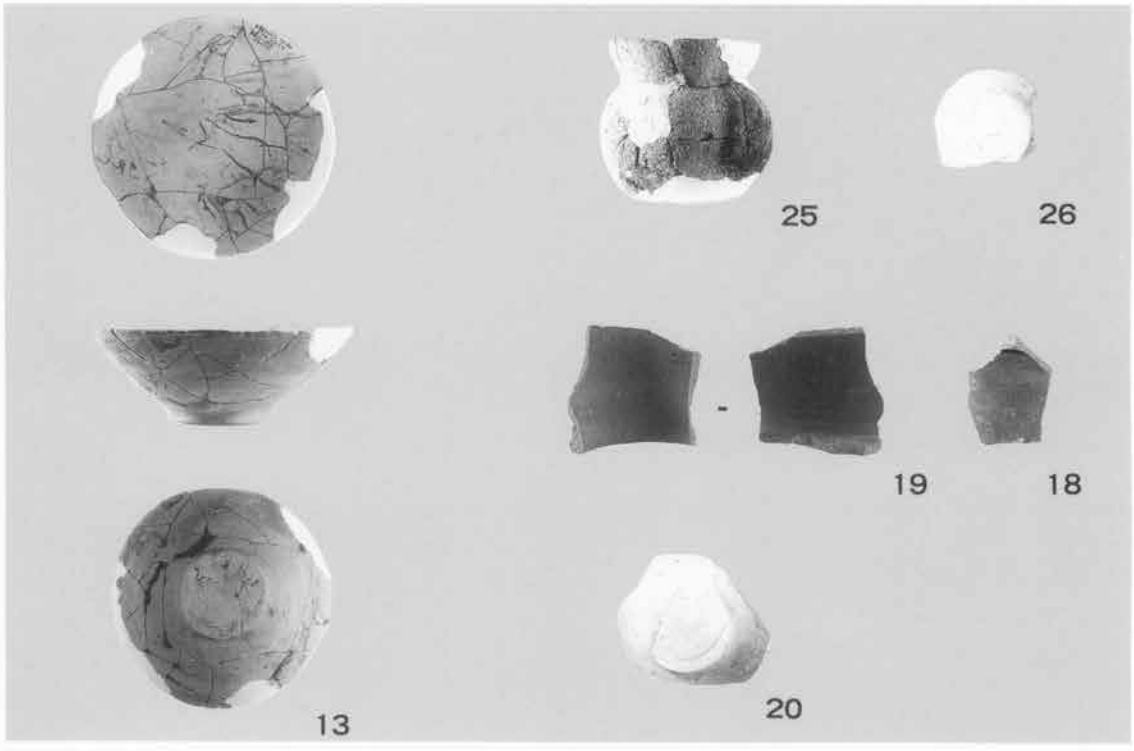
図版12　大額キョウデン遺跡SX01・SX02・SX03

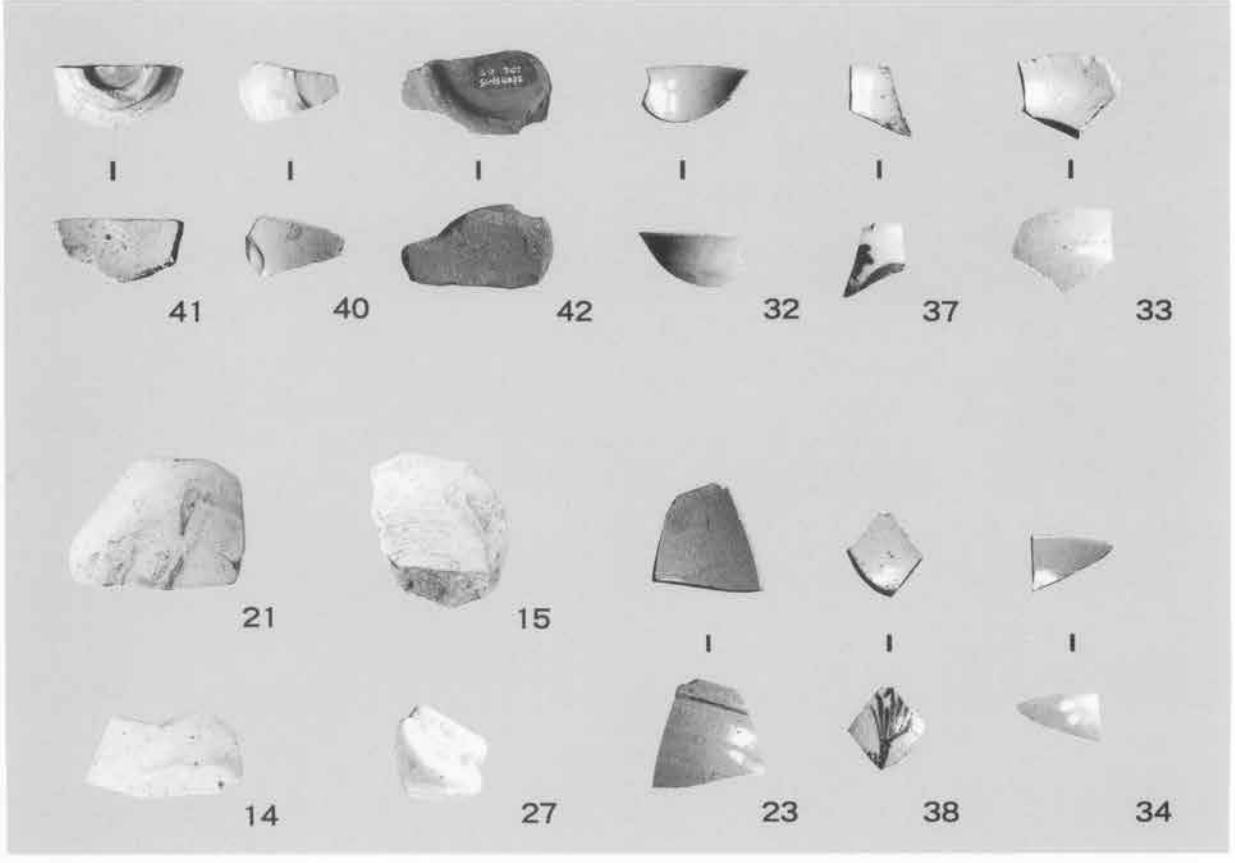


図版13　大額キョウデン遺跡出土遺物(1)

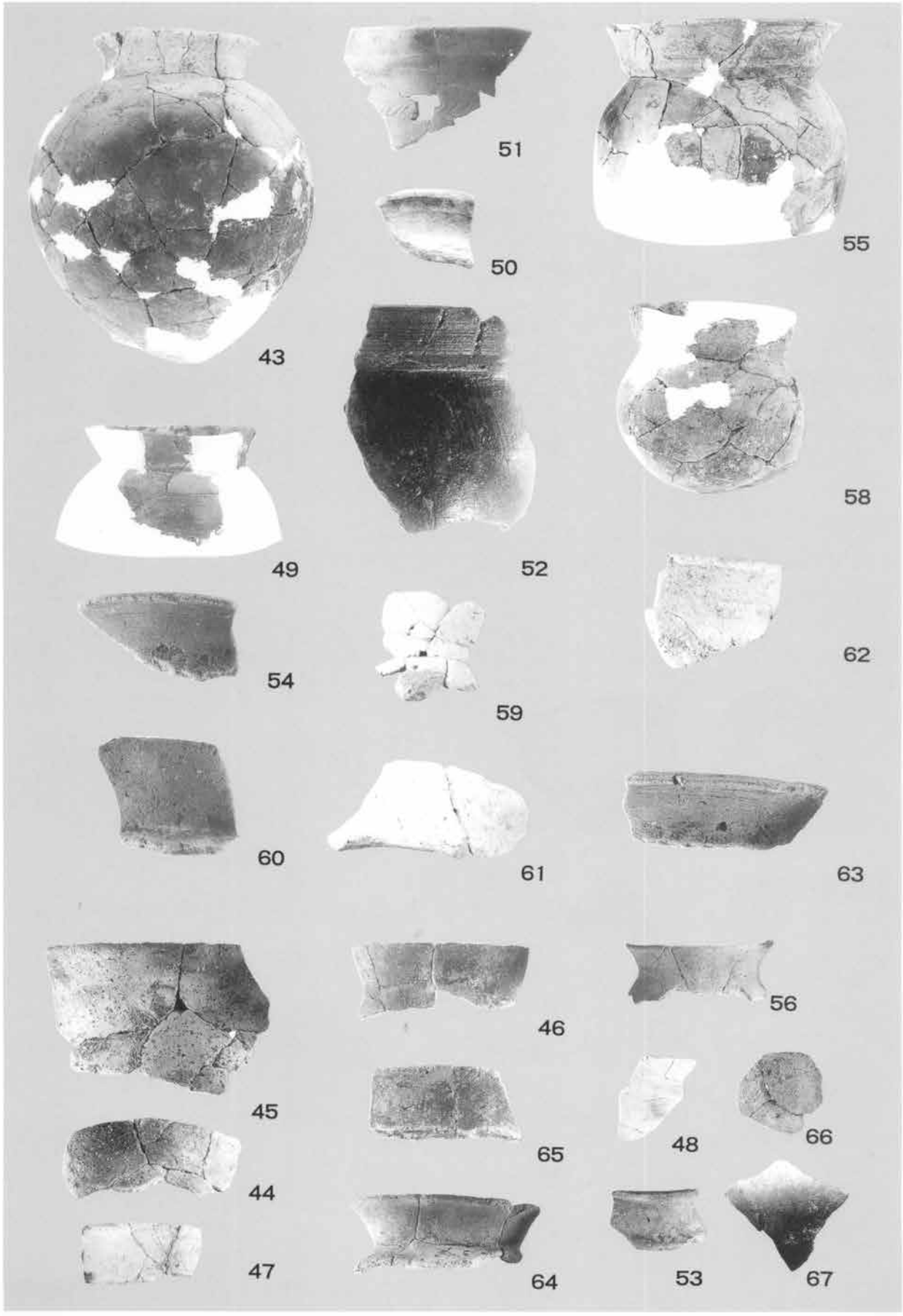


図版14　大額キョウデン遺跡出土遺物(2)

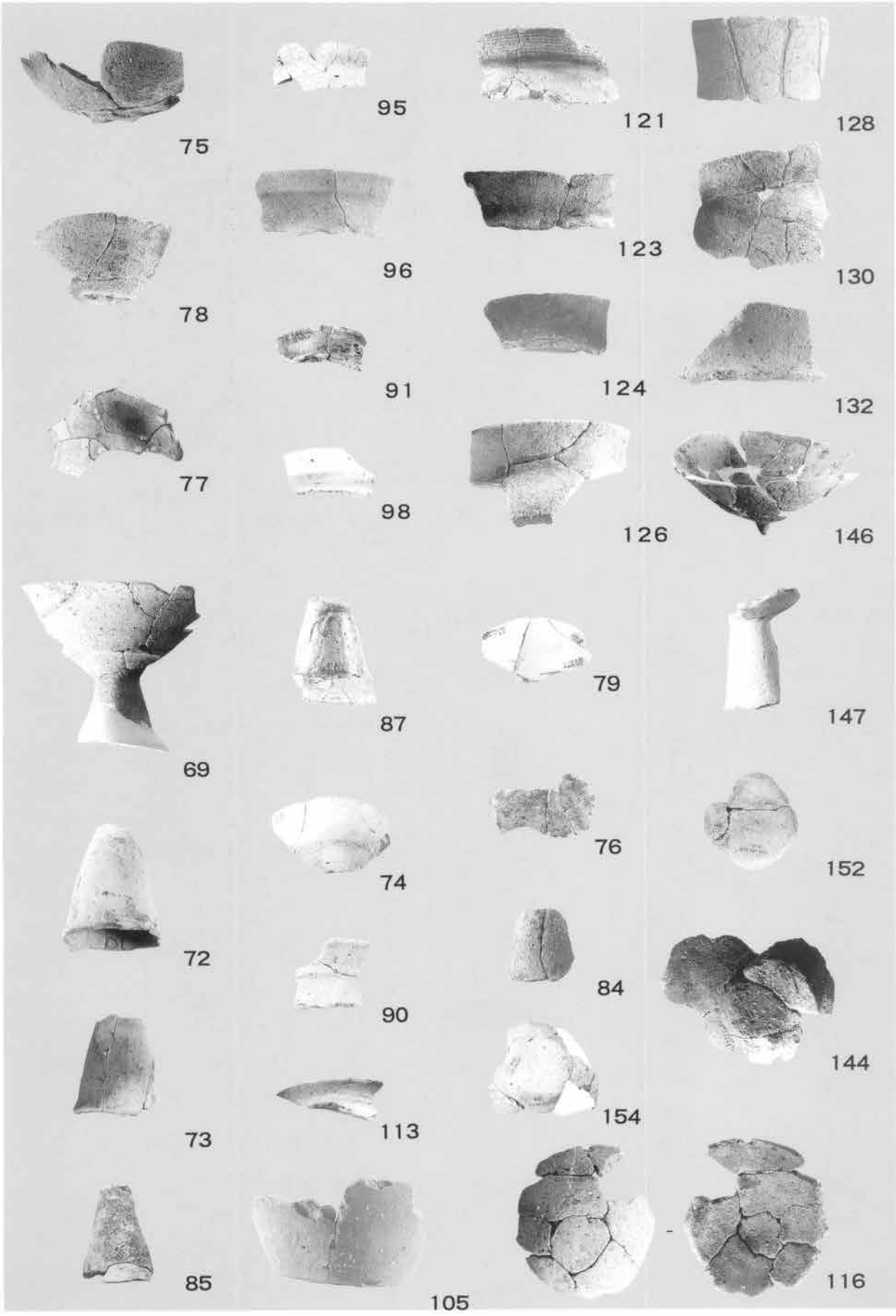




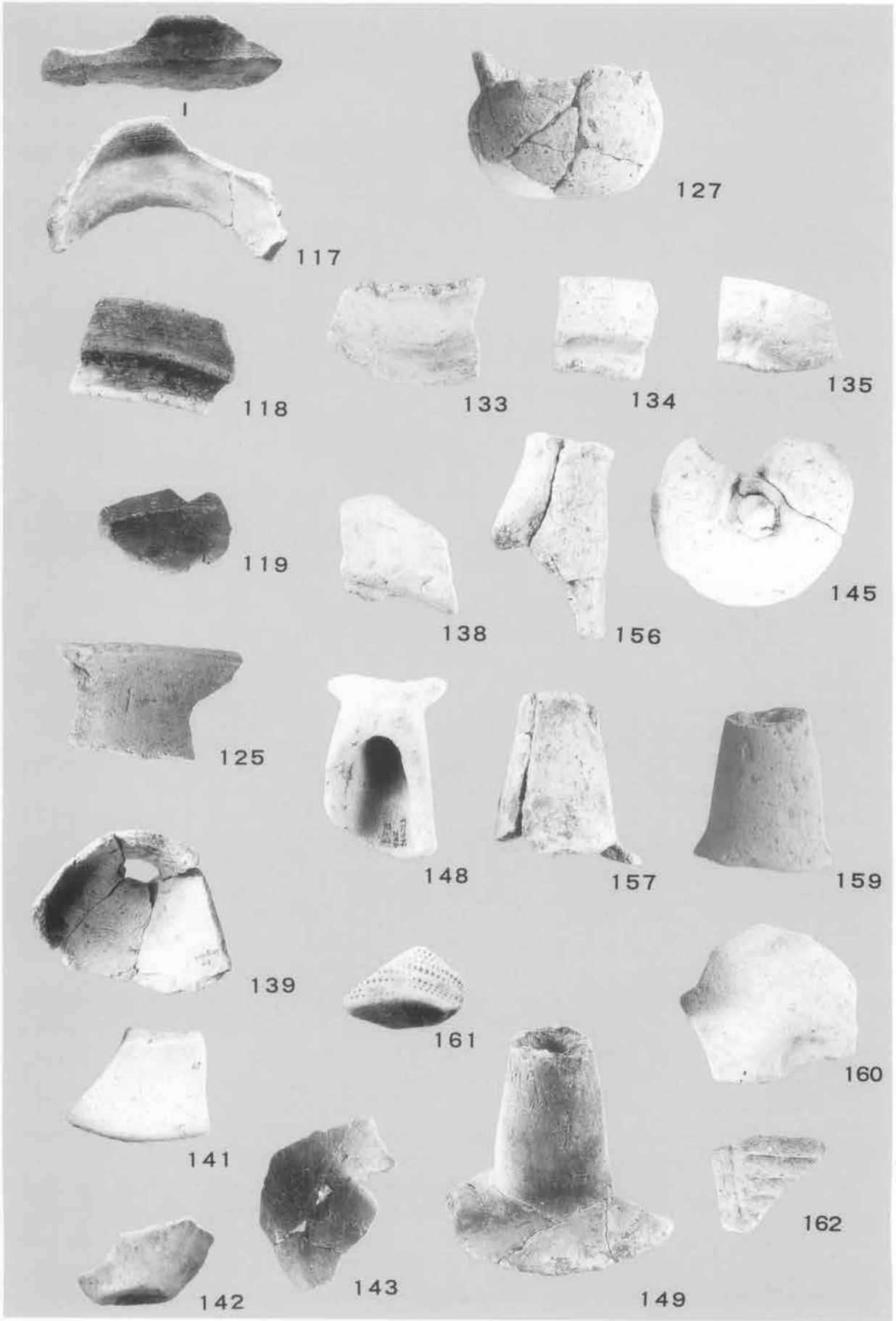
図版15　大額キョウデン遺跡出土遺物(3)

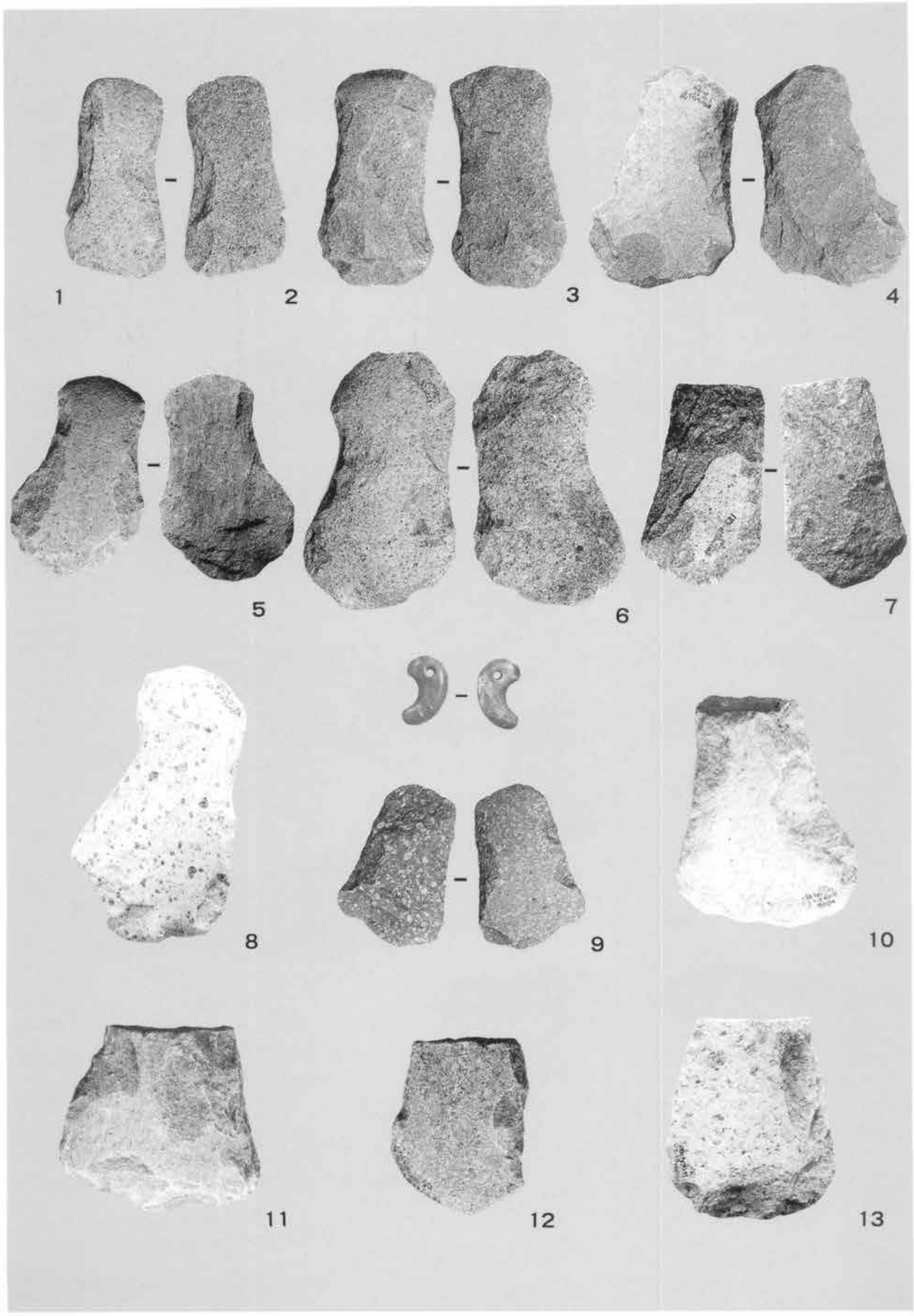


図版16　大額キョウデン遺跡出土遺物(4)


75
95
121
128
96
123
130
78
91
124
132
77
98
126
146
69
87
79
147
74
76
152
72
90
84
144
73
113
154
85
105
116

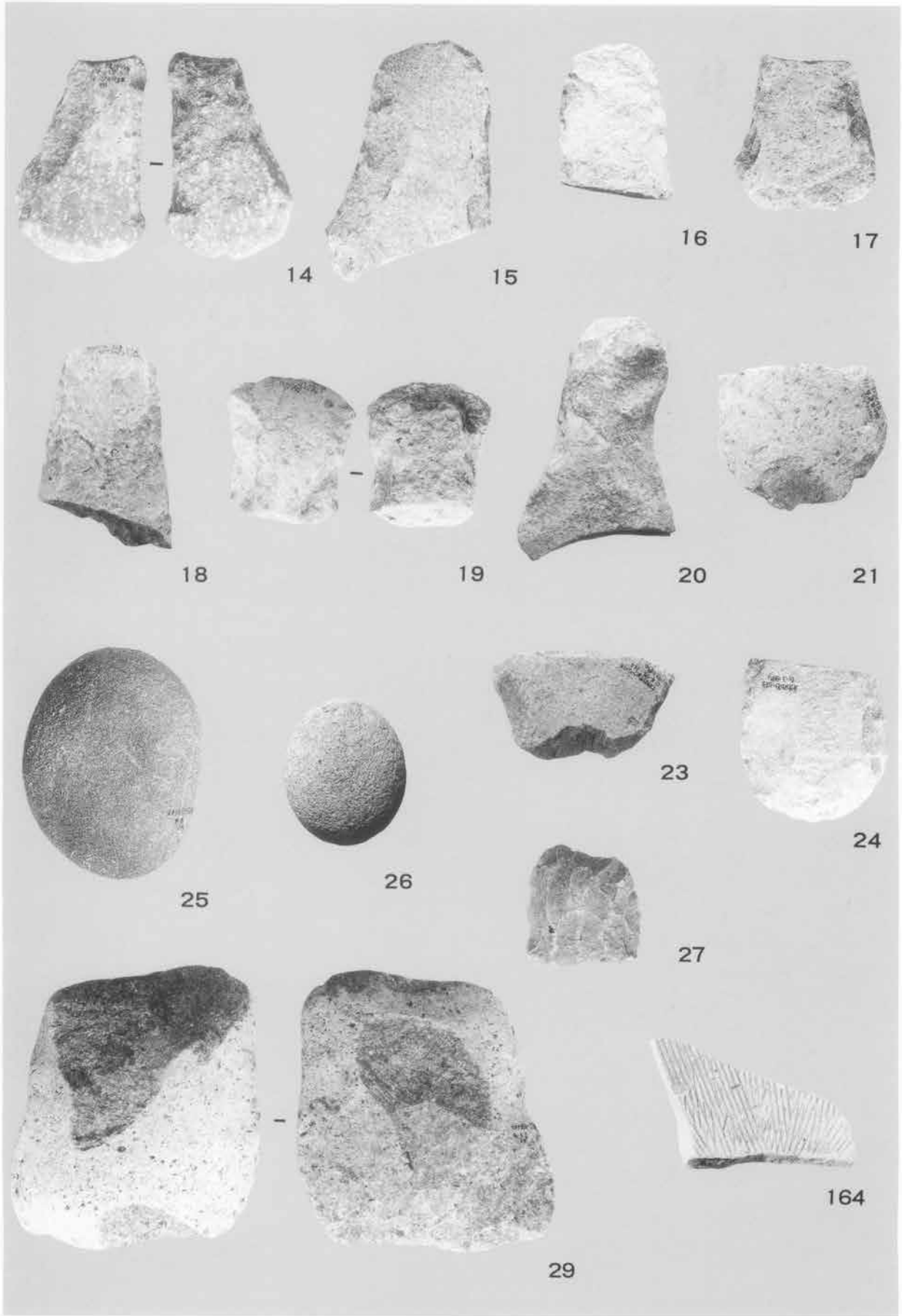
図版18　大額キョウデン遺跡出土遺物(6)





図版19　大額キョウデン遺跡出土遺物(7)

図版20　大額キョウデン遺跡出土遺物(8)



報告書抄録

ふりがな	おうぎだいいせき・おおぬかきょうでんいせき
書名	扇台遺跡・大額キョウデン遺跡
副書名	伏見・高橋川治水工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	澤田まさ子・土屋宣雄・小阪　大
編集機関	石川県立埋蔵文化財センター
所在地	〒921-8044　石川県金沢市米泉町4丁目133番地　　Tel 076—243—7692
発行年月日	西暦1998年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査 面積㎡	調査原因
おうぎだいいせき 扇台遺跡	いしかわけんかなざわ 石川県金沢 しまがえちょう 市馬替1丁 めちない 目地内	17201	01121	36° 31′ 10″	136° 37′ 35″	19910522 ～ 19910813 19920812 ～ 19921109	2,710㎡	治水工事
おおぬか 大額キョウデン いせき 遺跡	いしかわけんかなざわ 石川県金沢 しおおぬかちょう 市大額1丁 めちない 目地内	17201	01120	36° 30′ 46″	136° 37′ 33	19930621 ～ 19930907	1,200㎡	治水工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
扇台遺跡	集落跡	弥生時代 古代・中世	掘立柱建物 総柱建物	土師器、須恵器、石器、陶磁器	
大額キョウデン遺跡	集落跡	弥生・古墳 古代・中世 近世	竪穴住居	弥生土器、石器、勾玉、土師器、須恵器、陶磁器	

扇台・大額キョウデン遺跡

発　行　日　平成10年3月27日

編集・発行　石川県立埋蔵文化財センター
〒921-8044 金沢市米泉4丁目133番地
TEL (076) 243—7692

印　　刷　株式会社　橋　本　確　文　堂